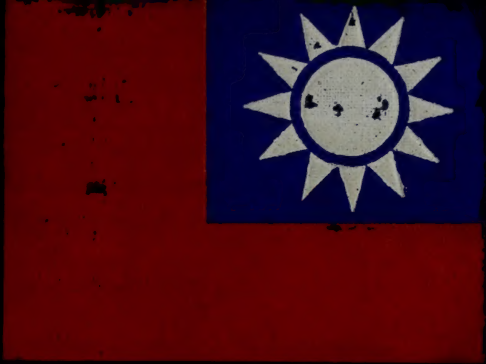


山根倬三著

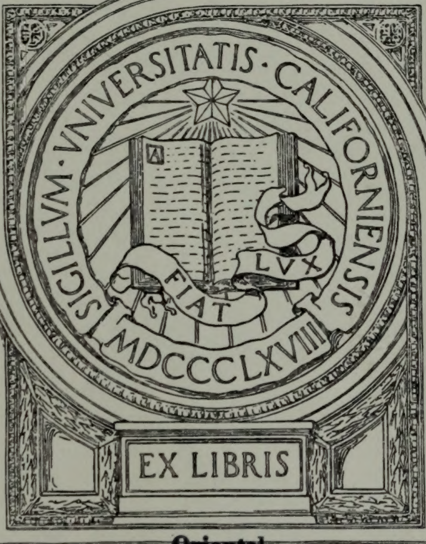
支那歷代年表

續編

發行所

亞東研究資料刊行會

UNIVERSITY OF CALIFORNIA
SAN FRANCISCO MEDICAL CENTER
LIBRARY



Oriental
Collection
Refer[illegible]

ORIENTAL
COLLECTION

Nakayama, Kyūshirō, 1874-1961.

中華民國國民政府委員　張繼先生題字
中華民國駐京特命全權公使　汪榮寶閣下書翰
前中華民國政府顧問陸軍中將　坂西利八郎閣下序

改訂增補

支那歷代年表續編

山根倬三著

OCT-4920

東京
亞東研究資料刊行會發行

歷史者人類求生命之紀錄也

山根氏著支那歷史年表題詞以贈

張繼

DS733
N34
Suppl.
1929
O.C.

敬復者：大違
雅教，正切懷思，頃得
賜寄大著年表續編，條分
縷析，體大思精，洵為傑之
作，欽佩無似。專此佈謝，敬請
山根先生著安　汪榮寶頓首

『支那歴代年表』推薦の爲めに

曩に亞東指要と題する一大册を著し、在支三十年間の蘊蓄を傾けて現代支那共和國の實際を知らんとする者の爲に好指南たらしめし山根厨石君が今又支那歴代年表を刊行して、數千年に亘れる復雜なる支那歴史の攻究者に甚大の便益を與へられしことは、寔に學界の爲め感謝に堪へざる所なり。

支那に於て年表の著作は其沿革極めて古く春秋一經を始めとし史記十二諸侯年表、六國表、漢興年表、秦楚三際月表、竹書記年兩漢記及び資治通鑑等は均しく年表と稱するを得べけん、年表の史家に必要なるは、海圖の航海者に大切なると同様なるべし。

殊に世界の諸民族生活上重大意義を有する東洋史研究の爲に詳密なる支那年表の必要なるは言を俟たず。

卽ち之に由て復雜難解なる支那歴史の研究が一層容易となり斯等の關係が一目の下に瞭如たるべきものと信じて疑はざるなり。

とする所なり。

乃ち專門家、大中小學校の敎育家殊に中等敎員檢定受驗者、高等學生及び、苟も現代の國民的敎養を念とする一般讀書家にも共に座右必須の良書と認むるを憚からず、而して同君が上叙の大著公刊の眞目的が日支國民相互の根本的研究理解に在りて、東亞百年の大計に對する憂國の精神より迸發せるものなることは、此書を讀む人士の正に牢記すべき所なり、是れ余輩が本書を殊に全國の敎育家諸君に紹介するの勞を採り推薦を敢てする所以なり。

昭和三年正月二十五日

文部省普通學務局長

武部欽一

文部省專門學務局長

西山政猪

山根倬石君譯竝著『支那歷代年表』の原著は支那上下四千歲の永き星霜を通じ考證學の權威と稱へられたる　清朝高宗乾隆の時禮部侍郎史官齊召南號息園が勅命を奉じて著した畢世の大著歷代帝王年表（三皇五帝より元朝まで）と、それに繼續追加せられたる明年表及び遼金元人名地名官名正譌表にして、是等は共に淸の進士揚州の人阮福の編著に係るものなり、山根君は沈潛刻苦數星霜を費して之を和譯し、加之ならず淸朝及民國十六年五月までの年表約五百頁に上るものを、山根君自ら最善の努力を以て編著し、最後に繁雜極まる支那年號索引、重要人名索引を編錄し、亦卷頭には歷史地圖四葉を附錄し、かくして成就せる總計一千百八十二頁の大冊は啻に一卷の年表たるに止らず、優に支那上下四千歲間の編年史と稱することを得べし、支那の古今數千年間の史實をして一たび卷を展けば一目瞭然たらしむることは、實に近年稀に見る有益重要なる史籍として、之を紹介し推薦するは余輩の大に欣快

ではあるし一時は一寸面を喰ひたるも如何せん、多年の知巳而かも支那研究同志として、否むべき餘地もなければ理由もなく、直に其原稿を手に取りて一續過了す。

成程往年の君の力著『支那歴代年表』の續きで、民國十六年卽ち我昭和二年六月初めより、丸二年の今日に至る迄の出來事を最も詳密精細に日記として叙述したるものにして、現代支那研究者の机上には是非共一本を備へねばならぬものである。

張作霖氏が北京城頭に大元帥を稱へたる彼の末路の榮華ぶりは勿論、南方革命軍の北伐遂行、我山東出兵の一段、作霖氏の爆死、學良氏の後繼ばゐから、蔣介石、馮玉祥、閻錫山、李宗仁等各派首領連相互の關係、かてて加へて國民黨部内左右の關係者、恰も卍字巴に枝葉を茂らせ、其上に花を咲かせた樣な、而してそれが、走馬燈の樣にグル〳〵廻る樣な、其綾模樣は到底通り一片の新聞や雜誌では窺ひ得べくもあらず。

支那歴代年表續編之序

頓に蒸し暑くなつた六月十一日の午時、數寄屋橋畔對鶴樓内なる日華倶樂部に陣取るさ間もなく、此倶樂部の創立以來大に盡力せられたと聞きながらも、最近は君得意の文筆勞働に精進して居る爲か、滅多に倶樂部に顏を見せた事のない、山根倬三君がさても用ありげに、ビヂネス的歩調を運ばせ、肩まで大に怒らせながらゆすりつゝドアを排して入り來るのであつた、御互に支那浪人的挨拶が濟むと私の覘ひに違はず、山根君は直に懷中より一紙包を取出して、口を開ひてビヂネスに取掛つた、其紙包より現れたるは卽ち是れ一束の支那歴代年表續編の原稿、口より出たるは、私に其序を求むとの言の葉である、之が山根君のビヂネス全部なのである、山根君の此ビヂネス、…………之に直面したる私…………しかも私の尤も不會手な事

は件の義正、ずはる能る入に途の義正はれざら足智、や否やりなの

書此て知りを之、りなり言格の知周れ是に正、はとりな力暴は力るざ

に義正きべす持抱が我、ばら知を彼く能て尋ねを往既に茲、き繙を

考く斯が私、りなる筈ゝるら現實ち忽又、て立確ち忽は策對く基

を文拙、み勵に働勞筆文にずけ負に君根山、にさし嬉の餘りた時へ

草して敢て序と爲すこと如斯。

昭和四年六月十一日

日華倶樂部に於て

陸軍中將　阪西利八郎

山根君が自白によれば日日十八時間の勞働を續けて、此著述を完成したりと聞く、八時間勞働の主張者をして聞かしめたならば山根君が如何に命知らずの愚人なりとて、冷罵をあびせかくるならんも、吾曹は之に反して大なる敬意を拂ひ、山根君の此著述は正に現在の支那時局の如き複雜且つ極めて濃厚なる其綾模樣を、明晰に吾曹支那研究者の腦裡に、映畫せしめん爲めのみならず、更に一歩を進めて、其映畫を我國民一般の前に寫し出さん事を希望する者と思ふのである、又さようになくてはならないのである、君の努力の跡を見て私は斯く判斷したのである。

君は殊更に『三民主義革命日誌』なる『モダン』的標題を副へた處に、君の其の苦心と君の希望とを洞察す可きものがある。

曰く三民主義、卽ち民族、民生、民權、其解放、其平等、其自由等を得んとする處に何等不思議はないのである、唯だ其方法手段の選擇が適當なるや否や、而かもそれが其智其力に相應はしき正當なる

貴著支那歷代年表及同續篇は共に年代を明にすると共に略史を記され如上の目的の爲に最も適當のものと被存欽佩感謝に不堪候。尙ほ貴著に對する所見を呈せよとの御囑示の處、折惡しく過般來我が師團秋季演習中にて乍遺憾意に任せず、只演武の寸暇を捉らへて御好意に對する謝意を表し度、先は貴酬旁如此内外多事の折柄自玉御加養是祈上候　敬具

昭和四年十一月十二日

伯州皆生に於て

本　庄　繁

山根賢台

第十師團長陸軍中將本庄繁閣下の書翰

貴翰敬承愈々御精穆奉賀候陳者先般は貴著『支那歷代年表』及同續篇「一名三民主義革命日誌」御惠贈被下忝く其當時卑墨を呈し置き候通り隣邦支那を識らんとする者に誠に珍重すべき稀有の名著に有之、克つ支那に漫遊せらるゝ知名の向にして彼地時局の一面を看且つ又支那人の說明を聞いて中華の統一目前に在るが如く信ぜらるゝ其直後輒ち騷亂の展開を觀み支那政局の難解を歎ぜらるゝ事尠なからざるが如きも、永き支那の歷史を顧みるの時敢て驚異とするに足らざるもの可有之、帝國生存の見地に於て極東の平和を念とする者正に此間の消息を究めざるべからずと被存申候。

既に前の年表の末尾、清年表の一部、民國年表においては、いはゆる年表の名稱を超えて、月表となつて居たが、今この續編は更に一歩を進めて、遂に日表となつて居て、その詳細精密なる、眞に驚くべきものがある。思ふに著者が今後二年三年毎に、かゝる日表的記錄を公にせらるゝならば、單に新聞切拔きの勞を省くだけでも多大な功績といはなくてはならぬ。**この事自身が實に國實的事業である**。吾人は支那研究を必要とする**諸官公署を始め諸種の團體が協力一致して**、この一大事業を後援すべきであると信ずる。然して又著者自身においても益々奮勵加餐その生がいを通じて、この事業を敢行せられんことを切望してやまぬ。

今この内容を見るに本編の民國十六年五月の後を受け、六月一日に起り、同十八年六月廿五日に終つて居て、その間約二ケ年にわたり、ことぐ〜日錄體に敍述して居る。この二ケ年は、時間において決して長くはないが、民國における事態の變動は實に容易ならぬものがある、卽ち從來長く南北に分れて畫然その勢力の分

東京朝日新聞讀書ページ（昭和四年十二月廿日掲載）

支那歷代年表續編を讀む

東京高等學校教授　山口察常

先に堂々一千頁に餘る支那歷代年表を著はして、支那研究者に一大指針を與へられた厨石山根君は其後二年ならずして其續編五百頁を公刊せられた。その精力には驚嘆を禁じ難いかく矢繼早に刊行せられた所以は、一に日支兩國現時の情勢が、我が國策上寸時も忽にすべからず、我が國民をして、現代支那を理解せしむること一日早ければ、早いだけ兩國の關係をより圓滑になし得べしと確信し、坂西中將の序文に見えるが如く、一日十八時間の筆勞を敢てしても、之が公表を急がれしものと思ふ。吾人はまづ著者の憂國的意圖の壯烈なるに對し甚深の敬意を惜まぬ者である。

更に付錄として國民革命軍戰績表、支那現代要人略傳を添へたのは、最も注意周到なるを思ふ。

唯一二の苦言をいへば、既に年表と銘打つ以上、その記述は簡明の上にも簡明を期すべきであるが、本書の文體は多く何々「せり」何々「さる」の如く、過去若くは現在完了の形をもつて書かれて居る。これらは當然歷史的現在の形をもつて簡潔にあるべきものと思ふ。又各ページの見だしに中華民國年表卷之何をくり返して居るが、これはそのページに當る年月日をもつてして欲しい、檢索の勞を省くことがどれ程であるか知れない。

本書の別名として『三民主義革命日誌』とあるが、これは必ずしもあるを要しない。寧ろ本題を『支那歷代年表續編』と二行に割り中華民國年表とでもして欲しかつた。かくいふ苦言は全く筆者の主觀であつて、著者並に大方讀者が果して首肯せらるゝや否やを知らない。要するに本書は本編以上に我が國民一般に適功、必讀必携の書たるを疑はない。もう評多罪。

野をなして居たものが、こゝに全く歸一して、兎に角統一の姿となつたのであつて、民國創始以來幾たびか成らんとして成らなかつた畫時代的現象を呈したのである。しかもこれに到達する段取は迂餘曲折千變萬化眞に名狀すべからざる所で、この複雜混亂せる情勢を逐次的に綿密に記載し、首尾照應事件推移の跡を明示せるもの、本書をおいて他に求め得らるゝであらうか。本書が特に意を用ゐた點は、その始めにおいて南北兩分野別々の行動を明らかにするがために、十六年六月から同十七年十二月末日までを二段組となし、上段を北方、下段を南方に分ち、それぞれの活動交涉、接觸、衝突の模樣を畫き、越えて十八年一月からは急に一段に組みかへて、統一の實をあらはした事と、當時實際に公示、提出、發表せられた通牒、提案、要求等の殆ど全文を揭出して、讀者をして事件推移の外樣を知ると同時に、その事情の內實を把握するを得しむる點にあると思ふ。この點において全く年表、月表の名稱を脫却して、一部の民國政治史と名づくべきである。

國の內容と外形とを俱全する者だと速斷し、亦其制度及社會組織の如きも霽天霹靂的の大變革を逐げたる者だと信ずる者多うけれども決して然らず、帝國なる外裝容器は變れど中味は敢て少しも取替へられたるの實は發見することが出來なかつたのである、然るに這度の蔣介石以下三民主義遵奉の新進政治家、氣鋭の革命軍人等に依つて、創造建設せられたる三民主義革命の本體內容は、前の共和辛亥革命の夫れとは全然正反對的に、外裝は依然たる共和政體で少しも變つた點は認められないが、其內容に至ては霄壤の差がある、就中對外國際政策の方面に於ては甚大の發展的激變が窺はれる、流石に英氣潑溂たる靑年革命政治家連の意氣込みを窺ふに餘りがある、又現在吾人の目前に實演せられつゝある蔣介石、馮玉祥、閻錫山、張學良、李宗仁、白崇禧等各派首領連の變幻出沒其の端倪す可らざる、宛然三千年前の春秋戰國時代の蘇秦、張儀輩の徒に依りて仕組まれたる、七國連衡合縱の古劇を目の當り睹せらるゝの感がある、あ

自序

余が本書刊梓の眞目的は世界的に何人も謂ふ支那人の固有民族的心理は倒底吾曹の常識習慣では判斷推慮が出來ないと云ふ、其の出來ないらしい不可思議な傳統的固有國民性の本音を最も赤裸々に一片の飾り氣なく有りの儘に紹介する事が、我國の政治家殊に外交家、教育家、實業家、文學者、藝術家等に――最も緊要事であると堅く信ずるので、此書に依て幾分でも其の目的を達し、余が國家に對する貢獻の一班を盡し度いと思ふの動機からである、更に余は熱烈なる日支同盟論者であることを先づ玆に前提として告白して置く、余が在支三十年の永き實際的經驗と觀察に依りて判斷するに、彼の所謂辛亥革命則ち前清宣統三年秋十月十日の朝、湖北省城武昌城頭に勃發した黎黃陂や黃克强等に依りて揭げられたる革命の義旗の下に築かれた、共和革命は成程支那四千歲の永き專制帝國が、忽然共和政體に急變したので、我國人の多くは支那共和國は歐米並みの共和

い、乃ち國家總動員的全智力を擧げての國民外交の力を以てせなければならぬ時代である、然るに支那に於ては古も今も異りはない、常に輿論を振作し國民外交の威力を以て我に應對して居るのである、我等は目前に日支通商航海條約締結の一大難業を控へて居る事を玆に切言したい、而して此の難業に莅む國民的覺悟としては既に華府會議の以前に於て、關稅自主權確立に對する絕對的援助、平等條約の締結、國民政府成立の當初に於て卽時無條件承認、是等は余が對支政策上の絕對主張的宿論である、故に機會每に筆に口に所信を披瀝して朝野に檄する所があつた、新興中華民國革命國民の要求に對しては英米諸國と立場を異にし、特に甚大の同情と注意とを拂ふ可き權利と義務とを我等日本國民は荷ふ者なる事を覺悟せなければならぬ、是れ善隣に對する當然の友道たると共に亦我國家存立の權義である、余は確信する日支兩國の關係は既に外交の域を超越して同一種族の共同的經濟生活關係であると、斯の上敍の信念に依りて日

れが卽ち彼民族の古も今も敢て異りなき其傳統的固有國民性の流れである、余が常に遺憾に思ふのは吾曹日本民族は餘りに外國硏究の上に相手方の國民性乃ち風俗人情方面の硏究に無頓着である事である、古往今來我等の祖先が『モウ』少しく心眼を披いて、彼の美文的表面上の文華の鵜呑的輸入にのみ耽溺せずに、現實なる彼等日常公私社會生活の實際を硏究し、其の最大要素たる固有民族心理を審かにして居たならば、今日の日支兩國民はどれ程幸福であつたであろ——かと滲み滲み感じさせられるものがある、要之我國民同胞の最大欽點は國際智識硏究中一番相手國民性硏究の杜撰なる事である、外交の下手なる、貿易商略の見るに足らざる皆之に因由せざるはない、是れ余が國民性硏究の要を叫び亦本書公刊の眞目的である、又我同胞の大多數は外交は外務省と公使館とで專賣的に其任に當つて吳れるもので、亦夫れで十分だと信ずる樣であるが、近代の外交は斷じて一外務大臣や大公使、領事等のみの專屬的必任々務ではな

例言

一、余は從來支那の地理、歷史又は人名字典等に關する書籍にして我國に於て刊行せられたる著書は殆んど支那原音の發音法に依りて其固有名詞の發音を示せるものなき爲め、之を實地に用ふるに際りて頗る不便共用を爲さゞるを痛感し居れるを以て、人名及地名等には先に同國學部の規定せる國定教科書に依りて全國的に統一せられ以て標準語と爲れる『北京官話』の發音法を附し置きたり、依つて以て中華民國人との應對交涉に便ならしめんことに努めたり。

二、年表の本領に基き北京政府、國民政府と相對立せしめて本書內容の初まりたる則ち國民十六年六月一日より同十七年十二月末日に至る迄での、乃ち北京政府の流裔たる奉天派張學良の南北妥協に依りて支那全國の統一成れる迄での間は、北京政府、南京政府南北二大勢力を表現し讀者の便を計らんが爲に對照的に編述したり。

三、現代支那國民政府及各地方政治機關に干與する各方面の要人を摘錄して其字、號、鄉貫、年齡、學歷、黨派系統等を略述し、附するに前述の標準國語たる北京官話の發音法に依れる原音の發音法を附示し置きたり、更に他日版を改め機を得て現代要人略傳は追加增錄以て完璧を期す。

的を達し以て亞東百年の和年を維ぎ、是に依て以て歐米諸國を凌駕する精神文化を有する、我等亞洲民族固有の爛熟せる文化を全球に推擴し、亦其華光に依つて全球全人類の爲に悠久不滅の文華的和平境地を創造せざる可らず、是れ余が其の理想に達する第一歩として、微力貧書生の分在を以て敢て其の所信に猛進し理想の實現に倦まざる所以である、乃ち本書の內容を以て支那國民性の陳列館と心得へ、同胞の對支政策、事業、研究、調査に對する參考一覽表として上梓した所以である。

昭和四年夏六月

日支通商條約改締に直面して

日東散士 山根倬三謹誌

支那歷代年表續篇

山根倬三 編

本篇は支那歷代年表の卷末則ち民國十六年五月末日の後を享けて之に次げるものにして、其當時の中華民國に於ける南北兩派の相對抗せる二大勢力を最も簡明にせんが爲に、同年六月以降民國十七年十二月末日に至る一個年半餘に亘れる期間は支那國民革命の最も重要緊密なる劃時代的時期に屬するが故に、南京の國民政府と奉天政府との南北妥協統一に至る迄での間は、國民政府、北京政府又は奉天政府と南北に相對照して記述せり、讀者幸に之を諒せんことを祈る。

紀元 2587 西紀 1927 昭和二年 丁卯

北京政府（張作霖）	國民政府（蔣介石）
民國十六年六月 一日直魯聯軍總司令山東省督辦張宗昌は張作霖の命に依り	一日武漢政府外交部長陳友仁の名を以て日本の山東省出兵に對し抗議を漢口駐在帝國總領事高

支那歴代年表續編目次

民國十六年六月一日より同年末迄の日誌　自一、〇七五至一、一六八頁

同十七年一月一日より同年六月（張作霖爆死事件勃發及北京政府解散撤退、國民革命軍北京佔領頃）迄……自一、一六九至一、二七五頁

民國十七年七月一日より同年末（張學良が南北妥協を成就せしめて中華民國の統一成る）迄……自一、二五七至一、三八四頁

民國十八年一月一日より同年六月（廣西軍の鎭定、故孫文移靈奉安祭擧行、馮玉祥の下野事件頃）迄…自一、三八五至一、五〇四頁

三民主義革命戰績表……末尾自一頁至八頁

支那現代要人略傳……末尾自一頁至三十三頁

奉天軍は山東省膠州駐屯の叛軍陳以燊軍に對し飛行機を以て空中より爆撃す。北京政府外交部は米國が天津、北京一帶に軍隊を増加するは團匪事變議定書の精神に背反するものなりとの主張に因りて駐支米國公使マクマレーに對し再び嚴重に抗議す。北京政府農商部は外人の發明特許出願暫行登記辦法を公布す。**九日**張宗昌、孫傳芳等協議の結果安國軍は山東省內に於て國民革命軍の北進を共同防守の作戰を決定す。張作霖は閻錫山が安國軍を取消し國民革命軍と改稱し青天白日旗を揭揚せよとの要求に對し安國軍は蔣介石と平等地位に立ちて妥協は望むも國民軍に降伏する能はずとの旨を以て右要求を拒絕す。駐支英國公使ランプソンは日英米佛伊五國

隸省軍務督辦李景林を以て直隸宣撫使に任命す。**七日**武漢軍は河南省歸德府(商邱縣)を占領す。馮玉祥は前河南省督軍田維勤を洛陽に於て銃殺の刑に處す。**八日**閻錫山代表南桂馨は北京に入り張作霖と和議問題を商議す。**十日**夏斗寅軍は湖北省大冶縣に於て共產派を一掃してクーデターを斷行し漢口へ向け進軍す。**十二日**南京政府政治部主催に依りて日本政府の山東省出兵反對大會を開催され其の決議文を發表す。閻錫山は部下の商震を以て革命軍中路總司令に任命し綏遠城頭に青天白日旗を揭揚せしむ。**十三日**マニラ駐屯米國陸戰隊一千三百餘名上海に上陸租界警備に任ず。閻錫山は遂に奉天軍反對を決し商震軍に動員令を下し察哈爾(ツァハール)方面に進出して

徐州を拋棄して山東省城濟南に退却し守備を嚴にす。北京政府外交部は日本の山東省出兵に對し正式抗議を北京駐在帝國公使芳澤謙吉並に東京駐在公使汪榮寶をして日本政府に提出せしむ。奉天軍全軍主力を保定附近に集結す。中國當代金石學の權威たる北京精華大學教授王國維（ワンクォウェイ）は時勢を慨して北京郊外萬壽山下の昆明湖に投じて沒す時に享年五十一歳也。**三日**張作霖は閻錫山に對して三民主義同意の旨を通電す。**四日**山梨半造大將は政府の秘密使命を帶び北京方面の時局視察の爲め東京を出發す。**七日**北京政府外交部は米國公使マクマレーに對して同國の天津增兵問題に對し抗議す。張作霖は孫傳芳、張宗昌等を北京に召集し緊急軍事會議を開く。**八日**

尾亨を通じて日本政府に提出す。**二日**南京政府外交部長伍朝樞（ウーチャオツウ）は日本の山東省出兵に對し日本の内閣總理大臣田中義一大將宛て抗議書を送達す。**三日**閻錫山は革命軍北方總司令に就任し青天白日旗を揭揚す。日本の社會民衆黨は中國々民黨と共意志完全に一致し兩黨の親善關係を確立せる旨の聲明書を發表す。革命軍北方總司令閻錫山は部下軍隊を國民革命北路軍と改稱し青天白日旗を揭げて張家々に向け出動を開始す。**六日**國民黨上海市黨部を中心とする上海各界連合大會は日本出兵來華反對運動委員會を設け反對決議文を發表す。蔣介石を主腦とせる南京總司令部はボロディン、徐謙、陳獨秀、鄧演達等の共產黨領袖逮捕命令を發す。南京政府は元直

英國公使ランプソンはダンカン少將と共に米國公使マクマレーを訪問し英米兩國連合北支警備の急務を說き米國政府の京津駐屯軍引上げの意圖を拋棄せん事を力說さる。**十二日**滿蒙地方在留日本人は對支積極的外交政策確立の必要を認め大連市に於て全滿日本人連合大會を開き本國政府及公共諸團體に對し極力遊說を決議す。京都帝國大學教授山本一淸博士はウイネツケ慧星觀測の爲め奉天に行く。**十四日**山梨半造大將北京順承王府に於て張作霖と會見し東亞の時局に善處すべく力說勸告す。**十五日**潘復は北京政府の國務總理就任を受諾し直に內閣組織に着手す。**十六日**　**張作霖を大元師に推戴**　奉天派將領及張宗昌、孫傳芳等は最高軍事會議を北京に於て

公使團會議に對し北京警備の爲め日本軍の增派を提議し若し容れられずんば公使館の天津引揚げを主張し芳澤公使之に絕對反對を主張す。英米兩國政府は日本の反對に拘らず萬一の時は公使館天津引揚げ方を各自國公使に內訓せり。駐支米國公使マクマレーは北京天津地方在留民保護の爲め革命軍との衝突を避け戰禍同地方に及ぶ時は米國軍は引上ぐべきの意圖を有する旨を日英佛伊四國公使に向け通告を發す。**十日**張作霖は閻錫山の代表南桂馨(號佩蘭)に對して青天白日旗を揭げず安國軍を改編せず北京を去らずとの所謂三不主義を宣明す。駐支日英米佛伊の五國公使は北京の米國公使館に會合し京津地方の警備問題に關し緊急協議を遂ぐ。**十一日**駐支馮玉祥の提唱せる南方大同團結の機運愈進轉を計る。馮玉祥は唐生智、閻錫山の兩代表と河南省鄭縣驛に於て會議を開き其の結果馮玉祥は河南省政府主席に、于右仁を陝西省政府主席に劉郁芬を甘肅省政府主席に就任案を決定發表す。**十六日**武漢共產政府は武漢一帶に對して戒嚴令を布告す。**廿日**徐州に於ける軍事會議の結果に依りて馮玉祥の三民主義に加盟することを承認するに決定さる。汪兆銘は漢口に於て蔣介石の態度を非難攻擊して乃ち北伐の大目的を阻害する一大陰謀なりとの聲明書を發表せり。

を發す。北京高等審判廳に於てボロディン顧問夫人の共產主義宣傳陰謀懸疑事件の審問公判を開始す。黑龍江督辦吳俊陞を以て安國軍總司令官に推す。北京政府外交部は日本政府の再次山東省出兵に對する第二次抗議を芳澤公使に提出す。孫傳芳の率ゆる五省聯軍及張宗昌、褚玉璞の率ゆる直魯聯軍の名稱を廢止し全部隊を以て安國軍と改編す。**十八日** 張作霖大元帥就任 張作霖は北京大總統府に於て中華民國陸海軍大元帥就任式を擧げ宣言書發表さる。大元帥令を以て潘復を國務總理に任命さる。北京政府を軍政府と爲し中央に九部を設け潘復に命じて內閣を組織せしむ。軍政府組織條例七ケ條を公布さる。**廿日** 軍政府の潘復內閣第一次閣議を

開催の結果張作霖を推して中國陸海軍大元帥と爲す。日本政府は北支の形勢再び急迫し止むを得ざる時は居留民保護の爲め再び軍隊を同方面に派遣せざる可らざる事を閣議決定さる。山梨大將は北京に於て張學良と會見し蔣介石との妥協を勸告さる。安國軍は國民黨に對抗の爲め共產主義、階級鬪爭に反對し勞資協調主義の新國家主義黨の組織に決定し規約を發表す。張作霖は張宗昌、孫傳芳兩人の勸誘に依り大元帥就任の豫備通電を發す。張作霖赤禍討伐を聲明す。國務總理顧維鈞（クウヴエイチン）は張作霖に宛て辭表を提出し顧維德を代理總理に、王蔭泰を外交總長代理に推薦す。**十七日**奉天及直魯連合軍全軍の將領は張作霖を推して中國陸海軍大元帥と爲すの通電

長溫樹德、航空次長劉光克。內務次長齊耀瑨財政次長朱有濟。段永彬。實業次長田步蟾。農工次長劉敬宣。交通次長常蔭槐。司法次長單豫升。

廿四日前の福建省督辦周蔭人は孫傳芳軍に屬し山東省膠縣に於て部下全部を改編して隱退す。廿五日張作霖は大元帥の名義を以て全國に向け和平令を頒布す。任教育次長林修竹。

奉天稅捐局長は當日より二分五厘乃至五分の附加稅を徵收する旨布告す。廿七日國務總理潘復は私宅に北京在留日本人新聞及通信各社の記者を招請して軍政府新內閣の施政外交方針を披瀝して日支共存共榮の大義を力說宣明せり。張作霖は從來の主張たる國旗不變更論を放棄して大

廿四日上海に於ける排日貨運動は紗布（綿布）交易所の立會停止に次き海味公會（海産物組合）の取引停止に依りて殆んど日支貿易の全部停止と成る。廿六日南京國民政府は張繼を以て司法部長に推し滿場一致にて可決さる。廿七日全國商界連合會は對日經濟絕交を通電す。南軍山東省鹽城縣を佔領す。廿八日上海紗布交易所は日本製綿布等を排斥せば全然商業破滅に陥るを以て排日貨防止方を上海政治分會に向け請願す。國民政府は民國十六年七月一日より總ての輸出品に對し從價二分五厘の附加稅を課すべき旨各新聞紙を以て公布す故に日本政府は公文書に依る正式通知なきも上海駐在淸水總領事代理に命じて之が抗議を提出せしむ。廿九日國民政

開き各部次長任命及各部組織變通大綱を決定發表さる。大元帥令を以て左の通り任命す。

外交總長王蔭泰。軍事總長何豊林。內務總長沈瑞麟。財政總長閻澤溥。司法總長姚震。教育總長劉哲。實業總長張景惠。農工總長劉尙清。兼任交通總長潘復。國務院秘書長夏仁虎

廿一日大元帥令を以て現行官制を改革し國務院に命じて修正頒布施行せしむる事を公布さる是れ張作霖が**張王朝創業**の第一礎石定鼎の一歩と稱せられたり。張作霖は閻錫山に對して察哈爾の讓渡を要求條件として最後通牒を交付す。軍政府閣議の決定に依り左の通り任命さる。

熏務署督辦兼任閻澤溥。外交次長吳晋。軍事部參謀次長于國翰。陸軍次長楊玉珣。海軍次

廿一日漢口に於ける第四回全國勞働大會に於て蔣介石の打倒決議を發表す。**廿二日**蔣介石と馮玉祥との連名を以て三民主義遵奉の共同宣言書を全國に通電す。蔣介石、馮玉祥、閻錫山以下國民革命軍の巨頭將領等は徐州に會合して南京、武漢、西北、山西四派の重要人物と一大會議を開催して北伐の目的を以て大同團結成立さる。**廿三日**上海日貨排斥實行委員會は上海總商會を背景として猛烈なる對日經濟絕交運動を開始せり。武漢軍は反共產派の夏斗寅軍を擊破し勢ひに乘じて大冶を佔領し漢冶萍公司を國有と爲し政府の直營に歸せしめ共の事業引繼を開始す。

平等條約を廢止せずに改訂希望の旨を述べ會議の形式を以て各國の同意を得て租界回收、治外法權撤廢等を實行し度き旨を述べて南方過激政府とは全然異なれる旨を高調せり。明末の碩儒朱舜水に比せられ日本大東文化協會の爲に聘せられ大正十二年來朝せる文學博士辜鴻銘（齡六十六歲）は祖國の共產主義勃興に憤慨し志を抱て東京より大連市に去る。北京高等審判廳判事、何焦はボロディン夫人を赤赦令に依て免訴釋放し同時に何判事も逃亡す。張作霖對外宣言を發表す。大赦令を頒布す。閻澤溥を以て全國道勝銀行（露支銀行）淸理處督辦に兼任を命じ朱有濟を以て會辦に任ず。**五日**日本の靑島派遣軍司令官は南北兩軍に對し靑島市附近に於ける衝突

東省日照縣城に入る。南京金陵大學に於て南京特別市總工會創立大會を開き會章（規約）を決定發表す。**二日**上海對日經濟絕交同盟會は執行委員會を開き各省に向て日貨輸入停止並に日本人銀行との取引中止を決議し直に各省に通電す。**四日**南京政府は日本の山東省出兵に關し中央執行委員會の名を以て一般國民の希望を代表する爲め對日聲明書を發表す。**五日**共產黨巨頭陳獨秀の子陳延年は上海警備司令楊虎の爲に捕へられ死刑に處斷さる。馮玉祥は河南省洛陽城に於て全國民衆に告ぐるの宣言を發表す。英國政府は米國の對支增兵の爲め上海派遣軍英兵旅團に對し即時撤退命令を下せり。國民政府中央執行委員會は左の軍事委員を選任し共產系を全部

元帥府舊皇城內居仁堂の正門新華門頭に國民革命軍の國旗靑天白日旗を揭揚す。張延緒を以て軍事部航空次長に任ず。**廿八日**宣統廢帝は天津張園に於て淸朝史の編纂を企圖さる。**卅日**日本政府は安國軍戰況不利の爲め山東省地方在留邦人危險に陷り爲に大連市駐屯第十師團管下第八旅團長中島虎吉少將統率の殘半數約二千名の部隊を靑島市へ增派し又靑島市駐屯步兵第卅三旅團長鄉田兼安少將統率の先發派遣軍を直に濟南城へ進出を決定さる。

七月　**一日**北京、奉天間に於て無線寫眞電送を開始さる。奉天政府は日本人に對し不當二重課税を賦課し日本官憲との係爭案件起る。**二日**張作霖は列國に對し聲明書を發表して各國との不

府は中央政治會議の決議に依りて鹽餘庫券條例を發布す。唐生智は武漢に於て總工會に閉鎖を命じ各黨員等殆んど逃亡す。**卅日**南軍に內通し孫傳芳に叛旗を揭げたる山東省膠縣司令陳以桑逃走し其軍隊は山東軍に歸順し又は逃走す。南京政府財政部は七月四日より奢侈品に對する特別課税五分徵收方を發表す。

七月　**一日**上海總商會は國民政府の附加税增徵に反對して罷市を斷行す。馮玉祥は河南省より湖北省界の武勝關に移動南下せる爲め漢口の共產黨員皆亡命す。南軍一千三百餘名の一部隊山

爾今北京政府代表たることを止め南京政府代表たることを發表す。**九日**張宗昌軍徐州を奪回す**十一日**張作霖は大元帥令を以て駐伊公使朱兆莘を免職し國際聯盟秘書長張芬を以て之に替へ國際聯盟支那代表に任命さる。張宗昌敗れて徐州、兗州を放棄して北退す。北京軍政府外交部は山東派遣日本軍撤退を要求す。**十二日**ボロディン夫人は大元帥令に依り大赦釋放せられて北京の露國領事館に入る。**十四日**駐日公使汪榮寶は青島派遣軍の濟南進入並に青島增兵に對し抗議を提出す。**十五日**南北兩軍(張作霖、蔣介石)妥協成立の見込立ち各部下諸軍に對し軍事行動中止命令を發す。滿洲間島地方在留內鮮人は支那官憲の不法課税に憤怒し倉庫を破壞す爲に支

し蔣介石は全軍に對して五日以內濟南占領を下命す。上海道尹公署に於て上海特別市政府成立大會を開き前北京政府國務總理黃郛新市長に就任し暫行市制條例を公布す。**八日**馮玉祥軍は黃河を渡りて北進し新鄉縣城を占領す爲に奉天軍北退して河南省衛輝城に據る。**十三日**上海に於て上海、南京、青島市駐在日本領事館の爆破陰謀を企圖せる日本共產黨員加納、松波、熊井某三名は中國共產黨との連絡陰謀暴露の爲め捕縛さる。武漢政府の共產派たる總政治部主任鄧演達は時局自派に非なるを認め聲明書を發して辭職す。閻錫山代表李慶芳は張作霖に對し大元帥就任取消しを要求す。**十四日**蔣介石の代表者黃郛は張宗昌代表袁良と會合して和平停戰條件を

を避けしむる目的を以て嚴重なる警告を發せらる日本は北支形勢悪化に因り山東派遣軍を濟南に進軍を命じ同時に青島市駐屯軍を補充する第二次出兵目的を聲明さる。**六日**青島駐在日本軍濟南に入城す。第二次日本山東省派遣軍青島市に上陸す。張宗昌親ら兵を率ゐて膠縣に進軍し陳以燊を討伐す。**七日**山東の叛將陳以燊と祝青島警備司令との間に平和裡に青島市授受交渉開始さる。山東軍逆襲を行ひ南軍敗れて徐州に退却す。**八日**日本政府山東第二次出兵を決し大連駐屯第八旅團及本國特科隊に即日出動命令を發し第十師團長長谷川直敏を以て山東派遣軍司令官に任ず。伊國駐在公使兼國際聯盟支那代表朱兆莘はヂュネーブに於て國際聯盟事務局に對し

外さる。計四拾四名

胡漢民　馮玉祥　閻錫山　李烈鈞　蔣介石
楊樹莊　李濟琛　何應欽　李宗仁　温壽泉
李鳴鐘　李福林　朱培德　王天培　白崇禧
李紹良　陳銘樞　賴世璜　曹萬順　周鳳岐
陳調元　柏文蔚　王　晉　賀耀祖　葉開鑫
楊　森　劉　湘　賴心輝　劉成勳　鄧錫侯
田頌堯　劉文輝　周西成　胡若愚　陳可鈺
黃紹雄　鈕永建　商　震　鹿鐘麟　向傑義
張之江　陳紹寛　陳孚良　李景林

六日馮玉祥代表劉治州と南京軍代表方本仁とは山西省大原縣城に於て會商す。**七日**日本政府は山東鐵道沿線在留民全部に對して速に青島市に引上げ方命令を發す。南軍は山東省泰安を占領

十八日北京大元帥府に於て張作霖代表楊宇廷と閻錫山代表南桂馨並に蔣介石代表方本仁三者會合して南北兩軍妥協會議を開催さる。

城に會して武漢共産黨討伐を決定す。武漢政府は共産黨保護令を發布す。**十七日**武漢の反共産軍何健。李品仙等協議の結果遂に武力を以て共産黨驅逐を決行す。上海中華青年佛教學會は日本の山東省出兵に對し日本佛教徒に向け反省を促さん爲め長文の警告文を寄す。**十八日**何健軍は武昌城を占領し共産派の張發奎軍は敗れて鄂城縣に退却す。南京政府は交通部組織條例を公布す。**十九日**南京政府は九月一日を以て釐金税を撤廢し關税自主斷行を布告し同時に國定輸入關税暫行條例並に國內通過税撤廢條例を布告す國民黨中央黨部は南京政府に向け對日經濟絶交中止を命ず。蔣介石は徐州に於て馮玉祥と妥協會議を開き共産主義打倒北伐決行政策を決す

那側は强硬に對抗し危機に瀕す。張作霖は楊宇霆を代表と爲し山西省代表と會合し和戰條件を商議せしむ。**十六日**張作霖は蔣介石の妥協條件に同意し閻錫山との連絡交渉を中止す。

商議す。**十五日**蔣介石、閻錫山、馮玉祥三者間に於て共産派彈壓、三民主義遵奉、青天白日旗掲揚に關する協定成立し之を全國に發表さる。武漢政府は共産黨との分離を決議す然れど勞農露國との關係依然たりとの聲明を發す。北京に於て閻錫山と蔣介石、馮玉祥兩代表間に於て協定成立す。閻錫山は張作霖の提議せる北洋軍閥提携案反對の激烈なる通電を發す。**十六日**武漢政府總政治部主任鄧演達は國民黨の農工政策を以て三民主義に反するものと爲し國民黨攻擊の宣言を發表して辭職す。武漢軍は蔣介石軍の津浦鐵道方面進出の虚を衝き浙江省に進入す爲に蔣介石軍は北伐を中止し全軍を擧げて武漢軍に備ふ。蔣介石代表王正廷は馮玉祥と河南省洛陽

は**廿四日**徐源泉部下の山東軍徐州城を占領す。
廿五日日本政府は爾後日支兩國間新聞電報料金三割方低減を公布さる。

黨の陰謀を數へ同黨驅逐を主張す。武漢政府は張發奎を免職し李品仙を以て之に代らしむ。**廿五日**南京政府の國定稅率實施公布の件に關して北京外交團は上海領事團をして上海交渉使郭泰祺に向け又南京駐在日英兩國領事をして外交部長伍朝樞に向け各嚴重抗議を提出せしめたるも伍朝樞は斷乎之を拒絕す。上海領事團は南京政府公布の附加稅實施問題に對して抗議す。**廿六日**南京政府外交部長伍朝樞は上海領事團提出の關稅附加稅實施に對する抗議に對して九月一日より關稅實施の旨回答を發す。廣東の李濟琛は唐生智並に武漢派の巨頭に向け南京派との妥協勸告を通電す**廿七日**武漢政府顧問ボロディンは漢口出發河南省洛陽を經て歸國す。蔣介石軍は

廿日大元帥府令を以て人權の保證、學風整頓令を公布さる。張宗昌軍徐州進擊を開始す。**廿一日**張作霖は南北妥協會議を開き吳俊陞、張作相孫傳芳、楊宇霆、張學良、韓麟春等の巨頭を召集して安國軍首腦會議を催し舊派の巨頭吳俊陞孫傳芳、張作相等の猛烈なる反對に依り遂に決裂す。**廿三日**張作霖は安國軍全部を改編して左の任命を決定發表す。

第一軍長張宗昌　第二軍長孫傳芳　第三軍長張學良　第四軍長韓麟春　第五軍長張作相　第六軍長吳俊陞　第七軍長褚玉璞。

北京に於て張作霖と蔣介石兩首腦間の妥協交涉決裂し蔣介石代表方本仁北京より南京に歸る。張作霖は京師古蹟保存及市政整頓令を發布す。

廿日山西省代表の斡旋に依る南北兩軍和議決裂す。漢口中央執行委員會に於て共產黨分離問題に就き同黨の活動制裁其他三大重要案件を決議す。**廿二日**日本政府は長江沿岸に於ける日本人被害復舊費百八十萬圓の責任支出を決定し內廿五萬圓を貧困者救助に支給し殘餘を補助費として貸與するに決定さる。**廿四日**武漢派の巨頭張發奎、唐生智等を中心とする武漢政府と蔣介石中心の南京政府との政爭は徒に南方派の努力して獲得せる國民革命運動の勢力を殺滅するものと爲し馮玉祥の斡旋に依り兩派の代表者を河南省城開封に會合せしめて妥協會議を開催さる。汪兆銘は漢口中央執行委員會中央黨部秘密會議に於て在武漢少佐以上の軍人全部を召集し共產

卅日北京軍政府は胡若愚（雲南省政府委員の胡若愚氏とは同名異人なり）を以て京師稅務監督に任命し又張宣を以てワシントン國際無線電信會議代表員に任命す。

八月　一日北京に於て北支那地方在留日本人小學校長會議を開催し北支日本教育會成立さる。前國務總理梁士詒は安福派の使命を帶び來朝東京に入る。**二日**駐支西國公使は北京政府外交部長王蔭泰に對し西支通商條約の期限延長を提議せるも王蔭泰は之に答ふる所なし。**三日**北京政府は治下所在海關にて八月十五日より關稅會議草案に記稿せる侈奢品に對し附加稅五分徵收の

は長文の對時局宣言を發して國民黨と絕緣を發表す。**卅日**國民政府財政部は現銀出口（輸出）禁止令を發布す。**卅一日**蔣介石代表何成濬密に北京に入り張作霖代表楊宇霆と會見し何氏自ら山西省城大原城に抵りて閻錫山と妥協を遂げ南京、北京、山西三角同盟殆んど成立を告ぐ。

八月　一日滬寧（上海、南京）鐵路並に滬抗（上海、抗州）鐵路兩鐵路局は國民政府の命に依り運賃一割値上斷行を發表さる。南京政府財政部は各種附加稅徵收を實行す。國民黨は軍事草案大綱を發表す。**三日**南京軍は徐州に於て張宗昌軍と戰ひ敗れて退却す。江西省城南昌駐屯第廿四師長葉挺は先に張發奎に向け武漢政府より獨立し廣東歸來を勸告せるも突如として南潯鐵

廿八日北京政府は實業部商標局官制を公布す。

廿九日安國軍安徽省蚌埠を陷れ南軍の王天培、賀耀祖兩軍浦口に敗走す。

徐州戰に敗れ安徽省内宿州及固鎭一帶に退却す浙江省城抗州城に駐屯の周鳳岐軍は武漢軍に内通す爲め蔣介石苦境に陷る。南京軍の重鎭何應欽一萬の大軍を率ゐて南京出發武漢軍討伐の爲め出動す。**廿八日**武漢政府は七月十五日の國民黨中央執行委員會の決議に基き共産黨との絶縁を宣言す。革命軍第廿六軍長周鳳岐は北軍孫傳芳と内應の懸疑にて監禁せらる。南軍の巨頭前安徽省督軍陳調元の北軍内應の爲め安徽省蚌埠に於て南軍大敗し蚌埠陷る。**廿九日**武漢派軍事會議を江西省九江の廬山に開く會する者汪兆銘、張發奎、孫科等多數に上り蔣介石排斥を決議す則ち所謂武漢派の廬山會議是れなり。中國共產黨

に八月八日より引下げ方を發表さる。山西省城太原會議の結果閻錫山と蔣介石、馮玉祥兩代表の間に於て共産黨及北方軍閥討伐の爲め反奉天派聯盟成立さる。**七日**武漢軍の中堅張發奎は九江に於て反共産主義を宣言し南京政府の蔣介石に向け和議を申込む。武漢派張發奎、唐生智、朱培德三軍は江西省城南昌に於て獨立せる葉挺、賀龍軍を三面より包圍攻擊を開始す。馮玉祥軍徐州城に進攻す。**八日**唐生智は軍司令部を九江に進む。元國民革命軍最高顧問露國共産黨巨頭ボロディンは第三インターナショナル、コンミュツテルン（東方策戰部）に向け悲觀的報告を爲し支那に於ける共産革命運動は全然失敗に終れる旨を聲明せり。在上海日本紡績連合會は

旨交外國に宛て通告す外交團首席和國公使は右通告に對して外交總長に宛て嚴重抗議さる。**六日**張作霖は經費裁減令及財政部印花稅務處官制を公布せしむ。國立九大學校の改組令を下す。北京政府は外蒙古回復計畫を立て東部蒙古滯在中の西藏の活佛を以て特使に任命するに內定す **七日**元渤海艦隊の吳司令官は南軍と內通の廉を以て監禁さる。先に日本軍の山東省出兵に大反對せる國務總理潘復は濟南視察後僅かに千餘の日本兵に依て濟南全市の中國民心安堵の狀態を目睹し回京以來俄に日本軍山東省出兵謳歌論者と化す。**八日**靑島市碇泊中の北洋艦隊叛亂を惹起す沈鴻烈之が討伐に向ふ。**九日**張作霖は大學籌備委員會章程を發布す。

路を破壞して朱培德軍の武裝を解除し獨立を宣言す。**四日**武漢派朱培德軍は江西省九江に到着し張發奎軍と協力し更に何健軍は武穴鎭より九江に來會し唐生智軍は湖北省通城、修水兩縣方面より進軍し又江西省南部吉安城の王鈞軍及撫州の朱培德軍と共に殆ど完全に南昌獨立の賀龍軍を包圍して總攻擊を開始す。賀龍(ホウ、ロエン)は武漢政府に反抗し江西省城南昌に於て葉挺(イェー、ティン)軍と通謀し獨立を宣布す。**五日**江西省九江に戒嚴令布かる。前上海香港銀行支配人チー、エッチ、スチードは支那標準銀貨鑄造大綱並に上海造幣局設立案を發表して南京政府の注意を喚起さる。**六日**南京政府は七月十二日以來徵收せる屯稅付加稅に付き情況不利の爲め同稅五割を半減し二割五分

十一日張宗昌は安徽省蚌埠を占領す。十二日北京軍政府左の通り任命す。
直隷督辦褚玉璞。熱河都統湯玉麟、察哈爾都統高維岳。
十三日奉天日本商業會議所は南北支那に於ける不當課税並に奉天當局の日貨排斥問題に就き會議を開き田中首相、外相、商工相、拓植局長、關東長官、芳澤公使、奉天總領事に宛て反對意見要請書を呈出す。張作霖の要求せる東支鐵道保管金折半問題は交渉の結果露國側より六十萬元を張作霖に交附解決さる。奉天政府と英國側との間に於て極めて秘密に吉林省鑛物借款百萬磅の契約成立を傳ふ。

協し南京政府打倒を企圖す。十一日張發奎は南昌に於て共産黨討伐宣言を發し同地の共産黨員七十餘名を捕縛す。舊武漢派の巨頭譚平山、吳玉璋、張國燾等は南昌に於て國民軍會を組織し賀龍、葉挺等の敗軍を召集し武漢に對する一新勢力團と爲る。第十五軍長劉佐龍は同軍の黨代表兼副軍長耿丹の陰謀を以て即時銃殺せる廉に依り免職され逮捕を命ぜらる。十二日國民政府は關税自主宣言と共に各種不當課税を九月一日より實施に決定發表す。蔣介石、王寵惠、黃郛三名相携へて芳澤公使を南京の陳公館に來訪し日本山東派遣軍撤退を懇請す。武漢政府軍事顧問露國共産黨陸軍少將ガロンは病と稱して辭職を願出づ。十三日武漢、南京兩政府併合問題

八日佛國北京派遣隊安南兵は共產黨員の煽動に因り一大陰謀を企て暴露して鎭撫さる。**十日**北京軍政府は國立九校を併合して國立京師大學校を組織さる。

國民政府の宣言せる出廠税に反對決議を爲し斷然工場閉鎖を宣言して强硬對策を立つ。**九日**武漢軍總司令唐生智は南昌の賀龍、葉挺の反亂に因り其兵力半減せる張發奎軍を顧慮するの要なきを以て各省政府及各軍に向け中央の命を奉じて共產派及蔣介石討伐を通電す。**十日**南京政府の不當課税に對し英船は佛國の前例に倣ひ正税のみを總領事館に供托して出港に決定し駐支英國公使之に同意さる。江西省城南昌に於て武漢軍に對し反旗を掲げたる賀龍、葉挺兩軍は張發奎の爲に破られて江西省東邊の撫州城に敗走す南軍總指揮白崇禧軍は江蘇省滸江浦に戰ひ大敗し部下三千を率ゐて江を渡り南京に逃還し南京危險に瀕す。唐生智は天津に於て奉天派と妥

十五日日本政府の第二次東方會議を大連市に於て開催さる。**十六日**孫傳芳は浦口及揚州を佔領す鎭江爲に混亂に陷る。孫傳芳軍は浦口より江を隔て南京下關砲臺を攻擊す。

ち九月十五日漢口に於て執行委員會を開くに依り南京政府は速に解散して會議に參加し双方の關係を和平裡に解決せんとの通電を發す。**十五日**蔣介石下野の結果南京、武漢兩政府併合の機運俄に促進さる。津浦鐵道戰線の北軍猛追擊を敢行し江蘇省烏衣鎭陷り南軍遂に江北一帶の保持困難に陷る。南京政府は何應欽を以て國民革命軍總司令臨時代理に任命す。**十六日**武漢政府は在南京の李宗仁を推して革命軍副司令と爲す。**十七日**武漢派の唐生智 汪兆銘 譚延闓、張發奎等は江西省九江に於て李宗仁、何應欽、白崇禧等と連名にて南京派に對し速に九江に來て國策を協議せん事を通電す。**十八日**蔣介石の下野に因り武漢派の勢力加はり安徽省蕪湖縣以西

十三日孫傳芳は軍容を整備して何應欽軍と相對峙し戰陣を張る。十四日孫傳芳軍は王天培軍と戰ふて大に之を破り明光を佔領す。

決裂し蔣介石は南京より上海に去る。南京政府の不當課稅に對し日英米佛伊五國領事は協調會議を開き首席米總領事カンニングハンは其の決議文を北京公使團に通告さる。江北の戰に敗れ南京政府遂に瓦解し蔣介石下野通電を發して一切の權力を拋棄し密に海路寧波に去る。胡漢民張靜江、蔡元培、吳稚暉、鈕永建等南京派の巨頭皆な南京より上海に來集し一切の公職辭任の通電を發す。上海市長黃郛辭職す。何應欽三萬の大軍を率ゐて南京より揚子江を渡りて江北に出動し北軍の南下に備ふ。十四日蔣介石は白崇禧の南京歸來及揚州陷落並に南京市民が孫傳芳入城歡迎の狀現れ四圍の形勢頗る不利と認め遂に南京を去る。武漢政府は共產黨との關係を斷

各地に於て共産黨員楊志雲、任國楨、首魁鄧和高以下五十三名を逮捕し共産黨員檢擧始末を發表さる。張作霖は馮玉祥軍の背面攻撃を恐れて孫傳芳軍に向け長江以北の鎭靜に歸する迄で南京攻撃の危險を冒かす勿れと電命す。北京政府は財政缺乏の爲め葡國　瑞西　瑞典　諾威　墨國、白國　玖玻　伯西の八國公使館撤廢に決定す。**廿一日**河南省内駐防の靳雲鶚、劉鎭華兩軍は馮玉祥軍に反對して獨立を宣言す。孫傳芳軍約一萬揚州に入りて江岸に進出し焦山（一名銀島）砲臺を占領す爲に上海、南京間の水陸交通遮斷され南京の危機迫まる。**廿三日**滿洲本溪湖煤鐵公司（大倉組經營）工人は共産派の煽動に因り賃銀値上げの要求を爲し總罷業を開始し突

廿日武漢政府は津浦鐵道戰線に出兵を決定す。**廿一日**南京派は伍朝樞を安徽省城安慶に派し一方武漢派は汪兆銘　譚延闓、孫科の三人を派して妥協を議せんと何應欽を通じて南派の交渉漸く滋げし。武漢追放の共産黨員は南京軍の江北戰の大敗北に乘じて多數上海に潜入し再び活動す爲に上海閘北一帶の大賈巨商殆んど閉店す。閻錫山は南方變局に因り共態度を一變し中立を約して直隷省石家莊より撤兵し張作霖の爲に馮玉祥軍討伐の途を開くの狀態と爲る。

十九日北京政府國務總理潘復は新聞記者團に對し武漢派の唐生智と北京政府との間に完全提携成立を發表す。外蒙古駐露代表と勞農露國陸軍委員間に於て露蒙共同防禦同盟密約成立し露國はトルキスタン地方に亦露軍一萬を駐屯し以て他國の外蒙侵入を防止するを條件と爲すと報ぜらる。奉天税捐局は附加税賦課徴收局規定九ケ條を公布す。張作霖は新に長江以北恢復策を立て閻錫山、唐生智兩軍と妥協して馮玉祥派を孤立に陷れ討伐の新對南方政策を議定すと傳ふ。駐支米國公使マクマレーは本國政府の召還に依り歸國の途次東京に入り外務次官出淵勝次と會見し滿蒙政策に就き意見交換の上歸國さる。**廿日**關東廳は南滿洲鐵道附屬地並に大連市、旅順は武漢派の地盤に歸し夏斗寅軍は何健軍と併合す。**十九日** 武漢政府は中央執行委員會の決議に依り**南京遷都**の通電を各省に發す。武漢、南京兩政府妥協問題に關し唐生智は南京に向け其の代表者を急派す。**廿日**南京政府は勞工局條例十五ケ條を公布さる。

し日本政府の命に依り日本山東派遣軍撤退決定の公文を手交さる。**卅日**日本政府は山東省派遣軍撤退命令を當該軍司令官に下すと同時に聲明書を發表さる。**卅一日**孫傳芳軍の下江襲來の爲め上海の危機迫まる。

九月　**一日**孫傳芳軍は南京下游三江口附近の戰に於て大敗し南軍の爲に捕へられたる者一萬餘に及ぶ。日滿（東支鐵道を含む）國際運輸連絡協定成立さる。奉天省議會に於て奉天國民外交後援大會を組織し排日貨の實行方法を決定し傳單（ポスター）及趣意書等を發表す。芳澤公使と楊宇霆連名にて日支滿蒙交渉を地方問題として取扱ふ旨の聲明書を發表さる。張學良は閻錫山が奉天派の特使于珍を監禁せる事件に關して

告せり。上海領事團は會議を開き卅日附伍朝樞の通告に依る通告書に對する抗議提出に決定さる。**卅一日**上海縣城內に戒嚴令布かる。

九月　**一日**南京政府は不當課税全廢の旨を公布す。閻錫山は張作霖に對して宣戰布告文を送付す。上海の松滬衛戍司令部は上海航業會社に對して軍事關係に因り爾後如何なる商船も長江に入る可らずと嚴命を下す。何應欽は李宗仁及白崇禧等に對して反感を有し南京政府に反對して浙江省城杭州城に於て新政府を樹立して自ら其主席に就任の旨を聲明す。閻錫山軍は京漢、京綏兩鐵道戰線に於て攻撃を開始す。**二日**廣東に

如暴動す。**廿四日**芳澤公使は日支懸案交涉の爲め張作霖と會見懇談を遂ぐ。**廿五日**全滿洲日本人大會は決議期成會を奉天日本人公會堂に於て開催し滿蒙積極政策確立請願書並に陳狀書を内閣總理大臣田中義一大將宛て呈出す。**廿八日**北京政府は駐支勞農露國大使館員等が支那國内に於て共產革命煽動事件秘密文書を同大使館内より押收せる物を整理飜譯して各國政府に頒送して勞農露國の罪を訴へたり。**廿九日**孫傳芳軍は西華山方面に於て何應欽軍と交戰して大敗す。**卅日**日本政府は山東省派遣軍司令官第十師團長長谷川直敏中將に電命して同軍全部撤退歸還を訓令し同時に日本外務省は長文の聲明書を發表さる。芳澤公使は北京政府外交總長王蔭泰に對

廿四日馮玉祥の反對熱天下に湧發し南北妥協して共に討伐すべしとの輿論起る。**廿五日**上海總商會は南京政府に對し九月一日より實施の關税自主問題に就き延期を電請す。上海に於て第八回極東競技大會を開催され會長王正廷歡迎辭を述ぶ日本選手團優勝して大正天皇賜杯を授與さる。**廿六日**英國政府は支那に於ける時局安定に鑑みて支那派遣軍中一部約六ケ大隊を撤退さる**卅日**南京外交部長伍朝樞の名を以て關税自主に因る徵税件に就き上海駐在日本總領事矢田七太郎に宛て公文を以て通告せる要旨に曰く七月廿一日發表の國定輸入關税暫行條例裁決國内通過條例出廠税條例等實施期日の九月一日を當分延期す然れど關税自主權は撤回せずとの旨を通

権登録期間は民國十六年（昭和二年）六月末日迄での期間を變更して更に同年十二月末日迄で延期を布告す。**七日**奉天の排日事件に對し奉天駐在日本總領事吉田茂嚴重抗議す。芳澤公使は張作霖に向け奉天の排日事件に關し嚴重取締方を嚴談さる。芳澤公使は日支通商條約改訂交涉の爲め外交總長王蔭泰と會見し引續き開會に決定さる。**八日**吉田奉天總領事は奉天排日事件に關し徹底的解決手段を採るの必要を認め本國政府の訓電を仰ぐ。本溪湖煤鐵公司暴動事件に關し吉田奉天駐在總領事と奉天交涉使高清和との間に於て善後案件解決さる。**九日**北京軍政府教育總長劉哲は各學校に於て白話文（口語體）の使用を禁止する旨を布告す。張作霖は芳澤公使

武漢兩政府の舊首領楊樹莊、唐生智、程潛、朱培德、魯滌平、李品仙、何應欽、白崇禧、賀耀祖等は兩政府の合併並に國民革命の完成、三民主義建設の通電を全國に發す。**九日**孫文未亡人宋慶齡女史及陳友仁は露都モスクワ市に入り露國勞働者等の盛んなる歡迎を受く。**十日**四川省峽中白帝城址に駐在する吳佩孚將軍を擁立して楊森、鄧錫侯等は武漢進出の企圖を策謀す。**十一日**馮玉祥は靳雲鶚を免職し露國へ歸途上のボロディンを歡迎し又河南省內の共產黨員を保護し以て露國の援助を佔有するの術策を企圖せる爲め武漢派と反目を惹起す。**十三日**武漢政府の舊宣傳部長陳公博辭職通電を發す。國民黨中の武漢、南京、西山三派大同團結成り共同宣言を

最後通牒を閻錫山に送付す。奉天軍は京漢鐵道戰線に於て閻錫山軍と戰ひ敗れて正定縣より定州城に向け總退却す。**三日**奉天軍の飛行機三臺上海郊外龍華機器局上空に飛來して爆彈三個を投下し數名の死傷者を出す。前清朝の遺老にして清史館々長趙爾巽卒す時に享年八十四歳也。**四日**奉天に排日運動惹起され遂に暴動化し日本人商店及住戸を破壞す。**五日**奉天より東北海龍縣に通ずる支那官民合辦組織の奉海鐵路開通す孫傳芳軍の大敗に依りて形勢一變し奉天軍は河南省侵入を斷念し江蘇、安徽兩省死守に決し蚌埠方面の戰線に全力を集中す。日本濟南派遣軍全部撤退を完了す。**六日**孫傳芳軍は浦口より北退し南軍追擊戰を開始す。北京軍政府は商標

於ける經濟的クウデター奏効して中央銀行開業せり。廣東政府は一千萬元短期公債を發行し軍隊を以て市中の各銀行及錢舖等を封じ前代未聞の經濟的クウデターを斷行せり。**三日**上海に於ける第八回極東競技大會閉會式を擧行さる。江西省九江の廬山會議の結果に依り南京、武漢兩政府併合協定成立す。**五日**武漢軍何健、南京軍柏文蔚同楊勝治各軍は安徽省合肥縣より蚌埠攻擊を開始し南軍の先鋒揚州城を占領す。漢口に於て太平洋勞働會議なるもの共産派に依りて開催され日本勞働團體より密に出席する者あり
六日　南京政府と武漢政府合體成る爲に五萬元の賞銀を各軍に頒賞し追て論攻行賞の旨を宣言し慰問使として蔣作賓中將を派遣さる。南京

の經濟的文化開發の爲め積極政策を實施せん事を芳澤公使を介して日本政府に懇請す。**十六日**奉天省內に於ける中等各學校に於て每週二時間宛**排日思想**を敎育の力に依りて皷吹すべく巡回講師を設けて敎育する事を實施せり。日支通商條約改訂專門委員日本公使館參事官重光葵は外交部に於て唐在章と會見し重要協議を遂ぐ。奉天全省外交後援會は日貨排斥を目的とせる國產奬勵の新運動を起せり。滿鐵及東支兩鐵道當局は張作霖の橫暴行爲に憤慨し日露相提携して兩國鐵道に於て物資輸送を企圖し大連に於て交涉開始に決定さる。日本人小倉克巳、杜重遠外二三名は奉天の排日運動の裏面に潛在して支那人の走狗と爲り策動せる事實判明し奉天駐在日本を左の如く任命す。

中央特別委員會委員　李宗仁　楊樹莊　李烈鈞　馮玉祥　蔡元培　汪兆銘　唐生智　蔣介石　程潛　王伯群　何香凝　閻錫山　胡漢民　孫科　朱培德　林森　于右任　張繼　許崇智　伍朝樞　譚延闓　吳稚暉　鄒魯　李石曾　張人傑　居正　謝持　覃振　李濟琛　何應欽　白崇禧　戴天仇

同候補委員　劉積學、繆斌、緒民誼、甘乃光　顧孟餘　陳公博　葉楚傖　茅祖權　傅如霖。

中央監察委員會職權執行委員　張繼、于右任　何香凝女史、李石曾　蔡元培。

廣東に於て日英兩國に對する經濟絕交實施を開始す。**十六日**國民黨特別委員會に於て南京新政府組織を決定し左の各部會を設く。

の警告的抗議に依りて奉天省長莫德惠に對し排日運動嚴禁を電命す。**十日**奉天に於て對日經濟絶交斷行の爲め外交研究會組織さる。段祺瑞は大連市を去つて天津に移住す卽ち安福派の時局に對する策謀に基因せり。**十一日**芳澤公使と楊宇霆との會見商議に依りて滿蒙交渉を適當の時期まで延期に決定さる。**十二日**張作霖の排日運動取締令に對して張作霖反對熱起る。**十三日**前淸の遺老にして故張之洞の女婿元湖北鎭統（師團長）たりし張彪は天津日本租界の自宅に於て卒す。張作霖は奉天排日運動者を斬罪に處刑せよとの嚴命を下す。**十四日**奉天に於て排日煽動手段としての芝居を實演し民衆を歡呼せしむ。**十五日**內蒙古地方の各王族等は連合して同地方

發表され又漢口派の汪兆銘、譚延闓、孫科　朱培德、南京派の李烈鈞、李宗仁、伍朝樞　蔡元培、李石曾等連席會議に參加せり。**十四日**馮玉祥等は靳雲鶚軍を壓迫攻撃して敗走せしむ。汪兆銘は中央執行委員會及國民黨同志に宛て下野を通電す。**十五日**國民黨臨時執行監察大會を南京に於て開催し蔡元培、伍朝樞　于右任　譚延闓、李宗仁、李烈鈞、吳鐵城、朱培德　孫科　程潜　張人傑　李石曾、黃實、繆斌、周啓剛　張靜江、經享頤等二十餘名出席し譚延闓議長と爲り共產黨員たる潭平山　林祖涵　于樹德　吳玉章　楊匏安　惲代英　李大釗　朱季恂　鄧演達　彭澤民、徐謙、詹大悲等を除名し更に中央特別委員卅二名候補委員九名中央監察委員五名

を發布さる。京兆尹（北京府知事）李垣を免じ張濟新を以て之れが後任と爲す。**廿二日**關東州內なる金福鐵道全通式を擧行さる。奉天省長莫德惠は奉天排日事件の責任者として辭職せり。北京駐在白國公使ドワーヂ及チェッコスロヴァキヤー國公使ホールは北京郊外萬壽山下に於て一隊の土匪に襲はれ僅かに身を以て難を免がれて歸り兩公使は直に外交部に對して抗議す爲に張作霖は直に土匪逮捕の嚴命を下せり。**廿四日**關東州金州管內大魏家屯、騷達溝、劉家屯地方を中心とせる一帶の地域に亘りて約五時間に及び雞卵大の大雹雪降り頻り積む事約二尺に達し農作物全滅す。**廿五日**張學良は前上海道尹曲同豐を遣はして南京新政府に對し非公式妥協運動し更に安徽省蕪湖に於て國民黨支部に解散を命す。唐生智は湖南、湖北兩省在住工人痺弊の爲め漢口駐在日本總領事高尾亨を訪問して同地方の治安維持を力說し至急從前居留の日本人を復歸せしめられ度しと懇請する所あり。**廿二日**南京新政府は其第一聲として宣言を發布し北伐を續行し不平等條約を廢棄し革命貫徹を期し民國の獨立自由平等の地位を回復するを主張して中外に聲明する所あり。南京政府は漢口事件の責任者として漢口衞戍司令部參謀長を日本軍艦安宅に遣はし艦隊司令官海軍少將荒城二郎に對して陳謝の意を表さしむ。**廿三日**南京新政府は革命貫徹宣言の第五項に於て排日の第一聲を掲ぐ漢口に於て日支兩國兵衝突事件の爲め戒嚴令

官憲は嚴重取調べを開始さる。靳雲鶚は河南省に於て獨立を宣布し奉天軍及武漢の唐生智軍と連絡して馮玉祥討伐の通電を發布せり。**十七日**段祺瑞は靳雲鵬、吳光新等の安福派策士と張作霖の希望とに依り時局收拾の爲め入京す。**十八日**張宗昌は其の機關銀行山東省銀行紙幣の信用恢復策として日本官憲の抗議を無視し山東鐵道に對し額面通り受入方を嚴命せり。**十九日**東支鐵道管理局長エムシヤノフは大連市に來り滿鐵本社に於て社長山本條太郎と會見し重要會議を開き兩社連絡運輸協定を遂ぐ。孫傳芳軍は南軍の李宗仁軍と戰ふて大に之を破る。**廿日**北京教育部は國立大學校開校式を擧行さる。**廿一日**大元帥令を以て禮制、國史兩館を回復するの明令

一　中央黨部は組織部　宣傳部　海外部　軍人部、工人部、農民部、青年部、婦女部の八部を以て組織す。

二　國民政府は內政部　外交部、財政部、司法部、農工部、實業部、軍事委員會、敎育部の七部一會を以て組織す。

軍事委員會は首席團の下に參謀處、秘書處、海軍處、航空處、經理處、審計處、革命軍事裁判處、政治訓練處の九處を設く。

國民黨大會は汪兆銘の辭職に依りて延期と爲る**十七日**廣東經濟委員會は英國軍艦が海賊討伐の擧に出でしは中國主權の侵害と爲し對英經濟絕交實施通告を發せり。**廿一日**唐生智部下第卅六軍劉興(リユウシン)は國民黨系程潛軍を長江南岸に驅逐

武漢政府の前軍事顧問たりし露國陸軍少將ガロンは上海より浦潮港へ向け歸國の途次日本內地に渡來上陸を出願せるも日本政府拒絕せり。**廿六日**前武漢政府の巨頭徐謙辭職の通電を發す。**廿七日**南京政府航空隊附陸軍少佐田來横は米支兩國親善增進の爲め民國十六年秋季に於て桑港上海間横斷飛行計畫を米國に於て發表せり。**廿九日**第卅六軍長周鳳岐辭職し第十軍長王天培は敗殘の責を以て銃殺され賴世璜を捕縛し第卅一軍を解散處分せり。漢口各團體代表會議を開き汪兆銘の留任に關し反對決議を發表せり。蔣介石は張群、劉紀文等を從へて上海より長崎に上陸し直に雲仙溫泉ホテルに入る。故孫文未亡人宋慶齡女史は前武漢政府外交部長陳友仁と露國

を開始せしむ。**廿七日**大連商議會議所に於て第八回全滿日本人商業會議所連合大會を開催し哈爾賓、長春 鐵嶺 四平街 開原 奉天 安東 撫順 鞍山 遼陽 營口各地商業會議所代表委員及關東廳、滿鐵本社等より合計七十一名參列し不當課税、日貨排斥等の諸問題に就き審議の結果滿洲輸入組合設立綱領及日滿貿易振興に關する建議案等を決議し發表さる。**廿九日**奉天軍と商震の率ゐる山西軍は柴溝堡に於て戰端を開く。張作霖は山西軍との開戰に依りて北京の危急に備ふるが爲めに北京城内外に亘りて戒嚴令を布く。

布かれ同地日租界に於ても武裝嚴戒さる。**廿四日**夜上海共同租界乍浦路に於て日本海軍陸戰隊巡邏兵四名工部局警察署の一英人警部補の爲に虹口警察署に不法拘引監禁事件起り工部局警察署と日本陸戰隊間に危機迫り重大關係を惹起せんとせしも同地駐在日本總領事矢田七太郎と上海市共同租界參事會議長米人フェッセンデン及工部局總務課長英人ヒルトン、ヂョンソン等の斡旋に依り工部局の陳謝處罰を條件として圓滿に解決さる。**廿五日**共產系たる葉挺軍廣東省汕頭に入る。葉挺軍は松口及大埔を陷れ廣東省潮州城に進入し討伐軍の王俊軍は大敗し錢大鈞は行動不明と爲り同地方の人心動搖す。廣東省陽江縣城に大津波襲來し流失家屋二萬餘に及ぶ。

十月　一日奉天軍は山西軍の部將傅作儀の固守せる涿州城解城の約成り始めて圍を解いて入城す。張作霖は一擧に山西省奪取の作戰を立て第三第四方面軍に對して山西省城太原佔領の先登軍に對して百萬元の懸賞を附し又娘子關の險を攻略せん爲め迫擊砲三百門を前線に輸送す。二日奉天派の高維岳軍は張家口の戰に敗れ部下一萬六千の大部隊は山西軍の爲に武裝解除され高維岳は夜逃走す。奉天軍京漢鐵道戰線に於て敗走す。張作霖大元帥の名を以て各方面に宛て閻錫山討伐の宣戰を布告す。閻錫山は馮玉祥、唐生智等の應援を得て張作霖討伐の宣戰を布告す張學良は山西省豐鎭縣に於て山西派の爲に捕虜と爲れる于珍の釋放外二項を擧げて閻錫山に

十月　一日國民政府外交部長伍朝樞は日本政府の對滿蒙政策に關し支那廿二省中十六省は既に國民政府に屬し僅かに六省を占むる北京政府の軍閥との條約締結は支那國民の承認する所に非らず且つ日本政府の對滿蒙政策は世界平和の危害なりと斷し抗議を提出せり。三日張發奎は廣東省內に於ける李濟琛の勢力失墜に乘じて革命的新廣東の建設を標榜し以て國民黨右派を排斥し汪兆銘を迎へて新政府の首腦と爲し南京特別委員會に反對して西山會議派の加入を非議し國民政府を否認す。商震の山西軍は張家口總攻擊を斷行し夜に入りて佔領す奉天軍宣化城に向け退却す。四日新南京派と新武漢派の決裂に因り新武漢派の劉興軍と新南京派の李宗仁、程潛、對

リガー市に於て結婚し新革命計畫を策謀し露國の第三インタアナショナルは之を援助す。上海杭州間鐵道沿線駐屯の何應欽軍約五萬の大軍は南京新政府に對して反旗を飜へし蕪湖方面に駐屯せる唐生智軍乂背反し更に廣東に歸來せる張發奎軍は汪兆銘を擁して反旗を掲げ南京政府は遂に四面楚歌裡に陷る。卅日多年支那に在留し米國人中唯一の支那研究者として且つ各宗教の連合運動に從事したるを以て有名なる尙賢堂總理並に國際公報經理ギルバート、リード（支那名李佳白）は上海に於て卒す時に享年七十歲也李濟琛は張發奎軍の廣東省侵入に對抗の爲め汕頭地方に進軍す賀、葉兩軍共に汕頭を拋棄して敗走す。

隷省大平野中に於て決戰を策定し戰備を修む。五日張宗昌は北京より省城濟南に歸來して急ぎ防備を修め双十節の祝賀式閲兵中止を布告す。北京公使館區域の支那人關係法律事項を支那法廷に移す事を承認する旨首席和國公使より北京政府外交部へ通達さる。六日孫傳芳は張作霖の山西軍討伐通電に應じ共に山西軍討伐軍を起す旨を北京政府に通電す。京津地方の支那有志の發起せる國民和平促進會は南北の軍事將領等に向け休戰勸告を通電す。奉天軍は正定、保定各地を放棄し新城、高牌店、淶水の線に退却し山西軍邀撃の作戰を決し奉山兩軍戰機迫る。吳俊陞は黑龍江軍步騎各一團（聯隊）に出動命令を下し洮齊鐵道に依りて南送さる。吳俊陞は軍費電を發し北方國民黨系と奉天軍との決裂を見るに至り遂に張作霖討伐令を下す。閻錫山、馮玉祥兩軍間には山西軍は直隷省を馮玉祥軍は山東省を各佔領して地盤と爲すを條件として諒解成る。山西軍は徐永昌軍に石家莊を守らしめ以て張學良、汲金純等の奉天軍を牽制し實玉爾軍をして一擧に京漢鐵道戰線の高牌店驛に進攻して張作相軍に當らしめ又譚慶林軍は宣化城に進攻し更に楊愛源の騎兵旅は大同縣城より懷來に進攻の四路並進策戰を決し總攻擊を開始す。五日武漢の政局は四圍の壓迫去り唐生智軍の共產黨取締嚴重と爲り安定さる。閻錫山は密使を天津の段祺瑞の許に遣はし時局收拾の懇談を遂げしめ張作霖の下野及奉山兩軍妥協成立の上は段祺

し最後通牒を發す。**三日**張作霖は深夜北京の大元帥府に於て最高軍事會議を開き北京の北郊八達嶺を中心に萬里長城を最後の防禦線と爲し決戰を策定す。**四日**奉天軍は京綏戰線に於て山西軍の爲に破られ宣化、懷來の線を支ふる能はず武器彈藥を遺棄して總退却す。京漢鐵道戰線の正定縣より退却せる奉天軍五千名の一隊は山西軍の爲に武裝解除され又易州の奉天軍も山西軍步兵第一師騎兵一個師の爲に退路を斷たれ戰況不利に陷る。馮玉祥軍は京漢鐵道戰線石家莊驛に進攻す。奉天軍第三、四方面軍司令部（軍長張學良、副軍長韓麟春）は直隸省保定に後退す元奉天省長莫德惠を以て北京軍政府の農工總長に任命す。奉天軍は京漢鐵道戰線に於ては直夏斗寅軍は蕪湖縣附近に於て相對峙し形勢危急に瀕す。馮玉祥軍は京漢鐵道戰線の石家莊驛に進出す。山西軍便衣隊張家口に入り奉天軍の湯玉麟同地より逃亡す。山西軍は鄭澤生の第十九師及李澤生の第十兩師は張家口より進攻して宣化縣を陷れ懷來縣城攻略の戰備を整ふ之に對し奉天軍は主力を懷來城に集中し死守の作戰を決定す又一方山西軍の第八軍譚慶林は山西省天鎭縣より蔚州城に迂回し側面より懷來城に進攻を策定す。閻錫山は對張作霖宣戰布告文中に於て新興中國の爲に私慾に耽ける張作霖膺懲軍を起すも奉天軍全部を敵とせず奉天軍中有爲の士は起つて予と行動を共にし以て中國を救へと通電を發す。南京政府は張作霖が對山西軍討伐の通

は斬雲鵬、于學忠軍約四萬と策應して隴海鐵道沿線より河南省内の馮玉祥總攻撃を開始す。**十日**張作霖は京漢、京綏兩鐵道戰線並に中路軍に對し双十節の國慶日をトして總攻撃を命じ奉山兩軍は運命を決する天下分け目の決戰機迫り直隷省安國縣附近の戰に於て山西軍一個師全滅し旅長二名聯隊長七名戰死し山西軍の戰況不利に陷る。奉天軍は京漢、京綏兩鐵道戰線の中央に位する紫荊關を佔領し山西軍の騎兵一旅を捕虜と爲す。奉天軍は山西軍の中央突破作戰を破壞して定州城を奪回す。褚玉璞の直隸軍は南京政府外交部長伍朝樞夫人何寶芳女史を逮捕監禁す**十一日**奉天軍中路別働隊は直隸省淶源縣より進出せる山西軍を擊破して紫荊關を佔領す。**十**

り蒙古の多倫諾爾(トウロエンノール)方面に進め又張蔭梧部下の四個師を懷來より宣化に譚慶林部下の歩騎各一師を陽源より宣化以南に進出せしめ更に商震軍は深講堡に在つて戰備を修む。山西軍は主力を京漢鐵道戰線に沿ふて北進せしめ閻錫山自ら石家莊陣地に在つて陣頭に立ち山西軍約六萬の大軍に對し奉天軍約九萬の大主力を以て決戰の機迫る。馮玉祥の援助する河南省の紅槍會匪は山東省西南部の要地濟寧城を佔領す。**七日**唐生智は漢口に在つて南京、河南兩省方面に對し消極的兵備を整ふるに止め改局變化傍觀に決意す。國民政府は四川省の楊森、劉湘兩軍に對し在四川省内の吳佩孚逮捕令を下す。山西軍鄭澤生、譚慶林、商震の各軍三路迸進直隸省懷來縣に進

二百萬元の軍票を發行し更に軍費調達の爲め買占め中の特産物の賣出しを開始す。奉天軍內に兵變起り張學良は總司令部を新樂縣城より高牌店驛に後退せしむ。國民和平促進會は段祺瑞、黎元洪等以下南北各名士元老等に電請して休戰運動を起さん事を慫慂す。**八日**段祺瑞一派の安福派策士は山西軍の背後に陰れて活躍頻りなり張作霖は安福派を代表して入閣せる姚震（段祺瑞の部下）を大元帥府に招き閻錫山、馮玉祥等の後援に依りて段祺瑞の出廬に對し反對の旨を安福派幹部に通告せしむ。**九日**奉天軍の主力軍は京漢鐵道沿線の豚鹿高地方面よりし同軍の中路軍は紫荊關方面に各路軍の集結を終り山西軍に對し總攻擊を開始す。徐州の直魯軍約十萬

瑞を擁立し多難の時局救濟を計り又段の威力を以て武漢派の唐生智及馮玉祥慰撫策を立つ。馮玉祥軍は山西軍援助の爲め第一、二兩軍主力を直隷省定縣に集中し鹿鍾麟を以て總司令と爲し北京に進出せしめ又一方別動隊を隴海鐵道線を經て孫傳芳、張宗昌兩軍の連絡遮斷の作戰を立つ。蕪湖方面に於て對峙せる武漢、南京兩軍は武漢より劉興軍に對し援兵を增派し一方南京軍は舊武漢派の程潜、李宗仁軍は戰はずして退却し蔣介石派の賀耀祖軍獨り殘駐し爲に劉興軍急に賀耀祖軍を擊て之を破り江蘇省楊中縣（舊太平縣）を佔領す。**六日**前國民革命軍顧問露國陸軍少將ガロンは夫人及副官を伴ひ上海出發歸國す。山西軍は鄭澤生部下の五個師を平泉地よ

覺し之に新式武器と教練とを施給せば世界最强の國軍たり得べく予は支那の將來に對し信頼を有すとの聲明を發表す。山西省雁門關に駐在する晉北鎭守使兼第八旅長豐羽鵬は閻錫山　商震徐永昌等の積極的行動を不平とし獨立を宣布

閻錫山の牙城太原城を覗ひ京綏鐵道方面に進出せる山西省軍の背後を脅かし更に同人は張作霖に對し閻錫山との關係離反を述べて今後安國軍の指揮に從ふ旨の通電を發す。**十日**山西軍は京漢鐵道戰線の安國縣城爭奪戰に敗れ又京綏鐵道戰線に於ては奉天軍湯玉麟の爲に一個聯隊の武裝を解除され死傷約千名を出し兩軍の戰況逆轉す。南京軍事委員會に於て北伐令を下し葉開金の部下第四十四軍江北に向ひ出動す。**十一日**上

三日北京政府國務會議に於て白國新借款米貨五百萬弗契約決定さる。奉天第十軍は直隷省曲陽縣を經て阜平縣に進攻す。京漢鐵道戰線の奉天軍は攻勢に轉じて安國縣を佔領す。

攻す、閻錫山は突如張作霖に向け停戰和平解決を提議し張作霖は之に對して閻錫山に對し自ら解決策を選べと返電す。**八日**南京政府外交部長伍朝樞は日本政府の對滿蒙政策に對して抗議す

九日馮玉祥軍は閻錫山との軍事協定に基き山西軍の進展に因つて行動を開始し全軍を河南省鄭縣城に集中して親ら其主力軍を率ゐ滄縣、大名縣の二路より分進し山東軍に對し其側面攻擊を開始す。ガロン少將（卅八歲）は歸國の途次下關より大阪を經て敦賀出帆浦潮直航歸國の途に就き日本が支那の復活と國民革命軍に對して理解と同情を持つを認め又支那軍隊の覺醒と成長とは全支民族の自覺と成長なりと斷じ支那の發達と獨立を可能と爲し支那軍隊が政治的に自

るべく此橋全長一千五十五呎に及び工程約一星霜半を費せり。物貨編定委員會開催に關し北京駐在和國公使館に於て外交團會議開催さる。**十七日**奉天軍は勝に乘じて遠く邊外綏遠城の地盤を佔領せんと企て山西省軍は之に對して其主力を大同縣方面に集中し防備を修む。山東省軍は隴海鐵道戰線の馮玉祥軍を撃破して河南省城開封城に入る。

て福建省城福州に駐屯する譚曙卿の新編第七軍を驅逐し市街戰の結果同軍の武装を解除し譚曙卿以下同軍幹部は馬尾の福建海軍司令部に監禁さる。國民政府は白崇禧を以て前總總司令に任命し楊勝治の第十軍賀耀祖の第四十軍葉開金の第四十四軍及新編第十三軍を以て白崇禧の旗下に屬せしむ。山西騎兵部隊約三千名は突如保定に襲來し張學良軍苦戰に陷り涿州城方面又山西軍後續部隊現はれ奉天軍は琉璃河店に退却す。山西省議會議員數名連名を以て閻錫山排斥討伐を張作霖に求めたる通電を北京に於て發表さる**十六日**馮玉祥は部下各軍を河南省洛陽城に集中し機を見て山西省侵入を企圖す。**十八日**上海に於て排英國運動再起す。廣東政治分會が南京

十一日遼瀋道尹佟兆元は吉林省長に榮轉し就任す。十二日安福派の企圖せる閻錫山を起して奉天派を壓迫し段祺瑞擁立運動は山西省軍の直隸省曲陽城附近の敗戰に因り大勢已に決し失敗に歸す。十六日奉天軍は京綏鐵道戰線に於て張家口を奪回し進んで永嘉堡附近に於て山西軍と會戰す。十五日直魯連軍は隴海鐵道沿線に於て馮玉祥軍を破り破竹の勢を以て河南省歸德城に進入し馮玉祥軍敗退す。朝鮮咸鏡北道の北端を縫走せる圖們鐵道と滿洲間島の天圖鐵道とを連結すべき國際大鐵橋たる圖們鐵橋工成り開通式を擧行さる將來吉會鐵道開通の曉は本橋に依りて鷄林半島縱貫幹線と滿洲縱貫線との連絡成りて遠く歐露交通の幹線として使用せらるゝの機あ

海駐屯英國軍は豫備兵中六百五十名を撤兵す。南京政府兵站總監兪飛鵬は秘書馬文車外數名を從へ南京政府の命に依り蔣介石迎還の爲め日本に來朝す。十二日閻錫山は京漢鐵道戰線の山西全軍に對し娘子關以西に總退却の命令を下す。蔣介石の爲に敗戰の責を以て銃殺されたる前第十軍長王天培の夫人は南京軍事委員會に對し同事件に關し蔣介石査辨方を要請す。十三日上海城内外に亘りて綁票匪（パンピャオフェイ）（巨商富豪を人質として人浚ひを行ひ白晝公然橫行して拘禁し巨額の身代金を強奪する一種の秘密結社）現はれ上海全市を戰慄せしむ。十四日山西軍二個聯隊は再び直隸省涿州城を攻擊佔領し奉天軍を逆襲す。陳銘樞部下第十一軍は何應欽軍の後方指揮とし

二十一日張作霖は大元帥令を發して閻錫山に對し反省を促がし若し從はざれば山西省攻擊開始を布告す。二十二日國務總理潘復及鐵道局長常蔭槐は天津駐屯日本軍司令官に對し從來京奉鐵道の北京、山海關間は各國の北支駐屯軍及軍需品に對し無料輸送を默許せしも突如として民國元年以來停滯の運賃四十四萬元を要求す。

二十一日武漢政治分會は南京政府の軍事行動に對して獨立を宣言し左の五項を聲明す。

一　南京特別委員會否認　二　武漢、南京派代表張繼、許崇智　伍朝樞等の食言を責む　三　北伐の妨害　四　中央執監委員會完全成立に至る迄で黨務、政治、軍事の獨立　五　中央政府回復。

而して武漢軍事委員會は湖北省宜昌駐屯魯滌平部下第二軍の南京軍と策應を慮り第二軍の罪狀を列擧し綱紀革正の要を通電す。國民政府軍事委員會は唐生智討伐の爲め江右江左兩軍を編成し李宗仁を以て江右軍總指揮に程潛を以て江左軍總指揮に任命す。廣東省汕頭にて日本海軍の支那軍艦に對する銃器取戻し事件に因りて排

十九日張作霖は閻錫山を殺したる者には四十萬元の懸賞を附す。**二十日**日支通商條約改訂期限滿了に付き三ケ月延期に決し日支兩國政府は文書を交換さる。

政府に對し反抗の態度を示せる爲め南京派の戴天仇は孫文大學校長及省政府委員を辭任し廣東を去る。南京軍は三路に分れ一は大運河に沿ひ一は津浦鐵道に沿ひ一は隴海鐵道方面の馮玉祥軍と連絡し三路並進總攻擊の策戰を立つ。**十九日**南京政府は何應欽を以て前敵總司令に任じ三路に分れ北伐軍を出動せしむ。**二十日**南京政府は通敵叛黨の理由を以て唐生智に對し討伐令を下す。國民政府は愈々武漢政府軍討伐を決定して唐生智の官職を褫奪す長江一帶戰雲漲る。**二十一日**廣東政府は臨時委員會成立を發表し同宣言は陸海軍及一切の軍事機關を管理す故に李濟琛の總指揮及張發奎の第二方面軍總指揮の名稱を取消し同委員主席に李濟琛を任命す。

名を逮捕し銃殺す。直魯軍は河南省陳留を占領し馮玉祥軍の退路を遮斷し城內に叛亂起り省城開封危險に瀕す。直魯軍は開封城を陷れ急追して京漢鐵道沿線の鄭縣驛に迫まる。**廿七日**北京政府交通部は北京郵政局總辦佛國人エッチ、ピーカー、デットランを國民政府が南京郵務局總辦に任命事件に關し無効の聲明を發送す。奉天軍は直隸省涿州籠城の山西軍の部將傅作義軍を總攻擊して城內に突入し猛烈なる市街戰起る。支那軍艦江利號の芝罘港に於ける鹽稅差押へ事件に關し日英佛三國公使は張作霖に向け抗議す奉天軍は楊宇霆を派して山西軍と妥協を折衝し和約三條を提出し和戰兩樣の戰備を修めて山西省大同縣城に肉迫す。**廿八日**北京に於て東方平軍は武漢より李品仙の第八軍進擊開始に對し全軍を宜昌、當陽、荊門各縣方面に退却を命ず土賊爲に沙市方面に來襲し軍艦陸兵の入城に依り市內平靜に歸す。第八軍第一第二師沙市港に入城し同地は遂に唐生智に屬す。張發奎は軍隊を率ゐて廣東に歸りてクウデターを起し中央執行委員汪兆銘、李濟琛、何香凝、李福林、陳樹仁、陳公博、甘乃光等は重要會議を開きて南京政府に反對の通電を全國に發送す。**卅一日**國民政府は漢冶萍公司回收計畫を立案調査の結果湖北省黨部に命じ精算委員會を組織せしめ解決案を決議す。汪兆銘は中央執行委員會議の結果南京、武漢兩政府を否認し第四回全體會議招集等の四項を決議し以て中央黨部國民政府恢復の宣

廿四日滿洲奉天省打虎山(ターフウシャン)より通遼縣(白音太來)に至る延長約百卅哩の打通鐵路開通す。廿五日東支鐵道會社は洮齊鐵路の東支線を横斷して黑龍江省城齊々哈爾城に至る延長問題に極力反對せるも遂に露國の讓歩に依り東支鐵道は陸橋を架設して横斷問題圓滿解決さる。廿六日北京政府の手に依りて逮捕せられたる共産黨員の自白に由り馮玉祥の實兄馮吉道は玉祥の命に依り北京駐在獨國公使館内に潛在し共産黨機關を組織し勞働者の煽動治安の攪亂等の陰謀を企てたる事件發覺し大元帥府は首席和國公使オウーデイン、デックを通じて其の引渡方を要求す。北京軍警當局は南軍便衣隊及國民黨員陰謀團搜索の爲め北京工科大學を包圍し教授一名學生十七

日運動起る。廿三日蔣介石は日支兩國人の盛んなる歡迎を受け東京に入る。魯滌平部下第二軍一萬二千名は唐生智討伐の爲め宜昌及沙市を出動し漢口に向ふ。廿五日南京政府の二千萬元國庫債券發行に關し上海銀行界實業界は協議の上正式引受けを決定す。唐生智は何健、劉興兩軍に對し湖北省黃梅、武穴兩縣に集中を命ず。孫傳芳軍は唐生智軍と諒解成立に因り南京軍に對し積極的行動を開始し張作霖に向け軍器彈藥の補給を要求す。廿八日在上海共産黨員が露國共産黨員と通謀して露國革命記念日(十一月七日)を期し市内樞要の各橋を爆破し租界攪亂の大陰謀發覺し同黨員の捕縛せらるゝ者廿餘名に上り全市物情騷然たり。廿九日在沙市南京派魯滌

十一月　**一日**前奉天省長王永江は關東州金縣城内の自宅に於て病歿す時に年四十七歳也。北京警察廳は成年婦女子の斷髮者に對し月額二元の斷髮税賦課を公布す。奉天軍山西省大同縣城に進入す。**四日**張宗昌軍は馮玉祥軍別動隊の張敬堯軍の左翼轉廻運動を開始し形勢不利に陷り總退却す。奉天軍は來源縣城を奪取し馬頭關を佔領す。**八日**北京駐在日英米佛伊五國公使團は京奉鐵路局の北平、山海關間の各國軍隊輸送停滯料金要求事件に就き日本公使館に會合し又一面天津駐屯各國軍司令官會議の決議に從ひ支那政府の要求を承諾す。山東省政府は省内に軍事特別税を設定して青島市駐在日本總領事館に通告し來る。在北京東方通信は大元帥張作霖は民國

十一月　**一日**山西軍は長城以南に退却し雁門關（イエン、メン、コワン）に防禦陣地を布く。江南の共産黨員は浙江々蘇兩省界の宜興（イーシン）縣城に於て事を起し南京政府顛覆の陰謀を企て計露はれて捕へらる。共産黨系の張發奎軍廣東市を佔領す。**二日**南京政府は日本人の支那革命の爲に盡力し物故せる宮崎寅藏、犬塚信太郎、山田良正三人の爲に記念碑建設を決議し宮崎の碑を南京孫文墓畔に犬塚の碑を大連市に山田の碑を同人戰死の地たる廣東省惠州城頭に建設に決定さる。**四日**上海にて開催せる亞細亞民族大會に參加せんとせるアフガニスタン國代表プラタップ及印度代表ホービー等を逮捕せんとせる英國政府の密命に依り上海共同租界工部局警官は捜索を嚴にし又同大會を攪亂し

文化事業委員會第三次總會を開催され左の委員出席す。

日本側　芳澤謙吉　大內暢三　瀨川淺之進
　　服部宇之吉　狩野直喜。

支那側　委員長柯劭忞　江庸　王樹柟　湯中
　　梁鴻志　王蔭泰　劉哲。

張宗昌軍は河南省中牟縣附近にて馮玉祥軍と開戰し京漢鐵道戰線の奉天軍は石家莊に集中し張宗昌軍の鄭縣進擊を待つて同軍と協同大擧山西省侵入を策し勝敗如何に依りて北軍の山西省侵入問題を決するの狀に在り。**三十日**奉天軍の部將湯玉麟は部下六萬を率ゐて孔家莊に向け進軍し山西軍の部將商震軍と會戰して大敗す。

言を發表し革命の策源地廣東に來れとの通電を發す。

使館に送附せり。北京、熱河間の鐵道布設借欵契約佛支兩國間に於て成立し佛國側は假契約と同時に前渡金として團匪事件賠償金中より百六十萬元を支那側に交附さる而して本鐵道は將來朝陽縣城を經て奉天に建長し熱河縱斷鐵道の第一歩を爲すものにして北方開發の文化機關として重大視され外交總長吳晉の斡旋に依る。**十三日**滿洲鐵嶺縣税捐局は十一日附を以て同地に輸入せらるゝ日本綿糸布及日本人關係諸會社製品の捐税を四倍より十倍に引上ぐる旨を發表さる張作霖と中英銀行間に於て關外胡蘆島築港資金投資契約成立す。在支英國五大會社と黑龍江省督辦吳俊陞間に於て黑龍江沿岸の大黑河金山採掘權獲得を條件として二千萬元の借款契約成

し更に黃河を渡りて鄭縣の背面を衝くの策戰を決し張宗昌軍不安に陷る。四川省の楊森軍は南京派に加勢し湖北省宜昌に向け下江す。**七日**勞農露國革命記念日に際し上海在留白系露國人等は同地の同國總領事館を襲擊して死傷者を出す南京政府軍事委員會は馮玉祥軍と連絡成り相策應して北伐實行に着手し各路軍に對して出動命令を發す。**八日**馮玉祥は南京派の李烈鈞に宛て何應欽の出動を促がし共に北伐を斷行すべく通電を發す。日本漫遊中の蔣介石は秘書張群をも伴はず窃に神戶出帆の長崎丸に搭乘し單身上海に向け歸國す。**九日**在上海紡績各工場に對し共產黨員煽動策應して大規模の罷業を惹起し財界爲に一大混亂に陷る。津浦鐵道沿線の南軍總

より君主國への反革命に闘する各般の制令研究に着手し必ず民國十八年六月頃に至り君主制を布き自ら張王朝の第一世皇帝たらんとの野望ありと報じ又在上海ノース、チャイナ、デイリ＝ユス紙も同様に張王朝は古滿洲の史實に因みて國號を「遼」と稱すべしと報導せり。

十日山東省當局の軍事特別税徴收不法行爲に對し芳澤公使は張作霖に向け抗議を提出して反省を促がす所あり。日本政府は支那山東省當局の各種條約違反の不法行爲を屬出して何等反省の實なき爲め意見硬化し青島駐在總領事矢田部保吉に歸朝を命ぜらる。奉天軍は邊外の綏遠城を佔領す。**十二日**北京政府は西支條約の滿期無効聲明書を發表し同時に共通告書をスペイン國公

て不成立に陥らしめんと企圖し英國官憲活躍す汪兆銘、宋子文等の煽動に因り廣東市に於て排英運動起る。**五日**江西省九江縣城に戒嚴令布かれ市中に打倒唐生智の傳單散布され物情騒然を極む。上海にて開催の汎亞細亞民族大會準備會に於て日支兩國代表間に主義上大衝突起り開會絶望に瀕す。馮玉祥軍は張宗昌軍を撃破して司令部を河南省城開封に進駐す。**六日**南京政府は汎亞細亞民族大會を上海より南京に移すべしと慫慂す。日支兩國代表の主義上の衝突に因り危く決裂せんとせる汎亞細亞民族大會はアフガニスタン國代表プラタップの調停に依りて各國協定案成立し七日より開會に決定さる。馮玉祥軍の北路軍孫殿英部隊は河南省新郷縣城を佔領

縣。山東省五十六縣に亘りて春季以來の干虫害に因りて殆んど農作物の收穫なく總計約九百萬人に達する救濟必要の旨を發表さる。**十八日**張學良以下奉天派の將領連署を以て閻錫山に向け下野の勸告を發す。**廿日**津浦鐵道戰線駐屯の孫傳芳軍は其數約七萬の部隊は武器なき者約半數且つ給與不足に因り士氣振はず南軍の急追擊に壓迫されて徐州に退却す。北京に於て日本の南滿洲鐵道會社代表者と北京政府の交通總長常蔭槐との間に於て交涉中なりし滿蒙鐵道問題は來週中に於て正式交涉開始を決定さる。北京政府敎育部は各國公使に對し外人經營の小學校長は爾今中國人に限る可きの旨を通告さる。**廿二日**北京政府は國際無線電信會議に向け自國の合意

智軍は一大部隊を急派して之が奪回を計る然れど事實は武漢脫出の前提と風說され武漢三市は殆んど無秩序狀態に陷り市民は外國租界に避難者多し。唐生智部下第卅五軍長何健後圖を策して支那特有の臨機應變的獨立を宣言す。**十三日**江蘇省蘇州城外東橋堡に農民革命軍と稱する共產軍蜂起して民心を擾亂し四境の民心恟々たり爲に戒嚴令布かる。安徽省蕪湖附近に於て靑山聯合軍と稱する共產系の土匪團蜂起し機關銃迫擊砲等を有し其勢ひ頗る猛烈夜來遂に市街に侵入し掠奪を逞ふし蕪湖總商會に對し五萬元を要求し各所に放火し市民大恐慌を起す。唐生智旗下の武漢軍中の一部は戰はずして南京連合軍に降り湖南軍は武漢を拋棄して湖南に歸り武漢の

立を報ぜらる。歐米資本家の對滿投資熱勃興し支那當局者の之に因る日露兩國勢力牽制政策强調の兆現はる。北京政府は汲金純を以て綏遠城都統に任命す。北京に於て禮制館の開館式を擧行さる。隴海鐵道方面の張宗昌軍は馮玉祥軍後方の劉鎭華軍の內應に因りて形勢有利に轉化す　**十四日**北京に於て日支通商條約改訂會議兩國專門委員決定さる。奉天軍第八軍第十六師は山西軍の中央突破の作戰成効し遂に平荊關を佔領し爲に山西軍は西方に敗退し奉天軍は愈雁門關の背面攻擊開始に着手す。**十七日**營口縣知事は奉天省長の命に依り管內在住朝鮮農民に對し民國十七年一月一日迄に管區外に驅逐すべき旨を嚴達さる。中國々際飢饉救濟委員會は直隷省十

攻擊を開始す。**十二日**武漢派唐生智部下の何健劉興兩名は連名を以て唐生智の下野を通電し唐生智は幕僚と共に漢口より逃亡し部下軍隊は南京軍に降服す。南京派の程潛武漢の全權を掌握す。日本漫遊より歸來せる蔣介石は赴日感想を述べて同志の結束を促がすと題し長文の警告を發表す。漢口在留英國人は大會を開催して漢口舊同國租界恢復運動を起し對支通牒を發したるに武漢政府は反駁的回答を發送せり。南京派陳調元　李宗仁　程潛等の連合軍約八萬は唐生智軍を田家鎭の險要に於て擊破し長驅直に武漢に進攻し武漢爲に震感す。唐生智軍の運命逼り武漢に戒嚴令布かれ日本陸戰隊警備を嚴にす。貴州軍の突如的湖南省城長沙佔領に因りて唐生

說に基き事實調査の上事實無根の場合には其の旨を聲明して證明する様東支鐵道長官へ要求方を訓電す。露國は日本政府の滿蒙鐵道計畫に對抗する爲め新に浦潮斯德港改築及東支鐵道南部線を復線に改造することの二案を決定して實行着手を報ぜらる。**廿四日**米國ニユウヨーク市に於て日本の南滿洲鐵道會社代表者とモルガン商會との間に於て商議進捗中なる四千萬弗の外債募集問題に就き上海の支那側實業家其他の躍起的反對運動起り駐米中國公使伍朝樞を通じて米國々務省に向け抗議を提出せしむ。**廿六日**北京外交團は南京政府が程潜を以て武漢の政治上の責任者に任命せる件に對して同人が南京事變の直接責任者たるにも拘はらず毫も其の責任を負

す。馮玉祥軍は隴海鐵道戰線に於て鹿鐘麟の指揮する中央第一方面軍を主力として三路に分れ碭山、楊樓、徐州の戰線に割據する張宗昌軍を攻擊し又韓復榘軍は別に夏邑より屈里山方面に大迂回して張宗昌軍の側面を衝く張軍爲に窮地に陷り退却し黄口、徐州の線に主力を集中す。國民政府は廣東市に於ける張發奎の兵變に關して廣東派委員の逮捕命令を發せり。馮玉祥軍は山東省西南部の門戸たる曹縣城を佔領せり。ロンドン、タイムス新聞は其紙上に於てアムストロング、ホワイトウオース會社理事長サウスボロー等を始め商業會議所代表同對支貿易業者等の連合會代表其他多數の有力者實業者及び諸名士の署名に成れる支那漢口の舊英國租界を恢復

なくして列國に對し自國の領土內に於て無線電信局を設置するの權利を許可せしことなしとの抗議を提出さる。**廿三日**東三省交通委員會は左の新鐵道布設計畫決定書を發表さる。

一　奉天、臨江線一四〇哩、奉海線撫順を經て東邊の臨江縣に至るもの。

二　臨江、安東線一六〇哩、臨江縣城より輯安縣城を經て安東縣城に至るもの。

三　吉林、五常線七五哩、吉林省城吉林より舒蘭縣城を經て五常縣城に至るものにて將來は呼蘭鐵道と連絡せしむ可き豫定線

北京政府交通部は在ハルピン東支鐵道督辦呂榮寰に命じて勞農露國政府は東支鐵道を日本に賣却せんが爲め要人數名を大連市に特派すとの風

秩序は第八軍長李品仙軍其維持に任ずるに決す。英國漢口駐在總領事は武漢の混亂に乘じ先に返還せる同國租界地回復を計る。南京政府は張繼、居正、許崇智三名を特派全權代表として日本へ特派の旨を發表す。**十四日**馮玉祥軍山東省曹州を佔領し張宗昌軍は總司令部を濟寧より兗州に退移す依て省城濟南に大動搖起る。武漢軍の將領何健、劉興、李品仙等は遂に武漢の固守を拋棄し連名にて南京軍事委員會に通電して和睦を要求し何健は代表を南京に特派して武漢軍の投降及改編條件等に關して交涉せん事を乞ひ又市民の動搖鎭靜の爲め南京軍の武漢入城中止を乞ふ爲に南京政府は武漢の管理處分方に就き會議を開きて武漢討伐軍に對し進軍中止を命

を中傷せる失言問題に關して秘書陳某を北京の日本公使館に特派して芳澤公使に面悟し百方陳謝の意を表する所あり。孫傳芳軍は津浦鐵道戰線に於て南京軍の何應欽軍の爲に壓迫され固鎭宿縣方面の陣地を拋棄せり又張宗昌は第十軍の一部隊及白系露國人軍の一部とを同方面に增派せるも大勢已に回復する能はず遂に黃河の北岸に退却せり。

艦楚有　永建　楚同　江貞及水雷艇十餘隻を武漢に急派して警戒せしむ。津浦鐵道戰線の南京軍は攻勢に轉じて孫傳芳と開戰し南京軍は臨淮關に第一軍司令部を進め懷遠及蚌埠方面に於ては孫傳芳軍有利を以て南軍を擊退し又張宗昌軍は一部を津浦鐵道戰線に增援せり遂に孫傳芳軍は本防禦陣地を淮河の北岸に布けり。武漢、南京兩軍間の停戰協定成立し南京軍の一部武昌城に入城す。在廣東の李濟琛は態度不明なりしも十三日に至りて唐生智討伐の宣言を發表して南京軍に參加すべきを表明す是に於て大勢は全く南京派に傾けり。上海罷業動亂の爲め同地の日本紡績各工場に波及し來り被害甚大なり。廣東市に於て張發奎部下の黃祺翔は黃紹雄軍の策動

荷せざる事を理由として其の任命に極力反對し漢口駐在領事團に向け各國政府の正式訓令到着に至る迄では程潜と一切の交渉方を禁止する旨通告さる。大連市駐在ソヴエートロシヤ國領事は同館員傷害事件に關して關東廳に對し抗議を提出せり。**廿九日**奉天派の要人楊宇霆は北京に於て英米兩國の新聞通信記者團との會見に於て日本を誹謗中傷せる失言問題を惹起して日支兩國間の國際問題と成る。中國近代の南畫界の泰斗と稱せられたる吳昌碩（ウーチヤンシイー）（名は俊と云ひ號を俊卿と稱す）は中風症に罹りて逝去す時に年八十四歳なり。**卅日**楊宇霆は南滿鐵道會社の米國モルガン商會との借款問題に關しての英米兩國の北京駐在新聞通信記者團との會見に於ける日本

し再び之を管理すべしとの長文の宣言書を發表せり。李濟琛は蔣介石反對派の巨頭李宗仁　程潜　白崇禧等の一派が唐生智討伐の爲め武漢の戰線に出動不在の隙に乘じ蔣介石腹心の部將何應欽と提携して南京正統派樹立を策謀し汪兆銘と通謀して躍動せり。**十五日**唐生智部下の各軍は大部分湖南省岳州　長沙方面に引上げ武漢の實權は何健之を掌握して戒嚴令を布き極力治安維持の任に當る。唐生智は武漢の一戰に敗軍の將と爲り漢口に於て日本汽船御月丸を租借して下江し日本に亡命し鹿兒島市に向ふ。第三第四路總指揮程潜は部下南京軍に對して停戰を命じ即時武漢進入を決し夏斗寅軍に令して武漢に入城せしむ。南京政府は武漢の民心鎭定の爲め軍

て發表に決定さる。廣東市に於て李濟琛、張發奎兩軍間に衝突起り市中大混亂に陷る。**十七日**張發奎部下の黃祺翔の活躍の爲に廣東市にクウデター起り李濟琛の勢力は爲に顚覆さる。南京政府は現銀其他諸貨物を漢口に向け輸送禁止命令を解禁す。敗軍の將唐生智は參謀長張毓鯤と共に日本汽船御月丸にて日本に亡命し鹿兒島市に上陸す。廣東の李濟琛部下黃紹雄等は黃祺翔の爲に通緝令を發せらる。在廣東の張發奎部下黃祺翔軍は同地の軍官學校を夜襲し同校學生軍三千餘名之に應戰し激戰の後ち黃軍の勝利に歸し廣州の實權遂に張發奎の掌中に歸す。汪兆銘は蔣介石と會見し更に譚延闓及西山會議派の巨頭張繼等と會見し重要協議を遂ぐ。**十八日**南京

を探知し機先を制して黄紹雄軍を驅逐し廣東市遂に一大混亂に陥る。**十六日**何應欽軍は安徽省蚌埠を佔領して孫傳芳軍を驅逐し多數の武器を捕獲す。汪兆銘 李濟琛 張發奎等は十三日廣東市を出發し上海に着して蔣介石 何應欽等と會見し以て次回の全體會議開會の協議を遂ぐ。武漢に於て何健と李宗仁間の妥協不調に歸し何健軍は遂に南京軍に投降するの止むを得ざるに至れり。汪兆銘 蔣介石 胡漢民等の妥協連合に因り南京政府は局面打開の運動着々進捗し其結果同政府及國民黨幹部の改造を決定され新幹部として國民黨中央黨部主席汪兆銘 國民政府主席孫科 財政部長胡漢民 軍事委員會主席蔣介石 內政部長宋子文を擧げ豫備會議後に至り

と稱する者（武器携帶者三萬と稱す）を合し葉挺自ら首領と爲り幹部には農民煽動指揮として羅亦 李柏元 李立三 龍貫元 侯紹喪 楊賢江等活躍して各地農民に對して左の如き煽動使嗾を强調せり。

一 農民よ暴動を起し反動派の武器を掠奪せよ。

二 農民よ暴動を起して土豪劣紳を鏖殺せよ

三 農民よ暴動を起して資産を掠奪し萬物共有を實行せよ

右の標語を揭げて宣傳煽動を逞ふし宜興、無錫各地の擾亂後此の農民革命本部は江陰に移り一方上海の舊總工會一派と往來して總工會一派の總罷業計畫陰謀を企て以て恐怖政策を實行し人

派の程潜は軍を率ゐて漢口に入り同地爲に靜平に歸す。廣東のクウデターは汪兆銘と張發奎、黄祺翔　何香凝女史等の左傾派と通謀し計畫せる豫定陰謀と露顯す。**十九日**四川省より宜昌へ向け下江中の楊森と南京派の妥協成立す。漢口舊英國租界回復說起りて支那側の硬化に對し英國外務次官は之を否認さる。**廿日**南京國民黨は市黨部に於て蔡元培の主催にて第一次黨員大會を開き來會者約五百名に上り前市黨部執行委員黄傑及左嚴白等の打倒西山派並に特別委員會反對說惹起せるも遂に特別委員會支持說可決さる。廣東省汕頭に於て共產主義の擾亂を起し敗れて浙江、江蘇兩省內に潜入せる賀龍、葉挺等の殘徒約二千を中堅として各地に潜在する農民軍

事特別委員會は唐生智を永久に國民黨より除名し其罪狀を宣布す爲に南京、武漢兩派決裂す。南京政府は重要外交關係會議を開きて對外宣言を決定す。**廿四日**上海及臺灣臺中市を根據とせる陳新民、施東方等外十九名の臺灣銀行、中國銀行、上海交通銀行等の紙幣大規模僞造團の判決申渡さる上海國民黨市黨部は汪兆銘討伐の通電を發す。**廿五日**南京政府外交部長伍朝樞は左の四項の對外宣言を發表す。

一 最短期間內に於て不平等條約を排除す。

二 滿期條約は失効と爲す。

三 國民政府以外の如何なる政府の參與し調印せる條約と雖も無効と爲す。

廿二日張宗昌軍河南省城開封城を佔領す。

心動搖の機を覘へり。河南省澠、孟、懷慶各縣內の佛、回兩教徒は各數萬の徒黨を組みて大爭鬪を惹起し馮玉祥は爲に約三個師團の兵力を特派して鎭撫を試みしも兩教徒等は斷然軍隊の干涉を拒絕したり更に紅槍會匪及天門會等の一味之に投ずるに至りて遂に回教徒側は無條件和議を提出して解決さる而して此爭鬪の爲に兩教徒の戰死する者約一萬五千に上ると云ふ。第四次中央執監會議の豫備會議は廣東のクウデターに因りて流會と爲る。**廿二日**上海衞戍司令部參議黃某は先に吳淞砲臺內守備兵の日清汽船南陽丸射擊事件並に鳳陽丸不法臨檢事件に關して上海の日本總領事館を訪問し正式に陳謝の意を表し後來の保證を宣誓して圓滿解決さる。**廿三日**軍

決定さる。**廿六日**上海の共産黨員は早朝恒豐紡績工場に爆彈を投じ民心擾亂を企て上海東部一帶の各紡績工場の職工に對する同黨員の暴行强壓日を追ふて猛烈を加へ各方面に大動搖を起し全市に危險逼まる。上海共産黨本部は江南暴動陰謀計畫を企圖し江南各地支部に向け江蘇省擾亂命令を發し以て南京政府顚覆を計り農民支部を以て政府を組織すべしと命じ上海、無錫　宜興　江陰　崇明　海門　鹽城　淮陰各地を擾亂中心地と定め更に左記九項の實行計畫を決定す

一　團體を襲ひ專ら武器を掠奪して勞農の手に收むること。

二　地主富豪及び其田地家屋を勞農の手に沒收すること。

四 中國との條約に關し國民政府の參加せざるものは無効と爲す。

國民政府軍事委員會は徐州城總攻擊命令を下す。鹿兒島市在留第七高等學校及鹿兒島高等農林學校存學中國學生數十名は驅逐唐賊の小旗を押立て唐生智を其旅館に襲擊す。李宗仁、程潛胡宗鐸等は漢口にて軍事會議を開き豫て李宗仁程潛兩人間に紛爭の湖北省保有問題及對南京政府問題に付き協議の結果湖北省の統治は李宗仁に一任すること及對南京政府策は一時穩忍の態度を持すること又胡宗鐸は正式に武漢衞戍司令に就任し白崇禧は直に南京に向へり。十二月三日より三日間に亘り上海に於て第四次國民黨中央執行監察委員全體會議の豫備會議を開催に

上海共同租界に於て工部局警官隊は兇暴なる人
浚ひ團（綁票匪）員二名の惡漢逮捕の爲め猛烈
なる市街戰の結果兇賊二名を射殺し外人警官も
二名卽死す。國民政府財政部は子口半税に對す
る附加税を民國十六年十二月一日より實施徵收
する旨を公布さる。**廿八日**北京外外國に漢口政
權の掌握者程潛は南京事件責任者として極力排
斥の聲起る。程潛と李宗仁、方振武、白崇禧、
魯滌平等の間に確執生じ右將領統率の各軍續々
入漢し楊森軍も近く漢口に迫り武漢の天地再び
大擾亂の兆あり。**卅日**上海日本郵船會社支店罷
業擴大し同社の對抗策頗る强硬を極め罷業人夫
全部を解雇され罷業團窮して自屈す。

三 行政權を勞農の手に屬歸せしむこと。

四 各地に擾亂を起し數十萬の暴民を之に加入せしむること、

五 軍隊の武裝を解除し鐵道機關車電報及資本家の經濟機關を悉く破壞すること。

六 各都會を佔領し大擧襲擊し若し失敗せば散兵式戰法に依ること。

七 土匪流民を利用して農民軍を組織し以て右の計畫を實現すること。

八 凡ゆる方法を以て各地に罷業を頻發せしめて罷業工人の救濟法を設定すること。

九 軍隊に動搖起る時は特に最近南京軍は月給衣服不渡りの爲め不穩の形勢あるを機會に農民軍に加入せしむること。

慮に依る。

三　經費は東支鐵道局より支出するも露國部に對しては東支鐵道が直接に支出し支那部の經費は特別行政區長官より支出す。

青島市の日支炭業者等は山東省當局の不法戰時石炭税に對し石炭不積同盟を結んで反對運動を起し又博山、大崑崙方面の炭坑は約六割の減採を實行し約一萬人の失業者を出し形勢頗る險惡となり其他の同業者も減採を斷行し支那官憲は支那側炭業者に對し武力を以て强制せり又青島市に在ては輸出炭、船舶用積込炭にも納税を强制し積込みを禁止す依て青島駐在日本總領事館は嚴重抗議を提出するも何等の効を奏せず。芳澤公使は楊宇霆の外人新聞記者團との會見に依

第十一軍の一部隊は同租界の强行通過を企て日本海軍陸戰隊の爲に武裝を解除され同地日本總領事館は支那側に嚴重抗議の結果支那側は總領事館及陸戰隊に對して陳謝の意を表し將來の保證を宣誓して解決さる。**三日**上海に於て國民黨中央執行監察委員會豫備會議を開催さる。李宗仁、白崇禧兩人は南京政府の命に依りて漢口に急行し程潜に代りて武漢地方の治安維持に任じ程潜は軍事視察に藉口して湖南省長沙に至る。南京政府は廣東事件を以て張發奎、黃祺翔兩人が共產黨員と通謀して事を起せる者と爲し兩人を免職せり。**四日**第三次全體會議の第二次豫備會議は蔣介石邸に於て開かれ出席議員三十二名に上り汪兆銘は主席と爲りて十項の議案を討議

十二月　**一日**直魯連軍の褚玉璞部下の特戰隊は河南省歸德附近に於て馮玉祥軍の機關銃火に壓迫されて同地を放棄し碭山縣城に退却し左翼は夏邑縣城に下り右翼は新考城附近に籠城し曹州の直魯軍は爲に增援隊を急派す。東支鐵道沿線附屬地內の教育管理問題に付き東支鐵道局副理事長代理ゲツケルと特別區教育部と折衝の結果露國政府は左の條件を以て支那側の提議を容るに依て支那側は東支鐵道附屬地內教育管理權回收の目的を達せり。

一　從來東支鐵道の經營せる沿線の各學校は全部支那教育管理局の管理下に置く。

二　教育管理局の下に露支兩部を設置し露國人の學校は露國部に屬し其部長は東支鐵道局の推

十二月　**一日**蔣介石は宋子文の妹宋美齡と上海に於て盛大なる結婚式を擧ぐ。南京政府軍事委員會は北伐軍に對して總攻擊命令を發し白崇禧、賀耀祖等は即時南京を出發して北上戰線に向へり。上海電車從業員總罷業を斷行す。上海の勞働團體は全部共產派の手中に歸し右派の勢力全く地に墜ち形勢益々不穩の兆あり。李宗仁白崇禧、何應欽等は臨時軍事委員會を開き廣東討伐を決議す。上海市長張定藩は南京政府部內の廣西派の廣東討伐決議に依り廣東派と連絡深き浙江派勢力圈內の上海に於て市長たるを怕れて辭任す。馮玉祥と閻錫山兩軍の連絡成り直魯軍を攻擊し曹州及歸德を佔領し徐州爲に危機迫る。漢口日本租界に於て安徽省より到着の新編

旨を通告せり。北京外國新聞記者團は楊宇霆に對し支那新聞紙上に發表されたる其內容は事實に反する旨の理由を以て反駁的聲明書を發表し又一面には同人の言責不信を詰問せり。直魯軍は考城、碭山の戰ひに敗れ馮玉祥軍は長驅曹州に迫り張宗昌軍は徐州を放棄して敗走す。**三日**張宗昌軍は遂に支ふる能はず敗れて徐州城を抛棄し北走す。東支鐵道東部線海林(ハイリン)驛附近に於て在留朝鮮人十餘名馬賊團の爲に拉致され身の代金巨額を强要されて應ずる能はず遂に兇暴なる馬賊の爲に殺害さる爲に護路軍は討伐隊を派し横道河子にて二百名の馬賊團と激戰して壞走せしむ。楊宇霆の失言問題を動機として奉天派一致團結して日本に對して對抗し來り爲に滿蒙鐵

の編成等の諸問題に付き武力を以て之を爭はんとし兩派の抗爭愈々猛烈と爲る。李宗仁　程潛胡宗鐸等の對蔣介石態度益々險惡化し來り又何應欽の態度も怪しく成り蔣介石は殆んど孤立の勢ひと爲る。馮玉祥は蔣介石に向け現下國家多事の際に當り貴君は起つて一切の軍事を統一指揮されん事を望む旨の通電を發せり。徐州戰線に進出せる蔣介石軍の北伐部隊一部は南京駐屯廣西派白崇禧部下第十三軍に對する爲め南下して明光驛附近に集結され之に對して漢口方面の廣西派李宗仁軍も南京に向けて江を下る。米國モルガン商會と日本の南滿洲鐵道會社との交渉進捗中なりし借款問題に付き國民政府の中傷的反對運動に因りて遂に不調に歸す。**七日**馮玉祥

りて惹起せる失言問題に付き抗議を提出せり依て楊は之に對して釋明的陳述書を發表せり。**二日**張作霖は日本公使附武官本庄繁中將に對し日本各新聞紙の傳ふる張作霖皇帝卽位說は日本人の中傷的陰謀と否認し各國新聞は皆な日本の滿蒙侵略說を傳ふる旨を述べて日本の對支外交政策を痛罵し日本の立場を傷けんと國際的策動を試みたり。大東、大北兩電信公司と支那との電信契約は民國十九年（一九三〇年）滿期終了の爲め右兩社は北京政府と交涉の結果秘密借款契約の成立說に對し南京政府は上海交涉員に命じて英丁兩國上海駐在總領事に向け右北京政府との契約繼續及借款問題に對して强硬なる抗議を提出し國民政府と交涉せざる一切の契約否認の

されたり殊に現在の南京政府及軍事委員會の存廢問題に付き汪兆銘等の廣東派と廣西派間に激論起り爲に保留さる。南京に於ける豫備會議に於て南京事件の主動者として居正　謝持　鄒魯等の所謂西山會議派十名は蔣介石の主張に依り停職處分に附し監視の上特別法庭の審理に附するに決す。**五日**國民政府外交部長伍朝樞は南滿洲鐵道會社の對米借款問題に付きて駐米公使施肇基を通じ米國々務長官に向けて抗議を提出せしむ。武漢に於ける李宗仁と程潛間の暗鬪益々猛烈と爲り湖北整理委員會其他團體聯合して李宗仁派の胡宗鐸を以て湖北省政府主席と爲し政府各機關の主權を掌握せんとし程潛は之に對して左系派改進社を操縱して各機關を掌握し省防

軍は徐州の戰に於て馮玉祥軍の猛擊に遭ひ孫傳芳軍の有力なる援助に依りて逆襲を斷行し形勢頓に一變して有利と化し馮軍は遂に敗れて碭山縣方面に敗走す。津浦鐵道戰線に於ける奉天軍の戰局不利を傳へられ爲に奉天票慘落し千二百四十六元引けと爲る。奉天軍の戰況不利の爲め直隸省立銀行紙幣の兌換を停止され民心騷然たり。天津の財界に一大恐慌を惹起し總商會、銀行公會等は總罷市を斷行して强行手段を企圖す。徐州の戰ひに於て馮玉祥軍の猛擊を反擊せる張宗昌軍の張魁元、孫殿英等は紅槍會匪の援助に依りて河南省彰德城を奪回せり。**十二日**英國下院に於て又日英同盟論强調され爲に支那國民に多大なる衝動を與ふ。

の第二軍程潜の第六軍白崇禧の第十三軍及總指揮李宗仁等は引續き湖南省に向けて出動せり。上海に於て日英支の三國紡績聯合大會成立さる。**十日**南方國民黨豫備會議に於て第四次全體會議の召集、軍事改革案、委員會、黨務改良委員會設立及蔣介石を擁して再び國民革命軍總司令と爲す事を決定發表さる。**十一日**廣東市に於て共產革命軍蜂起して政權を掌握し蔣介石、汪兆銘、張發奎等の諸將領打倒を宣言し勞農兵を以て全市にクウデターを斷行し張發奎は身を以て軍艦に逃避す。共產黨員は張發奎軍の四境に出動の隙に乘じて策動を開始し工人全體會議の決議に依り廣東駐在露國領事館內に勞農政府を組織し蘇兆徵を推して主席と爲す。南京政府軍事

道交涉悲觀に傾く。**五日**直隷省立銀行紙幣の兌換を停止し民心不安に陷る。**六日**張宗昌軍は徐州に在りて張總司令自ら之を督し孫傳芳軍は濟寧に在つて督戰大に努め京漢、津浦兩戰線の奉天軍を同方面に集中して決戰の機を覦へり。北京税務署に於て第二次物資編定會議開かれ横竹日本委員は金屬製品に限らず日本貨は殆んど全部粗製品にして歐米諸國の製品と同一に取扱ふ事の不合理を力說され外國委員の考慮を促がさる。東三省議會は奉吉黑三省聯名を以て南滿洲鐵道會社の對米借款問題に付き全滿の民意を代表すと稱して米國大統領クウリッヂに向けて反對の通電を發し米支兩國の親善關係を維持せん事を希望する旨を述ぶる所あり。**七日**張宗昌軍は張宗昌軍に對して攻撃を開始し激戰の結果徐州の北車站を佔領す。**八日**駐支米國公使マクマレーは南京政府外交部長伍朝樞とフエラデル無線電信問題に付き交涉を開始す。南京軍事委員會は廣東の李濟琛に向けて廣東に於ける共產黨系の張發奎、黃祺翔軍の討伐命令を發せり。蔣介石は南京に於て國民黨豫備會議を開きて司令者と爲り國民黨の大同團結を高調し中央黨部の確立と腐敗軍人及政容の排斥を强調して長文の宣言を發表せり。**九日**李品仙、何健、劉興等唐生智派の殘軍は武漢に進出せる南京派各軍の湖南省進入中止を主張せる爲め兩者間の關係遂に決裂し南京軍は湖進南省入の第一步として葉開金の第四十四軍は湖南省岳州に集中し魯滌平

二　事變前總ての計畫は汪夫人陳璧君に依て廣東市內に齎らさる。

三　張發奎、黃祺翔は廣東勞農政府より赤軍正副總司令に任命さる。

四　蘇兆徵は農工軍を指揮して各機關を佔領せり。

五　廣東勞農政府は汪兆銘　何香凝　顧孟餘　甘乃光　陳樹人　王法勤　朱霽青等に向け卽時に廣東に歸り大計樹立の通電を發す。

六　譚平山　鄧演達　陳公博　甘乃光　陳樹人等八名は廣東勞農政府委員に任命さる。

更に露國人コフチエフは上海より廣東に入り

委員會は廣東共產軍討伐令を發す。廣東共產軍は中央公園に於て大會を開き廣東勞農政府成立宣言を發布し左の政府委員任命を發表す。

主席委員　蘇兆徵　內務兼外交黃平　革命肅正委員楊殷　勞働周文　司法陳郁　經濟何來　陸海軍張大雷　秘書長惲大英　農工赤衞總司令葉挺　總參謀徐光英

主席蘇兆徵は元海員組合會長にして前年の香港罷業の首魁として著名なり以上者は純勞農共產主義革命の主動者とす。

十二日李濟琛部第十三師長徐景唐は上海南園の李濟琛事務所に於て左の廣東共產黨擾亂の原動者たる汪兆銘の陰謀計畫書を發表せり。

一　廣東勞農政府は汪兆銘を以て主席と爲す

十三日英國大藏省は一世紀以前に於て支那政府が英國に對し九百九十九年間の期限を以て貸與せる支那諸條約港に於て英國政府が自ら借地權を保有せるは英國政府の對支政策に反するが故に右租借地を民間に讓渡するに決し右は支那政府より直接に土地租借權を得せしめ英政府の對支條約上の權利抛棄に非らざる旨を發表さる。**十五日**滿洲北部地方在留朝鮮人壓迫愈猛烈と爲る。**十六日**奉天駐在日本總領事館は奉天齊道尹に對し支那稅捐局が南滿鐵道會社の撫順炭に對する一割五分稅並に戰時稅二割課稅事件に關し同炭課稅は明治四十四年（宣統三年）の南滿鐵道會社對淸國政府間の出產物稅輸出稅納入濟物件には課稅せずとの協定に違反するものなりと

在各國領事團は緊急會議を開催し其決議を以て李福林に對し共產黨の戰禍より廣東市百萬の市民を救濟すべく機宜の處置を取られん事々警告さる。廣東人民政府執行委員會は共產軍總指揮葉挺の名を以て共產黨は通行人及各商店民家を全部掠奪し又反共產主義者は直に銃殺すべき旨を布告す。蔣介石は廣東の共產暴動に對し革命完成に至る迄で露國との國交を絕斷し國民一致の力を以て共產黨員を絕滅せざる可らずとの聲明を發表せり。廣東城外駐在の李福林軍は江門より總攻擊を開始し遂に廣州城を恢復し共產黨員數千人を銃殺又は逮捕し同時に露國領事館員も殺され或は拘禁さる。李宗仁は蔣介石の復職問題に付て長文の意見書を發表して汪兆銘が常

同地露國領事館內に於て軍制會議を開き左の三項の重要決議を爲す。

一　教導團に於て農工軍を指揮し非共産派の軍隊を肅正すること。

二　勞農政府を設立すること。

三　某（暗に蔣介石を指すと稱せらる）を復職せしめて國民黨の內部に變亂を起さしむること。

張發奎　莫雄　李福林等は海陸兩方面より共産革命軍を挾擊して之を破り遂に廣州城を回收す

十三日共産黨領袖徐謙は露國より重要使命を帶びて上海に歸來し同地の共産黨員と協議の上第三インタナショナルの命令を鄧演達に通告し廣東共産黨援助の爲め同地に急行せり。廣東市駐

二　張發奎は吾曹の判斷の如く共產黨にあらず。

三　共產黨を民衆の公敵と見做し根本的撲滅を期す。

南京政府は臨時緊急會議を開きて廣東共產黨討伐令を發し李濟琛、白崇禧に命じ左右より進擊せしめ李濟琛は左翼よりし黃紹雄　陳濟棠等の各軍及海軍を統率し白崇禧は右翼よりして第十第四十四第卅七軍を率ゐ兩路迸進の作戰成る。第十一軍長陳銘樞は上海より手兵千餘名を引率して廬山丸に乘じ廣東省汕頭に上陸し東路總指揮として廣東討伐軍を進む。南京政府は廣州に於ける共產黨事變に因り露國との國交斷絕を決行し在上海同國領事館に通告して一週間以內に

の理由を以て嚴重なる抗議を提出さる。奉天に獨國人に依りて建設せる東北無線電信臺は短波長裝置を以て奉天と獨國ハンブルグ港間に一般的無電通信を開始され有線電信に比し割安にて一日三回約百通の通信連絡を有せり。奉天票は奉天軍の戰況不利に因りて遂に千三百七十元に慘落し立會中止さる。長春道尹は同地日本領事の抗議に依りて先に管内より追放せる朝鮮人農民事件は地方問題として解決され皆な原住地に歸還を許さる。張作霖は軍費一千萬元捻出の窮策として奉天稅捐局に命じ南滿鐵道の撫順炭課稅規則五個條を布告せしむ。

に反目せる蔣介石を推薦せるは斷じて其本心に非らず汪兆銘の如き反覆常なき狐狸强盜の類に信倚す可らざる旨を以て痛烈なる攻擊通電を發表せり。十四日汪兆銘等の發表せる廣東事變の聲明書は一般言論界に冷評され殊に李濟琛一派は斯る聲明を發表するは汪兆銘等が自ら共產黨たるを自白する者と痛罵す然れど蔣介石は汪兆銘が共產黨に非らざる辯護の聲明書を發表せり
廣東派委員汪兆銘　陳友仁　甘乃光　陳璧君　顧孟餘　何香凝女史　王樂平等は廣東共產黨事變に付き左の宣言を發表せり。

一　廣東事變に對しては蔣介石が總司令の職權を以て　適宜に處理する事を　絕對信用を以て　一任す

儘廣東市中を引廻はし以て憤怒せる百萬市民に十分報復せしめて後ち銃殺せり同國總領事は逸早くも事變前に逃走せり。南京政府は十五日午後四時上海交涉員吳國楨を同地の露國總領事館に派して對同國國交斷絕の通牒を交付せしめ同時に左の宣言書を發表せり。

對露宣言

國民政府は所管各省に在る露國領事館及露國通商機關が赤化宣傳本部と爲り且つ共產黨避難所と稱せらるゝ各種報告に接せり是等事實の摘發は從來の兩國々交に顧み之を差控へたり去る十一日の廣東事變は主として共產黨が露國領事館及同國通商機關を策源地に利用せる事實に起因し然かも斯種事件は他地方にも惹起さるべき恐れあり。治安維

立退きを命ず。何應欽等は馮玉祥派の韓復榘と徐州城に會合し蔣介石擁立の通電を發す。**十五日**南京政府は廣東擾亂の元兇として顧孟餘　陳公博　甘乃光に對し通緝令を發し汪兆銘を海外に歴遊せしむるに決定す。上海共產黨大謀陰發覺し市民戰慄し各租界當局及各國守備隊は協力非常警戒を實行さる。露國共產黨は檄を飛して支那革命を援助し資本主義下の軍隊に兵として苦役を強ひらるゝ全世界の勞働者諸君よとの煽動宣言を發表せり。李福林は廣東共產黨事變慘禍の報復手段として在同地の露國領事館を襲撃して副領事　書記官其他露人共產黨煽動者全部を捕縛し重要書類を押收し同國婦人二名を卽時銃殺し副領事ハミツシ其他重要人物等を捕縛の

十六日山東軍總司令張宗昌軍は徐州の戰ひに於て何應欽軍の爲に破られて山東省城濟南に逃歸す。**十七日**奉天兵工廠技師共産黨と共謀して同工廠爆發陰謀事件發覺し一味を逮捕し首謀者は銃殺さる。京奉鐵道局は熱河特別行政區域管內の東扎拉特旗地內に最近新設せる魯北縣迄で通遼（白音太來）より六百支里の魯北鐵道布設を計畫し已に測量を終へ北京交通部の許可を得開魯縣に一大機關車庫及車站を設け打通鐵道と連絡せしめ內蒙古經營の中心的要地たらしむるの企圖を決定さる。

魯北縣地方は土地肥沃物産豐富且又石炭坑脈を有し經濟鐵道として最も有望なり日本要求の滿蒙五鐵道中の通遼＝林西線の牽制線として計畫せるも

於て保護を加ふる事を決議さる。南京政府は武力を以て在漢口の露國總領事館を佔領捜索せり。在上海露國總領事は國民政府の國交斷絕通告に對する抗議を提出せり。南京派何應欽軍は總攻擊を開始して徐州を佔領し張宗昌軍敗れて韓莊に退却し令令張宗昌は濟南城に逃走す。漢口衛戍司令部は共産革命擾亂煽動の廉を以て同地駐在露國總領事館員全部を拘禁し且つ同地在留同國人約二百名を逮捕す。**十七日**汪兆銘は廣東共産黨擾亂事件の爲め政界引退通電を發して密に佛國に向けて亡命す。上海共同租界及佛租界官憲は共同して兩租界內在住の勞農派露國人に對して卽時立退きを命令さる。**十八日**武漢衛伐總司令胡宗鐸は元の武漢政府委員孔庚、李書

持及共產黨慘害防止の爲め本政府は斷然たる處置を執らざる可らず故に國民政府治下に在る露國領事に與へたる承認を撤回し又通商機關にも其職權を停止せしめ以て禍根斷絶を期す外交部は所屬機關に命じて他の政府機關と協力し本宣言の實現に努力すべし。

十六日廣東省政治分會は張發奎、黃祺翔の免職令を發す。上海交涉員は上海駐在領事團主席米國領事カンニングハンに對し對露國交斷絶正式通牒を手交さる。領事團首席米國總領事カンニングハンは在上海各國總領事及工部局當局者等を招きて非公式に協議し露國領事館員立退きに付ては各國當局並に工部局警察力の及ぶ範圍に

十九日張作霖は表面不逞鮮人取締の名義を以て朝鮮人驅逐秘密命令十二ケ條を發して東三省各省長に嚴達す。**廿日**前淸光緖卅年（明治卅七年）以來北京政府の最高軍事顧問にして日支兩國間に公私兩方面に對し甚大の貢獻ある陸軍中將阪西利八郞愈廿五年振りに職を辭して歸朝せり。直魯連軍總司令張宗昌は徐州に於ける敗戰の罪を謝して自責し嚴重處分方を電請する所あり。大元帥張作霖は國務總理潘復を遣はして徐州の戰線に赴かしめ孫傳芳及直魯連軍の將士を慰問せしめ特に張宗昌を慰留懇諭せしむ。天津郵政局は突如同地發刊日本人經營に係る日本文新聞京津日日新聞、天津日報の郵送方拒絕する旨を同地駐在日本總領事館に通告し來る。

元に上り被銃殺者千九百餘名に達すと報告さる湖北省財政廳長詹大悲、教育廳長李漢俊兩人は漢口日本租界に於て共產黨員として逮捕され銃殺さる。廣東共產革命擾亂以來南方一帶に於て反共產熱昂まり湖北、廣西、浙江各地に於て共產黨員の逮捕に遭ふ者頗る多し。**廿日**武漢衞戍總司令胡宗鐸は各種店員工會に解散を命じ爾後店員工會の名義を以て勞働運動を爲す者は嚴罰に處すべき旨を布告せり、汪兆銘は香港出發佛國へ向けて出發す。

二十一日胡宗鐸は武昌城內の中山大學を包圍搜索して多數の共產黨員懸疑者を檢擧せり。在上海露國總領事は國民政府の撤退命令に因り愈歸國の途に就けり青島市に戒嚴令布かる。在上海

のなり。

東支鐵道附屬地內に於て警察總監理處より居住朝鮮人に對し驅逐的追放命令を發布せり。哈爾賓特別區行政長官張煥相は同區內に內ける內外人土地租借讓渡規定を公布さる。

該規定は從來の東支鐵道局と土地科間に取極められたる契約は民國十七年一月一日より同年六月迄でに書換ざれば總て無效と爲し且つ土地擔保權を許さず爲に我東洋拓殖會社、朝鮮銀行、東省實業會社等の如き土地擔保投資團に一大障害を與へ又治外法權國民の被害甚大なり。

十八日在奉天朝鮮人は大會を開催して支那官憲の壓迫事件に付き討議を遂ぐる所あり。

城等左傾派の國民黨員を逮捕す廣東に於ける共產革命擾亂の元兇同黨員約千三百名は同地より脫出逃走の際約百五十名の斷髮婦人共先登に立ち行く々放火殺人掠奪等所有暴擧を逞ふせり。南京政府は廣東共產黨革命擾亂の主謀者として汪兆銘以下十餘名の共產派要人を査問に附すべく決議さる。**十九日**南軍第十第一兩軍は津浦鐵道の利國及柳泉兩車站間に進攻し來り孫傳芳軍と韓莊陣地に於て激戰し戰況不利に陷り遂に孫傳芳軍第四師の爲に擊退さる。張發奎、黃祺翔等の共產派要人は四圍の狀勢不利なるを察して遂に廣東市より香港に向けて逃亡す。廣東市に於て共產黨暴動事變の爲に蒙むれる惣損害は全燒家屋九百八十五戸其他燒失額約一千二百萬

斥運動制止の交渉方を請願せり。**廿三日**奉天官憲は滿洲輝南縣在留日本人に對して不法なる立退命令を發し爲に滿洲在留日本人大に憤怒す。張宗昌、褚玉璞等の所謂山東派と對張作霖反感益々募り張作霖の態度如何に因りて奉天軍閥團體の破綻惹起の兆あり。前北京政府教育總長范源濂は天津の自宅に於て逝去す時に五十六也。**廿四日** 張作霖は山東省濟寧城陷落の爲め北軍全軍の將領會議開催の爲め在奉天の吳俊陞、韓麟春竝に戰線にて督戰中の張學良、張作相、張宗昌、褚玉璞、孫傳芳等に向け急遽北京に來集せよと電命す。支那人經營の諸工業漸次勃興し來り殊に紡績布糸は近時著しく支那內地に於て日本品を驅逐凌駕の域に達し印度方面への進出

二十一日在北京英佛兩國公使は芳澤公使を訪問して婉曲に日本の對支北方出兵方を慫慂する所あり。張宗昌軍の徐州決戰大敗北の爲め山東省立銀行兌換紙幣は一時不通と爲りしも一元紙幣二角三份（廿三仙）に慘落し山東全省の財界は爲に大恐慌起る。張作霖は在北京の前東支鐵道局長官露國陸軍大將ホルワート將軍と通謀して白系露人を煽動し東支鐵道奪回密約締結の風說起る。北京政府外交部長王蔭泰は芳澤公使の滿洲に於ける支那官吏の朝鮮農民壓迫問題に關する兩三回の抗議に接し漸く滿洲地方官憲に向けて不法壓迫中止の訓令を發せり。廿二日支那全國總商會聯合會は北京政府外交部、內務部に向け公文を以て朝鮮各地在住中國人約五萬人の排

獨逸國總領事ティエルは本國政府外相ストレーゼマンの命に依り勞農露國領事撤退後の上海、漢口、廣東各地駐在勞農露國領事館は爾後獨逸國領事館に於て管理に當る可き旨國民政府外交部に通告せらる。廿二日蔣介石派と所謂西山會議派との妥協成り國民黨大同團結さる。廿三日馮玉祥部下韓復榘軍は濟寧駐屯の張宗昌部下劉志陸部隊を攻擊して同地を佔領す馮玉祥軍第一旅長王兆賢戰死す。廿四日湖北省共產黨員省內各地に於て革命擾亂を惹起す。露國政府外交委員長チチェリンは國民政府の對露國交斷絕の聲明は英國帝國主義の煽動に因るものなりとの宣言を發表せり。

十分の取締方を要求さる。**廿七日**直隷省涿州城に於て奉天軍萬福麟の爲に重圍の裡に陷り固守籠城の山西傅作儀軍は奉天軍との妥協成り資金提供軍人優待、城內市民救濟等の諸條件を提出して涿城開城交渉開始さる。**廿八日**北京軍政府は在同地露國大使館內東支鐵道辦事所に於て家宅搜索を爲し同時に共產黨陰謀の元兇露國人廿餘名支那人七十餘名內女子四名を逮捕し中巨頭李大劉、路友于・張挹蘭女史（中國共產黨北京市黨部婦人部長北京大學女學生）其他十六名即時死刑に處す。**廿九日**北京政府は在同地日英佛三國公使に向け山東省芝罘港に於ける支那軍艦の鹽税差押へ事件に付き先に右三國公使より外交部へ嚴重抗議を提出して山東省當局の違法行爲中止方を非公式に懇請す。**廿八日**廣東城守備の李福林軍退き廣西派の黃紹雄軍之に代る。馮玉祥軍は曹縣より濟寧、兗州を衝き又黃河北岸より北進濟南城を攻略し更に黃河北岸より大名、德縣に出で張宗昌軍の背後を脅かすの作戰を立て三路迸進山東省攻伐の方略を決定開始す**廿九日**廣西軍第十三師は廣東省佛山縣城に進軍し張發奎軍撤退後の廣東市治安維持に當れる李福林軍との諒解成り李軍は河南島に退き第十三師は石圍塘より進で廣東に入城す。程潛、白崇禧等の武漢派領袖は汪兆銘、顧孟餘、陳公博甘乃光等九名の黨籍除名と捕縛方を南京政府に對して要求通電を發す。**卅日**蔣介石は部下軍隊に命じて滬抗鐵道沿線守備に當れる白崇禧軍

驚く可き物あり日本布糸の顔色なからしむるに至れり。廿五日在上海各團體は聯合策動して日本の山東出兵に對する反對運動を惹起せり。奉天派の宿將韓麟春は奉天に於て省長の招宴に招かれ宴後危篤に陷り爾來重症の爲め起つ能はず由來同人は張作霖に不滿あり爲に作霖の爲に毒害に遇へりとの途說起る。南軍漸次山東省境に侵入し來り直魯連軍の士氣振はず山東全省の父老結束して張宗昌の奮戰を促がす。米國政府は山東省の危急に鑑み軍艦一隻を青島市に急航せしめ同地在留二百五十名の自國人保護の爲め警備に任ず。廿六日在朝鮮支那人排斥運動起り北京政府外交部は抗議を提出せるに對し芳澤公使は逆襲的に在滿洲朝鮮人農民壓迫事件に對して

廿五日南京軍の何應欽軍は津浦鐵道戰線より又劉峙の第一軍は徐州より進軍して韓莊を佔領す此役に於て南軍司令部は南京軍事委員會に宛て山東軍指揮于學忠の戰死を報告せるも事實に違ふ。廿六日露國亡命中の孫文未亡人宋慶齡女史は妹婿蔣介石に宛て歸國し共產黨と共に反對運動を起す旨の通電を發して脅威す。廣西派の黃紹雄軍約六千餘に廣東省境三水に進擊し來る三水守備李福林、薛岳兩軍支ふる能はずして廣東市に退却す爲に廣東、廣西兩省水陸交通杜絕す元の張發奎旗下第四軍突如廣東城を拋棄し北伐戰線參加を名として東江潮梅方面に進軍す。南京駐在の馮玉祥代表李鳴鐘、熊斌等は在上海の矢田日本總領事を訪問して日本の山東省出兵計

2588	1928	昭和三年	戊辰

十七年　一月二日南滿洲鐵道會社代表は北京に於て大元帥府當局との間に極めて秘密裡に吉會鐵道布設借款契約を締結調印を了し即時前渡銀五百萬元を張作霖に交附の報傳はる。**三日**楊宇霆は兵工廠整理改革の爲め急遽奉天に歸省す。**四日**北京軍政府外交部は臺灣に於て領事館設置要求の旨公文を以て芳澤公使に宛て要求し來る。張作霖は孫傳芳の斡旋に依り張宗昌軍援助の爲め軍資金八十萬元及新輸入獨國製小銃一萬挺大砲數十門並に彈藥は奉天工廠製品の無限供給方を決定通告す。**六日**北京交通部は關東廳遞信局管理下の奉天新民縣間日本電信電話線回收を企圖し公文を以て芳澤公使に對し之が撤去方を要求し來る。

一月　三日國民政府は外交部長伍朝樞を以て條約改正特使として米國に派遣し次長郭泰祺を以て部務を署理せしむ。武漢總司令胡宗鐸は各種工會、農民協會、商民協會、婦女協會、學生聯合會等の共產黨關係民衆團體の解散を嚴達さる。**四日**蔣介石は各方の要望に因りて上海より南京に入る。新武漢派は蔣介石派の國民政府掌握の陰謀的策動に基因發憤對抗して遂に起つ。李濟琛は香港に在りて形勢觀望し居りしが俄に廣東に入城して廣東政府を恢復し市民爲に安堵し秩序共緒に就く。滬寧鐵道沿線に於て共產派の妨害頻出せる爲め遂に戒嚴令布かる。英國政府はハロルド、ブランド、ハーバート、オープンパーマー大佐を以て上海義勇隊長に任命さる。

爲禁止方要求に對し直に山東省當局へ向け停止方訓令せる旨回答し來る。直隷省涿州の籠城攻圍奉天、山西兩軍間に和約成立し十月以來の開城を見る。**卅日**滿洲營口在住外國人宣敎師に依りて步兵團と稱する一種の私立兵團にして在滿鮮人壓迫を目的とせる團體に對し銃器十萬餘挺を密輸供給の事實發覺し日本政府は當該關係國と協議し對滿洲武器密輸入妨止方に付き在滿洲各地日本官憲に手配方を嚴訓さる。**卅一日**大元帥張作霖の强硬なる主戰論に依りて俄然北京軍政府は新年の諸儀式全部を中止し其旨を中外關係向へ對して通告を發せらる。

第十三軍の武裝を解除せしむ。

せり。

され排英的より一般排外的に變移せるを認むと演說さる。**九日**蔣介石は南京に於て國民革命軍總司令復職の通電を發す。白崇禧部下三千餘名上海出發漢口へ移駐の爲め出發す。張貞は何應欽の推薦に由り白崇禧の後任上海警備司令就任の爲め南京駐屯の部下千五百名を上海に移駐し警備に任ず。湖北省通城縣附近に於て湖南湖北兩省軍の先鋒部隊會戰し白崇禧は總司令部を漢口の上游羊樓司に移駐す。廣東省陸豐、海豐兩縣地方に於て共產軍猛威を振ひ暴動を起す。**十一日**日本定期航空路第二期計畫路たる大阪、上海線上海飛行場設置に關し日本は列國に率先して先取權を獲得の爲め支那政府に對して交涉開始さる。白崇禧は蔣介石に對し廣東派と分離せ

北京に於て交渉中の滿蒙鐵道布設問題は最重要案件たる吉會鐵道問題に付き芳澤公使と楊宇霆間に意見一致の旨傳はる。北京大元帥府は日本政府の對支强硬說に驚き形勢緩和に努むる所あり。楊宇霆一派を中心とせる奉天軍の軍事費豫算追加銀五千萬元財源捻出企圖の爲め奉天票は漸次下落し遂に昨歲末に至り四千圓に慘落し東三省財界に大恐慌起る。**七日**滿洲鴨綠江沿岸通化縣城に於て大刀會匪なる一團の反官黨團蜂起して同縣城を佔領し知事以下を捕縛す。**九日**奉天に於て滿洲在留朝鮮人大會開催され一は自由歸化、二は無條件全部歸化、三は絕對歸化不可の三派に意見分れ議論の結果大亂鬪起り日本政府は信賴に値せずとし無條件歸化說に傾き散會

上海、雲南省間無線電信開通し通信開始さる。國民政府は在廣東市露國總領事以下一行七名は廣東より驅逐せられ上海に寄港せるも上陸禁止の爲め長崎丸にて即時日本經由浦潮へ向け歸國の途に就く。**六日**國民政府外交部は駐露大使鄭延禧以下同館員一同露國官憲の爲に拘禁されたりとの風說傳り駐支佛國公使マルテルを介して佛國政府に之が照會方を依賴し佛國公使は直にモスクワ駐在佛國大使並に本國政府に打電照會さる。**七日**英國首相ボールドウインは同國保守黨大會に於て支那政府の秩序立てる時は何時たりとも英支條約改正の用意あり又在支英國軍の撤退に由りて在支英國人の生命財産が危險を感ずる間は絕對に撤兵せず然れど形勢は漸次緩和

一　齊々哈爾＝黑河線　二　小河子＝林甸線
三　安達＝拜泉線　四　滿崗＝青崗線
五　滿溝＝肇東線　六　呼蘭＝鶴立岡線
七　石頭城子＝扶餘線　八　石頭城＝楡樹線
九　一面坡＝五常線　十　一面坡＝依蘭線
十一　海林＝寧古塔線　十二　穆稜＝密山線
十三　密山＝富錦線　十四　穆稜＝依蘭線

右鐵道布設經營者は黑龍江省露人オストロモフと依蘭道尹其他露支兩國の有力者の分擔的建設に當るものとす。哈爾賓特別區官憲は在ハルピン日本人經營の競馬場を暴力を以ての回收事件に就き日本政府の嚴重なる抗議を受け陳謝の意を表して解決さる。**十四日**奉天軍は河南省彰德に於て激戰を交へ勝敗決せず。

努む。第四次中央全體會議は出席委員法定數未滿の爲め延期され蔣介石は在上海胡漢民、伍朝樞、孫科及廣東派の何香凝女史、甘乃光等に向けて來會を促したるも皆之を拒絕せり。新武漢軍は軍隊の大移動を開始して上游に出動し胡宗鐸軍は沙市に出動し湖南軍と開戰し蔣介石の態度一般の注目を惹く。日本軍艦春日は南支那海を巡航して南支海面中の海賊根據地バースペーヤ島に寄港し支那海賊討伐を決行さる。馮玉祥軍は主力を京漢鐵道沿線に集中し北伐作戰を決定す。**十二日**南京軍事委員會は革命軍々憲を統一し北伐完成、反動勢力鎭定、中國基礎確定の爲め爾今絕對に服從の旨を蔣介石擁護の長文宣言を發表せり。上海衛戍司令部は突如在上海漢

十日滿洲米は豐作なれ共出廻り少なし即ち奉天票の暴落と張作霖が戰費補充の爲め從來粗一石に對し出省税十五仙を一躍九十仙に引上げたる爲め輸出者減少せり。十一日露都モスクワ軍事委員會の重要命令を受けたるボロニンは蒙古庫倫に於て支那より歸途上のボロデインと會見し秘密裡に凝議の上直に哈爾賓に向け出發し彼の使命は北支地方攪亂の目的を有すと報ぜらる。十三日招商局の支那南北沿岸航路就航汽船十隻は貿易不振、乘員給料不渡等の爲め運航を休止す。東支鐵道會社は南滿洲鐵道會社の對北滿洲積極計畫に對抗し同社理事會は支線布設委員會を設立して具體案を研究し理事會に於て左記十四支線布設案を決定さる。

ば援助を與ふべしとの蔣介石の實行不可能的難提案を蔣に提出せるが該案は馮玉祥の使嗾に出づと報ぜらる。江西省内駐屯の朱培德、夏斗寅四川省の楊森、葉開金等は策應して蔣介石擁護を通電す。國民黨は南京に於て中央執行常務委員會及中央政治會議を復興し譚延闓を推して主席と爲す。南京政府は在四川省楊森を免職し第廿六軍を劉鄧文及劉湘に統轄せしむ。張宗昌は全軍に對し十萬元の懸賞を以て曹縣城を攻略せしむ。蔣介石は各省に通電して總司令に復職し又各將領に電告して同心協力北伐に從事し黨事を再び紛糾に陷らしむる事勿れと命せり。在滿洲通化縣城日本領事分館は大刀會匪の爲に襲撃され在留日本人は極度の不安に陷り自衞警戒に

林=海龍縣城間鐵道契約北京にて成立し前渡金七百萬元を交附され調印後直に工事起工の諒解成るとの風說起る。**廿四日**奉天官憲は大刀會匪主力隊約二百名は歸順し帽爾山地方は秩序恢復されたりと發表さる。**廿六日**大刀會公民團匪は桓仁縣知事を殺害して同縣下の諸政治機關を悉く掌握せり爲に民心騷擾を極む。安國軍は京漢鐵道戰線に於ける第三第四方面軍長韓麟春を罷めて楊宇霆を以て之に代らしむ。北京軍政府は財政總長閻澤溥の辭任を許し王克敏を以て後任に命ず。**廿七日**滿洲一帶の地方は稀れなる大吹雪に襲はれ水陸の交通全く亂れ民家の崩壞されたるも頗る多し。**廿八日**滿洲の東邊通化縣城方面一帶に亘りて暴威を振へる大刀會匪は遂に力を逞ふし民家燒失約三千戸に上り同地在留日本人全部は在泊日本軍艦に避難收容さる。**十六日**國民黨西山派の居正、鄒魯、許崇智等相携へて來朝し神戶に上陸す。上海々關は南京政府の設定せる輸出入印花稅徵收の旨を公布さる。滿洲の通化、臨江、輯安各縣一帶に亘りて暴威を振ひし大刀會匪は突然連政會と改名し漸次南下し南京政府との連絡を有し會員千二百名中彼の郭松齡殘徒其大部分を占め勢力頗る猛烈を極む。**十八日**武漢軍先鋒は湖南省岳州を佔領し程潛の第四十四軍は前戰陣地に向けて出動を開始す。新武漢軍對湖南軍の決戰迫り武漢軍は程潛の第六軍葉開金の條四十四軍は武長鐵道に沿ひ又第七第十九軍は其西方を進み之に對抗し湖南軍は

十六日內蒙古林西縣に紅槍會匪蜂起して猛威を振ひ黑龍江督辦吳俊陞兵を派して之を討伐せしも賊軍勢ひ頗る猛烈にて惡戰の結果遂に之を平定するを得たり。**十八日**芳澤公使は天羽書記官を北京外交部に遣し奉天省東邊に於ける大刀會匪の擾亂に因り奉天當局は絕對に日本人保護の責任を盡せと嚴重警告を與ふ。**十九日**露國政府は北京政府との國交恢復を企圖し北京政府も又或種の條件を提出して秘密裡に交涉開始の風說起る。**廿日**北京政府外交部は南滿洲鐵道會社の對米起債妨害に次ぎ滿鐵の對英起債交涉がロンドンにて交涉中との報に接し又々之が成立を極力妨害すべしとの訓電を在英京代理公使に向け發送せり。滿鐵會社の滿蒙鐵道布設交涉中の吉治萍公司碼頭を差押ふ故に在上海日本總領事矢田七太郎は嚴重抗議を提出さる。**十三日**雲南省城雲南市に於て廣東より多數の共產黨員潜入し農民勞働者を煽動して暴動蜂起陰謀發覺し同黨員男女十一名及家族十六名を逮捕し無數の密秘文書を押收す然れど遂に其首領を逸せり。**十四日**上海閘北街米穀勞働者全部罷業を開始し民心物騷を極む。**十五日**上海支那官憲は關稅輸出入手續方に付き印花稅賦課を開始す。馮玉祥代表崔士傑は國民革命軍北伐聯合軍の主張に付き日本政府の諒解を求むる爲め來朝し朝野の士を歷訪して日本の第二次山東省出兵阻止に努め歸國す。湖北省宜昌駐屯の楊森軍は同地撤兵の際夜に入りて突如兵變を起し市街に放火し大掠奪

策す。白崇禧、李宗仁等の統率する武漢軍は李品仙、何健等の率ゆる湘軍湖南軍〕と本月上旬より衝突以來數度激戰を交へ遂に武漢軍の勝利に歸し爲に長沙城は其佔領する所と爲る。武漢軍の夏威部隊は湖南省城長沙城を佔領し胡宗鐸、程潛軍も續いて入城せり。**廿七日**南京政府は捲煙統税征收條例八ケ條を公布さる。**廿八日**日本政府は北京駐在財務官公森太郎を上海に派し南京政府に對して漢冶萍公司管理を撤廢して其財產を保全し事業を妨害せざる樣交涉の爲め東京出發上海に至らしむ。**卅一日**南京中央黨部に於て執行監察連席會議を開き廣東委員何香凝陳樹人　王法勤　王樂平　藩雲超等五委員の職權を復得せしめたり。

盡き無條件にて降服を申出づ。**三十一日**日本海軍省は閣議の決定に依りて昭和二年十二月青島市へ派遣せられたる軍艦長良及び陸戰隊二百名に對し引上げ方を電命さる。奉天票は安國軍側の戰況不振に因りて張作霖一派の勢威衰へ底知らず的に大暴落を來たし遂に立會ひ中止と爲る。

岳州城通城縣の線に第一線を布き第二線軍を汨羅に布き第七十九軍の精鋭軍を以て武漢軍に對抗し決戰の機を窺ふ。**十九日**日本政府は國民政府の註文せる軍艦一隻建造問題に付き南北兩政府何れにも偏せざる對支政策に基き之を拒絕さる。上海交通大學ア式蹴球團來朝し東京明治神宮外苑競技場に於て明治大學軍と對戰の結果五對〇にて交通大學團大勝を博す。**廿五日**湖南軍は平山の戰に於て大敗し李品仙軍は湖南省衡州城に退却し廣西派と親交ある黃琪は長沙に殘留して治安維持に當り市中流言盛んにて日本軍艦鳥羽號は在留日本人を收容して避難準備を整ふ。白崇禧軍の一派は湖南軍を擊破して武漢の政治分會を中心とし南京政府主席蔣介石排斥を

つ逃走す。**三日**國務總理潘復は梁士詒　沈瑞麟　李思浩　王克敏　王蔭泰　吳晋　閻澤溥等の關税委員を國務院に招集しエドワードの提案に係る關税制度改革、關税自主權確立、國定税率過渡税率實施に關して準備會議を開催さる。**四日**張作霖は哈爾賓特別區教育管理局長傅儀年に命じ東支鐵道會社の設立に係る露支工業大學を支那の管理下に移管せしめ改めて東省特別區立工業大學と稱せしむ。國務總理潘復邸に於て關税自主委員會を開き潘復　王蔭泰　顧維鈞其他九名を選任す。**五日**吉會鐵道布設交渉は支那側の對內的故障屬出の爲め停頓狀態に陷る。日蒙騎乘隊一行午後一時無事長春に到着す。**六日**在北京佛國公使マルテールは漢口より南京に入り國

四日第卅次全體會議に於て國民政府組織法、各地黨務整理案を議決す則ち十一個條中其最要なる物は第二第七兩條にして第二條は國民政府は中央執行委員會推擧の委員若干を以て各之を組織す及第七條は國民政府は內政　外交　財政　交通　司法　農鑛　工商等の各部並に最高法院　監察院　考試院　大學院(後に教育部と改稱す)　審計院　法制院　建設委員會　軍事委員會　蒙藏委員會　僑務委員會等の各院局會を設くを規定さる。**六日**總税務司代理エドワーズは北京より南京に來りて財政部に宋子文と會見し關税問題に關して重要協議を遂ぐ。

二月　一日曩に上海に於て蔣介石の爲に捕はれ銃殺されたりと報ぜられたる中國共產黨巨頭陳獨秀、李立三等は巧に逃れて天津に潛在し同志を糾合して北京及京綏鐵道沿線各地に於て暴動を惹起する計畫發覺し奉天側大狼狽を起す。日本政府は在滿鮮人支那歸化希望者に對しては其自由意志に倚らしむる政策に決定さる。大刀會匪百八十餘名大東溝を襲撃し被害甚大なり。奉天票は四千圓臺を保ち居りしも張作霖の嚴重なる干涉壓迫に因りて三千九百圓乃至三千八百圓臺に引戾さる。二日北京政府は代理總稅務司エドワーズの提出に係る關稅制度改善意見に基き關稅南北統一を計畫さる。奉天城より脫走せる黑龍江省騎兵一隊各所に於て大掠奪を逞ふしつ

二月　一日閻錫山、馮玉祥等の代表を混じたる國民黨會議に於て北伐卽行案決議さる。二日第四次中央執行監察全體會議を南京中央黨部に於て開會し出席執行委員廿三名監察委員七名に上り蔣介石は開會の辭に次で各委員同心協力して共產黨を掃蕩し孫總理の遺訓を確立し軍閥及帝國主義者を排除して北伐大業を完成し國家の統一を計らざる可らずと激勵せり。

め在外蒙古地方の國民黨間に反露熱高調し來る。在ハルピン領事團は土地問題に關して第二次抗議を提出さる。**十一日**京奉鐵道灤州驛警備日本守備隊附江崎軍曹以下六名の日本兵は同停車場に於て支那兵に狙撃され天津駐屯日本軍司令官は嚴重の抗議を提出さる。滿鐵會社は北京政府との間に於ける吉會鐵道布設交涉順調に進捗し最早調印を殘すのみと發表さる。**十三日**山東省東北部の萊蕪沂水地方に蟠居せる江槍會匪約四千名の一團は博山縣南方に移動せる爲め博山駐屯軍隊約四百名及保衛團約六百名警備の爲め出動す。**十四日**日蒙騎乘隊一行首尾能く全長三千哩の三分一に當る難路一千哩を踏破して無事奉天城に到着す。北京政府交通部は東三省交會議を再開に協議す。**十四日**廣東市に於て敗退の共産黨軍は廣東省海豐縣地方に於て慘虐なる暴狀を逞ふし田野を荒らし慘殺死體を路上に放棄し婦女を强姦し姙婦を慘殺し男子は耳を削ぎ大腿を抉ぐる等實に其暴狀酸鼻に堪へざるものあり廣東市より黃紹雄は部下三千を率ゐて之れが討伐に出動せり。**十五日**代理總稅務司エドワードは南京政府財政部長宋子文との關稅問題の交涉遂に不調に歸し北京に歸る。日本汽船海通丸は上海沖に於て海賊に襲はれ機關長外四名の日本人高等船員人質に拉致され軍艦對島及椿之れが救援に向ふ。本年度日本陸軍士官學校第廿一期支那依托學生採用總數九十名に對し四百八十三名の多數に上り殆ど空前の數にして斯の現

民政府の各領袖連を歴訪さる。在北京日本財務官公森太郎は漢冶萍公司借款整理の任を帶びて上海に來り矢田總領事と共に南京に赴き外交部長と交渉を開始さる。**七日**日本政府は双橋無線電信問題に付き北京政府に對して非公式交渉を開始さる。吳俊陞は部下軍隊を派遣して滿洲六道溝附近に於て大刀會匪約三百名の一隊と交戰し會匪三百卅名法師一名を殺し同會匪團殆んど全滅さる。歐洲向け滿洲大豆輸出の爲め露國西比利鐵道は格外の運賃大割引率を定め從來東支鐵道より滿鐵に依り大連市に搬出されたるを浦潮港に吸收の計畫實行に着手せるを以て大連浦潮兩地に於て激甚なる輸送戰開始さる。**九日**露國は外蒙古に於て共産運動を煽動惹起せる爲

七日第四次全體會議に於て國民政府は左の如く各部長を任命發表さる。

內政薛篤弼　外交黃郛　財政宋子文　交通王伯群　司法王寵惠。

國民政府は特定税率委員會を組織して委員長張福運等外六名を選任す。**十日**英國外相チェンバーレンは同國下院に於て政府は支那に對して好意的精神を有し新興支那國民を滿足せしむべく對支軍備縮少の方針を演説さる。國民政府は第二回の關税會議招集準備に着手する所あり。國民政府は修改續發海關二分五厘附税國庫券條例を公布さる。**十一日**代理總税務司エドワードの南下奔走に依り國民政府は同人の提案せる關税問題に付き南北一致して列國代表を招待し關税

指揮孫傳芳　大名路討赤賊總指揮褚玉璞　京漢路討赤賊總指揮張學良　同副指揮楊宇霆　京綏路討赤賊總指揮張作相　同副指揮湯玉麟　高維岳。

廿三日京綏路討赤賊總指揮張作相は京綏鐵道戰線に於て山西軍雁門關攻擊を開始し山西軍を擊破し、同省朔縣城を佔領す。廿四日中部滿洲の陶賴城（トウライチョン）石頭城子地方在留日本人に對し扶餘縣知事は雜居權を認め難きに付き即時退去の命令を發せり。北京政府は多數商民の反對請願を顧みず奢侈品税を三月一日より實施を決定公布す。北京政府は四月一日より北支那地方に於ける各海關に於て一割二分五厘の增徵を開始し國定税率は民國十八年一月一日より實施に決定さ

大明號は（七一〇噸）滿鐵會社の汽船第二熱田丸と江蘇省鎭江港の下游約卅浬の長江中に於て衝突し五分間位にして五百餘名の支那船客と共に沈沒し船客は全部救助さる。厦門市に共產黨潛入し市民戰々恟々たり慘殺放火の暴虐行はれ同地警備司令部は戒嚴令を布き公安局員と共に警戒を嚴にす。廿二日國民政府は日本の普通總選擧に付き民政黨の勝利に歸し日支關係に幸福を齎らすべきを期待すと發表さる。廿三日國民政府外交部長伍朝樞辭職し黄郛の正式就任を發表さる。英國政府は香港に飛行場建設の爲め工費十萬磅支出を決定發表さる。廿四日國民政府の漢冶萍公司國有回收事件に關し南京、武漢兩派要人と交渉會見せる日本代表吉川、山縣　齋

通委員會が兼てより滿洲に於ける日本の既得權を無視して滿鐵對抗の目的を以て請願せる奉臨臨安　吉五の三鐵道布設案を認可發表さる。**十五日**奉天省臨安縣知事は四個條の不法朝鮮人取締法案を發布す。奉天票慘落し省城內外に於て閉店商賈五千〇八十九戶に上り殆ど空前の蕭條たる悲況を現出し恰も罷市の觀を呈せり。**十六日**張作霖は大洋錢（一元銀貨）の相場維持の爲め東支鐵道收支に大洋錢建て採用を電命す。**十七日**滿洲東邊地方臨江　八道溝　輝南縣一帶に亘りて又々大刀會匪現はれ奉天官兵と交戰を開始す。**廿日**北京大元帥會議は積極的戰備を立て各路總指揮として左の如く任命す。

津浦鐵路討赤賊總指揮張宗昌　魯西討赤賊總

象は如實に支那現下の戰國時代的國情を物語れるものとす。**十六日**馮玉祥は河南省彰德に於て故袁世凱の墳墓を發掘し又部下軍隊に內命して彰德　開封　項城各縣に於ける袁家の財產を沒收し其額約六百萬に上れりと。在北京米國公使マクマレーは先に南京政府がフェデラル無線電信臺の上海建設に反對せる爲め同政府の諒解を求むる爲め上海に來る。在北京佛國公使マルテルは南方視察の結果國民政府の不統一なる狀態に關し悲觀論を發表さる。**十七日**蔣介石は河南省鄭縣に於て馮玉祥と會見し日本の總選擧の結果政友派の勝敗に關して北伐方針を確定し一面白崇禧、程潛等武漢軍將領反抗せば免職方針を決定せり。**十八日**夜九時頃中國大通公司汽船新

軍は馬賊團と連絡して奉天省東邊の通化縣城を佔領せり。

す。國民政府外交部長黃郛は不平等條約撤廢其他中國の內政に干涉し其社會組織を破壞せんとする外國に對しては政府は國家生存の爲め適當の手段方法を取るべき對外宣言三個條を發表さる。**廿六日**代理總稅務司エドワードと國民政府財政部長宋子文と會見商議の結果關稅統一案に對し國民政府は海關行政制度破壞の意志なきを表明しエ氏提案內容の實行不可能を理由として交涉遂に不調に歸す。在北京英國公使ラムプソンは廣東市に於て李濟琛と會見し援助を力說され李は其好意を感激し英支親善を力說す。**廿七日**國民政府軍事委員會は左の通り任命を發表す

第一集團軍總司令蔣介石　第二集團軍總司令馮玉祥　第三集團軍總司令閻錫山。

る。廿五日在ハルピン日本總領事八木元八は陶頼城地方在留日本人に對する扶餘縣知事の不法退去命令に對しハルピン道尹と交渉を開始し撤回を承認せしめて事案を解決さる。北京政府は內閣を改造し左の如く任命さる。

司法總長王蔭泰　外交總長羅文幹　大理院長姚震　稅務督辦梁士詒。

第十五回日支國際連絡運輸會議を昭和三年五月七日より大連市に於て開催に決定さる。廿七日羅文幹北京政府外交總長に就任す。廿八日山東省利津縣地方に於て解氷の爲め黃河南岸堤防破壞し漲洪の爲め二千餘名溺歿せり。廿九日滿洲に於ける大刀會匪及紅槍會匪の勢ひ猛烈を極め流石の黑龍江軍も容易に之を平定する能はず匪藤三名は其結果南京派の穩和、武漢派の態度頗る强硬にして結局不得要領に終りたる旨を發表せり。國民政府は何應欽を以て國民革命軍參謀長に選任し就任を通電せり。譚延闓は國民革命軍第四集團軍總司令就任を拒絕す。湖北省監利縣に於て農工革命軍の旗印を揭げたる土匪軍蜂起して同縣知事を殺害し勢ひ猛烈を極む。廿五日張繼は上海に於て日本の總選擧に關し田中首相の伊太利首相ムッソリニイ夢想觀を嘲笑し日本無產黨の進出は慶賀に堪へぬと演說す。湖南派劉興、李品仙軍等は湖南省南部の要地寶慶城に於ける最後的一戰に大敗して再擧の望みなく一方湖南省東北部常德城に於ける何健軍は沅江上游の桃源縣城に退却し四川軍と合同の形勢を

臺建設用地買收の風說起り北京政府は同公使に對して照會する所あり。**二日**北京政府は關税自主委員會を開き委員を選任し關税過渡辨法實施準備に着手せり。米國ウエルス大學教授チャールス、キングスレー、ウエブスターは週間雜誌ネーション、エンド、アゼニアン誌上に於て不安定なる日本の對支外交的地位よりして日露兩國の接近は必然的道程と喝破さる。**三日**吉林省道尹會議の決議に依りて日本貨幣の排斥案を決定さる。國務總理潘復は民國十四年の關税會議通過案に根據して請ふて關税自主委員會を設けて其進行を企圖せり。芳澤公使は中國關税自主問題に關し互惠税率協定を力說して發表さる。吉林省琿春縣總商會は露支合辨を以て琿春城よ

定せり。**三日**南京革命軍の進出攻撃開始に因りて南北兩軍は愈其全線に亘りて一大決戰の機運刻々逼まる。代理總税務司エドワードと國民政府財政部長宋子文との會見交渉の結果海關行政制度の現狀維持　過渡辨法設定　七種類等税率實施に關する意見一致し南北兩政府は同時に各國へ通牒を發する事に決定さる。黃紹雄は廣東市に於て廣東省に對する責任解除　廣東省政治不干涉　廣西省政府委員就任宣言を發表せり。湖南省城長沙　醴陵縣城一帶に亘り共產黨匪橫行猖獗を極め人民の被害甚しき爲め程潜は第十八師副師長を勦匪總司令に任じて討伐せしむ。**四日**總司令蔣介石は參謀長何應欽を携へて上海に來り各界有力者と協議を遂ぐる所あり。**五日**

三月　一日北京商民團は北京政府の民國十七年三月一日施行の奢侈品特捐（特別税）に對し死を誓ふて力爭を決議す。新任北京政府外交總長羅文幹は前任外交總長王蔭泰の辭職理由書に對して三條の反駁的聲明書を發表して不平等條約及び改正關税に因る增收を軍事費に支出せざる事を高調せり。在北京米國公使マクマレーはフエデラル無電會社代表と協議し上海西南方の松江郊外なる楓涇（フオンヂン）に於て廣漠なるフエデラル無電

廿八日午前三時五十分福建省城福州沖合の廣浦附近に於て日本鹽崎與吉所有汽船錦江丸（三九〇〇噸）は香港へ航行中濃霧の爲め暗礁に乘上げ沈沒す乘員一八〇名は救助され船長及無電局長は船と運命を共にして溺死さる。

三月　一日國民革命軍は軍備を整頓し蔣介石は各軍を檢閲し航空隊參加し北伐軍は威容堂々南京城を出發徐州城に向け進軍を開始す。甘肅省の馬福祥軍は馮玉祥軍の援助に依り新疆省攻略軍事を開始す。廣東省政府主席委員李濟琛は香港總督を訪問して對英親善政策の樹立を力說する所あり。國民政府は湖南北兩省問題を解決せしむる爲め李宗仁を武漢に特派し以て兩省の軍事を停止せしめ北伐の準備を急がしむる事を決

理及其暴落防止對策を計畫さる。大元帥府令を以て關稅自主委員會設置命令を發布し同時に同委員を任命發表さる。大元帥府命令を以て左の如く關稅委員會委員を特任さる。

顧維鈞　梁士詒　曹汝霖　王克敏　李思浩
羅文幹　閻澤溥　沈瑞麟　夏仁虎
吳晉　朱有濟　馬素。

六日吉林省長は省內在留日本人排斥の訓令を發す。**七日**北京政府は奢侈品稅、道路修築費充當の名目を以て北京在留外國商店に對して一等三百元乃至廿等一元迄での營業稅徵收方を各國公使を通じて布告さる。**九日**北京關稅自主委員會を退思堂に於て設立し直に趣意書を發表し又同會章程及辦事通則を公布さる。關稅自主委員會を

部電政司長に就任し以て挑戰的態度に依りて双橋無線電信臺問題の解決至難を報ぜらる。福建省廈門市駐在日本領事館警察官の不逞鮮人逮捕の爲め同地國民黨員は無根且つ不法の風說を揑造宣傳して各界連席大會を開催し國權侵害日本帝國主義發現と爲し恰かも支那國民政府が鮮人保護權を保有する者の如くに無智の民衆を煽動して狂暴極まる宣言を發表して右不逞鮮人引渡しを要求し且つ反日國權侵害委員會を組織し以て排日運動は益々暴動化するに至れり然るに國民政府當局の無力は斯の狂暴なる排日團の行爲を取締る能はず拱手傍觀の止むを得ざるの失態を演出し同地駐在日本領事館は嚴重抗議を提出さる。**八日**支那の動亂と排日運動の爲め日本の

り露國ポシエット間に輕便鐵道布設問題を決定す。**四日**滿鐵附屬煙臺炭坑爆發し工夫五十餘名慘死を遂ぐ。日本政府は北京政府の報告に依る七種類等税率實施問題に付き日本は特殊の立場上該案不贊成の旨の回答を與へらる。日本政府は支那關税問題其他南北兩軍抗爭の成行觀望政策を決定さる。**五日**ハルピン長官張煥相は大洋錢（一元銀貨）價の維持必要を認め外國貨幣取引を禁止せり故に北滿一帶に亘りて金圓排斥の大渦勃興せり時に張作霖は奉天當局に對し軍事費三千萬元調達方を嚴命したれども奉天票及官帖並にハルピン大洋票三者共に日本金圓に對抗して其價値を維持し能はざるを以て東支鐵道會社より千四百萬元を支出せしめ以て奉天票の整

國民革命軍總司令蔣介石は浙江省問題の解決案を參謀長何應欽に一任し自ら徐州方面の戰線に出陣して北伐の完成を期すべきことを聲明通電せり。**六日**蔣介石は第二次北伐の實行に付き日本政府に對し諒解を求むる所切なるものあり。在上海特別市公安局は巡警十名を派遣して在上海の漢冶萍公司碼頭を封鎖せしめ以て又々問題を惹起さる。國民政府財政部長宋子文の斡旋に因りて南北兩政府當局者間に於て過渡税率に因る增收入を擔保と爲し共同して二億元の公債發行に關する計畫を進められ關税自主委員會に於て之が具體的辨法を作成に着手さる。**八日**日米支三國間無電問題に對しマルコニー會社との關係を以て猛烈なる反對運動を起せる張宣は交通

に任用する事を得せしむるに決定さる。**十一日**北京政府は南京政府と協調して郵政監督を交換する事に決定さる。**十四日**在北京外交團會議の決議に基き支那内亂を助長する武器輸入禁止協定案を實行すべき事を各自國政府に向けて共同電請の件を決定さる。**十五日**米國陸軍長官デヴイスは下院外交委員會に於て列國の對支共同武器禁輸協定に對し自國の造兵工業を危殆に瀕せしむるものと爲すとの理由を以て反對を表明さる。**十六日**日本政府は林久次郎を以て在奉天總領事に任命さる。張作霖の電召に依り張作相孫傳芳等は軍事會議の爲め入京す。孫傳芳軍は山東省曹縣方面より攻撃を開始して馮玉祥軍撃破の作戰を立て自ら前線に出馬し馮軍全滅の總

の委員を選定任命して發表さる。

譚延闓　蔣介石　黄郛　李石曾　吳敬愷　張靜江　孔祥熙　王正廷。

而して黄郛を以て部長に唐悦良を以て次長に任命せらる。**十五日**廣東省政府主席李濟琛は廣東省政府の施政方針として内外に對し建設と穩和隣邦和睦主義とを高調せる五個條の宣言書を發表せり。在北京英國公使ラムプソンは南京事件に付き蔣介石の誠意を確かめ解決有望と認め在北京芳澤日本公使官邸に於て日英米佛伊五國公使會議を開き同問題に關する各國の最後的態度決定に付きて協議を盡さる。英支兩國間に於て南京事件圓滿解決の曙光を認むと報ぜらる。廣東政府の對英一千萬元借款問題に關し上海

開き國務總理潘復　顧維鈞　梁士詒　羅文幹等以外十五名出席し關稅自主權確立案を決議發表さる。吉林省長は管內各縣知事に向けて歸化鮮人に土地を賣却する者は國土盜賣罪に處斷する旨訓令を發す。**十日**米國政府は華府會議に於て支那と各國との條約改訂　支那關稅改正　財政改革　外國郵便局撤廢　青島　威海衞　膠州灣還附　駐支外國軍隊の撤退減少等の諸問題に付て支那を援助し支那政府は米國に對して支那領土內に於て無線電信臺建設の特權附與を其報酬的條件とせる密約暴露さる。稅務督辦梁士詒は從來支那海關の吏員には中外の差別待遇あるを遺憾とし總稅務司代理エドワードと折衝の結果之を撤廢し平等待遇を與へ中國人を以て稅務司

對支輸出貿易は大激減を來し卽ち大正十四年度に比し昭和二年度は輸出總額に於て一億三千四百廿五萬五千餘圓の大減額を現はせり。**九日**廈門市に於ける排日運動愈々猛烈と化し排日委員會は遂に對日經濟絕交を決議し卽時實行に着手せり。**十日**蔣介石は全軍を率ゐて徐州に入城し北軍總攻擊開始に着手し兩軍決戰の機愈々迫る。**十二日**上海　南京間長距離電話開通さる。國民政府は外交部組織條例廿四個條を制定公布さる。**十三日**國民革命軍の北伐決行に因りて遂に北京政府の關稅自主案實施問題は一頓挫を來せり。國民政府は國定關稅委員會條例十個條を制定し發布さる。**十四日**國民政府の對外的最高外交機關たる外交委員會委員として左の通り八人

り包圍攻擊の作戰計畫成る。**廿日**奉天政府は奉海鐵道對滿鐵連絡運輸協定を破棄し洮昂鐵道車輛を以て流用不法行爲に對し滿鐵會社は嚴重抗議を提出さる。滿鐵　東支　ウスリ三鐵道會社代表者の鐵道輸送事務に關する協議會をハルビンに於て開催さる。北京に於て物價編定委員會を開催され日本最重要品綿糸布類の稅率修正案に付き內交涉開催の協議決定さる。**廿一日**吉林市附近に在留の朝鮮人約一萬人を支那に歸化權を准さる。北京政府は中國全人口四億八千五百五十萬八千八百卅八人を有し最近三年間に四千九百四十一萬三千八百八十五人の增加を發表さる。張作霖は天津戒嚴司令に密命を下して前國務總理張紹曾を天津日本租界の支那料理店に招

ワードは芳澤日本公使を訪問して關稅問題に付き最も重要關係を有する日本政府の意向を聽取する所あり。南京政府が財政及軍費缺乏の爲め招商局(支那最大の汽船會社)を千四百萬兩にて某國に賣渡しの交涉開始の報傳はり北京政府は事體中國の航行權に關する重大問題と爲し中國人以外に賣渡し又は抵當と爲し得ざるものなる旨を外交團に對して聲明さる。**十八日**南京政府は殷汝耕を派して國民政府の駐日外交代表と爲し本日東京に入る。**十九日**南京に於て蔣介石反對派三百餘名は日本閥蔣介石打倒の旗幟を揭げ盛んなる示威運動を開始され英米留學生に依りて指導さる。**廿日**蒙藏委員會組織法十五ケ條を公布さる。審計院組織法十七ケ條を公布さる。

攻撃令を下す。**十七日**張作霖は張宗昌に通電を發して入京せしむ。駐在北京華府會議關係八國公使團は北京及南京兩政府間に於て協議決定されたる郵政辨法は華府會議の條約違反の點を指摘して南北兩政府に對し厳重抗議を提出さる。張宗昌、孫傳芳連合軍は山東省內台兒莊及河南省歸德城に於て兩軍を撃破し歸德城を陥れ蔣介石軍と馮玉祥軍の連絡を断ち戰況北軍有利に展開す。**十八日**日本政府は滿洲在留朝鮮人壓迫問題に對し其實地視察を了て歸朝せる陸軍省軍事課長歩兵大佐古莊幹郎の報告に基き同問題の根本的解決策確立の爲め田中外相を委員長とせる審議會を設け調査委員選任を決定さる。**十九日**奉天派最高軍事會議に於て馮玉祥軍を三方面よ

に於て反對勢漸次高まる。十六日南京政府は關税自主促進の爲め同委員會を設立し條例を制定して發布さる。國民政府は地方軍民長官に宛て在留外國人の生命財産保護命令を發し同時に南京事件の犯人逮捕命令を發せり。在北京英國公使ラムプソンは廣東政府主席李濟琛を廣東に訪ひ又國民政府外交部長黄郛を南京に訪問し南船北馬以て南京事件に關係ある日英米佛伊五國が國民政府に對する交渉停頓に付て形勢變化に鑑み列國の對支要求緩和策の畫策運動を開始さる。南京政府外交部長黄郛は南方に於ける日支兩國間の未解決問題一切を上海と在南京日本領事と交渉解決を要望せるを以て日本政府は異議なく應諾に決定さる。**十七日**代理總税務司エド

於てマルコニー會社請負にて建設せる奉天無電局は日本の在支無電通信獨占權を無視して東三省と海外各地間に有料ニユース海外通信を開始の旨公布せるに依り日本政府は北京政府に對し抗議を提出さる。**廿五日**孫傳芳軍は山東省金鄉附近に於て馮玉祥軍と開戰す。**廿六日**日本政府は滿鐵會社對洮昂鐵道間の借款擔保物件たる機關車其他、奉天當局が奉海鐵道に流用事件に關し嚴重抗議を提出さる。北京政府は關税過渡税實施に關する內容は各國案を折衷して最低二分五厘最高二割五分の七種差等税率編成の旨發表さる。日本文部省は昭和四年四月開校の東京工業大學に於て中國學生特設豫科（三個年定員各年廿三名）を設置の旨決定さる。**廿七日**日本政

華實業協會は國民政府の要請に係る關税會議再開前提として先づ列國協調して和平促進を勸告せよとの聲明書を發表さる。**廿四日**湖南、湖北兩省要人等は兩省の戰事終息せるに因り湖南省城長沙に於て善後策協議會を開き程潛を推して主席と爲し程潛、李宗仁、白崇禧、陳紹寬、張知本を選任して主席團と爲し又軍事將領は責任を以て北伐實行を決議さる。在北京英國公使ラムプソンの提議せる南京事變解決條件は責任者處罰、損害賠償、將來保證、謝罪の四項を國民政府が承認し其交換條件として英國は國民政府承認の意味を以て一切の交渉に應ずべき對案を提出さる。**廿七日**上海に於て萬國商業會議所第八十四回總會を開催されヘツファー會社のイー

待饗宴せしめ刺客をして暗殺せしむ則ち張紹曾が馮玉祥と姻戚關係を有し馮玉祥と通謀して反奉天運動を企圖すと爲せしに因る。東三省鹽運使及營口縣知事の發企に依り官商合辦して營口市を起點とし蓋平　復縣を經て瓦房店に至り滿鐵本線に接續する一新鐵道を支那側に依りて布設し四月中に第一期工事に着手し之が資本は同線を擔保として滿鐵會社より二百萬元借款契約成立を報ぜらる。廿三日北滿陶賴照附近在留日本人に對する不法退去命令事件に付き在ハルビン日本總領事八木元八は本國政府の訓令に依り抗議を提出さる。廿四日日本政府はハルピンに建設せる東北無電臺の歐米無電通信取扱を開始事件に付き北京政府に抗議を提出さる。奉天に

日本政府は南京政府と漢冶萍公司及南潯鐵道の我が借欵問題に付き日本代表と南京、漢口兩當局、湖北、江西兩省當局間に於て交渉の結果日本の既得權擁護並に債權確保に關する諒解成立の旨發表さる。廿一日廣西派の巨頭李宗仁は中央政治會議に向つて兵工政策を立て兵工委員會を組織し裁兵實行方法を建議せり。日本政府は國民政府の要請に係る江西省南潯鐵道の管理經營方に付き斷然反對の旨回答さる。國民政府は軍隊特別黨部組織法卅四ケ條を公布さる。特別黨部組織通則十一ケ條を公布さる。廿三日厦門市に於ける排日運動益々惡化し在同地日本領事館は暴徒の爲に襲撃さる。國民政府財政部は商號註册施工細則卅二ケ條を公布さる。在東京日

上海に於て調印さる。廣東政府は共產黨暴動事變の善後策救濟費の名目を以て五月廿一日より向ふ六ケ月間二分二厘附加稅の一割を更に不當課稅する旨を同地駐在各國領事團に對し通告を發せり。廣東省惠來（ホイライ）縣城に於て大部隊の共產軍再び襲來し同地の守備隊長防戰負傷し萬餘の城民と共に同城區を拋棄して潮州方面に退去す故に共產軍は城裡到所に放火し遂に全城を擧げて焦土と化し終らせり。**卅一日**關稅問題に關する國民政府の態度强硬と爲りエドワード對宋子文との諒解交涉を破棄して單獨行動實行の旨を發表せる爲め北京政府及び列國側も大に周章の給果對策を協議し南北兩國政府間に於て對關稅問題步調亂る。

府より駐日露國大使トロヤノフスキーに向け對支武器輸出禁止協定加盟方の提言に對し同大使は田中外相を訪問して加盟不贊成の旨を回答せるを以て日本政府は直に其旨北京外交團に電達さる。**廿九日**直隷省督辦褚玉璞は關税自主委員會の釐金税撤廢に關する意見徴求に對し軍費多端の際之が撤廢は不可能の旨反對を表明せり。獨國外相ストレーゼマンは議會に於て獨國が對支武器輸出の主なる供給國との非難を反駁し爾今之を禁止する爲め對支武器輸出禁止法案を議會に提出の意向を表明さる。北京政府は中國鹽務稽核處會辦英國人フエリツクを南京に派して國民政府財政部長宋子文と交渉せしめ國民政府の鹽税横領計畫を阻止せしむ。

テイバーン議長に推さる。在北京英國公使ラムプソンは上海に於て交渉中の南京事變解決問題は行惱みを生じ上海出發北京に歸去す。**廿八日**隴海鐵道沿線徐州、海州中間徐塘附近に於て早朝千餘名の馬賊團列車を襲撃して國民軍第十七軍長李明揚に供給さる多數の武器を掠奪し又乘客全部の所持品を掠奪す。**廿九日**厦門市に於ける排日團は商船を掠奪せる爲め日本軍艦大井號は糾察隊を逮捕し支那側の謝罪に依りて解決さる。李宗仁、陳銘樞等は漢口より湖南省城長沙に入り要人と會見重要協議を遂ぐ、**卅日**國民政府は國立中央研究院組織條例八ケ條を公布さる。南京政府外交部長黃郛は在北京米國公使マクマレーとの間に於て南京事變米支解決條約を

奉海鐵道車輛轉用問題に關しては日本の抗議に對して奉天政府は何等の誠意を示し來らず依て在北京芳澤公使は大元帥張作霖に對し嚴重なる警告を與へて其反省を求め又林奉天駐在總領事は政府に對して第二四の抗議を提出せしも奉天政府及大元師府當局等之又何等誠意を示す所なく爲に芳澤公使大に怒る。**六日**在奉天日本官憲は奉海鐵道車輛事件に付き北京政府及奉天政府當局に於て何等誠意を示す所なきに固り斷然自衛手段を斷行するに決定着手さる。**七日**劉奉天省長は日本政府の再次抗議に對し在奉天總領事林久次郎に對し洮昂鐵道の奉海鐵道へ車輛轉用事件交涉を北京政府外交部に移牒する事を通告し來れるを以て日本政府は直に第三次抗議を開始さる。**五日**米國政府は在北京公使マクマレーと國民政府外交部長黃郛との間に於て南京事變解決交涉成立に付き大滿足の意を表明さる。**七日**總司令蔣介石は各方面軍に通電して正式に北伐を宣誓し並に全軍に對して總攻擊命令を下せり。**八日**東支鐵道東部線海林驛附近に於て鐵橋破壞され馮玉祥の密命を受けたる馬賊團の行爲と判明せり**九日**南軍は總攻擊を開始し第一集團軍(總司令蔣介石の親しく指揮する軍團)は進んで江蘇省沿海の要地海州城を佔領す。漢口佛國租界內に共產黨員約七十名の潛在者在るに因り漢口當局は其引渡を要求し且つ同租界回收運動を起し各方面に聲援者起る。**十一日**國民政府は大學院(後に教育部と改稱さる)組織法

四月　一日安國軍は攻勢に出で全線に亘りて國民革命軍に對し總攻擊を開始さる。二日東支鐵道沿線在留日本人退去命令事件に付き奉天政府當局は釋明的回答書を在ハルビン總領事八木元八に提出し來る。在北京日本公使芳澤謙吉は奉海鐵道の洮昂鐵道車輛使用事件に付き北京政府外交部に向け再び嚴重抗省を提出さる。安國軍は激戰の後ち直隸省獲鹿縣城を佔領せり。東支鐵道南部支線（長春＝哈爾賓間）沿道在留日本人に對する退去命令事件は在ハルビン總領事八木元八の抗議に依りハルビン道尹公署外交科長は同總領事を訪問して釋明的回答を送達し該事件は扶餘縣知事の專斷に依り發せられたるものにて同知事を譴責處分し地方的に解決さる三日

四月　一日在北京米國公使マクマレーは國民政府との南京事變解決協定覺書を發表さる。國民政府は軍隊連坐法十九個條を制定し發布さる。共產黨軍は江西省玉山、浙江省常山各縣城を襲擊して之を佔領す。日本東京明治神宮外苑競技場に於て擧行せらるべき第八回極東オリンピック大會に出場するデ杯庭球選手（支那側）は林寶華、江道章に決定發表さる。三日上海共同租界行政に關し同租界居住支那人を市會議員として三名及委員六名を選任參加せしむる事に決定さる。英國內に於ては南京事變解決に關する米支協定は眞に兒戲に均しと冷笑を以て迎へらる。四日蔣介石　閻錫山　馮玉祥の三方面大集團軍は同時に三面大擧して奉天軍に對し總攻擊

さる。甘肅軍は奉天軍に援助して起ち馮玉祥軍を攻撃せり。在奉天日本總領事林久次郎は本國政府の命令に依り奉海鐵道問題に對する報復手段として滿鐵會社の車輛供給契約破棄を奉天政府に通牒を發送せり奉天政府當局爲に大恐慌を惹起す。**十三日**日蒙騎乘隊の一行は盛んなる歡迎を受け無事東京に入れり。露國共產黨員は滿洲に於ける日支兩國政府間の奉海鐵道車輛問題の紛糾に乘じ日本人使用支那人總罷業を計畫し以て全滿洲赤化の一大陰謀を逞ふし遂に發覺さる。**十四日**北京に於て芳澤公使と北京政府外交總長間に交涉中なる奉海鐵道車輛問題解決の曙光を認むるに至る。**十五日**奉天政府は同地の滿鐵附屬地內への出入貨物積載馬車輸送禁止を嚴

財政部は各地海關及常關監督に向け爾今中國文を使用すべきことを訓令して國權恢復の第一步を示す。山東省西部駐屯の馮玉祥軍は孫傳芳軍が南攻の隙に乘じ奇襲を以て濟寧城を佔領す故に孫傳芳軍は戰況不利に陷り遂に兗縣に退却せり。津浦鐵道戰線の南軍猛進し張宗昌軍遂に支ふる能はず兗縣城の守りを失ひ孫傳芳、張宗昌兩軍は共に泰安城に退却せり。蔣介石軍は津浦鐵道戰線に於て臺兒莊　繆培　嶧縣　棗莊の各地を佔領し又劉峙軍は韓莊　臨城を佔領し京漢鐵道戰線の馮玉祥軍は奉天軍を壓迫して直隸省順德城に迫まり更に中路軍は山東省の濟寧城に進軍し又閻錫山軍は山西省內娘子關（ニャアンツウコワン）附近に於て奉天軍に對し猛烈なる攻擊を開始せる爲め全線

を提出さる。北京政府外交部は奉海鐵道車輛問題に付き在北京の芳澤公使に對し不法なる回答を提出し來る。日本政府は從來日米兩國共同して北京政府と交渉中の無線電信臺問題に付き日米兩國間の協調不能と斷念し更に方針を一變して日本は獨自の立場より對支單獨交渉開始に決定さる。東京駐在民國公使汪榮寶は東京上野公園内に於て開催の昭和天皇御大禮紀念博覽會に對し同會第一會場人類館内に陳列せられたる支那土人裸體風俗人形は中國を侮辱するの甚だしき者なりとの理由を以て其撤去方抗議を提出さる。**八日**奉天軍は奮戰して河南省彰德驛を佔領す。**十一日**張作霖は各路全戰線に對し總攻擊命令を下す玆に於てか愈南北軍全戰線の決戰開

十ケ條を制定公布さる。**十三日**蔣介石軍は津浦鐵道沿線の韓莊、利國兩驛間戰線に於て張宗昌軍と會戰し南軍善戰して遂に勝敗決せず攻防陣地に據る。國民政府内政部長薛篤弼は國民政府の政治會議に對し支那固有の美德を提唱し發露し來れる忠孝仁愛信義和平の七端及格物致和、誠意、正心、修身、齊家、治國平天下八目の旨を恢復せる新道德大綱を提議し決議の上公布さる、**十五日**國民政府政治會議に於て外交部條約委員會規則を決定し公布さる、國民政府は北京政府との間に於て郵政協定を完全に成立せしめ五月一日より實施の旨を決定し發表さる、**十六日**馮玉祥部下第一方面軍總指揮孫良誠軍は奮戰の結果山東省濟寧城を佔領す。**十七日**國民政府

に命じ奉天城に歸つて關外の秩序を維持せしむ。**十九日**山東省城濟南駐在英國領事は泰安城在留英國人宣教師及濟南城内在留の同國人に對し引上げ命令を發せり。孫傳芳軍は馮玉祥軍の騎兵部隊に共側面を攻撃され更に馮軍主力は正面攻撃を開始せる爲め孫軍は大敗して兗縣城を守る能はず遂に泰安城に敗退す。山東省東南部の沂縣及日照縣方面に於ける山東軍は遂に不利に陷り退却す。**廿日**北京政府外交部は日本の山東省出兵に關して在北京芳澤公使に對し抗議を提出せり。日本政府は山東省各地在留日本人保護の爲め應急手段として天津駐屯軍より先發隊として五百餘名より成る混成一部隊を派遣せられ濟南に入城す。日本海軍陸戰隊五百五十名は南京岡本一策領事に手交さる。**廿二日**南軍は奮戰の結果先に孫傳芳軍の爲に奪取せられたる濟寧城を奪取回復せり。**二十三日**馮玉祥軍は奮戰して山東省泰安城を陷れ之を佔領せり。**廿四日**中國々民黨中央執行委員會委員丁維汾は國民黨を代表して米國一般殊に各新聞社並に米國議會に訴ふと冒頭して同國上院外交委員長ボラー及下院外交委員長ダラーに對し奉天軍の敗北並に日本軍の山東省出兵に關し如何なる重大事變を惹起すとも責任を負ふ能はずとの哀訴的聲明書を送達せり。**廿五日**總司令蔣介石は幕僚を率ゐて山東省曲阜縣城に入る。日本山東省派遣軍司令官第六師團長陸軍中將福田彦助は幕僚を從がへ青島市に上陸さる。派遣軍司令官福田中將は

命して報復手段を取れり。**十六日**張宗昌軍の津浦鐵道戰線に於ける界河防禦作戰は已に防守困難に陷り山東省泰安城附近に退守を餘儀なくされ爲に省城濟南の危機迫まる。**十八日**北京に於て交渉中の奉海鐵道車輛問題は支那側の屈服に依りて解決され北京政府外交部より其旨公表さる。張宗昌軍は戰ひ利あらず遂に退いて泰安城に據守せり。京漢鐵道戰線の奉天軍張學良統率の第三第四方面軍は河南省彰德城を佔領して固守せるも有力なる馮玉祥軍の逆襲を受け遂に支ふる能はずして敗走せり。**十九日**張作霖は北京の大元帥府に於て幹部會議を開き決議して黑龍江省督辦吳俊陞に命じて大軍を率ゐて急遽入關せしめ山東省德縣城に赴き應援せしめ又張作相

に亘りて奉天軍は戰況不利に陷る。**十八日**上海共同租界工部局は同市會の決議に依りて新公園、ゼスフヰルド公園、公共公園、ベビーガアデイン各公園を開放して從來の支那人差別待遇を撤廢さる。蔣介石軍は山東省臨城を佔領し勝に乘じて滕縣城を陷れ更に急追擊を斷行せる爲め張宗昌軍遂に支ふる能はず算を亂して山東省兗縣城に向け敗走せり。**十九日**國民政府は日本の山東省出兵に對し抗議提出さる。**廿日**上海總商會は日本の山東省出兵問題に關して在上海日本人商業會議所に向け警告を發送せり。**二十日**國民政府工商部長孔祥熙(コン、シヤン、シイ)は工商行政宣言十六ケ條を制定發表さる。**二十一日**國民政府外交部は日本の山東省出兵問題に關して正式の抗議書を在

るを以て貨車轉用事件は圓滿に解決さる。張宗昌軍遂に戰ひ利なく泰安城を守る能はずんば退いて省城濟南城死守の決心を聲明せり張軍の斯の意圖は日本軍を障壁として濟南籠城を固守せんとするものにして斯くては日本軍の立場非常の困難に陷るの憂ひあり。泰安城は馮玉祥軍の騎兵部隊に依りて佔領せられ山東軍所屬白系露軍騎兵部隊は殆んど全滅の危殆に瀕せり。**廿四日**北京政府外交部と芳澤公使との間に於て交渉中の日支通商條約改訂期は更に三ケ月間の延期を協定さる。孫傳芳、張宗昌兩將軍は白系露國コザック騎兵部隊に護衛せられて共に山東省城濟南に入城し省城死守に決定を傳ふ。**廿五日**日支兩國間の一大問題を惹起せる奉海鐵道車輛轉議さる。**二八日**蔣介石は河南、湖北兩省交界線上の雞公山上に於て馮玉祥と會見して重要軍議を遂げ卽日下山徐州城に歸る。南京政府司法部は新刑法を制定して之を公布し七月一日より實施に決定さる。朝六時一萬より成れる有力なる南軍の一技隊は山東省城濟南城の西南方なる津浦鐵道戰線上の崗山驛に殺到し來り孫傳芳軍は必死の抵抗を試むるものあるも濟南城の陷落は愈命旦夕に逼まり張宗昌軍の將卒は一般に戰意を失ひ主將張宗昌は己に自ら北軍の瓦解を豫言するの運命に瀕し大元帥張作霖は孫傳芳をして北軍の劣勢を恢復せしめんと焦慮苦志せるも孫傳芳は己に結束力なく挽回の策全く盡く。**廿九日**南軍は山東省内界首城を佔領す。**卅日**國民革

青島市に上陸し市內に配備さる。津浦、京漢及西南の各戰線に於ける北軍は士氣頗る振はず連戰連敗の不利に陷り山東省城濟南の危機逼まり又界河、兗縣大名各地皆な南軍の爲に佔領せられ一面孫傳芳軍の全滅說起り北京城內外に亘りて嚴重なる戒嚴令布かる。山東省德縣城駐屯の奉天軍第三第四方面軍張學良統率部隊中の一部隊は反旗を飜へして兵變を惹起せり。**廿一日**安國軍中の孫傳芳軍は奮戰して山東省濟寧城を奪回せり。**廿二日**北京政府外交部は日本の山東省出兵問題に關する第二次抗議を又張宗昌の廿日附抗議書を何れも在北京日本公使館に提出せり。**廿三日**北京政府交通部は滿鐵對奉海鐵道連絡輸送協定を批准して在北京の日本公使館に送付せ

北軍の張宗昌、孫傳芳及南軍の蔣介石、閻錫山、馮玉祥等兩軍の將領に向け山東鐵道破壞を嚴禁する旨通告を發せらる。**廿六日**日本山東省派遣軍司令官福田中將は山東鐵道沿線各地在留日本人に對し危害を及ぼすが如き場合には南北兩軍何れを論ぜず即時に武裝解除を斷行する旨兩軍司令官に向け聲明を發表さる。**廿七日**日本陸軍士官學校に於て民國留學生中國民黨所屬李登明外廿四名が日本政府の第二次山東省出兵に對し中華民國駐日陸軍士官學校國民黨學生全體の名義を以て山東省出兵反對の檄文を各方面に配付し又同事件に對して不滿を懷き退學を出願せるに依り斷然退學處分に附せらる。國民政府政治會議に於て一千萬元軍需公債條例十九ケ條を決

も大勢遂に振はず又濟南城の東方山東鐵道線の明水驛附近は既に南軍有力部隊の佔領する所と爲り張宗昌軍の運命殆ど逼まる。**廿九日**日本山東省派遣軍司令官福田中將は幕僚及各隊を統率し自ら山東省城濟南城に入城して在留民保護の重任に當れり。三百餘名の山東軍敗兵は濟南商埠地内日本人倉庫を掠奪し隣地の日本人住宅を破壞せるが故に日本軍は武力を以て之を驅逐し暴徒一名を射殺して之を鎭定さる。**卅日**日本軍は廿九日青島市を出發し强行軍にて濟南城に到着す。張宗昌、孫傳芳兩軍は夜山東省城濟南城を拋棄し北退して德縣城に敗走す。張作霖は津浦鐵道戰線方面軍の大敗北に因り萬全の作戰を立んとし軍令を以て軍事部長を任命し何豐林を

用事件は共使用貨車全部を洮昂鐵道に還送せるを以て南滿洲鐵道會社は報復手段として取れる停止中の奉天城根線車輛引入れ再開を許せり。**廿六日**第七次日滿國際連絡運輸鐵道會議を在ハルピン東支鐵道倶樂部に於て開催さる。張宗昌は遂に全局の戰況不利なるを覺悟し密かに家族を芝罘に避難せしむ。張宗昌は孫傳芳と凝議の結果相携へて省城濟南を出で南方界首の前戰陣地へ向ひ最後の決戰を試みるの意圖を決せり。**廿七日**滿鐵對奉海兩鐵道連絡運輸協定を批准さる。北京政府外交部は滿鐵對奉海兩鐵道車輛問題の日支交渉に關する手續き完了の旨を發表さる。**廿八日**張宗昌軍は界首の戰線より北退して濟南城の西南方に兵力を集結して防戰怠りなき命軍は各路の戰線に於て連戰連勝直に破竹の勢ひを以て進攻し來り山東省城濟南城に向つて大擧集中的一大進擊を開始せるを以て張宗昌軍は壞亂敗走の窮境に陷り山東鐵道の戰線に肉迫せる南軍諸部隊は既に濟南城の東方四哩なる郭居に殺到し進擊續行に轉ぜり。濟南城遂に陷落して南軍の方振武軍は先登第一着省城に入城し青天白日旗飜へる。省城濟南の東方山東鐵道戰線上に肉迫せる南軍は右翼を劉峙、賀耀祖軍とし左翼は方振武軍と爲し共に武器彈藥豐富にして北進追擊に急なり。

め呉俊陞を急き德縣城に派駐して全軍を統督せしむるに決定さる。張宗昌は午後七時部下に下令して五月二日中に黃河北岸に集結して德縣城に向け退去せしむ。

五月　**一日**張宗昌は濟南城拋棄敗戰の責任者として罷免され北京に於ける緊急軍事會議は今後の軍事善後委員及舊張宗昌軍の指揮權を孫傳芳に委任するに決議さる。**二日**大元帥張作霖は京漢、津浦兩鐵道戰線駐屯の北軍に對して總退却命令を下すの止むを得ざるに至れり。福田派遣軍司令官は午前五時四十分山東省城濟南に入城せらる。張宗昌軍は總退却に際して山東鐵道沿線の淄川、朝辛店（青島市の西方二六〇キロ）に於て鐵道及電信を破壞し二日午前三時より不

五月　**一日**早朝國民革命軍の第一縱隊たる第十軍の第三師長徐思宗は山東省城濟南城の西南一帶に連亘せる千佛山の近道より軍を進めて先づ濟南城の南關に到り直に城內に侵入して治安の維持に當れり然れど城內隨所に於て小掠奪行はれたり尋で第一軍の第廿二第廿四の兩師入城し午前八時車站附近の兵營に入れり軍紀極めて良好と認めらる。南軍第四十軍長方振武軍は濟南入城後直に日本軍參謀長齋藤大佐に面會して日本軍に對して敬意を表し萬事宜しく御指導を乞

以て東路後防司令と爲し德縣城に駐屯せしめ汲金純を以て西路後防總司令と爲し山西省大同城に駐防して軍事を督せしむ。明末の朱舜水に比せられて日本に聘せられたる日本文學博士辜鴻銘は北京の自宅に於て肺炎に罹りて逝去す時に年七十三歲也。夜深更張宗昌は孫傳芳、王占元等と共に特別列車に同乘して德縣城方面に撤退し同時に山東軍主力部隊も北方に向けて撤退を開始す。張作霖は黑龍江省督軍吳俊陞が昨日北京に入れるを以て同夜直に吳俊陞、何豐林、于國幹、汲金純等の巨頭を北京の大元帥府に召集して最高軍事會議を開き協議は遂に卅日朝に及び其結果津浦鐵道戰線を黃河北岸の禹城を以て第一防禦線とし德縣城を以て第二防禦戰線と定

れん事を乞ふ旨を申込む。山東鐵道沿線駐屯の劉志陸軍は南軍に內應して青島軍に向つて進擊を開始せり爲に日本軍司令官は青島市內に進入せざること外二項の嚴重なる警告を發せらる。馮玉祥軍は奮戰の結果遂に直隸省磁縣城を佔領せり。**三日**山東省城濟南城に於て日支兩軍は誤解に因つて遂に衝突を惹起し兩軍に各多數の死傷者を生じ爲に日支兩國間の一大不幸事件を演出され爾來十日に至つて南軍の退城を見るに至り方に軍事を終息す即ち世に所謂有名なる濟南事件にして南軍中主として日本軍と交戰せし者は賀耀祖及方振武の兩軍と爲し日本山東派遣軍は司令官陸軍中將第六師團長福田彥助親ら總指揮官と爲りて善戰好防僅かに三千餘の寡兵を以

通と爲る。張作霖は京漢、正太兩鐵道一帶の戰線に於ける奉天軍に對して總退却命令を下せり。張作霖は戰局の大勢北軍に不利なるを覺悟して家族等を急遽奉天に歸還せしむ。青島市防守司令祝祥奔（ツウ、シャン、ペン）は劉志陸軍の壓迫に因りて海路より天津方面に向け退却の準備を整ふ。

ふ日本政府の對支出兵宣言は十分に之を諒承す治安維持の全責任負荷すべし予は一部隊を殘留せしめ直に北進する旨を述べ互に意圖を諒解したるを以て日本軍と南軍との間に於ては圓滿に連絡行はる。福田司令官は濟南駐在日本總領事代理西田耕一と協議の結果南北兩軍の交戰區域に關して通告を發せらる。蔣介石は濟南城陷落と共に兗縣城より司令部を率ゐて濟南入城に決し外交部長黃郛も共に入城して外交事務に任す。上海特別市政府は附近十七市鄉を合併し新たに十六區に區劃し地域名稱等の變更及び市制條例を公布せり。早朝九時半蔣介石は濟南に入城し直に日本軍司令部に對して南軍は日本居留民の保護に當るべきを以て日本軍は直に撤退せ

七日日本政府は支那南北の大戰を以て將に日本の既得權及び在留民の生命財產を危殆に瀕せしむるものと爲し南軍總司令蔣介石及び北軍の大元帥張作霖に向ふて一大警告を發送さる。北京飛行機濟南城上に飛來し盛に爆彈を投下し商埠地內に落下せしもの少なからず爲に日本軍は自衞上止むを得ず共中一臺を射落し北軍に對して今後斯かる事なき樣嚴重なる抗議を提出さる。

九日張作霖は內爭に基因して遂に日本軍と外戰を惹起せしに鑒み愈々戰事を息止すべき電報を發して各前線に命令を下して攻擊を一律に停止せしむ。日本政府は第三次山東省出兵に關し左記長文の聲明書を中外に向け發して居留民の保護以外に出兵目的なき事を力說する所あり

傷約八百名に達し而して日本軍の爲に武裝解除せられたる者千五百餘名に上る又濟南在留日本人は二千百五十五名にして婦人小兒の一部は青島市に避難せる者あり。**四日**南軍賀耀祖部下第四十軍は濟南商埠地內在住日本人の商店及住宅を襲擊して掠奪虐殺強姦等の凡ゆる惡虐を恣にし遂に日本軍との間に大衝突を惹起す。山東鐵道沿線明水驛に於て日支兩軍衝突を起す。米國政府は先に驅逐艦五隻を青島市に派遣し在りしが時局の變化に鑑み更に潛水艦六隻母艦一隻を同地に急派す。南軍中共產主義色彩最も濃厚なる賀耀祖統率第四十軍が武裝なき日本人殊に婦女子に對し慘虐暴戾天人共に許さゞるの暴虐慘行を逞ふし遂に日本全國民をして憤慨の極對支

三日京漢鐵道戰線に於ける奉天軍の主力部隊は直隷省南部の要地たる順德城の線に總退却を餘儀なくされ又奉天軍萬福麟指揮の第八軍は山西省内九龍關方面の戰ひに於て大敗し遂に直隷省京漢鐵道沿線の石家莊驛に向つて敗走せり。楊宇霆は石家莊驛に於て第三、四方面軍長張學良が北京入京の後を受け退却軍の收容整理重任に當り又何豐林は東路攻防總司令官たるの重任を受けて不本意にも山東省德縣城に向け出發せり

て能く十餘萬の敵軍を粉砕し皇國の武威を顯揚し世界の重きを致せり。山西軍は山西省九龍關方面に於て奉天派萬福麟軍を石家莊に敗走せしむ。三日午前十時山東省城濟南城外商埠地内に於て南軍兵士の在留日本商店掠奪に基因して日支兩軍衝突を惹起し遂に開戰す在留日本人掠奪事件起り之が救援の日本兵は南軍兵士の爲に射撃せられ四名負傷す爲に日本軍は止むなく應戰す尋で十一時に至り兩軍交戰を中止し日本軍は停戰せしが南軍の命令徹底せず發砲す爲に再び應戰し午後一時に至る迄で激戰を交へ双方多數の死傷者を出せり遂に夜に至り九時頃迄に日本軍は將校以下死傷者卅名に上り全兵力は約三千五百名にして南軍は四萬餘に上り南軍の死

るが故に其目的は第一次派兵の際に於けると何等異る所なし右第三師團の增派と共に別に五個中隊を內地より天津に派遣せらるゝ事と爲りたるが右は先に支那駐屯軍より應急處置として其一部を濟南に派遣し有る事情に顧み來る六月內地より派遣さるべき支那駐屯軍の定期交代部隊の出發期を繰り上げ此際派遣せらるゝ事と爲りたる物たり尙長江及南京方面に巡洋艦驅逐艦若干を增加せらるゝ事と爲りたるが右は南方諸地方に於て濟南事件に關する萬一の誤解より意外の事端を發生するが如き場合居留民を保護せんが爲の目的に出でたるに外ならず之を要するに今次陸兵の增派及軍艦の增派は濟南事件に關係して生ずる事有る可き不祥事件に對し居留民の

擊破粉碎す。**五日**南軍部隊は濟南城外商埠地を退却せるも更に誠意を示す所なく交涉數日に及ぶも寸効を見ず。國民政府代表上海の金交涉員は濟南事件に關して矢田上海總領事を訪問して不法の抗議を提出せり。國民政府外交部長黃郛は三四兩日に亘り濟南城外商埠地に於て行はれたる南軍の虐殺慘行狀況書に自ら署名して南軍の暴行を承認する所あり。**六日**上海總商會は南北兩軍の各將領に對して停戰を提議せり。**七日**廣東市に於て排日大會を開催さる。濟南事變の爲め西洋人の被害者判明せる者獨國人二戸掠奪され米國人宣教士一名慘殺さる。濟南政治委員長蔣作賓は代表を日本軍司令部に派遣し來りしが共責任の所在判明せず又日本軍の軍事的要求

日本政府の第三次山東　出兵聲明書

曩に動亂濟南方面に波及せんとするや同地方在留邦人保護の爲め軍隊を派遣すると同時に右派兵に關し帝國政府の態度を宣明する所ありたり然るに濟南に於ける不祥事件の發生以來同地方の事態惡化し現在の兵力を以てしては居留民保護に於て萬全を期し得ざるの憾有るのみならず青島市と濟南城とを連絡する山東鐵道は隨所に破壞せられ交通の確保を期し難きの現狀に有り依て同方面居留民の保護に遺憾なからしめ且つ山東鐵道交通の確保を期する目的を以て第三師團を山東省に增派せらるゝ事となれり今次の增兵は上述せる如く山東省方面在留邦人の保護及之に必要なる山東鐵道交通の確保を期するに有

開戰國論を絶叫せしむるに至り又世界列國の志士仁人をして酸鼻せしめ人類の公敵として其膺懲を叫ばしめ更に一面には國際聯盟會議場の一大問題たるに至り是れ吾曹日本國民の永久に牢記せざる可らざるの一大被辱事件と爲す。午前十時頃尙ほ日支兩軍激戰を交へ日本軍の死者十名負傷者卅二名に上り戰利品は山砲二門砲彈二萬餘個手榴彈二千小銃彈丸二百萬發及小銃無數を算す斯く賀耀祖軍は豫め手榴彈を用意し居りて計畫的襲擊の證據歷然たるものなり。黃河鐵橋破壞され且つ黃河北岸より德縣城に至る間の津浦鐵道も破壞されて京津方面よりの救援は絶望に瀕せり故に日本軍(第六師團の一部)は敵の重圍に陷り僅に三千餘の寡兵を以て十餘萬の敵

十日北京駐在日本公使芳澤謙吉は北京政府に對して第三次の日本軍出兵を通告さる。北京に於て全國商會聯合會は緊急會議を開きて日本軍の濟南城に於ける行動は米國ワシントン府に於ける先年の所謂華府會議に於ける決議の第一條に規定せられたる中國の主權並に領土尊重の條項を全然無視するものなり依て全國商民は宜しく排日外交の後援者と爲り且つ即時内爭を停止し共力一致して以て外敵に對すると共に一方には事件の眞想を世界に宣傳し以て公平なる判斷を求め又他方には經濟絶交を以て日本の覺醒を促がす可しと爲し南北和平促進を强調せる宣傳を内外名地に向けて通電さる。

三　十二時間以内に辛莊駐在軍隊の退去。

四　排日宣傳の嚴禁。

五　濟南及山東鐵道沿線兩側廿支里以内の支那軍隊の駐在を禁ずる事。

右に對しては七日夜十二時戰時政務委員會主席蔣作賓は在濟南日本總領事館に來訪し福田司令官の要求は大體に於て承認すべきも軍事上に關する事項は自己一人に於て何等の回答を爲す事不能に付き暫く宥容を乞ふ所ありしも福田司令官は之を以て滿足と認むる能はざる旨を告げ遂に最後的通牒に依る軍事行動に移れり。八日國民政府は訓令を發して罷工罷課を嚴禁し共產黨の煽動に乘ぜらるゝ勿れとの旨を通電さる。濟南に於ける南軍の暴虐は言語に絶し日本人墓地

生命財產を保護せんとする趣旨に外ならずして其必要止むに從ひ隨時撤退せらるべきものなる事は言を俟ざる所なりとす。

這回の濟南事變に關しては英佛其他の列國皆な異口同音的に擧つて日本軍の態度所置に對して同情感銘の誠意を表明せざるなし。

全部を肯せざるが故に福田司令官は蔣介石に對して十二時間の期限を附して左記軍事的要求を致し若し肯ぜざれば軍事行動に移るべき旨を通告さる。

總司令蔣介石は濟南事變に關し屢ば中外に聲明して決して外人に對し壓迫的行動に出でざる可しと言明せしにも拘はらず斯る不祥事變を惹起して日本軍並に居留民に對し見に忍びざる慘虐行爲を加へたる事は本司令官の黙忍する能はざる所なり依て一切の交涉は本國政府より當然處理すべきも取敢へず軍事的要求を爲すものなり

一　本事變關係の南軍高級幹部の嚴罰。

二　日本人に危害を加へたる軍隊全部を日本軍の面前に於て武裝解除する事。

は郭店及龍山地方に散在せる南軍の一掃及武裝解除を完了して濟南城へ向ひ歸途日沒頃周家莊附近に於て有力なる陳調元軍と會戰して之を破る。南軍は軍使として熊式輝を日本軍司令部に派遣し來りて交渉する所ありしも談判不調と爲り軍事行動繼續を全軍に嚴達さる。**九日**上海各界團體代表者は上海總商會に於て五九國恥各界市民代表大會を開き六十餘團體の代表一千餘名出席して濟南事變に對し對策廿四項を決議せり。上海各界日軍暴行反抗委員會は執行委員會を開き鄒志豪、聞蘭亭、葉惠鈞、王延松、劉雲を常務委員に選任し對日經濟絕交策六項を決議發表せり。國民政府主席譚延闓はヂュネーブの國際連盟書記長に宛て濟南事變の顚末に付き支那

を發掘して死體を引出し頭蓋骨を碎き死體を粉碎し慘狀見るに堪へず。福田司令官は遂に最後通牒を發して南軍に對し再び濟南城攻擊を開始さる。日本軍は山東鐵道保護の爲め沿線より南軍の撤退を要求せるも南軍は之に對し濟南城の西南約四哩なる陳家口驛（チエン、チヤーカオ）に於て日本軍を猛擊せる爲め日本軍は止むなく應戰せり。濟南駐屯第六師は此日午前十時濟南に入城せる滿洲遼陽駐在第十四師團管下大連柳樹屯駐屯第廿八混成旅團長外山豐造少將の指揮する一混成旅團と協力して直に城內及北方黃河鐵橋、東方郭店、南方千佛山、辛莊各方面に於ける南軍の武裝解除に着手し引續き戰鬪開始され南軍遂に大敗して南方に敗走せり。外山少將の率ゆる第廿八混成旅團

變の益惡化し危險に瀕するに因り參謀總長鈴木莊六大將は赤坂離宮に參內し天皇陛下に上奏し御裁可を仰ぎ直に在名古屋第三師團長陸軍中將安滿欽一に對して動員令を下せり。國民軍總司令蔣介石は濟南城より泰安城に退却駐屯し南軍の主力を同方面に退却集中せり。濟南城內の方振武の率ゆる南軍は日本軍の武裝解除に應ぜず抵抗せる爲め第六師團管下步兵第十一旅團長齋藤劉少將の率ゆる旅團及天津駐屯軍中より急派せられたる一部隊は濟南城正門を佔領し督辦公署、省長公署等を目標として砲擊を開始し殷々たる砲聲は忽にして同城內を大混亂に陷らしめ流石に暴虐慘忍を極めたる方振武軍も愈降伏の決意を爲し濟南總商會を通じて午後三時に至り

人特有の逆宣傳を試み日本軍の濟南に於ける行動は中國の主權を侵害し國際平和に危害を及ぼすものなるが故に連盟規約第十條及十一條に依り理事會を召集して日本の暴行を停止し並に軍隊を撤去せしめ且つ連盟より委員を派出して濟南事變の實狀を調査せられん事を要請せり。田中外務大臣は外務省に在東京英國大使チリー、米國大使マクヴエー、佛國大使ピイー、伊國大使代理ワルシヨツトの四國大使に參集を請ひ山東省城濟南城に於ける日支兩軍の衝突事變經過を詳細に說明報告し且つ日本の對支出兵は在留民の保護並に既得權擁護以外に於て何等の目的なきを告げ右英米佛伊四國政府の諒解を求むる所あり。日本政府は山東省城濟南城に於ける事

十一日張作霖は形勢不利に陷れる奉天軍北京退却の口實を濟南事變に藉り擧國一致以て日本軍に當らざる可らずと高調し南北兩軍に向け卽時停戰すべしとの通電を發せり。山東省德縣一帶の北軍は全く戰意を失ひ第一防禦線を滄縣城に第二防禦線を馬廠(マアーチャン)に置き右陣地に佔據して防禦の作戰を立つ。張學良の指揮する京漢鐵道戰線の奉天軍は戰はずして石家莊驛を放棄し保定城に退却し山西軍之を追擊して定縣城に達し馮玉祥軍は石家莊以南に駐防す。北軍は德縣城を放棄して北退し直隸省滄縣城に據る。在青島市藤田總領事、在濟南西田總領事代理は派遣軍首腦部と協議し濟南城內に總商會代表を招致して支那側行政機關設置を勸告し日本軍は單に警戒し何時砲火を交ゆるに至るやを計り難き形勢に瀕し南京郵務局在勤岡田郵務官は危險を感じ九日夜密に上海に避難せらる。**十一日**日本軍は十一日朝完全に濟南城を佔領せり。蔣介石は山東省兗縣城に於て濟南事變善後策を協議し國民政府の名を以て濟南方面各軍に對し速に黃河を渡り北進し濟南城に止る勿れと命令せり。四川省の鄧錫侯と劉湘兩軍は相抗爭を續けしも李宗仁等の調停にて終息を告げ鄧錫侯を推して四川省政府主席と爲し劉湘を推して川邊政府主席と爲し双方始めて互讓し妥協さる。馮玉祥軍の騎兵集團は德縣城の西方十三哩の禹城附近に迫る。國民政府は濟南事變の元兇たる賀耀祖を懲罰に附し免職す。國民政府は濟南事變に關し米國政

日本軍隊に降伏せり依て日本軍は之が武装を解除さる。濟南城外商埠地内に在りし南軍全部掃蕩さる。**十日**國民政府財政部長宋子文は濟南事變に關する聲明書を發表して日支同罪論を主張せり。山東省派遣第六師團管下步兵第卅六旅團長岩倉正雄少將の率ゆる一個旅團は津浦鐵道沿線唐家莊及完山橋、辛店附近の南軍を掃滅し濟南城四圍の各要地は悉く日本軍の佔領する所と爲る、濟南城内以外の南軍は已に一掃せられ山東鐵道の確保及居留民保護の目的達成せられ列車運行及郵便電信等も漸次復舊せらる。南京の對日形勢は極度に險惡化し八日午後七時頃より日本人の電報は一切取扱を停止し電話も接續を拒絶せり同地警備日本軍艦も又極度の緊張を呈

十二日天津駐屯各國軍事當局は京津一帶の危機刻々に迫るを認め天津列國共同防備に付きて會議を開き日本軍司令官の主張たる支那人廿支里以內に進入を禁ずるの案に對して列國側は現在の天津駐屯列國軍合計一萬餘の少數を以て廿支里防備の不可能を主張して日本軍と列國軍側との意見遂に一致せず。

派し濟南事變暫行的解決案及日支兩軍々事行動停止細目協定の議決を行はしむ旨通告し來る。蔣介石の派遣せる行營總參議何成濬は日本軍司令部を來訪し福田司令官の提出せる五ヶ條の要求を大體に於て承認の旨を陳ぶ。福田司令官は濟南城偩安門內の米國人經營齊魯大學が南軍に應援せる事實を認め同校長代理の承認を得て校內を搜索せしめたるに武器彈藥及排日文書等を押收し校長代理は始末書を提出して謝罪せり。

十二日日本軍は濟南城內督辦公署を搜索の結果日本軍の最後通牒に對し蔣介石、方振武、王正廷等の諸要人が七日午後より夜に入りて秘密會議を開きし當時の議事錄を發見せり其內容左の如く則ち南軍の計畫的襲擊を明瞭に立證せる重

に止むる旨を訓示さる。

府に調停を依頼せしむる爲め在佛國巴里の前外交部長伍朝樞に向け急ぎ米國ワシントン府に赴く可き訓令を發せり。參謀總長鈴木莊六大將は濟南駐防第六師團長福田彦助中將に向け南軍との戰鬪を中止し以て居留民保護に當る可き旨訓令さる。濟南城民卅萬は好感を以て日軍の入城を迎へ城內一流の青天白日旗なく日本軍は總商會と協力して治安を維持さる。王正廷は蔣介石の懇請に依りて濟南城に來り政務を取る事と爲り日本軍憲及外交當局と折衝の任に當れり。未明に至り濟南城內佔據の方振武軍は頑强に日本軍に抵抗を續けたるも遂に力屈して降服し城遂に陷り日本軍完全に之を佔領す。蔣介石は國民政府總參議何成濬を全權代表として濟南城に急

十三日張作霖は侍從武官長邢士廉を青島市に派し支那側首腦部と重要問題に付きて協議せり。北京、天津間の交通確保及公使館區域並に天津各國租界防備方法に付き在天津各國軍司令官會議の決議に依り日本軍司令官新井龜太郎少將の提議に基き天津周圍廿支里の地點に警備線を決定し英米伊佛の各國軍も日本警備軍に依賴して天津東停車場其他を含む租界警備の必要ある地點を確保して以て天津在留各國人の生命財産保護の任を完ふする具體的計畫を決定さる而して北京、山海關間の各國軍事警備受持區域は從來より北京、楊村間は英國軍。楊村、塘沽間は佛國軍。塘沽、蘆台間は伊國軍。蘆台、唐山間は米國軍。灤州、山海關間は日本軍とす。京漢鐵國民政府の行爲に對して反對を表明さる。馮玉祥は張作霖に向け一週間以内に北京を退出す可し若し從はずんば蔣介石、閻錫山兩司令と協力し一擧に汝の軍を擊滅す可しとの脅迫宣言を通電せり。漢口の排日運動愈盛んと爲る、本日午後六時に至り南軍は完全に德縣城を佔領し先發部隊は德縣城の北方約廿哩の吳橋に到達す。

十三日國民軍總司令部は日本軍の濟南城攻略に關して逆宣傳的聲明書を發表し以て責任轉嫁の權謀を逞ふす。**十四日**上海海關附屬の通關手續取扱業者等は日貨の通關取扱を中止す。米國政府は濟南事變に關する日本政府の聲明を信賴する旨の聲明書を發表せり。蔣介石は濟南駐在日本總領事館を通じて福田司令官に對し電報を以

要機密文書と爲す。

一日本軍が無謀なる條件を提出して二十支里以外の地點に進出して我が北伐の進行を妨害するに於ては日本軍との一戰を辭せず。

二蔣介石は日本軍の最後通牒に對して回答を爲さゞる事とし戰鬪を遲延せしめ以て其間に於て十分の準備を完成する事。

三外國方面に於ては若し我軍が日軍と戰端を開始せば米國は必ず我軍に援助する事必然と信ぜらる。

以上に付ては方振武は最も强硬に主張せる證跡を存せり。

國民政府濟南事變を國際連盟に訴願せるは華府會議の四國協議を無視する者と爲し英國政府は

に對し抗議的通牒を芳澤公使に送達せり。東京商工會議所は支那問題協議會を開き對支和平勸告に關する件其他對支問題三項の重大案件を決議さる。天津駐屯各國軍は一齊に其受持部署の防備に就く。米國天津駐屯軍は共同居留民保護に參加すべきも連合軍指揮官の指揮下に入らずして獨立行動する事と爲り若し戰鬪行爲に入るに至らば米國軍は居留民を天津より撤退せしめ自國軍艦に收容を決定さる。日本政府は在ジュネーブ國際連盟日本事務局長佐藤尙武の申請に基き濟南事變顚末を詳細に中外に聲明するに決定さる。十六日奉天軍は京漢鐵道沿線望都城の交戰に於て逆襲を試み閻錫山軍二個師團を破る。戰線より急ぎ入京せる張學良、楊宇霆、孫傳直隷省滄縣城方面に向け進軍す。十七日夜香港に於て數百名の支那學生暴徒團大擧して同地在留日本人を襲撃せり。南軍は濟南城に於ける日本軍との交戰に於て國際條約禁止のダムダム彈丸を使用して暴虐行爲を逞ふす依て日本軍は右彈丸を拾集して立證し並に日本負傷兵を治療せる濟南病院長牧野融は之を證明す。日本政府は午後五時外務省に英米佛伊四國大使を招き又一方には在北京の芳澤公使及濟南、南京駐在日本領事に宛て蔣介石、馮玉祥、張作霖等の各指揮官に對して各左の聲明書を覺書として手交すべき手續きを訓令し同時に右四國大使に對しては田中兼攝外務大臣は親ら聲明書を手交して詳細に説明せらる。

道戰線の奉天軍は馮玉祥軍騎兵集團に急追擊を受け遂に直隷省順德城及石家莊驛を放棄して保定城に敗走し同地に各部隊を集結せるも全軍已に士氣なく戰意を失ひ一方又保定城地方の住民は奉天軍に對して惡感情を有するが故に此戰線に於ける一大決戰を遂げ得る望なきに陥る。渤海艦隊の海圻、海琛、肇和三艦は未明に厦門市を砲擊し人心に一大脅威を與へて去る。山東省濟南城駐防日本軍司令官福田中將は支那側濟南總商會を中心とせる有力者を召集し協議の結果臨時警察總局を特設し前濟南憲兵司令官田友望を同局長に推し責任を負ふ事と爲る。**十四日**名古屋第三師團の先發隊一行早朝青島市に上陸す。**十五日**北京政府は日本の第三次山東省出兵

て會見を申込む。**十五日**中華民國大學院は三民主義教育實施、教育行政統一及其他經費保證等の重要問題審議決定の爲め全國教育專門家を南京に召集して全國教育大會を開催し廿八日に至て之を閉會し廿二ケ條の規定を設く。米國政府は濟南事變に關する國民政府の哀訴に付きては初めより日本政府の聲明に信賴し國民政府に對し何等の回答を與へず。支那南北兩軍の運命を一決すべき一大決戰機迫り支那戰史上未曾有の長大なる戰線に亘りて南北兩軍相對陣して戰機熟するを待つ。**十六日**津浦鐵道戰線の南軍主力は泰安城及肥城縣方面に後退駐屯せしも俄に濟南城の西南方なる黃河南岸の東阿縣城方面より渡河北進し馮玉祥軍と連絡を保ち右翼に進出し

果敗北入滿の時は山海關の線に於て其武裝を解除し又之を追擊せんとする南軍の入滿も均しく武裝を解除し妨止方針を決定さる。張作霖の法律顧問法學博士蕭欣伯は張作霖の密命を帶びて極秘裡に東京に入る。日本政府は張作霖の歿落敗戰を洞見し張作霖歿落直後に於ける東三省政權解體に伴ふ擾亂對策其他四項の對滿治安維持に關する重要會議を奉天駐在總領事林久次郎主管下に於て在滿全領事會議を開催凝議せしむる所あり。張作霖は奉天軍東路攻防總司令何豐林を免じ穆春を以て之に代ふ。京漢鐵道戰線望都城附近の前衛戰は奉天軍の敗北に歸し又京綏、津浦兩鐵道戰線の戰ひ共に北軍不利に陷り遂に後退す。**十七日**鈴木參謀總長は支那京津方面危るが故に戰亂京津地方に進展し其禍亂滿洲に及ばんとする場合には帝國政府としては滿洲治安維持の爲め適當にして且つ有効なる處置を取らざるを得ざる可し然れども交戰者に對し嚴正中立の態度を持す可き帝國政府の方針に至ては固より何等變改なき次第なるが故に右の如き處置に出づる場合に於ても其時機と方法とに就ては兩者に對し何等不公平なる結果を生ずるに至らざる樣周到の注意を拂ふの用意ある事を確言す。

右は所謂日本政府の五月十七日附宣言として著名なる外交文書と爲す。

濟南城駐防の外山少將統率の混成旅團に對して鈴木參謀總長は原駐地滿洲に歸還命令を下さ

芳等の巨頭は十五日夜曉に至るまで大元帥府に於て會議せる結果京漢鐵道戰線は保定城附近に集結せる奉天軍の主力を以て早くも望都城附近に肉迫し來れる山西軍約二萬馮玉祥軍約三萬前衛部隊の準備整はざるに乘じて總攻擊に轉ずるに決し張學良、楊宇霆は急ぎ保定に赴き閻馮兩軍の進擊を撃擊し戰鬪を開始せり。日本政府は緊急會議を開き京津方面に對する警備並に滿蒙地方に關する對策に就き協議の結果京津地方の警備は居留民の現地保護と交通機關の確保とを主限とし尙京津地方の警備方法細目は天津駐屯各國軍司令官會議の決定案に依る可きは勿論若し張作霖が北京撤退の際平穩に奉天城に歸還せば敢て之を妨止せず然れども若し南軍と一戰の結

覺書

永年に涉る支那戰亂の結果一般國民の生活は極度の不安と困憊に陷り支那在留外國人も又居に安んじ業に從ふに由なき狀況に在るを以て戰亂が一日も速に終息し統一せる和平の支那を見るに至らん事は外國人並に支那人の均しく熱望する所にして殊に支那の隣邦として利害關係特に深き帝國の熱望して措かざる所なり然るに今や動亂京津地方に波及せんとし滿洲の地も又將に其影響を蒙らんとするの恐れ有るに至れる所抑も滿洲の治安維持は帝國の最も重視する所にして苟も同地方の治安を亂し若くは之を亂すの原因を爲すが如き事態の發生は帝國政府の極力防止せんとする所な

止め擧國一致以て外敵に當らざる可らずとの通電を發す。**十八日**在北京芳澤公使は本國政府の覺書を北京政府外交總長に手交さる。孫傳芳は大元帥府軍事會議に於て主張せる結果京漢、京綏兩鐵道戰線北軍主力の後退集結を容易ならしむる爲め直隸省滄縣城方面に於て南軍の北進を防止するの作戰を以て張宗昌軍に代り津浦鐵道戰線總司令官に就任し副司令褚玉璞と共に奉天軍が京漢、京綏兩戰線主力の陣容立直し迄で滄縣城を固守するに決定せり。張學良、楊宇霆は手兵五百を從へて午前四時保定城より北京に歸來す。京漢鐵道戰線の奉天軍は梁格莊、蔚縣城方面より山西軍に壓迫され保定城に在りし奉天軍の主力第三、四方面軍總司令部は北京の南西

嚴重なる取締を要求さる。在ハルピン勞農露國幹部は本國政府の訓令並に大連に在りたるハルピン駐在總領事アボルヂンの建議に基き馮玉祥軍の北支に於ける戰局進展狀態に鑑み排外思潮を刺激して滿蒙地方の擾亂を策謀し以て日英兩國對米國の利害を衝突せしめ露國以外の國際大戰場たらしめん事を企圖す。國民政府が濟南事變に關して國際連盟に訴願せる事件は頗る不評判にて受理不受理先づ同連盟事務局に於て一問題と爲る。山東省德縣城を佔領せる馮玉祥軍騎兵集團は南皮縣城の西北に位せる泊頭鎭（バイタオチエン）に進出し滄縣城攻擊を開始す。**十九日**米國々務長官ケロツグは非公式なる新聞記者連合會に於て日本政府の對滿蒙聲明書は國際的紛爭を惹起するの

急を告げ山東省駐防軍中第三師團より歩兵一個聯隊野砲一個大隊飛行機一個中隊に對し同方面へ出動命令を下さる。天津駐屯軍司令官新井龜太郎少將は各國軍司令官會議の決議に依り各國軍司令官を代表して張作霖、蔣介石、馮玉祥軍の各指揮官に對し濟南事變の如き慘虐暴行を再びするなからん事を主旨とする警告を發せらる。

京綏鐵道戰線の吉林軍は懷來城附近に集結する爲め山西省大同城を撤退し張作相は司令部を懷來に退却せしむ。直隷省滄縣城に退却せる山東軍は連戰連敗殆んど壞滅に瀕して戰意を失ひ總數約二萬に減滅して奉天軍の作戰上頗る不利の結果を招くに至れるを以て天津に退却せしむ。

十八日東三省連合省議會は全國に向ふて内爭を停めんことを通電せる。**十八日**上海駐在矢田總領事は本國政府の覺書を國民政府外交部當局に手交さる。南軍は山東省長清縣城より禹城縣方面に又他の一部隊は同省平陰縣より高唐縣方面に進出し更に他の一軍は山西省大同城方面より進攻せる馮玉祥軍の劉鎭華部隊の騎兵團と連合北進す。國民政府は左の任命を發表さる。

山東省政府委員主席孫良誠　委員丁維芬　蔣作賓　宋哲元　石敬貞　冷遹（レン・イツ）　魏宗俊　何恩源　孔繁蔚　陳雪南　于恩波　閻容德

民政司廳冷遹　財政廳長魏宗俊　教育廳長何恩源　建設廳長孔繁蔚。

在香港總領事村上義温は代理香港總督を訪問し先きの支那人學生暴徒團の暴行襲撃事件に付き

霖は停戰の通電を全國に發せしも各方皆な之に應ぜず遂に再び全軍に命令して全線の總攻擊を開始せしむ。張作霖は芳澤公使の手交せる日本政府の覺書及東三省保境安民勸告に對し之を重大視し張學良、楊宇霆、汲金純、于國翰以下各軍部最高幹部を召集して緊急會議を開き其結果楊宇霆は北軍全部の代表として奉天軍顧問土肥原賢二大佐を通じて左の回答を日本公使館に通達せしむ。

北京政府當局は日本政府の好意的勸告は十分之を諒承せるも現在尚ほ交戰狀體なる爲め直に之を容れて退却せば奉天軍は多大の損害を蒙る事明なり然かも目下の所勝敗の數未だ決せず或は奉天軍の勝利に歸するを得べけん若し南軍がは共に其結果を重大視さる。濟南城に於て治安維持委員を左の通り任命さる。

濟南地方治安維持總辦何宗恩　同維持員商務總會長孟允賢　同副會長何什　同會辦劉蘭軒　紅卍字會長于幻年　警察隊長田友望。

右を總務、治安、外交の三部に分ち同會則十九ケ條を制定し發表さる。廿日蔣介石は河南省鄭縣城に來つて馮玉祥、閻錫山代表と會見して北伐計畫並に濟南事變善後策に付き協議を遂ぐ。國民政府外交部長黃郛は外交委員會に於て日本政府の覺書に對する回答文發送を決議の上發表す。廿一日李宗仁は程潛を以て湖南省の總收入を壟斷し自己の勢力を擴張せんとする者と爲し國民政府に致電して同人を罷免せん事を要求し

卅一哩の琉璃河鎭に北退の不利に陷る。芳澤公使は大元帥府に張作霖を訪ひ本國政府の十七日附覺書を手交し詳細說明する所あると共に大勢已に斯の如に及べる以上は此際戰禍の京津地方に波及せぬ以前に軍を率ゐて速に奉天に歸り滿洲の治安を維持せらるゝ事が中國國民の爲め將た又奉天軍の爲め萬全策なる所以を說き張作霖の關外引上げを勸告する所ありしに對して張作霖は大に激昂し京漢鐵道戰線の奉天軍は極めて有利に進展し關外引上げの要斷じて之れなく又京津地方の赤化は國民の忍びざる所なり予は最後まで赤賊を防止し討滅すべく日本が支那赤化の脅威を受くる結果と爲れる事の一大不利を高調して芳澤公使の忠告を拒絕さる。**十九**日張作

危險性を有するものと認め石井ランシング協定の日本の滿蒙に於ける特殊的地位は先年の華府會議の決議に於て取消されたるものにして米國は日本の滿蒙に對する特殊的地位を承認する能はずと聲明さる。ロンドン、タイムス新聞及マンチエスター、ガーヂヤン新聞は日本政府の十七日附對滿蒙覺書に對して和平勸告の影響甚大にして日本の責任重大を力說せり。芳澤公使は閻錫山に對して本國政府の命令に依り帝國政府の去る十七日附對滿蒙覺書を電報を以て通達さる。王正廷は矢田上海駐在總領事に對し日本政府の覺書の眞意を諒解せる旨の同答を發せり。日本政府の十七日附對滿蒙の治安維持に關する北京、國民兩政府に對する覺書に付き英米兩國

る戰況不利の爲め退却準備を努め灤縣城及樂亭縣城間の灤河上に五大假橋を架設し又堅固なる防禦陣地を構築す。津浦鐵道戰線に於ける山東軍は滄縣城近郊に於て褚玉璞之を指揮し南軍の大部隊と交戰し大敗す。參謀總長鈴木莊六大將は滿洲の治安維持の爲め奉天に增兵の必要を認め關東軍司令官村岡長太郎中將に對し朝鮮より滿洲に派遣せる第廿師團管下步兵第四十旅團長安田鄉輔少將の率ゐる旅團の一部を奉天に派遣し同地方の警備に任ずる旨の命令を發せらる。廿一日米國天津駐屯軍司令官は條約に依る京奉鐵道分擔區域たる直隷省唐山驛駐屯の一個中隊を何等の通告なくして突如天津に取上げ爲に租界外に於ける列國共同防禦動作不能に陷る。在

して舊陣地を奪回し前進陣地を佔領す。武漢軍（第四集團軍）は白崇禧を以て前敵總司令に任じ第二第四十四第七第三十六各軍を率て漢口出發京漢鐵道に沿ひ北伐の爲め出動を開始す。山東省派遣中の第十四師團管下第廿八旅團は外山豐造少將之を引率して大連に歸還し翌廿二日奉天に向け進發を命ぜらる。在北京米國公使マクマレーは國民政府に對し山東省內に於て米國人二名殺害事件に就き嚴重なる抗議を提出し併せて自衛手段を取らざるを得ざるべき旨を通告せり。廿二日廣東市に於て多數の共產黨員を逮捕せり。馮玉祥軍は白崇禧の率ゆる武漢軍（第四集團軍）が北伐の爲め河南省內に北進し來れる爲め河南省の地盤を奪取せらるゝを憂ひ之が阻

停戰するに於ては奉天軍は已に大元帥の名に於て和平通告を發せし次第にて戰爭繼續の意志寸毫もある事なく南軍の攻擊に對し唯だ止むなく應戰せるに過ぎざるを以て日本政府に於て南軍に對し其前進を停止せしむべき方法を講ぜられ度し然らば奉天軍は直に停戰し日本の好意的勸告を容れんと。

右回答に對して芳澤公使は即時日本政府は單に戰禍の滿蒙に及ばざる事を希望し南北兩軍に對して忠告せるに止り夫れ以上何等の行動を取る能はざる旨を回答さる。

張學良、楊宇霆は連署して張作霖に對し北京を撤退し奉天城に歸り同時に下野を勸告し其結果作霖も遂に意を動かす。奉天軍は前線に於け程潜を監禁す。國民政府外交部長黃郛は外交の制約を受くるを以て不平と爲し辭職す。李宗仁は第四集團軍總司令に就任し湖北、湖南兩省の軍隊を統率し並に武漢政治分會を成立せしめ自ら其主席委員と爲る。武漢政治分會は左の通り推選任命して之を發表せり。

湖南省政府主席委員魯滌平　委員張定　陳嘉佑　李隆建　劉召國　曾繼梧　劉岳峙　周爛　何建　劉興

廿一日日本政府は山東省派遣軍に對して軍事郵便取扱開始を命令さる。馮玉祥、閻錫山兩軍は連合して奉天軍を擊破し閻錫山軍は直隸省方順橋の東北方より保定城に肉迫し來り同地爲に危機迫り奉天軍逆襲を企て馮閻連合の南軍を擊退

祥事件を惹起せる事なし殊に最近和平通電を發して京漢、正太兩鐵道沿線駐屯軍隊を撤退し和平の意を表示せり然るに南京軍は驕慢を極め馮玉祥軍は頑迷にして遂に再び開戰の止むなきに至れり故を以て和平破壞の責任は彼に在り日本軍の和平勸告は南軍の所謂國民黨の最新政治の理想を拋棄するに非ずんば實現不可能たり斯の要點を南軍に於て諒解するに非ずんば內亂を斷ち外交上の敵を除く事困難なり依て此際片務的の條件に依る能はず我輩は一方南軍の進擊に備ふると共に他方南軍に對し無益の內亂を繼續して國際紛議を生ぜざらん事を希望する者なり。張作霖は吉林省督軍張作相を以て京津地方警備總司令に任じて北京撤退準備を急げり。廿二日

省保定城に通ずる大路を扼して北軍の連絡線を杜絕し更に河間方面の北軍前線は袁振聲の第十六軍及孫傳芳の一旅を以て一時河間城を奪回せしも再び馮玉祥軍の爲に壓迫され廿二日以來馬廠附近に退却の止むを得ざるに至れり。廿五日馮玉祥は北京駐在各國公使並に各國駐在武官に對し覺書を寄せて共產主義反對の旨を聲明せり。南京政府代表王正廷と露國代表間に於て隴海鐵路延長借款契約成立し民國十七年中に陝西省潼關縣城迄で又同十八年中に陝西省城長安城迄で延長布設決定の報傳はる。廿六日國民政府は五月十七日附日本政府の對滿蒙覺書に對する覺書回答書案を中央政治會議に附議して審議さる。蔣介石は總司令部を率ゐて山東省兗縣城

上海支那各新聞紙は芳澤公使と張作霖との間に於て吉會、吉呼、延海、長大の滿洲に於ける四鐵道布設權を日本に與ふる事に決定し吉林交渉員鐘緝武の北京入京に依て調印成立すと報ず。張宗昌は孫傳芳、于國翰等の斡旋に依り南軍の進攻を防禦すべく敗殘の山東軍を指揮して大勢挽回を試みる事に決意さる然れど直魯連軍の將領中謝玉田、孫殿英、徐源泉等は張作霖に對して反意を生じ反つて南軍との妥協氣運勃興す。奉天軍當局は日本政府の去る十七日附覺書に對し左の非公式なる聲明書を發表せり。

日本政府の覺書の主眼は在留日本人の生命財産財護に在り奉天軍は從來之に對して十分の注意を拂へり故に其管內に於て未だ國際的不止運動を起し武漢軍の北伐進出不可能の形勢を呈するに至る。**廿三日**國民政府は李宗仁の電請に因りて程潛を免職す。白崇禧は武漢四個軍を率ゐて鄭縣城に達し直に馮玉祥と會見の爲め北進し新鄉縣城に抵る。山西軍を主力とせる閻馮連軍は廿二日より京漢鐵道戰線に展開せる奉天軍第八第十第十六の各軍陣地に對し全線に亘りて猛烈なる總攻撃を開始し又有力なる一部隊は奉天軍の右翼を迂回し形勢危急を告げしも奉天軍右翼第七軍の騎兵集團は大迂回して之を阻止し次で全線に亘つて連合軍は撃破され一個旅團全滅さる。**廿四日**馮玉祥部下の韓復榘軍は直隷省河間縣一帶の土賊と連絡し同地以東より北進して廿一日張格店に達し又山東省馬廠より直隷

因りて同地の現狀に異變を生す可しとは思意せずと又日本が滿洲を共保護領と爲す事ありて英國の同地方の門口開放を主張し之に反對の必要を認むとの意見に就ては尙早と云ふ可く滿洲に於ける日本軍の兵力は不明にして又其の精査の必要を感ぜずと說明さる。孫傳芳軍及第十一軍は張作霖の進擊命令を受けて直隷省河間縣城方面に向ふて行動を開始し先に馮玉祥軍の爲に奪取されたる陣地を奪回し進擊を開始す。**廿三日**第三師團豐橋步兵第十八聯隊山東省より天津派遣を命ぜられ先着部隊天津に入る。日本政府は對滿蒙覺書抄本を在チュネーブ國際連盟事務局に宛て參考として提出さる。**廿四日**米國々務長官ケロッグは聲明書を發表して日本の對支出兵動せり爲に奉天軍は之に對抗して汲金純の第廿五軍を京漢鐵道戰線に進め武漢軍防禦の作戰を決す。

日本政府の國際聯盟提出報告書

日本政府は山東省城濟南城に於ける日支(南軍)兩國軍隊の衝突事件に關し左記報告書を國際聯盟加盟諸國の參考の爲め在ヂュネーヴの國際聯盟明事務局へ提出さる。

一　昨年一月三日過激分子の爲め傷動せられたる支那暴民は大擧して漢口英國租界に迫り英國側の防止を冒して之を佔領し同月六日九江英國租界に於て同樣の暴擧を再演されたり**三月廿四日**南軍の南京城に入るや共產派の軍隊は日本領事館を襲ひ領事以下館員

奉天方面の形勢漸く危急を告ぐるに至り爲に我關東軍司令官村岡長太郎中將は幕僚を率ゐて司令部を旅順市より奉天に移駐して時局に備ふる所あり。天津駐屯各國軍司令官會議の決議に依り天津駐屯軍司令官新井中將は先任司令官として天津租界周圍綏衛地帶設定の旨を南北兩軍に通告さる。英國公使ラムプソンは米國の唐山守備隊撤退は國際信義を無視する條約違反の行爲なりとの旨を以て米國公使マクマレーに對し嚴重抗議さる。廿三日英國下院に於て同國外相チエンバーレンは今後支那に對して何等かの軍事行動を取る事あれば彼は必ず在留英國民保護の爲に行動するに外ならず又同國勞働黨議員ケンウオシの質問に答へて日本政府の對滿洲聲明に抵れり依て劉峙、陳調元、馮玉祥等は同地に集合して北京攻擊軍事會議を開催さる。廿七日前端威將軍にして國民政府軍事委員たりし孫岳は上海に於て病歿す。日本第二遣外艦隊司令官は支那艦隊司令官沈鴻烈に對して支那南北海軍が青島、芝罘、龍口、塘沽、秦皇島、營口各海港の二十海里以内の海面に於て戰鬪行爲を爲す事を斷然禁止する旨の通告を發せらる。津浦鐵道戰線及京漢鐵道戰線並に其中間地區一帶に亘れる全戰線に於て南北兩軍は一大會議を開始し南軍の戰況稍不利に陷る。

廿八日蔣介石は徐州城を出で河南省境の戰線に抵る。白崇禧は武漢軍を率ゐて直隸省京漢鐵道戰線の石家莊驛に抵り望都縣城附近の戰線に出

及び延ては日本政府は東三省に影響を及ぼす場合には日本政府は適當且つ有効なる處置を取らざる可らずとの一節は支那政府の承認し難き所なりとす即ち東三省及京津地方は何れも支那領土主權の存する所に係り如何なる影響ありとする外國人の安全は支那政府の自ら保護の責任を負ふ可き者なり然るに日本が山東省城濟南城に於ける不祥事變の發生に依り再び國際慣例に合せざる處置に出るは日支親交に害あるのみならず華府會議の支那の主權と確立を尊重すべしとの原則に抵觸するを遺憾とする者なり。張學良。楊宇霆。孫傳芳等は左の攻勢移轉の作戰を決定す。一南軍の中央突破を試むる事、二直隷省河間縣城の西方より于學忠の第廿軍戢翼翹の第

件に顧み相繼で引上を開始せり。

二　右は單に昨年中に於ける最も顯著ある數例を示せるに過ざるも外國人の生命財產は支那官憲の保護にのみ信賴し得ざる狀況に在るを以て日本は場合に依ては自力を以て現地に於て其居留民と既得權利を擁護せざる可らざるは誠に止むを得ざる所なりとす。

三　日本政府が濟南在留二千餘の居留民の保護の爲め同地に派兵したるは上記の如き支那の現狀に照して止むを得ざる自衞的處置たる事勿論なりとす世上日本が濟南に軍隊を派遣せざりしかば今次の不祥事件起らざりしなる可しと觀察する者無きに非ざるも軍隊の駐派なかりし漢口、南京に於て上述せ

を承認し滿洲に於ける日本の特殊利權を承認さる。革命起義の元勳前大總統黎元洪は天津の自宅に於て病革まり重態に陷る。孫傳芳軍中の學生軍約一千五百名及直隷省軍第十旅の敗兵を始めとし續々戰地より天津に退却し來る。**廿五日**京漢鐵道戰線に於ける奉馮兩軍共に展開を終へ決戰の機將に迫る。山東省派遣軍第三師團長安滿欽一中將は南北兩軍に對し青島市及山東鐵道沿線より全部撤退を要求さる。日本政府の對滿覺書に對して北京政府は左の正式聲明書を發表さる。

十八日芳澤日本公使が大元帥に致せる覺書は大元帥が先に發表せる和平通電と符合する者にして深く感謝する所なり唯だ戰亂の今後京津に

及日本居留民に忍ぶ可らざる侮辱を與へ傷害を加へ且つ領事館共他居留民の家屋殆ど全部を一物も殘さゞる程度に掠奪し共他各國領事及居留民に對しても同樣若くは以上の慘虐を恣にし米英南國軍艦は自衛上砲擊の止むを得ざるに至れり、四月三日漢口日本租界に於て共產黨分子の煽動に因り豫て事端の誘發に努め居りたる暴民の一團は事を構て上陸中の一水兵を侮辱毆打したるを初めに日本人店舖を襲ひ通行人に危害を加へ事態收拾す可らざるに至りし爲め同租界の日本人二千五百名の大部分は上海、日本に引上げ重慶、宜昌、沙市、長沙、蕪湖、九江等長江一帶の在留民も又南京。漢口事

に於ける日本軍の配備完成され張店驛以東は第三師團之が警備に任じ又十里堡驛以西は第六師團其任に當り鐵道交通は絕對安全と成れるを以て夜行列車運行開始さる。**廿八日**大連警察署は關東州内に於て擾亂を企てたる共產黨員四十六名を逮捕檢擧さる。林奉天駐在總領事は先に滿鮮國境臨江縣境内に於て馬賊の爲に拉致されたる若林陸軍中尉の身柄取戻し並に國境附近の不安狀態に關して奉天政府當局に對し嚴重取締方を警告さる。東邊道尹は岡田安東駐在領事に對し鴨綠江上游臨江縣地方の馬賊討伐の爲めに日本軍の出兵に對し即時撤退方を要求せしが岡田領事は領事館關係事務に非らざるの故を以て即時之を拒絕さる。米國駐在日本大使松平恒雄は

を以て日本兵は之に應射したり右衝突開始するや當時濟南城内に充滿し居りたる南軍は殆ど同時に隨所に日本軍に發砲し日本居留民を虐殺し日本人家屋を掠奪し初めたり

ハ此に於てか日本軍は日本居留民の收容保護に努むると共に南軍の商埠地外驅逐及武裝解除に努力し一方日本領事は數回危險を冒して支那官憲と連絡を取り停戰に盡力せしも蔣介石の威令行はれざる爲め支那兵は依前發砲を續けたる爲め漸く五日午後に至り停戰を見るに至れり。

ニホ省略

ヘ五月十五日迄に判明せる所に由るに本事變中日本居留民の支那兵の爲に受けたる被害

二十九軍を以て馮閻連軍の右翼を包圍する事。

三孫傳芳、富双英兩軍四萬を以て津浦鐵道戰線の南軍左翼を包圍攻擊する事。

楊宇霆は直隷省長孫世偉が蔣介石と親友關係を利用して先に張作霖の通電の主旨を南京に傳へて停戰促進の使命を以て上海に急派す。廿七日大元帥府は廿五日早朝八時より開始されたる京漢鐵道戰線の總攻擊に付き左の如く發表さる。

奉天軍は奮戰して徐永昌指揮下の山西軍約二個師を擊破し望都縣城を佔領し直に追擊に移り望都城の南方卅支里の地點に到達し引續き追擊を實行せり。黑龍江督辦吳俊陞は張作霖に對し奉天に第二次歸省を勸告す。濟南城市の秩序は漸次恢復され商業取引開始さる。山東鐵道沿線

るが如き事件の發生を思へば其觀察の誤れる事最も明なり。

四　今次軍隊の派遣が居留民の生命財產保護の目的に外ならずして南北兩軍の何れに對しても其軍事行動に干涉する者に非ず又其必要止むに至らば直に撤兵す可き事は派兵の當初日本政府の聲明したる所なり。

五　濟南事變の概要は左の如し

イ　省略

ロ　五月三日午前九時半日本人谷房長平が南軍正規兵の爲め掠奪されたるを以て一中尉の率ゐる約三十名の日本兵現場に急行したるに右支那兵等は附近の支那兵營に逃入り之より發砲し日本兵若干名を負傷せしめたる

陷る。保定城陷落の爲め張學良、楊宇霆、孫傳芳等は相携へて北京に入る。大元帥府に於て最高軍事會議を開き張作霖は更に張作相、褚玉璞、張宗昌、湯玉麟等の幹部を招きて最後的大會議を開き其結果張作霖、孫傳芳兩人は現狀維持京津固守を主張し楊宇霆、張學良等は兵を損せず秩序ある退却を主張し遂に總退却說否決さる。張作霖は愈退位を決意して政權を段祺瑞に讓るべき通電案を起稿せる旨報ぜらる。張學良楊宇霆等は北京に引上げ來り奉天軍は琉璃河鎭の防禦陣地に總退却を開始す。**三十一日**日本政府は馬賊團の跳梁に依りて滿鮮國境不安を極め爲に鴨綠江上游中江鎭(朝鮮側)を中心として國境警備の爲め混成一個旅團を派駐さる。張作霖

搜索に赴きたるに此の內部に潛在せし者十數名矢庭に射擊を開始したるを以て日本兵は止むを得ず應戰して之を倒したる事實あるが果して蔡公時が此中に在りしや否や判明せず何れにせよ日本軍は無抵抗の市民を殺害せる事なく況んや耳を切り鼻を削ぐと云ふに至ては日本人の性質上慣習上斷じて爲し能はざる所なり。

六　濟南事變の經過を通じて左記諸點は特に注意の必要あり。

イ　事變は南軍兵士が日本居留民家屋を掠奪し且つ之が救護に赴ける日本兵を射擊せるに端を發せる事。

ロ　事變前南軍幹部は屢ば治安維持の責に任ず

米國々務長官ケロッグに對し同官が先に新聞記者團の會合席上に於て日本の滿洲に於ける特殊的地位を承認せずと言明せりと傳へらるゝものに對して説明を求めたるに對しケロッグは滿鐵沿線治安維持の爲め必要上適當且つ有効の處置を取る事及沿線以外の地にして日本居留民の多數在留する新民、錦兩縣等の要地に出兵するも何等異議なきものなる事を言明せるに依て日本政府の覺書承認に落着す。**二十八日**廿七日より京漢、津浦兩鐵道戰線に於て繼續的攻撃は奉天軍不利に陷り直隸省完縣滿城は再び奪回され馮閻連軍の攻撃頗る猛烈にして北軍の部下將士皆な戰意を失ひ前線各隊又志氣振はず戰況益奉天軍不利に陷る。**三十日**奉天軍大敗を招き保定城

は殺害されたる者十四名に上り其多數（女子を含むは）最も慘虐なる侮辱を加へられ殆ど見るに忍びざる者多し其他負傷者十五名の外公衆の面前にて極端なる侮辱を加へられたる男女あり倘掠奪せられたる戸數百三十一戸に上れり。

ト支那官憲及新聞等に依りて廣く世界に宣傳せらるゝ山東交渉員蔡公時及交渉員の虐殺なる報導に關しては五月三日の事變勃發と共に支那兵及便衣隊は隨所の建物に據りて日本軍民の區別なく亂射し交渉公署内（當時此方面の日本兵は其交渉公署たるを知らず）よりの射撃に依りても日本兵二名戰死したるを以て同日夕方日本軍の一部は之が

ホ支那兵は便衣隊を交へ隨所の家屋の援護に依り亂射したる爲め日本軍は最も困難なる狀況の下に市街戰に從事せる事。

ヘ事變發生直後支那兵が日本居留民男女に加へたる暴行は其慘虐云ふに忍びざる程度の者有りし事。

ト七日第六師團長の爲したる要求は十二時間の期限を附し殆ど南軍側に於て熟慮回答の猶豫有無かりし事を非難する者あるも當時の狀況は極めて切迫し第六師團長は若し時日を遷延せば南軍の奇計に罹り居留民は勿論軍隊自らも非常なる危險狀態に陷るの恐れありと信じたる者にして支那側從來の不信に鑑み右警戒は當然なりし事なり。

は最高軍事會議の決定に依り愈大元帥を辭し安國軍總司令として北京を撤退し奉天移駐に決定し又左の二大事を決定せり。

一張作霖は卅一日若くは六月一日北京を撤退して奉天城に歸駐する事。

二六月三日迄に奉天軍は全部關外引揚げに着手する事。

可き旨を述べ日本軍の防備撤去を要求し來り日本軍は事變勃發の前夜之を撤去し又一旦安全地帶内に引上げ居りし居留民中にも歸宅せる者有りし事。

ハ事變が右防備撤去の直後發生したる事其發端と同時に右方面の支那兵は一齊に日本軍を攻撃し居留民に對する迫害掠奪を開始したる事之等迫害掠奪の目的が殆んど日本人に限られし事等の諸事情に徴し本事變は支那側少く共下級者間に於て計畫的に行ひたるの印象を與へたる事。

ニ日本側は屢ば危險を冒して支那側と連絡を取り停戰を協議せるも其都度支那側の命令徹底せざる爲め戰鬪續行の止む無かりし事

安を維持せんが爲に或は止むを得ず適當且つ有効なる處置を取る可し云々と有る所の此の處置は支那の內政に干涉し且つ明に國際公法上列國相互に領土主權を尊重するの原則に違背するものにて國民政府の斷じて承認し難き所なり深く望む貴國政府が兩國永久の親善の爲に友好關係の發展を妨害する一切の行動を避ける樣計られん事を。

日本政府の濟南事變に關して國際連盟に對して報告されたる聲明は頗る好評を以て列國及同事務局に迎へられたりと報ぜらる。

日本政府の提出に係る濟南事變に關する國際聯盟國宛て通告は直に日本政府の要求通り參考資料として各聯盟國へ移牒されヂュネーヴに於て

廿九日國民政府の日本政府の覺書に對する回答は上海交渉署の交渉員金問泗より上海駐在の矢田總領事に對し手交されたり其內容は左の如し
五月十八日接受の覺書を閱讀せり國民政府は自國の苦痛を除かんが爲に政治を改革し以て中國の永久的平和と統一を實現し人民をして居に安じ業を樂ましめ在留外人も又其幸福を增進するを得せしむるを期し之が達成の爲に止むを得ず軍事行動に出で已に發展して最後の段階に至れり國民政府は最近に於て必ず支那の和平と統一を實現す可く軍事區域內に於ける事前の手段と臨法を講じ內外人士をして總て安全の保護を得せしむる事は國民政府の本來の責任なるが唯だ貴國覺書中東三省の治

三十日直隷省河間城、沙河鎭及韓村の戰線に據守せる孫傳芳軍は山西軍の爲に破られ北軍の防禦陣地たる大城、任邱に迫れる山西軍の爲に壓迫せられて最前線の形勢頗る北軍の不利に歸し遂に亂軍と爲りて敗退し于學忠、孫傳芳軍は任邱城に退却せり。張作霖は斷然意を決して前線各軍に命を下して一律撤退せしむ。奉天派の代表策士刑士廉及葛光庭は南軍の代表孔繁蔚及尹扶一と相伴ふて張學良、楊宇霆を萬字廊に訪問して妥協問題を協議せり。

鐵道戰線の山西軍は廿九日未明に於て滿城を佔領し直に保定城に向つて進擊し爲に三十日午前二時に至りて遂に保定城陷り山西軍の爲に佔領さる。京漢鐵道戰線の保定城と津浦鐵道戰線の直隷省滄縣城に連れる卽京漢、津浦兩鐵道の中間地帶の北軍防禦線の中央を突破して天津に迫らんとする馮玉祥軍の主力は鹿鐘麟を中路に韓復榘を左翼に孫良誠を右翼の各總指揮として前進し河間縣、沙河鎭、韓村の線に據る孫傳芳軍を擊破し北軍の本防禦陣地たる大城、任邱に肉迫し來り最前線の形勢頗る北軍の不利に陷り遂に算を亂して敗退し于學忠及孫傳芳軍は任邱に退却を餘儀なくせしめらる。張宗昌軍の軍長王棟、許現、孫殿英軍は奉天軍の關外撤退の機に

は大に滿足を以て迎へられ日本政府の處置は嶄新の手段にて之は日本が支那に關する斯程の聲明文を世界各國に通報するの途として國際聯盟を選びしは即ち該聯盟を尊重する所以にして聯盟局の部内に於ては頗る好感を以て迎へられ更に實質上日本が其對支意向に付き間違ひなき所點を聯盟諸國に通ずるは日本が聯盟の常任理事國としての義務を能く盡すの所以なりと認められ若し此度の日本の取りし手段が各國一般に見習はるゝに至らば事件ある毎に其國の眞意を誤解さるゝ餘地なきに至る可しとの好評を博せり

三十日國民政府代表孔繁蔚、尹扶一は奉天派代表邢士廉、葛光庭と共に張學良、楊宇霆を萬字廊に訪ふて妥協問題を接洽（協議）せり。京津

の各新聞は北京天津の警備に關して列國共同防禦の策を取らん事を熱望慫慂せり。張作霖は北京の大元帥府に於て大會議を開催して北京撤退の議を決定せり。大元帥張作霖の侍從武官長許蘭州は大元帥旗及印綬を携行して奉天に歸省す。日本陸軍中尉若林明は滿洲の東邊道尹管下臨江縣城の江岸より約五里を距てたる奥地錯草講に於て滿洲馬賊團の爲に夫妻共に慘殺さる。

二日大元帥張作霖は愈北京城を放棄して奉天に向ひ歸省の決心を爲すと共に全國に向ふて和平主張の通電を發し奉天軍全部に向けて總退却命令を發し大元帥張作霖歿落の幕は落され北京全城に悲壯の空氣滿つ。北京政府は第二次軍需公債四百萬元を發行し其の擔保は財政部の全國邸石、閻錫山、馮玉祥等の各南軍の部隊は當分北京に入城せしめず一時的辨法として山西軍の譚慶林を以て北京衛戍司令官と爲し以て北京に入城せしめ同地の治安維持に當らしむる事に決定さる。

三日保定城に於ける南軍の巨頭會議の決議に依りて蔣介石、閻錫山、馮玉祥等は奉天軍の妥協提議を斷乎として拒絕し以て飽くまで奉天軍の全滅を期し斷然提議に應ずる能はざる旨を張學良、楊宇霆兩人に對し通電さる。奉天に於て三日の深更日本警備兵の爲め擧動不審の故を以て訊問され抵抗を企て刺殺されたる二怪支那人兩人の懷中より暗號通信文を發見されたり是れ即ち張作霖坐乘列車爆發事件が南軍便衣隊の行爲たること是れにて判明立證さる。午前十

六月　**一日**大元帥張作霖は北京舊皇居内の居仁堂に於て北京駐在各國公使を招待して袂別の盛宴を催さる。張作霖は北京の警察權を元老王士珍に引渡しを完了さる。日英米佛伊五大國天津駐屯軍司令官會議の決議に依つて最高司令權を日本軍司令官新井龜太郎中將に一任さる。英國

乘じて獨立を宣言し以て山西軍と安協連絡の默契早くも成立し已に閻錫山との間に於て改編後の軍長任命の委任狀を交附されたるの事實暴露し奉天軍驚愕色を失ふ。上海に於ける中國畫家を以て組織せらるゝ東亞藝術協會は日支親善及兩國文化の交換を目的と爲し錢化佛、張善孖、李守正、會漸逵の四名は代表として日本に派遣され東京に入る。

六月　**一日**南軍便衣隊約一千名北京に潜入し全市を大混亂に陷れ擾亂惹起の陰謀を企圖し露顯して事を擧ぐるに至らず。國民黨は北京佔領後に於ける政治組織を内定して政治委員會を組織し發表せり。

二日馮玉祥は軍を率ゐて保定城に入城す。蔣介

せしむ可き旨通電せり余の意志は國內各軍速に紛糾を息め友邦の疑念を解かんとするに外ならず然るに國內動亂依然として息まず忽ちにして流血京畿を彩り轉じて戰禍中外に及ばんとせり思ふに歷年の動亂の爲め商民業を止め物資缺乏し百姓放浪飢餓に瀕し其の慘苦實に言語に絕せり若し再び余が京畿に於て武力を以て敵と相見へんか國民の困難更に增すのみにて余が停戰の趣旨に背く者なり余の救民の志願未だ達成されずと雖も最早兵を進めて民の苦を目睹するに忍びざるが故に此に遂に兵を整へて京師を退出するに決意せり一切の中央政務は暫く國務院をして攝行せしめ軍事は各軍團長をして責任を負はしむ可し今後の

七勞資の協調を計りて共產主義を防止する事

八開墾及植民政策を實行する事。

九國家社會主義を採用する事。

十國體に牴觸せざる制度を保存する事。

右十個條に就ては大方諸子の奮起を望む速に南北統一を實施せば外交困難は自ら解決すべきを確信する者なり。

四日國民政府は閻錫山を以て京津衛戍總司令に任命さる。

花税を以て充當さる。張作霖は本日午後二時北京軍政府の閣員等全部を引見して大元帥として の最後の謁見式を擧行さる。張作霖は奉天派要人に對し奉天に引上げを希望する者は二日午後十時迄でに大元帥府に集合す可しとの命令を下し又北京警察廳長に對し午後十時迄でに沿道警備の任に就く事を命ず。張作霖は特使を在天津の段祺瑞の許に急派し親衞軍として一個師を北京に殘駐すべき條件を傳へて段祺瑞の出廬を促す所ありしも段祺瑞は斷然として之を拒絶さる。張作霖は北京城退出に先ち二日午後第四時左の悲痛なる正式通電を全國に向つて發表さる

余は先に內亂息まず其禍外交に波及しつゝあるに鑑み全國に停戰を命じ各方面の兵を後退

一時革命起義の元勳前大總統黎元洪は天津英國租界の自宅に於て腦溢血症に罹りて逝去す時に年六十一歲也黎黄坡は死に臨み從客として左の十事を遺訓して以て全國民を勗め國利民福の正旨を痛說す國民政府は令を發して以て元勳を優䘏するの意を表せり。

一國民大會を召集して時局を解決する事

二濟南事件は外交的手段に依りて解決し國民は沈着の態度を持して妄動す可らざる事。

三民權を確保して實業を振興せしむる事。

四道德禮教を尊重する事。

五速に人民の正業に休養を與ふる事

六政治教育方針を確立し法治を全國に普及せしむる事。

して遂に下野せり。**四日**朝五時奉天城西郊滿鐵京奉兩線交叉點に於て張作霖、吳俊陞の座乘特別列車は原因不明の爆藥にて爆破され吳は卽死し張は重傷危篤に陷り奉天城內大帥府に入り同夜遂に死す爲に日本關東軍憲之に干與すとの怪說起る。**五日**王士珍、熊希齡等の諸元老發企して北京城治安維持會を設立し王士珍を推して會長と爲し吳炳湘を公推して京師警察總監と爲す。奉天軍の殘駐部隊にして北京城の治安維持に當れる鮑毓麟所率の旅團を改めて京師保衞團と爲し共同して北京城內外の治安を維持せしむ。奉天城內外に亘りて戒嚴令布かる。奉天軍の主力は午後一時より北京を撤退し楊村に向つて退却を開始せり。北京城治安維持の爲め殘駐せる奉

の三項に據る可き旨を電命せり。

一　奉天軍の將領は總て閻錫山に引渡す可し。

二　北京に殘留せる奉天軍は北京城外に撤退せしめ國民政府の命を待つ可し。

三　國民政府は北京の善後問題に就き奉天軍の將領を參加せしむ又滿洲問題に就ては左の最低限度の條件を張學良、楊宇霆に提示さる。

一　張作霖は全く政界より隱退す可し。

二　張作霖の後任は三民主義の忠實なる遵奉者たる可し。

三　此形式は國民政府の命を奉じ且つ靑天白日旗を揭揚す可き事。

四　奉天軍は滿洲に於て軍事行動を取らざる事を保證す可き事。

政治問題は潔く國務院の採決に俟つ可し余は軍事に奔走する事半生に及べりと雖も終始國利民福の爲め努力し凡ゆる犧牲を惜まず是れ卽ち余が敢て天下の後輩に言明して憚からざる所也

北京政府は軍事政府として大元帥に從ひ奉天に移轉し內務、外交兩總長は京津地方治安維持並に各國との對外關係の爲め北京に殘留する事に決定さる。北京全城の治安は當分事前聯合會に一任さる。**三日**張宗昌部下の于學忠は第二十軍全部を率ゐて天津に退却し來る。勞農露國政府は日本政府の對滿蒙政策に對して絕對反對の意を表明せり。孫傳芳は張作霖と相前後して天津に歸り軍事は國民の公法に俟つ旨のを通電發送

直隸省北京、天津間の要驛たる楊村(ヤンツオン)附近に集結せる孫傳芳部下の鄭俊彥、李寶章等の各軍約二萬及び山東軍于學忠等の部下其他を合せ總數約八萬の舊直魯連合軍の一大集團軍は前江蘇督軍齊燮元を中堅とする直隸舊軍閥派の暗中飛躍に因り閻錫山を通じて國民革命軍との間に妥協成立し國民革命軍第五集團軍と稱し齊燮元を總司令と仰ぎ一擧に天津城を攻落して靑天白日旗を揭揚すべく完全なる默契成立を傳ふ。**五日**日本山東派遣軍司令官の要求に基き山東鐵道沿線各地駐屯の安國軍は全部沿線廿支里以外の地點に撤退し南北兩軍共に山東鐵道沿線に其影を止めざるに至れり。國民政府は閻錫山に向け安國軍今後の處置は左

軍中の白崇禧軍と白河を挾んで開戰し天津城の周圍に戰火起り城民一大混亂に陷る。張學良及楊宇霆、孫傳芳軍は京漢鐵道不通の爲め芦臺の南方なる漢沽に於て張作相と會合し關外撤退に關する最後の軍事大會議を開催せり。張作霖座乘列車爆破事件の原因に於ては日支兩國共同調査委員會に於て的確なる原因を斷定すること困難なる爲め更に專門家の調査研究に移して鑑定を求むることに決定さる。日本政府は支那の時局急變に對し滿洲に於ける治安維持の方策に付き緊急臨時閣議を開きて重要なる協議を遂げ芳澤公使以下在支滿洲各地の出先官憲に向け左の訓電を發せらる。

支那の時局に關しては輕擧妄動を避け靜に其

軍は態度不明なりしが遂に南軍に投じ方振武軍と合縱して楊柳青の南方より天津攻略を開始せり。馮玉祥は四月中旬朝鮮獨立團たる上海假政府員中の一朝鮮人金景植を政府顧問に任じ馮の部下劉東節、金榮公等を使して東三省方面の不逞鮮人及馬賊團と連絡し一面鮮人軍團を組織せしめ以て朝鮮獨立の證言を與へて東三省擾亂を煽動せる事實發覺し五月七日吉林省稜水泉に於て一味捕縛さる。國民革命軍第三集團軍參謀長及北京警備司令張蔭梧は在北京日本公使館を訪問して入城の辭を述べ治安維持の全責任を負ふ可き旨を聲明さる。**九日**京津一帶皆な南軍の佔領に歸し滿地に青天白日旗掲揚され北伐完成の歡呼爲に地を震動せしむるものなり。戰地政務

奉軍第四十七旅長鮑毓麟は夜中部下全部を率ゐて撤退に着手せり。**六日**張宗昌は天津に於て刺客の襲ふ所と爲るも幸に無事なるを得たり。天津西車站附近に直魯軍の敗兵殺到し全城市は殆ど無秩序に陷り掠奪を行ひ市民は避難の爲め各國租界に充滿混亂す。**七日**日本政府は滿洲の時局重大化に深く鑑み輕卒なる積極策を避け消極的に防衞方針を決定さる。恭親王を奉天城に迎へて東三省に宣統廢帝擁立運動起り故蒙古の英傑漢巴布扎布の遺兒日本陸軍士官學校卒業某も亦之が中堅と稱せらる。**八日**奉天駐在日本總領事林久次郎は張作霖座乘列車爆發事件犯人捕縛方を公文を以て奉天政府へ要求を提出さる。直魯連軍は天津の東北方なる軍糧城附近に於て南

山西軍の徐永昌部隊は午前十一時長辛店に到着し其先鋒は午後六時北京に入城す是を以て南軍中先登第一着北京入城部隊と爲す。**六日**國民政府政治會議の決議を以て王正廷を推して外交部長と爲す。山西軍中の譚慶林は同僚韓復榘と共に午後二時半北京城の郊外なる南苑に到着し治安維持會は歡迎委員を急派せり。本日より各學校及一般城市民に靑天白日旗を揭揚せしむ。閻錫山は部下全軍に下命して奉天軍追擊を嚴禁す。**七日**日本參謀本部第二部長松井石根中將は政府の命に依り山東省に出張して南軍代表張群と濟南城の南郊なる黨家莊(タン、チヤア、ツオウワン)に於て會見重要商議を遂ぐ。閻錫山は直隷舊省城保定城に在つて京津衞戍總司令に就任さる。直魯連軍中の寇英傑

北倉附近に於ける張宗昌軍と徐源泉軍との交戰は遂に夜に入りて張宗昌軍の敗北退却に歸し徐軍は堂々天津に入城し爲に北軍は總退却を開始し北軍全部天津城市より掃蕩さる。張宗昌、褚玉璞は大勢の已に去れるを確認し天津城を拋棄して芦臺、唐山、灤縣城一帶に退陳せり。直隸軍中の徐源泉部下の一團は閻錫山軍に投降せり。張宗昌は舊部下徐源泉軍が山西軍との通謀の結果天津保衛司令就任問題に付き各國領事に向け徐源泉就任を否認する旨の通告を發送せり。**十二日**午前六時張宗昌は鐵甲車にて芦臺に逃れ又褚玉璞も之に次で迷走し山西軍の代表南桂馨は午前五時天津督辦公署に入る。午後七時天津警備司令山西軍の傅作儀は在天津各國總領事津臨時保衛總司令に就任して長文の布告を發し四個條の聲明を發表さる。北京駐在日英米和四國公使は北京治安維持會の懇請に依り奉天軍の一部殘駐部隊たる鮑毓麟統率旅團の武裝解除問題に關し南苑駐屯北京警備司令韓復榘を其司令部に訪問して斡旋の勞を取りしに四國公使の要求せる鮑軍の武裝返還及兵士の解放に對し韓復榘は南京國民政府の命令なくんば承認し難しと拒絶せしに因り外交團は會議を開きて對策を講ずるに決定さる。**十二日**國民政府は各國駐在使館に對し國民政府の命令を奉じ服務すると共に各使館は一律に黨旗を掲揚すべしとの命令を下せり。京津衛戍總司令部暫行條例十五ケ條を公布さる。徐源泉と傅作義、南桂馨軍兩派の妥協成

推移を監視す可し。張宗昌の部下幕僚五名は全軍の將領を代表して天津日本租界の常盤ホテルに前北京政府軍事最高顧問たりし阪西利八郎中將を訪問して主將張宗昌に對し決戰の決意を飜す樣盡力を懇請す。阪西利八郎中將は切迫せる天津市民百萬の危險を坐視するに忍びずと爲し支那側有力者及直魯連軍幹部の懇請を容れ個人の資格を以て張宗昌に面會して下野又は天津城退出方を勸告さる。**十日**張宗昌は天津駐屯軍司令官新井中將を司令部に訪問して天津死守の決心を放棄し軍を率ゐて引上げに決心の旨を發表せり。午後八時五十分奉天城小西邊門外なる日本人居留民團內に爆彈を投ずる者あり爲に在留日本人は極度の不安を感ずるに至れり。**十一日**委員會は主席蔣作賓に命じ北京に入城せしむ。蔣介石は北伐成効せるを以て再次國民革命軍總司令及軍事委員會主席を辭職せん事を通電す。山西軍の北京入城と共に同地は國民黨政府の勢力下に歸し治安維持會は任務完了の爲め解散さる。**十日**國民政府は緊急會議を開きて蔣介石の慰留を決議し蔣介石玆に於て留任を諾せり。天津城の治安維持權を掌握すべく策動せる徐源泉は遂に武力を以て天津城市の佔領を企て兵を北倉に集結す爲に張宗昌は直に徐軍討伐令を發し十日午後五時より北倉を中心として張徐兩軍間に戰端起る。**十一日**京津衞戍總司令閻錫山は北京に入城す。徐源泉は直隸省議會及天津總商會以下の各法團の推戴を受け正式に國民革命軍天

對し何等侵略的計畫を有する者に非ず又其目的の爲に自國の軍隊を集中せる事なく且つソヴェート政府は滿洲は勿論自國の勢力地帶と見做さず從つて之を口實に支那共和國の如何なる地點にも干渉に出づるの意志なし。

在哈爾賓露國總領事代理アコロンチンは右露國政府の聲明に基き哈爾賓駐在日本總領事八木元八に對して日支兩國の親善關係を離間せしめんと企圖したりとの日本のソヴェート中傷の宣傳記事の取締り方を要求し抗議を提出し來る。**十八日**張學良奉天城に歸る。張筱堯は張宗昌に對して叛旗を飜へし第三集團軍第八軍長に就任し一萬餘の其部下軍隊は山西軍に改編され天津城北郊に駐屯せり。**十九日**奉天政府當局は衞隊旅

情良好ならざるを以て其就任に反對する者有りしも馮玉祥の推薦に依りて同派の巨頭王正廷は黄郛の後を受けて外交部長に任命され同時に日本新聞記者に對して其意見を開陳する所あり。

國民政府特派接收委員陶履謙は北京政府外交部に於て重要外交文書の引繼を完了せり。南軍の方振武軍は天津入城を企て保衞司令傅作義の爲に天津の西方約一里に位する李家莊に驅逐せられしも方軍は再び天津入城を決行せんとし傅軍と戰端を開始せり爲に日本駐屯軍全部五千總出動を開始し戰鬪配置に附き避難民は日本租界に殺到し大混亂起る。南桂馨は天津駐屯軍司令官新井中將を訪問して天津警備の山西軍と徐源泉軍及び方振武軍との間に諒解成り漸次秩序恢復

及各國軍司令官に對し治安維持の任に當る旨の通告を發送せり。張作霖無き後の奉天派は內部に大動搖起り張學良と楊宇霆との對立は日を經るに從つて益濃厚と爲り兩派の反目確執愈募り暗中飛躍最も盛んと爲る。**十三日**張作霖は遭難當日たる六月四日の夜遂に死亡せる事實外間に漏洩誼傳さる。褚玉璞軍は徐源泉軍の天津入城を機會として南軍と妥協せんとする者漸く多く其一部隊は已に天津に引返し入城せり。**十六日**北京、天津間の京奉鐵道復舊し始めて開通す。張學良は大元帥令に依りて奉天督辦に就任せり、勞農露國政府は其機關新聞たるイズヴェスチヤ紙を通じて左の對滿洲聲明書を發表せり。

ソヴエート露國は他の列強に對抗して滿洲に

らず天津の形勢再び險惡化し來る。**十三日**第四集團軍中の李品仙所率の一部隊北京に入城す。戰地政務委員會は京直の政務を接收す。國民政府は令を下して郵政を統一し北京の郵政總局を裁撤して南京に歸併せしむ。北東に於て戰地政務委員會組織さる。京津衞戍總司令部內に外交部を新設し李慶芳を以て之が部長に任ず。南軍方振武、孫良誠兩軍約二萬は津浦鐵道に沿ふて北進し今朝天津郊外西郊に到着せり。王正廷は國民政府外交部長に就任す。天津保衞總司令傅作義と徐源泉との間に於て警備區域の妥協成立し徐源泉は副司令に就任して責任の衝に當る事に決定され天津の治安僅に保衞せらる。**十四日**國民政府部內に於ては王正廷と日本人間の感

連して楊宇霆にも懸疑の波及するありて事態益重大化するの兆あり。新任奉天督辦張學良は員を派して奉天駐在日本總領事林久次郎を訪問せしめ非公式に張作霖の死去を通告し併せて正式公表は暫時宥予を乞ふ旨を附言せしむ。**二十日**奉天政府の代表として閻錫山と交渉中なりし邢士廉、于珍は天津より海路大連に上陸し直に奉天に歸り閻錫山の使命を以て張學良との妥協問題に就き畫策斡旋する所あり。天津警察廳は本月十二日以來城市民の掠奪を被むりたる者商舘八百餘軒又住宅二千七百餘戸に上れる旨を發表報告さる。張學良は東三省に安全地帯を樹立して滿洲の獨立を畫策せりとの風說盛に起る。代理督辦張學良は全國の各省軍民長官に向けて左

す閻錫山は國民政府に通電して左の三大事案を情陳する所あり。

一軍備縮少會議を開く可し。

二財政を統一す可し。

三交通機關を統一す可し。

天津警備司令傅作義は天津駐在日本總領事加藤外松を訪問して就任の辭を述べ又天津の秩序恢復の經過を詳細說明して諒解を求むる所あり。京津衞戍總司令閻錫山は稅務監督に對して北京稅務監督處の收入全部を戰費政務委員會に交付す可しとの命令を發せり。**廿日**國民政府は內政部長の提案に依りて國產奬勵辦法九ケ條を公布さる。上海特別市長は上海特別市同業市場暫行條例十九ケ條を認可し實施の旨を發布す。財政

及吉林軍、黑龍江省軍約三萬の大軍を奉天城附近に集中せるも日本軍に對しては絶對に無抵抗主義を取り滋事を釀成し時局を重大化する者は嚴罰に處する旨の訓戒を下命さる。楊宇霆は孫傳芳一派の暗中飛躍に依つて暗殺されたりとの風說起る。奉天軍參謀長臧式毅（ツァン、シイ、イシ）は奉天の東洋拓植會社內に設置せられたる關東軍司令部に村岡司令官を訪問し張學良代理として張學良の正式督辦就任の辭を述ぶる所あり。京奉鐵道局機務處長孫鴻哲は常蔭槐と共に天津より唐山驛に赴くの際南軍と通謀せる事發覺し張學良部下の第三方面軍の爲に捕へられ同人の自白に依りて常蔭槐が張作霖の爆死事件に關係せること判明し常蔭槐も捕縛されたりとの風說傳はり之に關せる旨を述べ且つ日本軍の公正なる態度に對して感謝の意を表さる。天津中央車站と北倉との中間所在の火藥庫は南軍便衣隊の爲に爆破さる。國民政府特派戰地政務委員長蔣作賓一行は北京行政事務全部の接收を完了せり。**十五日**津浦鐵道復舊し始めて開通す。山西軍李成逵の率ゆる一萬五千の大部隊は威風堂々として天津に入城し人心漸く安定す。**十六日**蔣介石は辭意を飜へして北伐の善後處置に當るに決意せりと傳ふ。**十七日**國民政府は爾今北京郵政總局を廢止し總辦佛國人デシュトランに對し南京移轉を命じ同人は十七日北京出發南京に移り之に依て支那全國の郵政は完全に統一狀態に歸せり。**十九日**國民政府は新商標法を公布し實施の旨を發布

命令を發せり。**廿二日**京漢鐵道は民國十六年春蔣介石の率ゆる國民革命軍の揚子江進出に依り流石の安國軍も脆ろくも一敗地に塗みれて湖北省境より掃蕩され河南省內に敗走してより以來南北支那の交通全く斷絕し以來滿一ケ年を經て始めて北平(舊北京)漢口間交通開始さる。**廿三日**奉天城に於て故大元帥張作霖の接三儀(三日間の通夜の儀)行はれ內外多數の名士參列さる。奉天城內四平街の城隍廟に於て故張作霖の三日祭を擧行され亦一般市民は廿一日より廿七日迄で七日間半旗を掲げて死亡後三日間は歌舞音曲を停止さる。勞農露國政府は外務省極東局長メリニコフに命じて張作霖死後の滿洲に於ける政治的一大變動を豫想しハルピンに特派し馮

に對し同領事館の嚴重捜索方を命じたれども何等の證據品の得る所なく空しく引揚げたり。日本民政黨は東京會館に於て大會を開き同黨の對支外交政策に關する決議事項を發表する所あり依て國民政府は次席中央執行委員李烈鈞の自署せる聲明書を井戸川辰三中將を通じて民政黨總裁濱口雄幸並に新黨倶樂部總裁床次竹次郎に宛て送致し以て日本國民に訴ふる所あり。**廿三日**勞農露國政府はモスクワ駐在中國代理大使に對し在天津勞農露國總領事館捜索事件に關して長文の强硬なる抗議を提出し同代理大使は即時に國民政府に向け之を移牒せり。**廿四日**上海工會整理委員會條例十二ケ條を公布さる。國民黨中央宣傳部を天津特別市第二區に設け北方を中心

の施政方針四要項の通電を發送せり。一卽時軍事行動の停止、二外交刷新、三軍備縮少及產業の開發、四財政整理及省民の負擔輕減。滿洲臨江縣知事は馬賊討伐の爲め滿鮮國境地方に出動せる朝鮮平壤駐屯步兵第三十九旅團長中村孝太郎少將の嚴重なる抗議に對して嚴正公平なる日本軍に對して何等非違の行爲なき旨の聲明書を發表せり。**二十一日**張學良は本月四日の夜既に死亡せる故大元帥たる父張作霖の喪を始めて正式に發表せり。奉天政府は交涉署に向け大元帥張作霖は二十一日子刻（午前〇時より二時迄での間）に於て死亡せり依て之を中外に通告すとの喪を發表し又黑龍江省督軍吳俊陞死去し二十三日に於て三日祭を行ふ旨發表す可き

は同部煤油（石油）特別稅全收入を擔保とする短期善後公債四千萬元を五ケ年賦償還にて發行せり。國民政府は特別市組織法三十九ケ條及市組織法四十二ケ條を公布さる。國民政府は政治會議に於て直隸省を河北省と又北京を北平と改稱することを決議發表さる。國民黨中央政治會議に於て天津城市を特別市と爲す事を決議さる。馮玉祥は國民政府に對して長文の電報を發して第二集團軍總司令及軍政部長辭職を要請する所あり。**廿一日**國民政府は日本駐在代表殷汝耕の留守中王大楨を派遣に決定發表せり。天津警備司令傅作義は天津駐在ソヴエート露國總領事館內に中國共產黨員百餘名潛在し且つ武器彈藥及宣傳文書多數を密藏せりとの懸疑を以て軍

は堅固なる塹壕を築造して屈強の陣地を構へ着々戰備を修めて關內に駐防し以て一大決戰の機を待てり。孫傳芳は奉天に入城す。段祺瑞の女婿吳光新は近き將來に於て南方派の內訌分裂を必然的趨勢なりと看取し唐紹儀等一派の舊國民黨系と協力して段祺瑞擁立運動に熱中し張學良を勸誘し暗中飛躍を試むる所あり。楊宇霆は張學良の委任を受け第三第四方面軍の改編其他の後事に從事せるを好機に軍隊中に自己の勢力を扶植せんとし軍隊を率ゐて奉天に歸駐し以て飛躍を企圖すとの風說起る。**二十八日**舊張宗昌部下の顧震軍約三百名は山東省膠縣城に入城を企てたる爲め日本軍は先の聲明に基き二十支里以內に入るを拒絕せるも同軍は日本軍に對して挑戰

民政府に提出せり。

一 三民主義に服從し青天白日旗を揭揚す。

二 國民政府に對し各王公の待遇改善を要求す

三 蒙古革命は自治に委せ外部よりの干涉を許さず。

四 蒙古人治蒙を主旨とし漢人の入蒙を許さず

若し右の要求を容れられざる場合は蒙古の獨立を宣言して全然中國と關係を斷絕す可し。

二十六日何成濬は北平特別市長に就任せり。米國東洋艦隊司令官ブリストル少將は上海、天津に一萬の大軍を駐屯せしむるは唯だ徒に支那と交情を阻害する有害無益の政策なりとの意見を發表さる。**二十八日**蔣介石は漢口に抵りて李宗仁と會見し共に携へて北平に入城せり。上海に

玉祥の援助政策を重心と爲す對滿政策の樹立に畫策焦心する所あり。**二十四日**民國元年以來北京政府は共和國支那政府としての正朔を傳統せるも北京に於ける全政治機關は此日を以て國民政府の手に接收され中央政府たるの存在を失ひ單に河北省の一地方的政治機關たるに過ぎざるに至れり。**廿五日**東三省首腦者大會議を開き其結果張學良は自ら東三省保安總司令に就任し萬福麟は吳泰來の臨時黑龍江省督辦たりしに代つて正式督辦に任ぜらる。張作相は奉天の各團體より東三省保安總司令に推されしも固辭して受任せず。**二十七日**奉天軍は灤州の陣地に於て主力三萬餘を集結し芦臺駐屯の張宗昌軍を第一線に配置し唐山の第二線及開平の第三線各陣地にとして宣傳に盡す事と爲り部長吳僑人は日英米佛等各國の內外新聞通信記者を招待して三民主義は卽ち共產主義を排斥し不平等條約撤廢と中國の統一を高唱し中國自ら國際的通信社を創立するの意圖ある旨を發表せり。**二十五日**南京中央政治會議は臨時會議を開き決議を以て李石曾を以て北平政治分會主席と爲す。商震を以て河北省政府主席と爲す、何其鞏を以て北平特別市長と爲す、南桂馨を以て天津特別市長と爲す。內蒙古地方は從來張作霖に歸屬し以て其安寧を保持せしも張作霖の沒後に至り東三省の政體動搖し南方勢力の進出に因り內蒙古地方の政情頗る不安に陷りし爲め同地方の各王公等は大會議を開催して其結果に因り左の各項を決議し之を國

しむる事。
二 財政の統一を謀る事。
甲 國家税と地方税とを區別し又國家費と地方費とを區別する事。
乙 一切の通過税を廢除し改めて特殊消費税と爲す事。
三 交通を統一し保護貿易法を立て以て民生を裕かにすること。

四川省の劉湘と楊森の舊部下郭汝棟、范紹曾等と連合して密に楊森を打倒せんと事を謀る楊森兵を擧げて之を討つ賴心輝、劉文輝等劉湘軍に加援し鄧錫侯、劉存厚、田頌堯等楊森軍に加入す是に於て遂に大戰と成り全省を牽動せし結果劉湘軍は大敗し一面周西成、李宗仁に向て救援

せる爲め日本軍は同軍を二十支里以外に驅逐せり。**二十九日**河北省灤縣城に於ける奉天派の軍事大會議の決議に依り直魯連軍は灤縣、山海關間に駐屯し先の張學良の率ゐたる奉天軍の第三四方面軍は吉林軍と共に關外撤退に決定し移駐せり。奉天省長劉尙淸は日支軍隊が奉天に駐屯するは人民の疑惑を深からしむるに依り外交當局をして人心安定の爲め撤兵方を勸告せしむる事を決議せり。

全國經濟大會議を開き左の條件を決議發表さる

一甲　政府に向つて卽時裁兵し兵數一萬を以て一個師團を作成し全國の總兵數を五十萬人と定め五十個師團を作成する事。

但し本經濟會議の調査に依れば現在全國に八十四軍團二百七十二師團十八個獨立旅團及三十一個獨立團（聯隊）有り。

右合計五十萬人とし其經費は最大限度を一億九千二百萬元と爲し現在全國に於ける軍費の三分の二を渝ゆるを得ず。

乙　中央に兵工建設委員會を設け又全國各省に兵工建設委員分會を設け裁兵の一部を以て武裝警察を組織し尙ほ其殘餘の全部を以て開墾、修路、水利事業等に從事せ

七月　**二日**張學良は全國統一、國民會議開催の通電を發せり則ち一種の和議的提議と解せらる

し同時に一般に對して布告さる。**廿九日**國民政府の政治會議に於て河北省政府を舊直隷省城保定縣城に置く事を決議さる。**三十日**蔣介石等は河南省新鄉縣城に於て馮玉祥と會見し北伐善後計畫を商議せり。上海に於て開催されたる全支經濟會議閉會式を擧行さる。閻錫山は山西全軍に向けて裁兵を通電せり。天津日本居留民は北支那增加派遣隊の撤退延期を請願せり。奉天第三四方面軍は總司令部を昌黎縣城に移駐と共に山海關に向け總退却を開始せり。天津駐屯の日本軍五個中隊は警備の爲め山海關に向つて出動を開始せり。

七月　**一**日國民政府は公文を以て今後兵員の補充及新兵を募集する事を嚴禁する旨を公布さる

を求むると共に一面楊森に向て和を求めて以て一時緩兵の計を爲す楊森三條件を提出して不調に歸し楊部乃ち再び兵を進めて重慶城を攻陷す爲に劉湘軍は壁山方面に敗走せり。上海に於て開催せられたる全支經濟會議に於て新公債三億元の發行及常備軍の大裁兵案を決議發表さる。北京特別市政府組織され何成濬推されて市長となり公安局　財政局　土地局　社會局　衞生局　教育局　工務局及秘書處の七局一處を設け此の新制度の下に民國政府としての新政の第一歩に入れり。戰地政務委員會は國民政府の命に依りて直隷省を河北省と改稱し又京兆區をも併合して北京を北平と改稱し特別市制を布く旨京兆及舊直隷省管內各縣知事に向つて正式に通知を發

暗中飛躍日と共に益々甚だしく裁兵問題に付ては文武兩派の意見合致せず早くも大論爭を惹起す。南京中央黨部特派員周利生　鄭異　魯純仁三名は在日本國民黨支部整理の爲め神戸に上陸せり。北平に於ける最高政治機關たる戰地政務委員會は河北省政府設立と同時に解散され外交事宜は省政府主席商震之に當り蔣作賓は政治分會委員として北平に殘留する事に決定せり。**三日**蔣介石等北平に入る。**四日**天津に於て河北省政府成立し主席商震　委員孫奐崙　徐永昌　段宗林　朱綬光　沈尹默　溫壽泉　嚴智怡等皆な共に出席せり。**五日**京津衞戍總司令閻錫山は北平外交署に於て同地駐在各國公使及同駐在武官一同を招待して盛宴を張り就任の辭を述ぶ。

五日張學良は正式に東三省保安總司令に就任し南方各領袖に對して和平の通電を發送せり。

南京に於て全國財政會議を開催さる。國民政府は天津海關二分五厘附加税を擔保として月利八厘額面百元に對し年取九十八元の天津海關二分五厘附加税國庫債券九百萬元の債券を發行さる。**二日**天津駐在勞農露國總領事館搜索事件に關しモスクワ政府の提出せる抗議に對し國民政府は之を無視せる爲め同總領事館以下天津所在の同國各機關は全部閉鎖して本國に引上げに決定さる。國民政府は外交部次長唐悅良を先に北平に駐派せるが本日國民政府は近く南京に於て各國公使と會同して條約改正問題商議の意向あり本月廿日南京に於て條約改正會議を開催すべきに就き各國公使に對し南京に來る事を要求すべき旨を電命せり。天津に集合せる各派代表の

に於て暗殺す。國民政府外交部は正式に左の宣言を發表せり。

一 不平等條約の滿期に達するものは完全に無効と爲し別に新條約を締結す。

二．各國との舊條約にして已に期の滿つるものにして新條約未成立の期間は別に過渡辦法を定むる事。

國民政府外交部は伊、丁兩國に對し條約滿期の通告を發送せり。

八日 新疆省交涉署長樊耀南の爲に暗殺されたる同省政府主席楊增新の義子同省民政長金樹仁は衆に推されて代理同省政府主席兼總司令に就任し各軍を率ゐて樊耀南を討伐し一味廿一人を銃殺して秩序を恢復せり。閻錫山軍に降服せる直

六日國民政府は北平西山碧雲寺內なる故孫文の祭祀典を擧行し國民革命軍總司令蔣介石は長文の北伐完成祭文を供へ河北省政府主席商震之を代讀せり。舊國務院跡に於て北平政治分會成立式を擧行され同分會委員として左記の通り宣誓の上就任せり。

鹿鍾麟　白崇禧　劉守中　馬福祥　閻錫山

陳調元　蔣作賓。

蔣介石　馮玉祥　閻錫山　李宗仁等香山に於て時局重要問題に就き會議を開催せり。蔣介石は孫文墓前に於て營まれたる北伐完成奉告祭に於ての奉告文中に南京遷都其他四要項を宣誓せり。**七日**國民政府の外交特派員たる樊耀南は新疆省城に於て督辦楊增新を法政學堂の卒業式場

十三日東三省に於ける最高立法機關たる省會議聯合約章（東三省連合會議憲法）全文二十二ケ條を決定して主權の所在を明かにし以て保安委員會の指揮監督に任ずる事と爲せり。奉天政府は東北各省區臨時保安公約十四ケ條、東三省々議會聯合會組織大綱十五ケ條、東北臨時保安會組織大綱十ケ條及同會員名簿を奉天に於て公布さる。東北總司令張學良は東三省に於ける內治外交方針十一ケ條を制定し公布せり。

對して同政府の伊支條約廢棄通告問題に就き予は國民政府は同條約の廢棄と六月卅日以後無効を宣言せる權利に對して反對し又新政府が通商條約の改訂を要求する權利を有せざるは伊支通商條約第廿六條に依りて明白なりとの反駁的回答を送達せらる。國民政府外交部は上海駐在佛國總領事に對し中佛安南通商條約及附帶規定は七月七日を以て滿期と爲れるを以て之が廢止と新條約締結方を通告さる。參謀總長鈴木莊六大將は御裁可を得て先に山東省に出兵せる第三師團に對し約六千名の動員解除の上歸還を電命さる。**十二日**湯山の巨頭會議に於て東三省問題、裁兵問題、一般軍事問題等に就ての具體案を議了し李濟琛の賛成を得て全體會議へ對し提案を

九日張學良は東三省に於ける新進の人材を以て東三省保安總司令部組織を完成せん事を期せり。**十日**奉天派の領袖湯玉麟は熱河保安總司令に就任せり。**十一日**奉天派の和議代表邢士廉、于珍等は湯山温泉に於て蔣介石　閻錫山　李宗仁　馮玉祥等の巨頭と會見して和議重要會議を開催せり。**十二日**奉天駐在日本總領事林久次郎は本國政府の命に依りて張學良を訪問し南北妥協問題並に之に伴ふ青天白日旗掲揚問題に就き滿洲に於ける治安維持上の見地より立論して反對的の一忠告を與ふる所あり。佛國政府は英國政府と協調して中國の不平等條約改訂に應ずるに全支那を統一する政權の確立せざる間は之に應ずる能はざる事に對支方針決定の報傳はる。

魯軍及孫傳芳軍は閻錫山の統制より蔣介石の統制に移さる。國民政府は正式に裁兵案を全國に通電して招募停止を第一辦法と爲し若し違ふ者は法を以て處斷する旨を布告さる。**九日**蔣介石は三民主義を奉じ共產黨を全滅すべき旨の聲明書を發表せり。**十日**白崇禧は張宗昌に向けて直魯連軍の解散を迫まり爲に河北省灤縣一帶の地方風雲急を告ぐ。**十一日**國民政府外交部は北平、上海に外交辦事處を特設し關係各國との外交事務を處理せしめ其簡章六個條を公布さる。國民政府は王揖唐　吳光新　曹汝霖　陸宗輿　章宗祥　顧維鈞　湯鄉銘　王印川　湯漪　姚震　章士釗　曾毓雋等十二人に對して通緝令を發せり。駐支伊國公使は國民政府外交部長王正廷に

る旨を辯駁さる。**廿日**在奉天林總領事は東三省保安總司令張學良を訪問して南北妥協に關する重要なる友誼的注意を與へらる。關東軍司令官陸軍中將村岡長太郎は奉天の南洲滿鐵道會社公所に於て張學良と最も意義深き會見を遂げ南北兩派の妥協に依る三民主義の遵奉青天白日旗の揭揚は日本としては不同意の旨を力說され村岡中將の態度は宛然慈父の愛兒に對して諭すが如く年若き總司令を訓とし張學良は村岡司令官の誠意に感泣せり。張學良は在北平の奉天派代表邢士廉、于珍に向けて三民主義遵奉及青天白日旗揭揚を約せしも日本政府の反對警告に依り當分右實行不可能の旨を蔣介石に對し通告すべき旨を電命せり。**廿一日**張學良は林總領事に對し

四千萬元を發行さる。**十七日**國民政府は陸軍禮節(禮式法)百十二ケ條を公布し國慶日の禮砲は百一發、紀念日の禮砲は三十一發と定めらる。在上海矢田總領事は南京に赴き國民政府外交部長王正廷に對し濟南事件の交涉開始を商議さる。矢田上海駐在總領事は王正廷を訪問し日支通商條約改訂期限の到來に當り國民政府が同條約第二十六條の規定に基く改訂要求には日本政府は未だ國民政府を正式に承認せずと雖も欣然之に應ず可きも廢棄若くは臨時辦法何れかに依る時は條約の文面より見て斷じて承認し難き旨を通告さる。**十八日**國民政府外交部長王正廷は矢田上海駐在總領事を訪問し日支兩國間の通商條約は七月廿日を以て改訂期限滿了と爲る可き

十九日熱河都統湯玉麟は通電して熱河特別區は黨國に歸隷し改めて青天白日旗を掲げ三民主義に服從すと聲明せり。奉天派は先に公布の東三省議會聯合會約章を中止し此に代ふるに東三省保安會成立し別に同會に於て臨時約法制定に決せらる。駐日公使汪榮寶は外務省に亞細亞局長有田八郎を訪問して林奉天總領事及村岡關東軍司令官が張學良に對し三民主義の遵奉並に青天白日旗掲揚方を中止し同時に南北兩派の妥協を否認すべく警告せるは明かに中國の內政に干渉するものなりとの嚴重詰問的抗議を提出せるに由り有田局長は張學良より滿洲に對する日本政府の所見を求められたるに對し唯だ單に好意的忠告を爲せるに過ぎず斷じて內政干涉に非らざ

決定さる。**十三日**蔣介石は北平西郊香山の碧雲寺に於て馮玉祥　閻錫山　李宗仁等と會議の結果長文の軍事善後意見書を發表せり。北平特別市長代理何成濬辭職し前の馮玉祥の秘書長たりし何其鞏(ホウ、チイ、コン)を以て之に代ふ。ギリシャ支那平等通商條約締結され調印成る。**十四日**河北省黨務指導委員會は北支那地方に於ける民衆の迷信を打破せん爲め省內の墓地及廟地を一律に沒收し一括して同省政府の管理に歸屬せしむる旨を決議し發表せり。**十五日**國民政府は南京に於て釐金稅撤廢會議を開催せり。國民政府外交部は條約改訂に關する正式の宣言書を各國へ通達せり。**十七日**國民政府は全國軍政費の籌劃案として石油特別稅を以て擔保と爲し石油特別稅短期公債

急派し以て在留民保護の手段を實行さる。蔣介石は奉天派の妥協交渉不調に陷り斷然武力討伐を主張して奉天派を脅迫せり。**廿四日**米國政府は國務長官ケロッグの名を以て同國の對支政策綱領を提示せる對支通牒を送達せり。**廿五日**張學良は東三省の施政方針を保境安民主義に決定して之を中外に發表せり。共産黨員師恭なる者を其の巨魁とせる暴徒團は東三省擾亂計畫暴露して捕縛され大連市會議員傅立魚等も一味として逮捕さる。黑龍江省昂々溪に於ける東支鐵道と洮昂鐵道の交叉問題は交渉の結果支那側の有利條件に依りて解決さる。蔣介石は張學良に向け滿洲の現狀維持を勸告し日本政府の南北妥協中止警告は暫く隱忍されたしとの密電を寄す。

敎徒は憤慨し全部結束して劉郁芬に反抗して反亂を惹起せり斯くて反亂は遂に宗敎的に變じ甘肅全省に擴大し回敎軍は同省涼州鎭守使馬廷讓を首領に戴き此地方に於て最も勢力有る所謂五馬家（五名の馬姓の有力なる回々敎徒）と聯盟して劉郁芬軍を邀擊し頑强に抵抗せる爲め劉郁芬は遂に陝西省政府主席宋哲元に援助を求むるに至り馮玉祥は武力を以て鎭壓を命じ京漢鐵道方面の軍隊を引上げ同地方に急派し以て回敎軍總攻擊を開始せる爲め涼州を中心とせる地方一帶に戰禍擴大し涼州城を燒き兩軍の死者無量十三萬餘に上り遂に馮玉祥軍の爲に鎭定せらる。上海臨時法院は伊支裁判事件に伊太利國陪審官の出席を拒絕す則ち條約廢棄問題起りてより最

南北妥協中止問題に就ては日本政府の勸告に從ふ旨回答せり。**廿三日**張宗昌の舊部下一隊は山東省芝罘に於てクウデイタアーを實行せり。米國政府は奉天に情報機關を特設して日本の對滿蒙政策に對して深甚の注意を拂ふ可き事を命ず。在北平奉天派代表は中國新聞記者團に對して條約廢棄問題及南北妥協問題に關して日本政府の反對に接すとも東三省全省民の希望たる南北妥協方針の變ず可らざるを發表せり。張宗昌は鏡震國軍に命じて芝罘駐屯の施仲誠軍約四百名の武裝解除を斷行して靑天白日旗を撤去し五色國旗を揭揚せしむ爲に市中は大混亂を惹起し米國海軍司令官は六百名の陸戰隊を上陸せしめ日本政府は森岡領事の電請に依りて軍艦一隻を以て當然之を廢棄して新條約締結に至る迄では先に發表せる臨時辦法を適用する旨非公式に通告せり。日本政府は山東省出兵方針に關する聲明書を發表さる。總稅務司ヱドワードは國民政府財政部長宋子文と會見協議の結果左の如く決定さる。

一 總稅務司署を北平より上海に移す事。

二 ヱドワードを以て總稅務司に任命する事。

三 總稅務司の職權は變更せざる事。

廿日甘肅省内の回々敎徒は馮玉祥の部下劉郁芬の誅求に堪へず七月十二日回々敎徒の代表六名は劉郁芬に對して課稅免除を求めしに劉郁芬は右代表を晩餐に招待すと欺きて之を殺害し更に五部落の回々敎寺院を燒棄せるが爲め多數の同

ち所謂平和的侵略なりと論斷し痛所を衝いて以て餘薀なからしむ。**廿八日**甘肅省何縣地方の回々教徒は奉天派の使嗾に依り收捐税問題に憤慨して叛亂を惹起し十有餘縣城を糜爛に附し二十餘萬人を殺傷し同省内の有名なる名勝古蹟は多く焚燒されて悉く一片の焦土と化し遂に同省政府主席劉郁芬は兵を派して之を痛剿し方に始めて鎭定さる。**廿九日**上海駐在英國總領事バートンは本國政府の命令に依り北平に來りてラムプソン公使と協議を遂げ中國の國定税率を承認し又英支條約改訂交渉開始を通告するに決定さる。奉天軍第三、四方面軍は鐵道警備隊として八百餘名を夜密に錦縣發灤縣の第一防禦線に向け出動せしめ南北兩軍の戰機將に熟す。上海々

視し臨時辨法に服せざれば敢然經濟斷交を以て對抗し全國民一致協力して國民政府を援助す可しとの通電を發せり。北平外交團の決議に依り國民政府が條約廢棄の單獨通告に對しては武力的制裁を避け國際聯盟に陳述書を提出して全世界の公平なる批判に訴へ國民政府の反省を促がすの對策を決定さる。**廿三日**馮玉祥は不平等條約廢棄を機として米國の援助に賴り日支兩國開戰論の急先鋒と爲り開戰に因りて中國をして一躍世界列强に伍すべきの機會獲得的夢想論を發表せり。**廿四日**米國國務長官は國民政府に對し關税自主權確立を認むる旨の通告を傳達さる。王正廷は八月一日より全國に大々的排日運動を起し對日交渉の牽制策を企圖すべきに就き右運

張學良は前大元帥府秘書陶尙銘及同日本課長林文龍を日本に派遣して南北妥協停頓は日本政府の警告に依れる結果に非らずして他に一大理由ありと聲明せしむ。張學良は國民政府が駐日代表として王大楨を派駐せるに對抗して陶尙銘を特派して日本政府の諒解を求むる所あり。米國紐育ヘラルド、トリビユン新聞は國務卿ケロッグの對支聲明書に所謂統一されたる支那とは勿論滿洲の東三省全部を含むものなりとの旨を論評せり。**廿七日**勞農露國政府の一機關新聞たるプラウダは米國々務卿ケロツグの對支通牒を論評して米國の資本團は國民政府を使嗾し煽動利用して日英兩國に當らしめ其間隙に乘じて中國の勞働階級を搾取し其資源を開發せんとする即

初の事件として各國の注目する所と爲る。王正廷は在南京日本領事岡本一策を訪問し日支通商條約廢棄に關する公文書を手交せり。日本政府は濟南事變の解決交涉地として濟南城を指定し國民政府は之に對して即時に應諾の意を表せい。北平駐在日英佛三國公使は日本公使館に集合して國民政府の條約廢棄通告に對する三國協調策を懇談協議さる。駐日公使汪榮寶は日支通商條約廢棄通告に對し日本政府の峻拒に關する詳細なる報告を國民政府外交部長王正廷宛て通電さる。**廿一日**日本政府は國民政府の日支通商條約廢棄通告に對して強硬なる抗議を芳澤公使を通じて國民政府に提出せしむ。**廿二日**蔣介石は各省各軍に向け日本が中國民一致の希望を無

廢棄通告問題を討議し同委員十六名中李烈鈞、譚延闓外二名の委員を除き十二名の多數委員は對日開戰を主張せり就中陳樹人は最も猛烈なる開戰論者たり然れど李烈鈞は斯の過激論に動かされず終始一貫能く對日妥協論を高調して輕擧盲動を戒むる所あり。汪榮寶公使は田中兼攝外相を訪問して若し日本政府が誠心正意條約改訂交涉に應ぜらるゝに於ては國民政府は臨時辦法の適用に關しては十分再考の用意ありと言明さる之に對し田中外相は廢棄通告の撤廢なき限り日本政府は斷じて交涉に應じ難き旨を明言さる。馮玉祥は河南省城開封城に於て裁兵會議を開きて裁兵費九千萬元及工場設立費二億元を國民政府に要求の件其他三件を決議さる。**卅日**外

關勤務の支那人税關員連合會は代理總税務司エドワードの罪狀四ヶ條を擧げて同人免職の要求意見書を國民政府に提出せり。黑龍江省城齊々哈爾に於て吳泰來の部下騎兵の一隊は叛亂を起したるも直に鎭定されたり。**卅日**英國外相チェンバーレンは下院に於て支那問題に關する一議員の質問に對し滿洲に於て日本が非常なる利害關係を有し同地方に於ける在留日本人の保護に關して或る種の行動を取る事を承認すと述べ又支那問題に關して特に列國の機先を制せんとするの野心を有せず從つて既定方針に從ひ南京事件の交渉解決次第英支條約改訂交渉開始の方針を有する旨聲明せらる。

動着手を密電せり。**廿五日**米支兩國間に於て調印されたる關税新條約の內容を發表さる。李宗仁　李濟琛　吳稚暉　戴天仇等は北平の舊國務院に會合して王正廷の日支通商條約廢棄通告を不穩當と爲し國民政府に對し王正廷彈劾の意志を表示すべき申合せを爲す。國民政府最高委員李烈鈞は民政黨顧問床次竹次郎に對し渡支視察を遂げられん事を通電せり。汪榮寶公使は外務省に有田亞細亞局長を訪問して臨時辦法の遵守を要求さる。**廿七日**米國政府は新米支關税條約訂結に關し國民政府に於て米國の援助を期待さるる事の頗る迷惑なるを發表して滿洲に於ける日支兩國の關係には斷じて不干涉の方針を聲明さる。**廿八日**國民政府委員會議に於て日支條約

八月　二日奉天政府は東北臨時保安會條例大綱を發布さる。**四日**奉天城に於て故大元帥張作霖の葬儀を擧行され四日より六日迄で三日間に亘りて盛大に然かも大元師の資格を以て營まれ内外の大官名士雲の如く會葬さる。直魯連合軍及奉天軍掃討の爲め南軍は白崇禧を總指揮と爲し各軍に出動を命じ熱河より山海關に亘る一帶の戰線上に於ける南北南軍の戰機迫まる。**七日**故大元帥張作霖の葬議參列の爲め日本政府の特派せる林權助男は在奉天總領事林久次郎を帶同して張學良を訪問し鄭重にして且つ頗る友誼的なる一大警告を與ふる所ありしも効果を認めず。張學良は在奉天林總領事に宛て日本政府の勸告を斥けて南北妥協を進むる旨の通告を發送せり

八月　一日日本政府は國民政府外交部長王正廷の日支通商條約廢棄通告問題に關する十九日附覺書に對して正式回答を在北平芳澤公使より在南京岡本領事を通じて王正廷に手交すべく左の回答文を送付せらる。

一　條約の廢棄は法理解釋上從來の交涉經過に顧み絕對に同意するを得ず。

二　國民政府が若しも條約廢棄主張を撤回せば改訂交涉に應ず可き旨を表明さる。北平特別市長何其鞏は（前馮玉祥の秘書長）三十歲以下の女子に對し三週間以内を限りて斷髮令を發せり。國民政府所管の上海に於ける短波長無線電信臺は中國主要都市と電報取扱を開始せり。

二日國民政府交通部は南京金陵大學内に於て全

交部長王正廷は米國政府の關稅自主權確認通告に增長して其他一切の米支懸案解決を希望せる對米回答に對し在北平米國公使マクマレーは斷乎之を拒絕して戒しむる所あり。米國政府は米支舊條約を廢止して國民政府の公布せる關稅自主權を承認せる條約を締結せるを以て國民政府は大に之を多とせしも豈に計らんや條約正文中に最惠國條款の文句附きにて大に悲觀さる。日本政府は先に國民政府の通告に係る日支條約廢棄問題に關し廢棄論を撤廢せば條約改訂に應ずる旨の正式回答を國民政府外交部へ傳達さる。

河北省禁煙總局は阿片販賣吸飲取締に關し暫行懲罰章程九ケ條を公布し施行さる。

涉當局は一層緊張する所あり。**八日**第五次全體會議を開き于右任を主席と爲し執行監察委員三十八名出席し蔣介石は開會の辭を述ぶ。國民政府外交部長王正廷は七月十九日附を以て北平駐在日本公使芳澤謙吉に宛て左の日支通商條約滿期廢棄竝に臨時辦法適用方の通牒を送達せらる

國民政府の通牒文

同民政府現代の狀勢に適合し國際友誼及幸福を增進せんが爲め一切の不平等條約の廢除及双方平等且つ相互主權尊重の新條約締結に對し之が貫徹に努力す可き次第を本年七月七日鄭重に宣言し併せて七月十二日付を以て右貴國政府に轉達方貴公使に照會し置けり查するに光緒廿二年中日間に締結せられたる通商航

八日張學良の南北妥協成立に依りて滿蒙の時局は頗る切迫に瀕し爲に日本の朝野に緊張の色漲り對滿出兵說起り又一方には奉天軍は各軍長を奉天に召集して緊急對日關係の重大會議を開催され日支南國間の風雲愈急を告ぐ。張學良陽には林權助男及奉天駐在日本總領事林久次郎の熱誠なる忠告に從ふの狀を裝ひて南北妥協を中止するもの丶如くにし陰には國民政府との妥協を進捗せしめたる結果遂に國民政府の手に依つて日本の對滿蒙交涉の經過は筒拔け的に在ヂュネーヴの國際聯盟本部事務局へ向けて支那一流の誇張的なる逆宣傳を以て日本政府を非難の勢ひを煽ほるに努むる所あり。**九日**林權助男は張學良と會見して南北妥協問題に關し懇談する所あり

國交通會議を開き日支双橋無線電信協約及米支フェデラル無線電信協約、大北電信協約、南潯鐵路等の回收竝に內河竝に沿岸航行權の回收航路の統一自主權の確立等を決議さる。**三日**國民政府は朱兆莘を以て外交次長に任命さる。**四日**蔣介石は白崇禧に向け東三省問題は圓滿なる政治的平和解決の途に就けり京奉鐵道沿線一帶の革命軍の軍事行動一切を中止せよとの電命を發せり。**五日**閻錫山は通電を發して太原政治分會主席に就任せり。**六日**汪榮寶公使は外務省に有田亞細亞局長を訪問して日本の山東省派遣軍の山東鐵道管理問題に對して嚴重なる抗議を提出さる。佛國政府は佛支條約改訂交涉に關する草案を在北平同國公使に送達せられ爲に支那外交

限滿了の事と成れり依て國民政府は七月七日宣言の主張を本とし平等相互の原則に基き新條約を締結する事とし右新條約締結以前に於ては本國政府發布の（中華民國と舊條約既に廢止せられ新條約來だ成立せざる各外國との間に於ける臨時辨法）に依り實行す可き事を宣布し以て中日兩國の政治及商務關係を維持する事とせり就ては茲に該臨時辨法七ケ條の寫を添へ照會す貴公使に於て上述本國政府の意志を貴國政府に御轉達相成り卽時全權代表を特派し最短期間內に平等且つ相互主權尊重の精神を以て新條約を締結し以て現狀に適合せしめ兩國の睦誼をして益々鞏固ならしめ且つ兩國協同の福利增進を期せらるゝ樣致度切

海條約並に同附屬文書及同年九月十三日締結の前條約附屬議定書並に光緒廿九年締結の追加通商航海條約に對しては既に民國十五年十月第三次滿期に際し根本的改訂方を貴國政府に提議しあり。

前顯條約及一切の附屬文書並に規定は施行以來時日を經過する事既に久しく中日兩國間現存の政治及商務關係に對し不適當なる點鮮なからざるを以て六ケ月の改訂期間內に於て新條約完成せざる場合は當然舊條約の無効を宣示す可きものなりし所唯だ中日の邦交關係密接なるを以て之が邦交を鞏固親密ならしめんが爲め屢ば期限を延長し來りたるも未だ其結果を見るに至らず本月廿日を以て再び延長期

り辦理す。

第六條　凡そ支那人の納む可き税捐は在支外人は一律に章程に依り納付す可し。

第七條　凡そ上記各條に規定せられざる事項は國際公法及中國の法律に依り之を處理す。

右國民政府の通牒に對し支那國南京駐在の日本領事岡本一策は本國政府の命に依り國民政府が日本政府に對し日支通商條約廢棄竝に臨時辦法適用通告に對する反對回答文を七日國民政府外交部長王正廷に手交され日本外務省は八日午後五時右回答全文を中外に發表さる。

日本帝國公使は日支通商航海條約に關する昭和三年七月十九日付國民政府外交部長の照會を接受せる所國民政府は右照會に於て明治二

望の至に堪へず尙何分の儀御回答相成度し。

臨時辦法

第一條　本辦法各條に稱する所の外國及外國人とは專ら舊條約旣に廢止せられ新條約の來だ締結せられざる各外國及其所屬人民を指す。

第二條　駐支外國外交官及領事官に對しては國際公法上附與すべき待遇を與ふ可し。

第三條　在支外人の身體及財產は中國法律の保護を受く可し。

第四條　在支外人は中國法律の支配及中國法院の管轄を受く可し。

第五條　外國より或は外國人民の中國に輸入し及中國より外國に輸出する貨物に賦課す可き關稅は國定稅率實行前に於ては現行章程に依

款の改正を要求する事を得。

然れども最初十個年の終より起算し六ヶ月以内に兩締盟國の何れよりも右要求を爲す改正を行はざる時は本條約並に税目は前十ヶ年の終より起算し更に十ヶ年間其儘に効力を有す可し而して其後各十ヶ年の終に於けるも又同樣たる可し。

と規定し有りて何等廢棄又は失効に關する規定なく從て兩國間に特別の合意又は協定なき限り之が廢棄又は失効を見る能はざるは勿論なるのみならず現に右條文には六ヶ月以内に改正商議の完了せざる時は條約並に税目は更に十ヶ年間効力を有す可き旨明記しある次第にして條約及税目の更に十ヶ年間効力を延長

十九年締結の日支通商航海條約及付屬文書並前記條約付屬議定書及明治三十六年締結の追加通商航海條約及付屬文書は本年七月二十六日を以て滿期に達せりと爲し新條約の締結方を提唱すると共に其締結に至る迄の期間に在りては國民政府の宣布せる（中華民國と各外國との舊條約既に廢止せられ新條約未成立前に於ける臨時辦法）に照し實行を宣布する旨を通告せり依て日本帝國公使は帝國政府の訓令に基き左記の次第を國民政府に回答するの光榮を有す。

明治廿九年締結の日支通商條約第廿六條

締盟國の一方は本條約批准交換の日より十個年の終に於て稅目及本條約の通商に關する條

法を以て律せんとするが如きは猶有効なる現行條約の失効を强ひんとする者にして實に條約の正文に違反し法理解釋上將又國際慣行上有り得可らざる事に屬するのみならず國際信義を無視するの暴擧にして帝國政府の到底容認し難き所なり若し夫れ條約の改訂に至りては帝國政府は其屢ば聲明せし如く支那國民の輿望と日支間各般の密接なる關係に鑑み之が商議に應ずるの誠意と用意とを有する者にして右は先に北京の非公式商議に於て六ケ月の改訂期間滿了後も屢ば商議期間の延長に應じて改訂の達成を計らんとしたる事實に睹るも明なる次第にして國民政府の夙に認識する所なる可く此間不幸にして條約の改計を見るに

したるは何等疑を容るゝの餘地なし右は夙に帝國政府の抱懷せる見解にして先に大正十五年十月北京政府交外部より通商航海條約改訂方に關して申出有りたる際之に對する回答に於て先づ右見解を明にし更に其後數回の商議期間延長に當りても常に此點に關し支那側の注意を喚起し置きたる次第なり。

以上の理由に依り本年五月廿日商議期間の滿了と雖も前記諸條約及付屬文書は依然として其效力を有する者にして從て商議期間の滿了を以て條約の滿期なりとする國民政府の見解には同意せんとするも能はざる所なり。

加之今次國民政府通告中新條約締結に至る迄の期間を同政府の一方的處置たる所謂臨時辦

九日張學良は奉天城內の大帥府に於て緊急東三省保安會議を召集して對日本策を凝議し其の態度益々强硬と成る。**十日**北平に於ける日本人經營各新聞社に勞働罷工勃發して發行不能と爲る

府は條約上の權益擁護の爲め其適當と認むる處置に出づるの止むなきに至る事有る可きを此に宣明す。

九日國民政府外交部長王正廷と上海駐在英國總領事バルトンとの間に於て南京事件解決條約を締結し並に條約改締問題談判開始を協定さる。英國政府は支那に於ける排英國的思調を緩和し商權恢復の爲め米國の機先を制して英支條約改訂の旗諸說傳はる。廣東高等法院は管下各地方法院に向け伊西丁葡各國との事件は總て臨時辦法に據る可き旨を訓令さる。**十日**南京に於て全國交通會議を開き列席者五百餘人に上り王伯群は主席に推されて開會の辭を述ぶ。**十一日**中央執監委員大會に於て譚延闓、蔡元培は國民政府

至らざりしは主として支那國内政上の不安定に基く者なる事を特に指摘せざるを得ず。

要之條約改訂に關する前記帝國政府の態度は今日に於ても何等變更せる所なく從て國民政府にして此際篤と國際の大義と日支兩國の友好善隣關係に鑑み所謂臨時辦法實施の主張を撤回し現行條約の有効なる事を確認するに於ては帝國政府は欣然改訂商議に應じ其適當と認むる改訂を行ふに吝なる者に非ず若し然らずして國民政府は依然現行條約の失効を主張するの態度を固持するに於ては帝國政府は條約改訂の商議に應ずる事能はざるのみならず更に國民政府に於て飽迄で其所謂臨時辦法を一方的に强行する如き事ある場合には帝國政

と嚴命す。**十四日**日本政府は奉天に於ける南北妥協延期に因りて形勢變局し當分其の必要を認めずとの主旨に基き對滿蒙聲明書の發表方を中止さる。

沒す。南京事件解決に關する英支兩國全權代表間に於て調印せられたる協定內容は唯だ單に關税改訂に止らず米國よりも更に一歩を進めて支那に對し一大襟度を示し治外法權撤廢にも同意され中外の等しく驚嘆する所たり其發表に係る交換文書の全文は左の如し。

第一　昨年三月廿四日發生せる南京事件に關し本部長（王正廷）は此に貴公使に聲明す國民政府は英支兩國民の幸福と友誼を增進せんが爲め近日討論の後相互の同意せる大綱に照し該事件を解決せんと欲す此に本部長は國民政府の名を以て本事件に關し調査研究を經たる所右は國民政府の未だ南京に遷都せざる以前共產黨の煽動に因り發生したる者と認む但し

十一日奉天に於て開催されたる東三省保安委員會に於て數時間に亙る激論の結果日本に對する顧慮に因りて南北兩派の妥協延期を決議さる。**十二日**外蒙古哈爾哈政府は海拉爾內蒙古政廳グイフ王に對し內蒙バルガ地方を支那より獨立せしめ外蒙古に併す可しと要求せしもグイフ王は之を拒絕せり右は外蒙古哈爾哈政府が東三省の政局不安定なるを機として勞農ロシヤの援助に依り呼倫貝爾の獨立を企圖したるに基因せり。**十三日**北平駐在米國公使マクマレーは北平より大連市に來る。張學良は河北省灤縣城附近に駐屯する奉天軍第三、四方面軍及び熱河地方に駐防せる第三十、三十一の兩軍に對し關外撤退を實行して國民政府に對し歸順の誠意を表す可しの外交方針として關稅自主と互惠條約の締結及領事裁判權撤廢、不平等條約廢止、租借地條約解除の宣言、外國軍隊及軍艦の撤退、內河沿岸航行權の回收問題等を提案さる。**十二日**外交部長王正廷は在上海矢田總領事を訪問して先に通告せる臨時辨法の適用を中止し條約改訂交涉開始方を懇談要求さる。**十三日**南京事件に關する英支協定正文を南京、北平の兩地に於て發表さる。**十四日**國民政府外交部長王正廷は日支通商條約滿期廢棄に關する第二次通牒を在南京日本領事岡本一策を通じて北平駐在の芳澤公使に宛て通達せり。三峽航路（四川省重慶＝湖北省宜昌縣城間）就航中の支那汽船新蜀通號は下航の途中岩焦に乘上げ乘組員及船客數百名と共に沈

他の關係者を懲罰する事を本部長は通告し得る者なり。

國民政府は國際會議の實則に照し英國領事館南京在留英國人の受けし身體上の損害に對しては充分賠償を承認す此に國民政府は英支協同調査會を組織し以て損害額及賠償額を決定せんと欲す右照會す。

國民政府外交部長　王正廷印

英國公使ランプソン閣下

第二　本官は南京事件關係者の懲罰及今後同様の事件が生ぜざる樣注意すべき旨南京政府の命令が發せられたる事を聞き右命令が早速且充分に實行さるゝ事を信ずるが故に本官は英國政府代表として貴官のノートを受取り之を

國民政府は責任を負ひ此に貴政府代表等の受くる所の侮辱及傷害領事館の財産上の損失及在留英國人の身體上の損害並に財産上の損失に對して誠意を以て深く遺憾の意を表す。

國民政府は在支英國人の生命財産の保護に關して本國民政府が抱きし所の政策に依り既に軍民長官に其切實なる保護を命令し置けり。

國民政府は現在の共産黨及英國と支那の兩國民の友誼を破壞する所の悪勢力は既に消滅したる者と信ず今後在留英國民の生命及其正當の事業に對し再び同樣の暴行を見ざる事を信ずる者なり當時共産黨の煽動を受け南京事件に參加せし該軍隊は既に解散し且國民政府は切實なる辦法を講じ該事件に關係せる兵事其

第四　エメラルド號事件に關する貴下よりの文書に接するを遺憾と爲す右砲擊は在留英國民の多數が兇暴なる兵士の攻擊より逃がれんとして避難せる外國家屋の附近のみに限られたる保護の爲にして右に依り此の一團の避難民の生命が共直面せる危難より逃がれ得たるのみならず更に等しく生命の危險に遭遇せる共他の在留英國民の避難をも可能と爲したる者なり英國政府は右「エメラルド」號の執りし方法は在留英國民の生命財產の保護の爲め絕對的必要事と思意せり最も當日に於ける南京の狀況が斯る方法を執るの止むを得ざるに至らしめし事は深く之を遺憾と爲す。

英國公使バートン署名

以て一千九百廿七年四月十一日重慶にて前外交部長に發せられたる文書に記載せられたる要求の解決せられたる者と認む。

英國公使パートン署名

國民政府外交部長王正廷閣下

第三 本九日交換せる南京事件解決文書に關し本官は左の諸點に付き貴下の注意を喚起し度く卽ち南京事件當日當事港に碇泊中なりし英艦エメラルド號に依り南京に於けるソゴニーヒル」に砲火を集中せられたり之に關し國民政府は英國政府が遺憾の意を表せられん事を望む者なり。

國民政府外交部長王正廷印

英國公使パートン閣下

十五日在支米國公使マクマレーは奉天駐在米國總領事マイヤース」と共に張學良、楊宇霆兩名と會見し張楊兩人は日支關係に就きて諒解を求め米國の援助を懇求せりとの風說起る。張學良は邢士廉を以て東三省代表として南京派遣を命じ已に邢士廉は蔣介石代表方本仁と同道して奉天を出發し北平を經て南京に向へり。

且同情的態度を更に明かならしめんが爲に英國政府は條約改正問題に關し正式委員を任命して國民政府と適當なる時期に於て交涉を開始せんとす英國政府は南京事件の故を以て支那に對する從前よりの態度を改めんとはせず之を以て條約改正には何等の關係なき一個の挿話と考慮する者なり。

英國公使バートン署名

國民政府外交部長王正廷閣下

十五日獨支新條約は外交部長王正廷と駐支獨逸公使ボウルシイとの間に於て締結され調印成る。南京に於て中央政治會議を開き左の如く委員を推薦決定さる。

汪兆銘、譚延闓、蔣介石、胡漢民、甘乃光、

國民政府外交部長王正廷閣下

第五　本日交換せる南京事件解決文書に關し本官は之に依り英支外交關係に新時代を畫せん事を希望し且平等及主權の相互尊重に基て現行條約改正及未決諸案件を整理せん爲め方法を講ぜん事を提案す。

國民政府外交部長王正廷印

英國公使パートン閣下

第六　英國政府は條約改正に關する英國の要求の正當なるを認む從て一千九百廿六年十二月十八日付の宣言及一千九百廿七年一月廿八日付七種の提案に於て英國政府は其政策を宣明し且之を實施す可く出來得る限りの手段を執れり英國政府が支那に關して採り居れる有効

國民政府は芳澤公使より去る七月廿一日付を以て日本政府の回答公文を受領せり日本政府が條約の改訂に關しては何等異存なき事に對しては國民政府の極めて欣快とする所なり蓋し國民政府の所謂條約改訂に對する態度は國民政府の根本政策にして右に關する國民政府の見解に依れば從來支那と各國との間に締結せられたる條約は總て舊時代に締結せられたる者にして斯かる不平等條約は徒に國民の誤解及國家の障碍と爲る者なり故に若し國際關係を改善し友誼を增進せんとする時は斯る條約を改訂す可き者なり日本と支那との間に條約の締結せられたるは三十年以前の事にして爾來今日に至る迄で兩國間の政治經濟狀態は

陳公博、邵力子、伍朝樞、孫科、朱培德、張靜江、丁惟汾、王法勤、吳稚暉、陳友仁、何香凝女史、顧孟餘、宋子文、李濟琛、陳[illegible]夫李烈鈞、戴天仇、柏文蔚、李宗仁、宋慶齡、蕭佛成、陳樹仁、李石曾、鄧澤汝、何應欽、白崇禧、陳可鈺、陳銘樞、賀耀祖、葉楚傖、馮玉祥、古應芬、閻錫山、易培基、楊樹莊、孔祥熙、王伯群、薛篤弼、王正廷、

右四十六名を以て中央政治會議を組織せり。京津衛戍總司令閻錫山は北平に於ける勞動組合に對して即時閉鎖を嚴命す。

十六日駐日公使汪榮寶は外務省に有田亞細亞局長を訪問し左の日支通商條約廢止に關する國民政府の第二次通牒を手交さる。

者にして其際若し兩國間の條約滿期後六ヶ月以内に於て新條約訂結が不可能なる場合は支那政府は舊條約に對する態度を決定して之を宣言す可き權利を保留せる者なり然るに不幸にして其改訂期に際し支那政情不安定なりし爲め改訂交涉は延期に延期を重ね何等の決定なく今日に至れる者なり國民政府の第廿六條に關する解釋は左の如くなるを以て遺憾ながら貴國政府の解釋に對しては同意し難き者なり而して國民政府の各國に對する條約改正に關する根本原則は過般の宣言の如く一方法あり卽ち

一　現在舊條約を施行しつゝある國に對しては適當なる手續を以て改正を要求す。

幾多の變遷を來し則ち舊條約は現在の兩國の狀態に適合せず兩國間の關係に障碍を生ずる者なるが故に前回貴國政府に對して發せる通告も全く此精神に基く者なり然れど貴國政府の主張は舊條約の第廿六條に根據して滿期後六ケ月間に改訂交涉を開始せざる場合は舊條約は當然爾後十ケ年間有効なりと確認さるゝ者の如くなれども右は國民政府の見解と根本的に相違する所なり國民政府の解釋に於ては滿期後六ケ月間に兩國の一方が改訂の要求を爲さゞる場合は當然引續き有効と爲すも一方が改訂の要求を爲したる場合は此限りに非ず然して支那政府は既に民國十五年十月（大正十五年）之が改訂要求を貴國に對して爲せる

十七日 蒙古呼倫具爾地方の蒙古青年黨軍は勞農露國の援助に依りて同地方の各所に蜂起し出沒して奉天政府軍憲を惱ます事頻りなり。奉天派の巨頭楊宇霆は同地駐在日本總領事林久次郎を訪問して重要案件に就き協議を遂ぐ。奏天政府は呼倫具爾事件に關して左の如き事件の眞相を發表さる。

バルガ地方蒙古青年黨員はバルガ、ホロンビル廳長幹部に不平を抱き青年黨は外蒙古の庫倫政府と連絡を取りホウロンビルの支配より脫離する標語の下に遂に蹶起するに至れる者にして之より先き蒙古青年黨はバルガの首腦者グイフ王に對し最後通牒を突き付け外蒙古の併合を迫れるもグイフ王の爲に拒絕されたる考慮を加へ之が適用を差控へんとする意思を有する者なり貴國政府が既に欣然として條約改訂の意圖を有せらるゝ以上全權代表者を任命し速に條約改訂交涉を開始せられん事を切望する者なり。

十六日國民政府外交部は在北平獨國公使館南京移轉確定の旨を發表さる。日本陸軍省は山東省派遣軍第六師團管下の各部隊にして天津へ派遣せられたる各部隊を山東省內に移駐して第三師團に復歸せしめ第六師團は三十日より本國へ歸還と決定さる。玖波國は正式に國民政府を承認せり。**十七日**關稅改正を主とせる獨支協定は南京に於て調印の上發表さる。國民政府は去る十三日南京市中に於て暴徒の爲め米國人六名を傷

二 滿期に達せる國に對しては其効力を認めずして臨時辨法を以て之を處理すると同時に新條約締結を要求する者なり。

右は全く法理的に不合理ならざるにも拘らず貴國政府の過般の回答文中（國際信義云々）と有るが如きは兩國將來の親善增進上頗る遺憾とする所なり抑も臨時辨法なる者は國民政府が條約滿期に達し未だ新條約成立に至らざる諸外國との間の政治經濟的關係を律し之を維持せんが爲め制定せる者にして貴國政府が解するが如く偏倚なる者に非らざる事勿論なり然れども貴國と弊國との關係は極めて密接且復雜なる者有るに鑑み國民政府は這回貴國に對する臨時辨法施行に關しては特に深切な

せり尙は支那軍隊及海拉爾並イレクテの兩地間に蒙古青年黨軍の小部隊出沒して威を振ふものあるが爲め極力其の掃蕩に全力を傾注せり。

十九日呼倫貝爾事件に關して奉天軍及蒙古青年黨軍は各其代表者を選出して停戰の交渉を開始されしが蒙古青年黨軍は强硬に呼倫貝爾の獨立を主張して讓らず。ハルピン特別區行政長及張煥相は呼倫貝爾擾亂事變の煽動使嗾者として東支鐵道副理事長たる勞農反幹部派の領袖ラシェウイッチが蒙古青年黨に對し二百萬ルーブルの軍事費提供の確證を得て遂に同人を逮捕監禁せり。張學良は先きに張作霖爆死事變の勃發以來奉天域內外に於て施行せられたる戒嚴令解除の旨を

懸案解決の諒解を求むる所ありたり。**廿一日**第一集團軍前敵總指揮白崇禧の辭職通告によりて廣東、廣西兩派の軋轢愈險惡と爲り蔣介石軍の江西省進軍に依りて朱培德は第一集團軍前敵指揮と第五路軍總指揮辭職を通告し事態益險惡化し又南京に於ては經亨頤の中央執行委員を陳果夫は民衆訓練部長を張靜江は監察委員を李石曾は北平政治分會主席の各辭職を通告せる爲め中央常務委員會は遂に流會と爲り政局の前途頗る暗澹たり。**廿二日**外國銀行團は國民政府が鹽稅を殁收せるを以て正金、滙豐、滙理三銀行の反對に依り國際契約を蹂躪するものと認め財政部長宋子文に對して警告的抗議を提出さる。中央政治會議の決議に依りて李石曾の辭職を許し張

る結果十五日を期して武力的解決を斷行せるものなり則ち其の蹶起せる蒙古青年黨軍は僅に四五十名の團體を組織し一隊は十二日拂曉烏諾爾（ウノール）驛（東支鐵道西部線）沿線附近に於て第六列車を襲撃し同驛に急派せられたる支那裝甲車軍と衝突を惹起して遂に發砲交戰の結果蒙古青年黨は奉天軍の爲に擊退せられ蒙古青年黨軍はイレクテ驛頭に出沒して鐵道線路を破壞し各地に於て支那軍隊と交戰して支那軍隊を惱ますこと頻りなりしが支那裝甲軍隊の活躍に依りて遂に蒙古青年黨軍を鎭定するを得たり然れども之が爲めに第六列車はマンドへ驛に第四列車は所在不明、第三列車はブへド驛に何れも停頓して未曾有の大混亂を呈

害せる事件に付き其主謀者三名を捕縛して之を銃殺し又關係者二百餘名は外交部內に於て被害米國人に對して謝罪し損害賠償を條件として解決せり。**十八日**國民黨漢口特別市黨部は國民政府外交部と駐支英國公使ラムプソンとの間に於て成立せる南京事件解決協定は極めて屈辱的協定なりと憤慨の結果該協定責任者たる外交部長王正廷を即時に免職す可しとの懲罰請願を國民政府へ宛て通電せり。上海駐在矢田總領事は蔣介石の招請に依りて蔣介石を其私邸に往訪し日支間に橫はれる四大懸案即ち條約改訂、滿洲問題、濟南事變、排日問題等に關し腹藏なき意見の交換を行ひ蔣介石は滿洲に於ける日本の權益は絕對に是を尊重すべき政府の決心を述べて右

援助に賴る全蒙古共産國建設の一大企圖に基因するロシヤの陰謀曝露せり。**廿二日**張學良は奉天總商會に對して南北妥協に贊成なる旨を回答せり。陝西省の吳新田軍は奉天軍と通謀して擾亂を惹起し馮玉祥軍と開戰し其勢ひ頗る猖獗にして善戰せり。**廿四日**張宗昌は四川省白帝城に在る吳佩孚を推戴する旨の通電を發せり。東三省教育連合會は張學良に對し南北妥協して三民主義服從を勸告す。ハルピン駐在ロシヤ領事マルトウイノフは張煥相を訪問して呼倫貝爾事變及勞農宣傳員レウイン捕縛事件に關し露國政府は無關係なる旨を辯明し諒解を求むる所あり。露領ハバロフスク極東革命委員會の特派せし赤化宣傳員レウインなる者は赤化宣傳の爲め支那

上海法院に於て支那官憲より退場を要求せられたる英國陪審官は憤怒して退席し今後の會審を拒絕せり。北平特別市政府は反革命運動者の財産沒收に關する布告を發して逆産處理條例十八ケ條を公布さる。**廿六日**國民政府は日支通商條約廢棄通告に關する第二次照會正文を北平日本公使館に送達し同日正午北平、南京の兩地に於て同時に發表さる。京津衛戍總司令閻錫山の命に依りて解散せられたる天津各勞働組合は改めて國民政府工商部の指導に依りて復活し連合して天津市總工會を正式に創設せり。**廿七日**南京事變に關する第一次米支共同調査を開始さる。陝西省の樊鐘秀は奉天軍と通謀して擾亂を惹起せり依て馮玉祥は第三集團軍に對して樊軍討伐

公布さる。廿一日奉天政府は王鳴宇を以て奉天交涉署長に任命す。張學良は國民政府の命を奉じて在北平の何成濬に宛て東三省の軍隊を十五個師團に改編の旨を報告す。呼倫貝爾事變の中心たる蒙古青年黨員は僅に百五十餘名に過ぎず之が指導者は故成德の一子にして露國は之等を中堅として編成せられたる外蒙軍一旅團に對し約三千挺の銃器を供給し外蒙古軍は支那軍隊に比し遙に勇敢にして善戰す。海拉爾に於ける呼倫貝爾擾亂事變に村する支蒙休戰交涉は蒙古軍態度頗る强硬にして其主張は呼倫貝爾の獨立を要求し即ち本事變運動の底意は呼倫貝爾と同一狀態に在る綏遠、熱河、察哈爾等の內蒙古全般に亘れる蒙古國民黨員を結束して勞農ロシヤの

繼を以て北平政治分會主席と爲す。廿三日交通部は劉書蕃を以て中華民國郵政總辦に任命し同時に郵政總局章程十五ヶ條を公布さる。上海、南京一帶に亘りて支那青年間に日本語及日本文法研究思潮高まり來り又中等學校以上の各學校竝にセント、チヨンス、復旦、交通等の各大學に於て日本語科を設置さる。國民政府外交部長王正廷は上海に於て中國も米國提議の不戰條約に參加の準備中なる旨を發表せり。白崇禧は直魯連軍整理解散の爲め武力解決方針を決定し各軍に向けて前進命令を下し關內豊潤縣方面に於て直魯軍と開戰して敗れ白軍の死傷約三百名に上れり。廿五日國民政府は全國に通令して關羽及岳飛を武神として祀るの典祀を廢止せしむ。

決定せり又呉光新及南軍に反對の將領政客等の參加策動せんとする者頗る多し。**三十日**北平駐在露國副領事ナウモノーフは哈爾賓市より北平に歸任の途次赤化宣傳陰謀の爲め長春驛に下車し支那官憲の爲に抑留され寛城子へ護送さる。在寛城子の支那官憲はナウモノーフ副領事をハルピンへ護送せり。**三十一日**張宗昌の統制せる直魯連軍は五萬餘の兵力を以て河北省開平を中心とする一帶の戰線に於て白軍と開戰の機熟するを待ち既に前衛軍の交戰に於ては直魯連軍の有利に期し白軍敗れて遂に退却せり。

九月　**一日**山東省に殘駐せる舊張宗昌部下方永昌軍は南軍の爲め買收され突如青天白日旗を揭

て調印されたる不戰條約連盟に加入方の勸誘照會を發送せり又同通告全文は米國公使館より發表さる然れど不戰條約參加國は國民政府を承認せざるに依り若し國民政府が同條約に加入申込みの際加入國の態度に關して議論湧起す。**卅日**外交部長王正廷は日支條約改訂問題及濟南事變に關して日本政府が右案件解決を不急とせば第九次國際聯盟總會に提出して各國の批判を求めんとの主旨の長文聲明書を發表せり。**卅一日**第四集團軍總指揮白崇禧は廿個師十餘萬の兵力を以て北塘、軍糧城、玉田縣の線より遵化縣に亘る一帶に出動して直魯軍討伐を開始せり。

九月　**一日**馮玉祥は先きの北平會議の決議に依り第一次五萬の裁兵を斷行し更に第二次裁兵實

人五百名を買收して外蒙古地方に入らしめんと企圖しハルピン市に於て行政長官張煥相の爲に捕縛さる。**廿七日**蒙古青年黨員軍又々黑龍江省呼倫具爾地方に於て蜂起し同省新督辦萬福麟は之が討剿の軍を起せり。**廿八日**露國共產黨は對支革命政策根據地を外蒙古に設立するの企圖を確立しモスクワ政府の極東局長メリニコウフは其實地視察の爲め外蒙古のホルン、アルシャンに於ける諸會合に出席して大に畫策する處あり則ち呼倫具爾事變は其第一步たり。**廿九日**張宗昌は張學良の遂に事を共にするに足らざるを看破して之に反し山東省內に於ける形勢の有利なるものあるを認め己に武器彈藥を同地方面に輸送し部下全軍を舊地盤たる山東省に移動するに

令を下し陝西省潼關縣城に集中せしめ又岳維峻軍は馮軍に策應して出動せる爲め樊軍は遂に陝西省城長安に向つて敗走せり。**廿八日**上海共同租界工部局當局は八月一日上海共同租界仁記路廿五號地に開設せる國民政府外交部情報處の家宅搜索を行ひ之が閉鎖を命ず依て金交涉員は直に首席米國領事に對して抗議を提出し一方情報處主任楊光玉は外交部長王正廷に向けて報告し請訓せり。**廿九日**浙江省城杭州城內外に亘りて共產黨員警戒の爲め戒嚴令を發布さる。在上海支那砂糖業者は日貨排斥の爲め二百萬兩以上の損害を被り苦境に陷り爲に排日運動停止を決議せり。在北平米國代理公使パーキンスは本國政府の命に依り國民政府に對して佛國パリーに於

天派の代表邢士廉は上海に於て故張作霖が非國民的誘りを受けたるは誤解にて滿鐵の對抗鐵道を布設し兵工廠用日貨を排斥し及彼が非業の慘死も皆な此に基因す依て東三省は國民政府の管下に歸し安全を希望する旨を聲明せり。奉天票は白崇禧軍の直魯連軍に對する積極的解決問題に對する張宗昌の强硬的反抗態度に基因して連日低落し二千八百元に暴落し奉天取引所は遂に立會を中止す原因は奉天票の整理不可能に因る。**六日**白崇禧は張學良に對し直魯軍が七日迄でに灤河以東に退却せざる時は總攻擊開始の旨を張宗昌、褚玉璞に傳達を乞ふ旨通告を發せり張宗昌は豐臺、芦臺の戰線を放棄し開平、唐山固守に決し一戰を試む可しと張學良に回答せり。

は在上海のヒリツピン無線電信會社に對して抗議を提出せり。**五日**中央政治會議にて工會法及工會組織條例を可決公布さる卽ち工會法は全廿三ケ條より成る。上海地方法院は日本人森川邦雄に對し臨時辦法適用の目的を以て召喚狀を交附し上海駐在日本總領事は之に對して嚴重抗議を提出さる。在ヂユネーヴ國際聯盟の支那代表王景岐は先登第一の演說者として立ち新興支那の爲め萬丈の氣を吐き平等獨立を絕叫して聯盟の援助を仰げり。廣東政府は第三次共產黨搜索令を下して三百餘名を逮捕し一百九十九名を銃殺の刑に處せり。中央政治會議に於て各特別區を改めて省制と爲し左の如く決定さる。

熱河　察哈爾　綏遠　靑海　西康を以て

揚せり。張宗昌は四圍の形勢不利を認め舊國務總理潘復を介して張學良に向け下野の通電を發送せり。奉天派の代表邢士廉は南京に於て譚延闓、李宗仁と會見し奉天に於て青天白日旗揭揚の時期は十一月一日と確定の旨を傳ふ。**三日**張宗昌は開平に於て張學良より直魯軍を灤河以東に撤退して南軍との衝突を避け白崇禧監視の下に武裝解除を行ひ誠意表示せよとの電告に接せるも斷然之を拒絕し白軍に應戰す此間殷祺瑞系の吳光新等は張宗昌に對し奉天派內部の反張學良系と提携して張學良を驅逐し奉天の政權を佔有せんとの計畫を立て張宗昌も又之に同意せり。**四日**奉天政府は省長公署通令を以て東三省交通委員會章程十九ケ條を公布施行さる。奉行に着手せり。長春に於て捕縛されたる露國副領事ナウモノーフはモスクワ政府より馮玉祥に與ふる密書を携帶し押收され露國の對國民政府策動陰謀暴露さる。白崇禧は何家駒を奉天の張學良の下に特派して灤河以東山海關間に奉天軍七萬の大兵を駐防し南軍と對抗的勢威を示すを詰り即時關外に撤退を要求せしむ。**四日**廣東共產黨員は廣東市東川馬路の彈藥工場火藥庫勤務工人と內通し同火藥庫を爆發せしめて多數の死傷者を生じ謠言盛に起り市民動搖す。外交部長王正廷は國際聯盟支那代表白國駐在公使王景岐に對し第九回國際聯盟總會に濟南事變の眞想を發表せよと電命す。漢口總商會は上海總商會に宛て積出し日貨の沒收方を通告せり。國民政府

駐防日本軍の嚴正中立を希望せり。**七日**張宗昌の代表は天津にて白崇禧と會見し妥協交渉の結果白軍の條件過酷に因り不調に歸す。**八日**呼倫貝爾問題は蒙古青年黨軍の硬直なる主張に因り交渉不調と成る。東支鐵道は先きの滿鐵との運賃協定を破り片務的新換算率を實施せり。**九日**林權助男と張學良との南北妥協問題に關する交渉決裂に瀕し日本政府は滿洲の治安現狀維持を條件として南北妥協承認の意向を林男を通じて張學良に對し密に通示さる。**十日**日本の山東省及北支に派遣せる出兵々數は山東省地方に第三師團の兵力約一萬五千を算し滿洲及京津方面共全部撤退を完了し駐兵費一ケ月百三萬圓を要すと發表さる。**十一日**安福派は直魯軍を利用して

上海交渉員は在上海清水代理總領事の臨時法院に於ける日本人民事訴訟不審理事件に關する交渉に依りて日本政府の抗議を容れ審理を開始する旨非公式に回答し來れり。天津特別市長南桂馨の辭職を許可し崔廷獻を以て後任と爲す。**十日**徐永昌軍は河北省唐山炭坑を佔領し直魯軍は戰意を失ふて北方に敗走せり。在ヂュネーヴ國際聯盟總會に於て支那の非常任理事國再選を否決さる。**十一日**國民政府は十月一日より關税七種差等税率の實施を決定さる。**十二日**南京事件の伊支兩國間の交渉は伊國宣教師一名の殺害されたる一小事件に過ぎざるも賠償金問題の爲め談判不調と成る。**十三日**國民政府は米國駐在公使施肇基に宛て不戰條約加入照會回答文を發表

褚玉璞軍は豐臺に白崇禧軍を邀擊し激戰を交ゆ又直魯軍は豐臺、芦臺一帶の戰線に於て李品仙軍と開戰す。在ハルピン支那官憲は露國副領事ナウモノーフ釋放の爲め露國より卅萬元の贈賄を受け之を釋放せりとの風說起る。張學良は直魯連軍解散問題に關し總司令部に於て楊宇霆萬福麟　張作相等の巨頭を會合して會議を開き張宗昌下野　直魯軍解編を決定し若し張宗昌反抗せば武裝解除斷行に一決し臧式毅を村岡關東軍司令官の許に派し治安問題に付て諒解を求めしむると共に何豐林に改編實行の命を含めて白崇禧に對し其旨通告せしむ。白崇禧は王參謀長を芳澤公使の許に派し直魯軍に對し武力解決に着手せる白軍の軍事行動經過を述べ京奉鐵道沿

皆な省と爲せり。**六日**上海臨時法院は上海在留日本人辯護士團に向け今後日本人原告の訴訟は受理するも條約改訂問題解決迄で審理判決を延期する旨を通告して臨時辦法適用を決意せり。**八日**白崇禧は直魯軍の武力解決問題に付き天津駐屯列國軍司令官に交涉の結果列國側は何れも嚴正中立を表明し日英佛三國は特に武官一名を派し白崇禧軍と行動を共にし沿道の居留民保護並に革命軍との誤解の發生防止に當らしむ。國民政府國務會議に於て張宗昌捕縛令を發するに決す。北平特別市指導委員會は共產黨員自首條例七ケ條を公布さる。湖北省應山（イン、シャン）縣城に於て共產黨匪軍擾亂を起し縣城を陷れ知事黃鐘英を捕へ官民百餘名を殺傷し城内は殆ど灰燼に歸す。

力なる證據品を押收せり。張學良は褚玉璞の家宅捜索を爲さしめ其部下十餘名を檢擧し褚夫人を監禁す。直魯軍は灤縣撤退に際し南軍の追擊防止の爲め灤河大鐵橋を爆破し又昌黎縣及秦皇島に於て奉天軍對直魯軍間に大衝突起り白崇禧軍も又此に進擊し來りて三巴混戰の亂軍と爲り形勢重大化し直魯軍の王琦は奉天軍に捕へられ奉天に押送さる。張學良は楊宇霆を派して張宗昌に警告せしめたるを以て一旦平穩に歸せしも張學良の欺し討ち的攻擊に會ひ直魯軍は恨を呑むで遂に潰滅の悲運に陷れり。**十四日**張宗昌軍は山海關の北方石門寨附近に於て奉天軍の于學忠　胡毓坤　汲金純の第八第十一第十六第十七各軍の一萬餘人と交戰して大に之を破り楊宇霆の情形は蔣介石　胡漢民等の協調に依りて時局を收拾し以て左派の勢力漸次鎖失し中央は殆ど右派の天下に歸せり。**廿日**國民政府は日本の大演習陪觀の爲め南京駐在領事館に向け左の如く諒解を求め來れり。

蔣介石代表張群　馮玉祥代表王右楡　李濟琛代表張治中　何應欽代表熊斌　李宗仁及閻錫山兩代表は未定なりと。

廿一日國際聯盟支那代表王景岐は濟南事件に關する報告を再び同聯盟に提出す可きや否やに付き國民政府に請訓し來れるも國民政府外交委員會は凝議の結果日本の感情を刺激するを避くるの目的を以て再提出せざる旨發表せり。**廿三日**南京事件解決の伊支協定に假調印さる。英米佛

京津の奪回を計り之に對して南軍の白崇禧は北平を發して北上し又奉天第三、四方面軍は之に相策應して北支一帶に動亂再起の徴あり。**十二日**直魯軍は唐山方面にて形勢不利を認め當初より戰意なく附近村落を掠奪放火等の暴行を逞ふし革命軍救護班は之が收容に沒頭せり。鮮滿國境の上游中江鎭附近に機關銃三十餘臺を有する大刀會匪現はれ暴威を振ふ。呼倫貝爾に於ける支蒙關係益惡化し支那騎兵隊はウルシャン河方面に出動を開始せり。**十三日**奉天軍第廿軍第卅六師團は直魯軍の方永昌軍一千五百名の武裝を秦皇島に於て解除せり。張學良は張宗昌が密に奉天軍に對し叛亂を煽動せる陰謀を探知し衞隊に命じて在奉天張宗昌の家宅搜索を爲さしめ有

して同條約に加盟せり。北平に於て發行せる日本人經營の漢字新聞順天時報壓迫事件に關し南京駐在岡本領事は國民政府に對し抗議を提出さる。**十四日**支那商人の南洋地方に在留する者の排日貨運動に基因して同地方土人商人は高價の歐洲品購買に堪へず低廉なる日本貨の取引を要望する者續出するに至れり。南京に於て全國財政會議を開き十二月三十一日以前に於て釐金税撤廢に決定發表さる。**十七日**ヂュネーヴの國際聯盟支那代表王景岐は支那對列强との不平等條約撤廢問題に付き國際聯盟の援助を求め又國際聯盟の斡旋に依りて國際借款を起すの畫策に努力せり。**十八日**全國反日會は七ケ條廿餘項より成る對日本經濟絶交大綱を決議せり。國民政府

宗昌の部下李某を首領とする一味の東三省擾亂の陰謀發覺し張煥相は軍警を派して七名を逮捕す右陰謀は十三日奉天城內に於ける張宗昌の家宅搜索の結果に依りて發見せられ八月五日を期してハルピンに於て事を擧げ東三省各地に兵變を惹起せしむるの企圖を有するものと報ぜらる。**十九日**張宗昌、褚玉璞は京奉鐵道沿線安山に於て楊宇霆と會見し直魯軍解編問題に付き協議の結果。

一　直魯軍は自ら改編する事。

二　奉天軍は張宗昌　褚玉璞等の身體上の安全を保證する事。

右二條件を以て奉天軍に投降し問題解決さる。**廿日**張宗昌は部下直魯軍全部約三萬の武裝解除

央政治大會に於て討議決定の旨發表さる。

蔣介石　胡漢民　孫科　李烈鈞　李濟琛　吳稚暉　蔡元培　何應欽　王寵惠　王正廷

國民政府の排日經濟絕交機關（一種の外交後援機關）たる全國反日會は對日經濟絕交辦法十一ケ條を決定す。米國フォード自働車會社の對支大投資說起る。**廿七日**米國政府は內田康哉伯の對支政策諒解要求の爲め華盛頓訪問に際し米國は一九二八年（民國十七年）七月廿五日國民政府との米支關稅條約締結に依り支那は自然的に承認せられたるものなり然れど正式聲明は國民政府の要求ある迄で發表せずと言明さる。國民政府は產業管理及財源獲得政策の爲め中華民國建設委員會に依り中興（ツォンハシン）長興（チャンハシン）兩炭坑を沒收せし

は于學忠　汲金純に對し敗軍を修めて直魯軍擊滅を嚴命せり。張宗昌は張學良に向け褚玉璞以下直魯軍の各將領及于學忠　胡毓坤　汲金純等第三四方面軍前線各軍嚴の連署を以て故大元帥張作霖の遺訓に背き赤賊と連結し舊友を賣るの罪は斷じて許す可らずとの主旨を高調して宣戰を布告せり。奉天城内に戒嚴令布かる。張宗昌及直魯連軍の各將領並に前線に於ける奉天軍の各軍長等の連名を以て張學良に對して宣戰を布告さる。張學良は張宗昌以下各將領連名の宣戰布告に對して回答的通電を發送せり。**十五日**呼倫具爾蒙古青年黨獨立軍討伐の爲め奉天軍の飛行機を奉天より東支鐵道にて滿洲里驛へ向け輸送し蒙軍を脅威せり。**十七日**ハルピンに於て張

各國駐在支那公使の大使昇格說傳はる。**廿四日**國民政府は十一月一日より輸出入品に對し五分内外の特別消費稅賦課に決定さる。**廿五日**外交部長王正廷は獨支條約改訂問題の爲め一大非難起り地位不安と爲り朱兆莘代理同部長昇任說盛に起る。蔣介石　張群　殷汝耕等の國民政府部内の要人等は日貨排斥に依て奇利を占めんとし支那商人並に在支外國商人と連絡結托して收賄の事實顯はる。戴天仇　王寵惠　胡漢民三人の起草せる國民政府及五院組織法の草案脫稿を告ぐ。**廿六日**戴天仇　張靜江　李石曾三人は連名にて國民政府及五院組織法を中央政治會議に提出し討論の結果左記十人を選任して審査委員會を組織せしめ蔣介石は主席と爲り十月三日の中

應じ安山驛に於て會見し直魯軍改編問題に付き協議を遂ぐ。廿六日露領沿海州地方に於ける露人間に反勞農政府熱高まりポグラニイチナヤ駐屯軍の反政府兵七十二名支那領内に逃入し武裝を支那官憲に引渡し生活の保證を要求せる爲め露支兩國官憲間に交渉問題起る。呼倫具爾事變解決支蒙協定成立し解決さる。廿七日洮昂鐵道の江橋、大興間に於て大洪水の爲め橋梁流失し交通杜絶し被害甚大なり。奉天派代表楊宇霆は灤縣城に於て南軍代表白崇禧と會見し灤河以東山海關間を中立地帶に協議決定し以て南軍對奉天軍間の問題平定さる。

十月　**一日**呼倫具爾の志士郭道甫はソヴヱートロシヤ國と離れて内外蒙古聯盟を組織せんが爲

を實施する旨非公式に發表せり。交通部長孫科は米國フォード自動車會社との大借款說を否認せり。**三十日**蔣介石は日支親交增新の必要を力說せる長文の布告を發表せり。四川省要人等は資州城に於て會議を開き左の如く決定發表せり

四川省政府主席劉文輝　裁兵委員會長劉湘

同副委員長鄧錫侯　田頌堯

十月　**一日**天津海關は輸出付加稅　子口半稅等の付加稅徵收を開始し英米兩國の己に承認あり

を斷行完了し張學良は要人を特派して同軍の解除費を發給せしめたり。**廿一日**北平に於て外交團全體會議を開き京津の治安維持問題に付き重要協議を遂げらる。吉敦鐵道局は十月十日より全線の營業開始を布告さる。**廿二日**張學良は東三省軍民長官等に宛て直魯軍の解散處置經過を通電せり。張學良は大連市に於て開催せられたる日佛對抗競技に對し優賞杯贈與の爲め弟學銘、趙欣伯博士を大連市に特派せり。楊霆宇は孫傳芳と共に昌黎縣城に於て奉天、直魯兩軍妥協改編問題に付き張宗昌、褚玉璞と會見交涉せるも張宗昌等は直魯軍の革命軍に改編を希望し奉天軍に改編を拒絕せる爲め交涉不調に歸す。**廿五日**楊宇霆は奉天派を代表して白崇禧の提議に爲め其債權者たる上海抗州銀行團は百七十萬兩の債權保全の爲め鑛權恢復運動の代表たる長興煤鑛公司董事（支配人）劉萬青の後援者と爲り沒收反對運動を起して活躍せり。**廿八日**天津支那兵營內に於て激烈なるコレラ病發生し十日間に約三百名病歿す。國民政府外交部は日本名古屋市に開催の博覽會の滿蒙館の名稱に付き駐在公使汪榮寶に命じて抗議を提出せしめ參考館と改稱させ又京都博覽會に對しても同樣の措置を取る可きを聲明せり。**廿九日**香港東方パイアス灣內潛在の支那海賊團は英國船安慶號を襲ひ英人船長、機關長等數名を殺傷し之を掠奪して紅海灣に廻航遺棄し乘客千五百名も悉く掠奪さる。國民政府は民國十八年一月一日より關稅自

二日 奉天教職員聯合會は東三省保安總司令張學良に宛て南北妥協促進請願書を提出せり。吉會鐵道の終點驛を朝鮮咸鏡北道の清津港に決定さる。

中華民國を建設す既に兵力を用ゐ障害を掃除し軍政期より訓政期に入り五權の基礎を確立し人民の政權を行使する能力を訓練し以て憲政促進を期し政權を國民に報ぜん此に謹で歷史上本黨に授くる所に基き政府の職責を指導監督する國民政府組織法を發布する事左の如し。

第一章 國民政府

第一條 國民政府は中華民國の國權を總攬す。

第二條 國民政府は全國海陸空軍を統率す。

第三條 國民政府は宣戰講和及條約を締結す。

第四條 國民政府は大赦特赦及減刑の職權を行使す。

第五條 國民政府は行政院 立法院 司法院 考試院 監察院の五院を以て組織す。

め東北總司令張學良を奉天城に來訪し謀議を盡す所あり。奉海鐵道と滿鐵兩鐵道連絡試運轉は無事完了せり。奉天駐在關東軍司令官陸軍中將村岡長太郎は部下全軍を率ゐて奉天出發原駐地へ歸還せらる。撫順炭坑爆發し爲に坑夫等四十四名は之れが爲に即死を遂ぐ。滿鐵沿線の煙臺炭坑も又爆發して坑夫五十餘名慘死の厄に遇へり。東支鐵道沿線に於ては共産黨員等馬賊五百數十名と連絡通謀して擾亂惹起の策謀を逞ふするものあり。

依て日本も抗議付き納税に決せらる。**二日**江蘇省内有力支那製糸家數名滬寧鐵道沿線丹陽、龍潭間荒地五百卅萬町歩を開墾して桑圃と爲し度き計畫を立て政府に出願せり該計畫に依れば省內失業農夫四百萬人を收容し製糸場等一切の完成資銀五千萬兩を要し又該企圖には米國絹業者參加し其資銀は米資本家の投資に賴る者とし近時傳ふる英國復興事業シンヂゲートの計畫と共に日本蚕糸界の注目に値せり。**三日**國民政府組織法は中央政治會議に於て通過し直に公布され左の通り全文七章四十八ケ條より成る又同時に訓政綱領をも公布さる。

國民政府組織法

中國々民黨は革命の三民主義五權憲法に基き

會議之を議決す。

第十三條　中華民國の法律命令は國務會議の議決を經て國民政府主席及五院々長署名公布す。

第十四條　各院、部は法律に準據し命令を發布する事を得。

第二章　行政院

第十五條　行政院は國民政府最高行政機關とす

第十六條　行政院に院長一名副院長二名を置く

第十七條　行政院は各部を設け行政の職權を分掌せしむ特定の行政事宜に關しては委員會を設け之を掌理する事を得。

第十八條　行政院各部に部長一名政務次官一名各委員會に委員長副委員長各一名を設

第六條 國民政府に主席委員一名委員十二名乃至十六名を設け重要政務は委員會議を開く。

第七條 五院々長副院長は國民政府委員より之を任命す。

第八條 國民政府主席は國民政府を代表し外國大使公使を接見し及國際典禮に參與す

第九條 國民政府主席は陸海空軍總司令を兼ぬ

第十條 國民政府主席が事故に依て職務を執行する能ざる時は行政院長之を代理す。

第十一條 國民政府は國務會議を以て國務を處理し國務會議は國民政府委員之を組織し國民政府主席を國務會議主席と爲す

第十二條 各院間に解決不能事項有る時は國務

六行政各部に於て解決し能はざる事項。

第廿三條　行政院各部及各委員會は法律に準據し命令を發布する事を得。

第廿四條　行政院及各部各委員會の組織は法律を以て之を定む。

第三章　立法院

第廿五條　立法院は國民政府の最高立法機關にして法律　豫算　講和　條約諸案及其他重要國際事務を議決する職權を有す

第廿六條　立法院副正院長各一名を置く。

第廿七條　立法院は委員四十九名乃至九十九名を設け國民政府之を任免す。

第廿八條　立法委員の任期を二年と定む。

第廿九條　立法院の委員は中央及地方政府の各

け均しく行政院長より國民政府に上申して之を任免す。

第十九條　行政院各部長は各委員會に院長は必要の時に國務會議及立法委員會議に列席する事を得。

第廿條　行政院は主管事務に關し議案を立法院に提出する事を得。

第廿一條　行政院會議は行政院長副院長及各部長各委員長に依て之を組織し行政院長を主席とす。

第廿二條　左の事項は行政委員會の決議を經るを要す。

一法律案　二豫算案　三大赦案　四宣戰講和條約其他重要國際事項　五高級行政官吏の任免

第五章　考試院

第卅七條　考試院は國民政府最高考試機關にして政府の官吏は法律に依り考試を爲すを要す。

第卅八條　考試院に正副院長各一名を設け院長事故あり職務を執行する能はざる時は副院長之を代理す。

第卅九條　考試院は主管事項に關し議案を立法院に提出する事を得。

第四十條　考試院の組織は法律を以て之を定む

第六章　監察院

第四十一條　監察院は國民政府最高監察機關にして法律に依り彈劾審計(會計檢査)の職權を行使す。

機關の職務を兼任する事を得す。

第三十條　立法院會議の主席は院長とす。

第卅一條　立法院の決議は國民政府之を公布す

第卅二條　立法院の組織は法律を以て之を定む

第四章　司法院

第卅三條　司法院は國民政府最高司法機關にして司法審判　司法行政　官吏懲戒　行政審判の權限を掌り特赦減刑及復權に關する事項を國民政府に提出し其批准を得て之を施行す。

第卅四條　司法院に正副院長各一名を置く。

第卅五條　司法院は主管事務に關し議案を立法院に提出す。

第卅六條　司法院の組織は法律を以て之を定む

ふ依て中央政治常會は之を許し蔣夢麟を以て大學院長と爲す。芳澤公使は華府會議關係國外交團に向け書面を以て北平に於て發行する日本人經營の漢字新聞順天時報に對し支那官憲が排斥の目的を以て數度に亘りて同新聞紙の抑留及發送受付方拒絕事件に關し右は華府會議の決議に依り在支外國郵便局撤廢の主旨に違背するものなる旨を以て關係國側の注意を喚起さる。國民革命軍總參議張群は日本東京に於て外務省亞細亞局長有田八郎及參謀本部第二部長松井石根中將と會見し非公式に南北妥協には日本が不干涉主義を嚴守せば東三省の經濟的提携促進に努力し又國民政府の日支通商條約廢棄通告に付ては國民政府の對內的立場並に眞意を諒解され法理

第四十二條　監察院に正副院長各一名を置く。

第四十三條　監察院に委員十九名乃至廿九名を置く。

第四十四條　監察院會議は監察委員を以て組織し監察院長を主席とす。

第四十五條　監察委員は中央及地方政府の機關の職務を兼任するを得ず。

第四十六條　監察院は主管事務に關する議案を立法院に提出す。

第四十七條　監察院の組織は法律を以て之を定む。

第七章　附　則

第四十八條　本法は公布の日より之を施行す。

三日大學院長兼司法部長蔡元培は四度辭職を請

六日熱河警備司令湯玉麟は同地駐防の奉天軍第三十三軍長于芷山、第九軍長高維岳兩軍の協力擁護に依り應戰準備を整へて國民、奉天兩派に對し獨立宣言の時機を窺ふ。內蒙古烏蘭扎布地方（內蒙古六盟旗の一にして綏遠特別區域の中央部地方）は露國第三インターナショナルの後援に依る共產青年黨員三千五百餘名の活躍に依つて獨立し委員組織と爲し漢人の入國を嚴禁し綏遠城　庫倫間の交通を杜絕せり依て閻錫山は包頭鎭駐防の萬泰軍に命じて討伐せしも敗れて極力懷柔を試みしも拒絕され共勢ひ頗る猛烈にして東漸の勢を示し東三省の境地に侵入せんと企て奉天政府は頗る憂慮す。**八日**清末一世の鴻儒にして光緒、宣統兩帝の師傅たりし鄭孝胥は案は大に日本の不利益と認め强硬反對に決定す。獨國政府は香港駐在總領事ワグナウを以て公使館參事官の名儀にて南京駐在を命じたり。在北平土國公使館は南京移轉を決定し發表さる。**六日**國際聯盟第九回總會に於て支那代表の請求に依り同聯盟事務總長ドラモンドは事務總長代理アヴノール派遣の旨を國民政府に通告す依て國民政府はアヴノール一行渡支歡迎の旨を回答さる。李宗仁　白崇禧　程潛　胡宗鐸　方振武等の廣西、湖北、湖南三派巨頭は結束して新武漢派を形成して南京派に對抗し大勢蔣介石に不利の兆を呈す。**八日**中央常務委員會に於て左の如く國民政府委員を決定さる。

國民政府主席蔣介石　行政院長譚延闓　立法

論に拘泥せず速に條約改正交渉開始の希望を力說する所あり。**四日**國民政府の政費は豫算委員會に於て月額二千萬元と決定し內政費二百萬元軍事費一千八百萬元と定めらる。國民政府は日本陸軍大演習觀戰の爲め特派せる總參議張羣と田中首相會見の結果同人の報告に基き至急歸國せよとの召還を電命す。馮玉祥は蔣介石との提携は北方政局の紛糾を招くの因と爲し閻錫山との協同動作を急務とし密使を閻の許に派し提携を提議し山西派の巨頭商震は極力之を支持し閻に勸告せり。**五日**中央政治會議に於て中央銀行組織條例を決定し宋子文を特任して同銀行總裁と爲す。日本政府は鹽務稽核署のハッセフェリツクの國民政府に提議せる鹽稅擔保の外債整理

十日南滿洲鐵道會社は本年度の全滿洲に於ける大豆收獲豫想高二千百八十萬餘擔と發表す。蒙古索倫山地方の大開墾計畫成り鄒作華（ツウ、ツォウ、ホワー）を以て屯墾總司令に任命さる。張宗昌は突如戎克船に座乘して旅順口に上陸せり。十一日張學良に對して國民政府は明令を發して速に南京に進京して國民政府委員の職に就任す可しとの電命を發送す。張宗昌は僅に身を以て免かれ旅順市に亡命上陸しヤマトホテルに入り兩親及曾毓雋　李思浩　梁鳳志　莊璟珂　朱曜等の舊友部下要人等を招集して後圖を凝議せり。昭和三年十月二十日より福岡市九州帝國大學内に於て開催せらる可き日本學術協會の第四回大會に出席す可き中華民國代表員を左記五名に決定し通達せらる。

三院組織を決定し行政院の下に左の十部五委員會を設く。

内政　外交　軍政　財政　農鑛　工商　教育
交通　鐵道　衛生各部とす。

建設・禁煙（阿片）　蒙藏　僑務（外國在留民事務）勞工各委員會とす。十日國民政府主席蔣介石以下各委員は南京中央黨部大禮堂に於て宣誓就職す。國民政府は本日を以て國民革命完成最初の共和紀念節に相當するを以て九、十、十一の三日間を以て國慶日と爲し主席蔣介石は陸海空軍總司令として文武百官を率ゐ大觀兵式を擧げ又外交部主催の大祝宴に招待されたる在南京岡本領事は本國政府の命に依り芳澤公使代理の資格を以て祝賀式に參列さる。中央政

三十七年振りに再び日本に來朝して朝野の盛なる歡迎を受く。**九日**張學良は國民政府との妥協を密に進めて國民政府委員に任命され以て南北妥協成立を表せり。

院長胡漢民 司法院長王寵惠 考試院長戴天仇 監察院長蔡元培。

國民政府委員 譚延闓 馮玉祥 閻錫山 李宗仁 李濟琛 胡漢民 孫科 張繼 林森 戴天仇 王寵惠 蔡元培 楊樹莊 何應欽 陳果夫 張學良の十六名を任命さる。

駐日米國大使マクヴェイは本國より東京に歸任し米國に於ては日本の對支政策を漸次諒解し又米國民の對日觀興味勃興せる事を言明さる。

九日國民政府は其英文名稱を從前ナショナリスト、ガバーメント」と稱せしも之を改めてナショナル、ガバーメント、オブ、ザー、リパブリック、オブ、チャイナー」と改稱の旨發衣さる

中央臨時政治會議を開き行政 立法 司法の

十五日張學良は國民政府の正式國民政府委員任命を受諾する旨通電を發せり。滿洲間島一帶に靑會鐵道布設に對する反對運動起る而して其動機は東三省政府當局の密に使嗾する所に因る。內蒙古國民黨員は北平市に會合して蒙古民族の三民主義遵奉宣傳大會を開催せり。**十六日**奉天駐在日本總領事林久次郎は奉天省長を訪問して土地商租權問題に關する交渉開始方を要請し委員を選任せんことを望みしに對して同省長は直に之を應諾せり。**十八日**奉天政府は奉天城に於て東三省首腦會議を開催し張學良　湯玉麟　高維岳　汲金純　富双英　張作相　萬福麟　張海鵬　張煥相　馬廷福　楊宇霆等の最高幹部集合して熱河問題　裁兵案　車輛返還問題　靑天白

罘市中の旅館を捜索して國民黨政客十六名を捕へ內七名を銃殺す爲に馮玉祥は之が討伐軍を出動せしむ。**十六日**トルコ國政府は支那國民政府を正式承認し駐日代理大使フアウド、ベーを以て南京駐在公使兼任を命ず。**十七日**甘肅省西寧道の靑海歸屬寧夏省（甘肅省東北部の一部）設定の件を決定發表さる。天津に於て反日會なる猛烈の排日團體起り對日經濟絕交辦法を決議發表せり。**十八日**中央執行監察委員常務會議を開きて五院々長を選任決定し左の通り發表さる。

行政院長馮玉祥　立法院長林森　司法院長張繼　考試院長孫科　監察院長陳果夫。

又決議に依り左の如く決定任命さる。

國民政府委員張繼　參謀總長李濟琛　軍事參

湖南省 化學試驗所長東京 帝國大學 工學士 陳文祥。 湖北省城武昌中山大學教授東京帝國大學理學士張資平。 江西省南潯鐵路局經理東京帝國大學工學士箕學遂。 江蘇省上海大夏大學教授東京帝國大學理學士沈濬。 河北省河北(舊北京)大學教授長崎醫科大學醫學士上官悟塵。

治會議の決議を以て監察、考試兩院組織法並に軍政部 軍事參議院 訓練總監 國防會議 參謀本部の各組織條例を公布さる。 伊支南京事件協定全文を發表さる。 **十二日**河北省政府は正式に天津より北平舊國務院跡に移轉さる。 **十五日**中央銀行を設立して全國の弊政統一、裁兵問題解決、內外債整理の爲め約十億元の公債を發行せんとし財政經濟會議の決議に從ひ財政整理委員會を設けて財政根本整理實行計畫を立て又中央銀行財源二千萬元を得る爲め金融短期公債三千萬元を發行し併せて金融短期公債條例廿ケ條を公布實施さる。 馮玉祥は山東省一帶の地盤を魏益三の爲に割當て劉珍年に對し代表六名を派して辭職を勸告せしに劉珍年は直に之を銃殺し更に芝

廿日東支鐵道新任副理事長チウチンは哈爾賓本社に着任の旨同地駐在日本總領事館に通達さる。

内政部長閻錫山　外交部長王正廷　軍政部長馮玉祥　財政部長宋子文　教育部長蔣夢麟　鐵道部長孫科　衛生部長薛篤弼　農鑛部長易培基　工商部長孔祥熙　交通部長王伯群　國民政府文官長(内閣書記官長)古應芬

廿日上海中央黨部は矢田總領事の日本政府正式代表として南京に赴き國民政府との正式交渉開始に鑑み日貨排斥中止を決議せり。外交部長王正廷は各國に對して治外法權の即時撤廢提議を送達せり之に對して外交團は協同歩調を取り强硬反對方針を一決さる。外交部は支那全國各地駐在各國領事に宛て外國飛行機の支那國内飛行特許暫行辦法八ケ條を設定して通達さる。**廿一日**日支南京會議に於て濟南事代に付ては共同調

日旗掲揚問題等の重大諸案件に就きて具體條件を討議さる。南京駐在東三省代表員胡若愚は蔣介石に對して張學良は中央政府に對して絶對的服從の意志なる旨を聲明傳達せり。**十九日**張學良は奉天駐在日本總領事林久次郎の交渉開始要求に係る滿洲土地商租權問題に就きての交渉開始を拒絶の旨通達せり。

議院長李宗仁　訓練總長何應欽。矢田上海駐在總領事は南京に抵りて蔣介石を總司令部に訪問し日支交渉開始の爲め日本政府正式代表として來京の旨を告げて會見を了し外交部長王正廷主催の招宴に臨む。國民政府は王正廷を以て國民政府の正式代表に任命發表し直に總司令部に於て矢田總領事　蔣介石　譚延闓　王正廷等會見の結果十月廿日午前十時より王正廷官邸に於て交渉開始に決定さる。**十九日**國民政府は官界の宿弊を矯め官紀振肅を圖らんが爲め國務會議に於て決定せる官紀振肅令並に國民政府文官處條例十ケ條を公布さる。共産黨員自首法九ケ條を公布さる。第二次國務會議を開きて左の如く特任し發表さる。

古（即ち阿拉善部）を寧夏省の管轄區域と定め寧夏縣城を以て省城（首府）と定め。

寧夏省政府主席門致中以下同政府委員六名を任命し公布さる。

廿五日蔣介石は國民政府訓政時期施政宣言を發表さる。第一次行政會議を開きて行政院正副院長及各部長參集就任式を擧行し尋で第一次行政院會議を開き左記委員出席す。

譚延闓　馮玉祥　王正廷　宋子文　王伯群　孫科　孔祥熙　易培基　薛篤弼　蔣夢麟等十名

譚延闓を主席と爲し左の如く各部次長を選任決定さる。

外交部次長朱兆莘及唐悅良　軍政部次長張群及鹿鍾麟　財政部次長張壽鏞及李調生　鐵道

廿二日米國國務長官ケロッグは特派大使內田康哉伯の熱心且つ詳細なる日本政府の對支政策說明に信賴して其の對支方針を一變し頗る日本政府と協調的態度を取るに至れり。廿五日日本政府は濟南事件解決の爲め重要訓令を授けて參謀本部附二宮治重少將を北平、山東省及南方支那長江一帶に政情視察の爲め特派せらる。日本政府は上海駐在矢田總領事の南京引上げ請訓に對して交涉續行すべき旨の訓令を電命せらる。

査委員の設置案を決定し矢田、王正廷兩代表は各本國政府に請訓せり。外交部は領事裁判權撤廢要求を非公式に發表し適當の時機に於て條約改正會議を南京に招集し一切の治外法權撤廢を正式に各國に向け要求聲明す可きを發表さる。廿二日矢田代表と王正廷との交涉は本日午後三時より開始され討論五時間に亘り午後八時何等進展を見ずして散會され王正廷は外交部情報課長張維城を代理として條約問題及濟南、南京、漢口諸事件に關する交涉不進の經過を發表して日本に責任を嫁せんと宣傳を逞ふす。廿三日國民政府令を以て大學院を改めて教育部と爲す事を公布さる。廿四日第二次國務會議に於て甘肅省內舊寧夏道及舊寧夏護軍使所轄地たる西套蒙

三十日山東省城濟南駐在日本總領事代理西田耕一は青島市に於て本國政府よりの電命に接し日支南京會議に參加の用向を以て急行す可き旨を命ぜられ青島出帆上海に急行せり。

十一月日一露領浦鹽斯德、ハバロフスク、ハルピン間の電信電話開通さる。**二日**諸威汽船は多數の武器を滿積して營口に入港の事實判明し外交團の一問題を惹起す。**三日**在ハルピン支那側各團體は一致結束して吉會及長大兩鐵道布設反對を決議して發表せり。

して全國民小學教育の普及を謀る事。

三十日南京事件伊支共同調査開始さる。國民政府は左の明令三通を頒つ。

一參軍長何成濬。二江蘇要塞司令孫伯文。三河南省政府委員吳新田。石友三。趙守鈺。

十一月一日國民政府は山東省芝罘方面に於て鹽税徵收を開始せり。湖北省銀行營業を開始し同省政府は資本銀百萬元を支出交附せり共發行兌換券は一元　二元　十元の國家貨幣兌換券と一角、二角の補助貨幣兌換券の四種類と定めらる

二日南京に於て第二次全國禁煙大會を開き趙戴文　馬寅初　陳紹寬等百餘人列席し張之江を推して主席と爲し馮玉祥　李濟琛等十四人を推して禁種組委員と爲し　李宗仁、何應欽等十二人

廿七日北平市の少年棋客呉清源(ウー・チン・ユワン)來朝して東京に入る年僅かに十五歳にして日本の棋客四段者と對局し先手にて二勝の技倆を有せり。**廿九日**熱河省赤峰縣城に於ける排日風潮益々惡化し同地在留日本人五十餘名は支那官憲の壓迫と重税とに苦しみ居りしが突如同縣知事は何等の理由なく同地在留日本人に對して退去命令を發せり依て同地在留日本人會は其代表委員を天津駐在日本總領事館に急派して其の不法を訴へ併せて保護を出願せり。

部次長連聲海　教育部次長馬叙倫及呉震春　衛生部次長胡毓威　行政院秘書長呂芯籌。

矢田、王正廷兩代表間に第九次日支交渉會議を開き條約改正　濟南　南京　漢口事件解決交渉懸案に對する日支兩國代表の意見一致し兩代表は連名を以て聲明書を發表さる。**廿七日**北平反日大會は本日市黨部に於て成立大會を開き各團體代表百六十餘名出席し日本の帝國主義に反抗せん爲め排貨其他の方法に依り日本の反省を促すの要ありとの激勵演説を試み實行委員を選出して散會せり。國民政府行政院は其政策たる訓政時期に於ける左の基本政策を聲明さる。

一全國秩序恢復　二軍隊裁減　三財政整理
四政治革新　五實業發展　六三民主義に根據

四日ハルピン市に於て反日會學生暴動を惹起し巡警と大衝突を爲し爲に監督長官たる張煥相は責を負ふて罷免され張景惠を以て其の後任と爲す。吉林省議會は張學良に對し日本との吉會鐵道布設交渉の拒絶を申請せり。**五日**北平市駐在日英佛三國代表者會議を開き國民政府の鹽税差押問題に關し協議する所あり。奉天政府は京奉鐵道車輛三百輛を白崇禧軍に讓渡し京漢鐵路に使用を承認し車輛問題解決さる。**六日**日本天皇陛下御即位大禮參列の爲め來朝せる東三省代表莫德惠一行京都に入る。日本政府は張學良代表として御即位大典參列の莫德惠を以て政府の賓客として待遇し紫宸殿の儀及大饗第一日の儀同夜宴の儀に御召さる。**十二日**熱河共同管理委

四日濟南事件解決交渉に關し國民政府の無誠意を痛論して東京朝日新聞は直に日支交渉を打切る可しとの硬論を主張するに至れり。財政部長宋子文は總税務司代理エドワードに對し爾今海關事務は全部國民政府關務署の指揮に從ふ可き旨を命令せり。馮玉祥派の馬鴻逵　張吉葉兩名を以て山東省政府委員に任命さる。濟南に於て山東在留日本人大會を開き祖國政府に對して駐兵要請を電願する所あり。**五日**國民政府は四川省第廿軍長楊森の免職查辦令を收回せり。**六日**國民政府は米國と無電臺設立契約成立の旨を發表し其內容は國民政府建設委員會と米國と合同にて二十キロワット短波長無電臺二基を上海に建設し一基の工費十七萬弗とし現在の上海佛國

を推して禁運組委員と爲し。蔣介石 宋子文等十一人を推して、禁賣組委員と爲し。閻錫山朱經農等十一人を推して禁吸組委員と爲す。三日米國々務長官ケロッグは米國政府は支那國民政府を無條件にて承認する旨を聲明せり。日本政府は國民政府に對し國民政府建設委員會が獨國と上海 漢口 天津 廣東の各地に於て大無電臺建設契約を締結せるは日支無電契約を無視する不法行爲なりとて嚴重抗議を提出せり又一方米國政府も右國民政府の態度を不當と認め米支無電契約を無視する者として國民政府に對し强硬なる抗議を提出し國民政府と獨國との契約破棄を要求する旨發表され從來の日米支三國間の無電三角關係は更に四角關係的紛糾に陷れり

十六日日本東京に於て開催さる可き外務省對支文化事業部の主催に係る唐宋元明代名畫展覽會支那側委員として出席すべき上海の王一亭等一行十四名上海出帆東京に向ふ。北平反日會は日本貨に對して五割の課税を開始せり。

十二日米國々務長官ケロッグは支那駐在米國公使館を支那國民政府の要求を容れ大使館に昇格する旨發表さる。**十三日**國民政府財政部は在北平總税務司公署を南京に移轉を命ず。**十五日**財政部長宋子文は鹽税管理問題に關し在來の鹽務行政規則を改正して國民政府の爲め有效に使用すべき旨を聲明す。全國商會連合會は差等税率實施反對を聲明す。國際聯盟勞働局長アルベールトーマー奉天に着く。**十六日**國民政府財政部の不法行爲に依る鹽税沒收問題に關し日英佛三國は共同以て國民政府に對し一方的行動の責任を負ふべき旨を極言せる强硬なる抗議的共同聲明書を東京、上海、ロンドン、パリに於て發表さる。中央政治會議常務委員臨時會議に於て第

員任命され奉天側よりは楊宇霆外一名國民政府側よりは何成濬、商震、葉琪の三名任命され熱河都統湯玉麟は辭任して東三省軍事參議官に轉任せり。**十二日**朝奉天發京奉鐵道列車北平に到着す是れ五月以來約半歳間の京奉鐵道交通杜絶始めて開通さる。

公園內の佛國無電會社はフィリッピン無電臺を解散し改めて米獨兩國と平等互惠的契約にて無電會社設立の計畫を立つ。**七日**青島駐在日本總領事藤田榮介は國民政府の山東省金嶺鎭鐵山を回收して國有と爲すとの通告に對し抗議を提出さる。**九日**張繼は北平政治分會主席に就任せり。國民政府は日本天皇陛下御即位大禮御祝品として美麗なる銀製花瓶一對並に酒杯一個を献上さる。**十日**軍事委員會は最後會議を開きて各集團軍名義を一律に取消すべきを決議し又各師旅長は中央の任免に依る可きを全國に通電して結束せしむ。建設委員會主席張靜江と米國組合無線電信會社上海駐在員との間に於て締結せる中米無線電信報務契約全文十四ケ條を發表さる

二日張學良、楊宇霆連名を以て國民政府の蔣介石　馮玉祥　閻錫山　白崇禧等に向け奉天派最高軍事會議の決定に基き旅團を最高單位とする軍隊の改編を完了せるを以て關內軍事肅淸後月縮會議を招集し協議の結果左の如く全國民の公意を尊重して此に裁兵屯墾の宣言を實行する旨を通電せり。

一　現在步兵四十餘個師を十五個旅に、騎兵六個師を二個旅に、砲兵三個旅二團（團は聯隊）を八個團に、工兵を六營に（營は大隊）輜重兵を廢し輜重幹部敎導隊を設置する事

二　從來の步騎砲工輜重の將卒約四十萬人を十五萬人に減員す。

三　軍團部、軍司令部、師團司令部の名稱を取

廣東より北平に着陸す是れ支那飛行機の南北縱斷の第一步と爲す。**廿一日**國民政府は廣東省政府主席李濟琛の辭職を決議して其後任に陳銘樞を指定任命せり。楊愛源（ヤン・アイ・ユワン）を以て察哈爾省政府主席と爲す。鹽務會辦フエツセ、フレークは英文新聞紙上に於て一九一三年（民國及大正二年）の善後借款規定に違背する財政部長宋子文の鹽稅新計畫の下に會辦の職に就き鹽稅關係國との深き從來の關係を斷絕する旨を聲明して物論を惹起せり。**廿三日**天津に於ける各農工會聯合成立す。行政院長譚延闓は國民政府の名を以て全國各省行政機關に向け左記排日運動斷行の正式命令を極秘裡に通電せり。

全國各行政機關は全國反日會と協同して官民

十九日東三省政府は趙鎭を以て吉長鐵路局長に任命さる。天津のエンパイア劇場に於て故澳國の作曲大家フランク、シュベルトの百年祭演奏大會開催され盛況を極む。廿日天津市に於て反日會員の橫暴に對抗して商民側の總罷市を實行せり。ハルビンのロシヤ電話局回收事件に關しロシヤ政府は嚴重なる抗議を提出せり。廿一日英國外務次官は下院に於て在支公使館昇格は尙早なりと言明さる。吉會鐵路工程局は張學良の督勵に依りて日本政府の抗議を無視し民國十六年十月起工し晝夜兼行工事の進行を計りし爲め朝陽鎭、磐石（ペンシイ）縣間約四十キロは本日完成し來る廿一日より假營業を開始し民國十七年四月迄に吉林城迄開通豫定を以て工事を進行せしむ。廿

三次全國代表大會は民國十八年三月十五日を以て召集す可きを決議し又各級黨部が中央に對して妄りに攻擊を加ふる事を嚴禁せり。十七日諸支關稅條約調印成立す。中國銀行は其組織を變更し同行は海外貿易金融機關として國際爲替を取扱ひ同時に中國銀行章程六十九ケ條を公布さる。交通銀行條例六ケ條を公布さる。十八日財政部に沒收され國營移管の中興、長興兩炭坑は其投資債權關係を有する上海銀行團より政府に百萬元を納附し更に短期公債百萬元引受け條件にて政府の諒解を得て右銀行團より經營者を入れ再び民營に回復さる。十九日財政部長宋子文は日英佛三國の鹽稅問題共同聲明書に對する反駁を發表せり。廿日支那大陸縱斷飛行の廣東飛

六巻を發見せり又宋刊の世說、宋刊の宛陵集魯論其他約廿部が岩崎男邸の靜嘉堂、前田侯家德富蘇峰、內野五郎三郎邸及東洋文庫等に所藏せらるゝを發見さる。芳澤公使は北平支那當局に對し北平在留朝鮮人獨立黨員樸榮萬が其獨立運動に反逆の廉を以て同黨團より死刑を宣告され十月十日遂に獨立黨の探偵李海鳴の爲に暗殺され當時支那官憲は直に犯人を逮捕し北平地方法院檢事は日支通商條約廢棄に因り當然國民政府に裁判權有りとの理由に依り犯人を起訴せり然るに犯人は明かに日本國籍に在るを以て國民政府當局の不法行爲を詰り嚴重なる抗議を提出さる。華津賑濟會長前北京政府外交總長梁如浩は米國に於て同國各方面に對して運動の結果支

廿六日北平の支那新聞記者公會は日貨排斥の結果紙類暴騰し缺乏を告げ爲に支那新聞は全部發行不能に陷れるに因り反日會に對して辦法考究方を要求せり依て同會は科學器械及新聞紙等文化に重大關係ある國產品中代用品なき日貨に對しては特に辦法設定の旨を正式に回答を與ふ。日本政府は矢田代表に對して王正廷が日本の山東派遣軍撤退期不明示の間は交渉を繼續する能はずとの不遜態度に對し其要求を默殺し關稅條約改訂以外の交渉を斷然打切る可き日本政府の方針を訓電さる。**廿七日**天津の反日會は第二次代表大會を開き總工會　市政府　學生聯合會　銀行公會　婦女協會　反日會　商民協會等の各團體代表者出席して排日運動に關する四ヶ條の

消す。

四　軍費は毎月三百萬元を減額する事。

廿三日元の直魯軍軍長杜鳳擧等五名の同志は密に青島市に潜入して膠東一帶に散屯する土匪及旗幟不明の雜軍を買收し張宗昌を首領と爲し再擧を企圖せるに依り青島市駐防日本軍當局は濟南事變解決迄で南北兩軍何れを問はず策源地と爲すを許さずとの先の聲明に基き自發的に同人等の退去方を勸告さる**廿四日**今を距る八百年前即ち宋朝高宗帝紹興年中禮部侍郎張九成の後裔にして前中國教育會長現上海商務印書館董事張元濟は支那に於て絶版に歸せし支那の古書にして僅に日本に殘存せる遠祖九成の遺著探究を志し來朝一ケ月の間京都東福寺に於て『中庸說

一致し積極的大規模の排日運動を直に斷行せよ但し日本人の生命財產には極力留意以て危害を加ふ可らず且つ日本政府の抗議を受くるが如き事なきを期せ。

廿四日雲南省南部の(箇舊＝臨安)鐵路愈竣工を告げ開通式を擧行さる。全國反日會は十二月一日より宣傳週間の擧行を全國に通電せり。

就き商民一般の憤慨に因り總商會內に集合協議の結果特別市黨部　警備司令　特別市政府に向け反日會の不法狂暴なる行爲取締方を要求せり。**廿八日**英國の外相チェン、バーレンは議會に於て對支政策に關しては從來通り日英協調政策を取る旨を演說さる。

十二月　一日奉天政府當局は同地の啓明書院を捜索して共產黨の嫌疑ある同校長及び多數の學生等を逮捕せり。

二日張學良は國民政府外交部長王正廷に宛て東三省の外交事情を報告して予は斷じて賣國の奴に非らざる事を聲明せり。

三日張學良及楊宇霆は連名を以て東三省に於ける裁兵計畫を通電聲明せり。

南省政府主席に就任以來同省の民政及軍政は共に徹底的大改革を行ひ全省に亘りて大に氣象一新の慨を示すに至る。

十二月　一日北平大學學生等は新任校長李石曾（リイ、シイ、チェン）派遣の引繼委員一行を毆打し暴行を逞ふせり。國民政府は整飾官常令（官紀振肅令）一道を頒發し重申（嚴達）して官常を整飾し貪官汚吏を懲辦せしむ。**三日**國民政府反對派に依て上海に於て三民主義聯盟組織さる。上海佛租界電車電氣水道等諸會社の支那人職工全部罷工を企つ。**四日**上海市長安璿は同地公安局長戴某の停職

那貧民二千萬人救濟資金として一千萬元の醵出豫約に成効の旨を發表せり。**廿六日**芝罘駐屯の劉珍年軍は同地交涉員を通じて各國領事に對し船舶渡航税徴收方承認を求む依て領事團は決議を以て之を拒絶し更に劉珍年は同省內地税局を通じて領事團に向け膠東地方は兵亂水災救濟の爲め飢饉救濟税を徴收し爾今三ケ月間電報料自働車税其他税金に對し一割附加税徴收の旨を通達せしむ。芝罘警備司令劉珍年は馬紫笙を芝罘鹽務稽核支處長と爲し現任同處長を免じ事務を强要接收す。英國官民は日本の對支政策を極めて好意に諒解し國民政府の基礎未だ樂觀すべからず須らく徐々に立策方針を勸告せり。**廿七日**天津支那商民團は反日會の横暴なる排日運動に實行規定を決議し發表せり。**廿九日**白支新條約正文發表さる。財政部長宋子文は中央政治會議に於て日英米佛伊各國と交涉中の關税條約交涉に關する經過を報告し其要點左の如し。

一不確實債務の日本の要求を妥當と認め之を一括的に確認に決し關税自立後の關税增收を以て之を逐次償還し旣に償還年次別具體案を日本に示し意見一致す民國十八年(昭和四年)度の償還額は擔保確不確の全債務を一括して千萬元とし關税收入漸增を待ち逐年之を增額す

二日本は右案承認に關し釐金撤廢を條件として要求し爲に子口半税の全廢を主張せるも俄に應諾の約不可能を回答し政府に請訓を約す

三十日伊支新條約發表さる。**三十一日**龍雲が雲

九日東三省總司令部顧問趙欣伯博士は陶尙銘及安尙兩人の捕縛監禁事件に付き法律的見地よりして其不法を力說し以て兩人の釋放を求むる旨の建白書を張學良に宛て提出せり。

國へ通牒を送達せり。平津衞戌總司令閻錫山は南下南京に抵り同司令の職を河北省政府主席商震に代らしむ。**七日**北平反日會は日本紙幣使用禁止案を決議し卽日銀行公會に公文を以て自今日本紙幣並に日本との爲替取扱停止を要求せり。福建省永定縣(ヨン、テイン)に於て勞農政府を組織して獨立宣言を發表せる者あり。**九日**國民政府は新關稅種目を發表さる。財政部は江蘇　安徽　江西　浙江　福建五省聯合釐金稅裁撤會議の決議に依り特種消費條例十八ケ條を公布さる。**十日**蔣介石は次期の米國大統領フウヴアーの中國訪問を懇請の爲め同人の南米地方訪問旅行を機とし秘魯國駐在支那代表施紹常(シイ、シヤオ、チヤン)に命じて正式招待狀を手交せしむ。日本新黨倶樂部總裁床次竹次郎支

五日東三省總司令部秘書陶尙銘並に交涉署日本科長安尙兩人は捕縛監禁さる其原因は張學良と楊宇霆との勢力抗爭と保安總司令部秘書王家楨と陶尙銘との勢力競爭に基因するものなり。東三省總司令部法律顧問法學博士趙欣伯は奉天城を脫出して大連市に亡命せり。

事件に憤慨して辭職す。山東省政府主席たる馮玉祥部下の宋哲元は對日宣戰布告を主張せり。**五日**南京に於て大規模の排日運動週間を開始せり。中央政治會議及行政會議を開きて新締結の中國對白伊諾三國條約中倶に疑義ありとし爲に外交委員會は臨時會を召集して王寵惠　譚延闓　戴天仇　張人傑　蔡元培　宋子文　王正廷　薛篤弼等出席して修正案を提出し最惠國待遇を要求せり。商工部は全國物品展覽會舉辦通則十五ケ條を公布施行さる。六日矢田上海駐在總領事は外交部より送付せる關稅新稅率表に對し交涉中の物との理由に因りて受理の限りに非らずと爲し受付を拒絕さる。外交部長王正廷は民國十八年二月一日より新關稅率を實施する旨關係各

十四ヶ條より成り代表選擧法は十八ヶ條より成る。南京反日會は中國對白伊兩國との新條約及對日交渉に對しては積極的反對運動を主張し南京全市々民大會を開きて王正廷反對の氣勢を擧げ結隊行列の示威運動を實行して反日及王正廷反對の口號（一種の歌を絶叫して王正廷官舍を破壞す蔣介石の鎭撫に依て靜平に歸す。**十四日**關稅自主權恢復の前提として各省の釐金制度を撤廢の爲め財政部は江蘇　安徽　江西　浙江福建五省連合倉金稅撤廢會議を南京に召集し賈士毅を議長と爲し七ヶ條の要綱を決定さる。蔣介石は王正廷官舍破壞事件の爲め國務會議に於て南京衞戍司令部を國民政府直轄に移管し自ら指揮し並に教育部に命じて各學校を戒飭せしめ

那視察の途次上海に上陸し卽夜南京に赴く。**十一日**蔣介石は床次竹次郎を正賓として總司令部に於て歡迎會を開催さる。**十二日**上海各路商界聯合會は國民政府及外交財政兩部長に宛て日支關係と日本の行動とを中傷して凡ゆる在支日本兵の撤退及一切の租借地返還等に涉る六項の排日條件を承認せしむ可し若し不承認の時は正式交涉を開始する勿れとの建議を提出せり。全國衞生行政系統大綱十四ヶ條を公布さる。**十三日**以黨治國の標語を以て建國の最高指導原理とする中國々民黨第三次全國代表大會は民國十八年三月十五日を以て擧行の事に決定され出席代表選擧法、大會組織法等は十二月十三日百八十七次常務會議に於て決定公布さる又大會組織法は

十六日張學良の代表として上海に至り國民政府と南北妥協交渉の任に當りし邢士廉は王樹翰と共に上海より歸奉して五頃の妥協案件を齎らし東三省最高幹部會の討議に附せり。床次竹次郎は支那南方の政情視察を了へ上海より海路青島市へ赴く。床次新黨俱樂部總裁は上海を去るに臨み中國々民黨に對して長文の聲明書を發表さる。

破壞事件に關して民衆の示威運動は本來床次氏に對して行はれたるものにして幷は計畫的なり然れど外交部及王正廷官舍暴行は本意に非らず此示威運動指導者等は初より王正廷を覘ひしに非ず故に本件の爲め王正廷の辭職を見るが如き事あらば却て日本の乘ずるの恐ありとの主旨を以て王正廷の辭職留任を勸告せり。**十六日**上海佛租界電車罷業事件再び惡化し再罷業狀體を演出せり。**十七日**蔣介石は全國第三次代表大會の開期近づくに際し共産派の活動を彈壓せんが爲め陳公博　顧孟餘　王法勸　何香凝　王樂平等極左派の策源地たる上海には特別の監視を爲し公安局に命じて佛租界の藝術大學に於て四十餘名の極左派分子を捕縛し共自白に由つて百六十

學生の自由集會禁止を嚴命せり。**十五日**天津反日會は同地の正金、朝鮮兩銀行兌換紙幣使用を禁止せり。外交部長王正廷辭職を申請す蔣介石極力之を慰留せり。松滬警備司令部政治訓練部は床次竹次郎氏の來支に付き民衆に告ぐと題して長文の宣言書を發表し床次は帝國主義の援助者にして彼の來支は我民衆の對日感情を緩和し以て外交を有利に導かんが爲めなりとの主旨を宣傳して排日熱を極力煽動するに努めたり。湖南省政府は統稅實施を斷行して各省に卒先し釐金稅撤廢の先驅を爲せり。支那全國總商會連合會は國民政府　行政院　外交部　財政部　交通部に對して西原借款承認反對を通電せり。上海市黨部は**十三日**南京に於ける民衆の王正廷官舍

り劉軍の爲に擊退され始めて靜平に歸せり。在北平英國公使ランプソンは蔣介石を南京に訪ふて英國皇帝の國書を呈遞し列國に首先して國民政府を承認さる。床次竹次郎大連市に上陸し直に奉天城に往く。**廿一日**中央黨部會議の決議に依り河北省及北平特別市黨部指導委員過半の罷免轉任を命じ八名中五名を轉罷し後任に李石曾張繼　張蔭梧　王禮錫を任命し市黨部は九名中五名を罷免して閻錫山　商震　張永泰　方振武外一名を新任す依て北平を中心として左右兩派衝突し國民黨部の暗鬪起る。在北平の黃如金李吉辰　李樂三等は突如國民政府より北平指導委員を免ぜられ憤慨して各區執行委員緊急連席會議を招集して中央政府の不當を攻擊し胡漢民

十九日床次竹次郎は山東省一帶に於ける政情視察を了へ濟南より青島市に出で直に海路大連市へ赴く。外蒙古青年黨員は東支鐵道西部線烏諾爾驛に再び大擧襲來して停車場を燒棄し電信電話線等を切斷破壞し共勢力頗る猖獗を極む。**二十日**床次竹次郎青島市より海路大連市に上陸し直に奉天に抵つて總司令張學良を訪ふ。床次竹次郎は大連市に於て滿洲は世界に於て政治及經濟上特殊の地域にして東洋平和の關鍵たりとの主旨を力說して日支兩國民に對する長文の聲明書を發表さる。

三名を逮捕せり。上海々關は民國十八年二月一日より自主的關稅徵收の旨を布告さる。末次竹次郎上海より海路青島市に上陸し直に濟南へ赴けり。**十八日**四川省方面の各將領は成都に於て緊急會議を召集し決議して劉湘　田頌堯　鄧錫侯　劉文輝等を公推して四川省方面の治安を維持せしめ之に由つて劉等は共同通電して中央擁護及四川省の和平を保持し中央政府に向つて楊森討伐令を呈請せり。**十九日**英支關稅條約南京に於て調印成る。中央黨部宣傳部は關稅自主宣傳大綱を發表し七大要項を指示せり。**廿日**四川省重慶城に於て反省政府軍楊森　羅澤州　賴心輝等の各軍は省政府軍劉湘　劉文輝の軍と開戰し重慶城危險に瀕し**廿五日**に至り楊軍不利に陷

害を賠償せしむ可し。
六日本をして國民政府に對し遺憾の意を表し將
　來を保證せしむ可し。
七一切の租借地を還附せしむ可し。
又國民政府に對して左の要求を爲せり。
一革命外交と關税自主を勵行せよ。
二中央黨部は民衆に訓令して軍事教育を行ひ日
　本に備へざる可らず
三國民政府は密令を新屬機關に下して反日運動
　を振興せしめよ。
四日支兩國の交渉が完全に改めらるる迄で政府
　は教育部に命じて小中學校の教科に日本を第
　一の國仇に列して復仇の念を養ふ可し。
五政府は各縣に令して速に工場を組織して生產

廿二日ハルピン支那官憲は同地のロシヤ電話局を故なく回收して紛議を惹起せり。奉天に於ける日支合辦裕大紡績公司に對し支那側は回收の暗中策動を試む。床次竹次郎一行は奉天に於て張學良以下同地の支那要人等と會見懇談を遂げ同地を出發し朝鮮經由歸朝の途に就けり。

戴天仇　陳果夫等の驅逐を叫び汪兆銘　于右任何香凝女史　丁維芬　朱青霖等に黨務を擔當支持せしむ可しとの通電を發せり。**廿二日**上海南京　天津　河南　漢口　北平　山東　張家口等各地廿個地方の反日會は政府及外交部に向け日支交渉に關する最少限度の要求なりと稱し右記條件を電請せり。

一在支日本兵全部撤退後を以て交渉を開始せよ
二日支間一切の不平等條約を廢棄せよ。
三濟南　南京　漢口等諸案件は平等相互の條約を締結せよ
四禍首田中首相　福田司令官　西田領事を懲罰せよ。
五濟南事件に依り間接直接に受けたる一切の損

廿三日東支鐵道管理局長エムシヤノフは同局理事會並に特別區長官張煥相に向け支那當局の電話局回收事件に關して嚴重なる抗議を提出せり。ハルビン行政區長官張煥相の東支鐵道の電話局回收事件に基因して露支兩國間の關係極度に悪化し露國側は呼倫貝爾獨立運動の援助、在露中國人壓迫、在北滿學生運動及一般愛國運動の助成、奉天政府內部の擾亂等を企圖し露支外交折衝の機會を捉ふるの方針を決定せりと報ぜらる。廿五日在ハルビン露國總領事メリニコフ（勞農政府外務省極東局長）は支那側の東支鐵道付屬電話局回收事件を中心とせる露支紛糾案件一件書類提出方を東支鐵道露國側理事に對して命令を發せり是に依て同事件は東支鐵道の手決せらる。廿三日北平區黨務指導委員連合會議を開き胡漢民　戴天仇　陳果夫等を國外に放逐す可しとの通電を發せり。廿六日中央政治會議の決議に依り政治分會撤廢問題は民國十八年一月一日開催の全國軍隊編遣會議開催を延期の爲め三月十五日開催の全國代表大會迄で存續の事に決定さる。廿七日四川省の政局の危機は廣西派の國民政府に對する忠勤を動機として潘文華は五萬元を以て楊森軍中の郭汝棟軍を買收し郭軍は涪縣城の楊森軍攻擊の任に當る依て劉湘軍に勢威加はり重慶城の危機救はれ蜀省政局安定の兆を認む。外交部は佛和葡瑞四國對支關稅條約正文を同時に發表さる。外交部は清朝道光廿二年八月二十九日（我天保十三年西紀一八四二

の基礎を立て日貨の抵制準備を爲す可し。

六政府は國産品の税率を輕減して國産品の賣行きを奬勵し反日期間中に國産品の値段釣上げを嚴禁す可し。

國民政府は反日會中に共産黨員の混入し日本との事端を滋くし國民政府を苦境に陥れ全國的擾亂の機會を惹起す可き暗中飛躍を探知し長江方面及平津地方當局に共産黨員嚴重取締方を命す依て平津の當局は反日會の不穩傳單を搜索し既に共産黨容疑者七千餘名を捕縛監禁せり。河北省平漢鐵道沿線石家莊黨部及公安局は猛烈なる壓迫を同地在留日本人に加へ家屋明渡しを强要せり依て在留日本人は全部平津方面に引上げ天津駐在總領事館は調査の上嚴重なる抗議提出に

を提出せしめ以て日本政府の援助を求むるの準備に着手せり又一方奉天政府は前特別區長官張煥相の部下反亂に藉口して吉林、黑龍江兩省の各一旅團の軍隊をハルビンに增派して露支兩國關係の危機に備ふる所あり。

廿八日張學良は正式に東三省邊防總司令に就任せり。張學良は管內諸官署學校其他重なる團體に對して多數の青天白日旗を配付し下命次第其揭揚方を布告せり。**廿九日**張學良は支那全國統一の爲め國民政府に服從せる旨を發表し同時に東三省全省に亘りて青天白日旗の揭揚方を發令せり。張學良　張作相　翟文選　萬福麟　湯玉麟の五名連署を以て東三省の國旗變更に關して國民政府並に全國各地に向け民國十七年十二月

伍班に列せしむるを得たるは同文同種唇歯輔車の重大關係を有する日本國民の祝福し欣快と爲す所なり今茲に發表されたる英支關稅條約正文を揭記せん。

支那國民政府主席及英帝國皇帝陛下は兩者の間に幸に現存の良好なる關係を助長し且兩國間の通商並に商業を便ならしめ又之を擴張せんと欲し此目的を以て條約を締結するに決し左の通り各其全權委員を任命せり。

支那國民政府主席外交部長　王正廷

英帝國皇帝陛下支那駐劄公使

サー、マイルス、ランプソン

右各委員は其全權委任狀を示し之が良好妥當なるを認めたる後左の條約を協定せり。

を離れて奉天政府對露國政府間の外交問題と爲る。國民政府の外交部長王正廷は張學良に對して關税自主權確立は已に民國十八年二月一日より實施の事に決定せり依て安東縣　大連市　旅順市、營口縣各地に於ても新税則に照らして關税自主を實行せられ其旨を外國商民に對して布告す可しとの旨を電命せり。

廿七日在ハルピン露國總領事メリニコフは在同地露國側要人の緊急會議を開きクヅネツオフ奉天總領事に命じて張學良と折衝せしめ一方チルキンに命じて東支鐵道督辦呂榮寰と又エムシヤノフ東支鐵道局長は哈爾賓行政長官張景惠との折衝に當らしめ又一方には更に日本東京駐在露國大使トロヤノフスキーに對して各種の報告書

年距今八八年前）英國の印度産鴉片輸入禁止燒棄事件を動機とせる所謂廣東總督林則徐の英斷に因る鴉片戰爭の結果南京城陷り南京英支條約第二條及第十一條に基く賠償金二千百萬兩に對する擔保として强制的輸出入税率に關する協定を締結し不平等條約の端を披きしに因て極度の國民的屈辱憤懣を續け來りしも所謂眠れる猛獅の夢漸く醒めて民族的覺醒の機到來し青年新進氣鋭の政治家志士等の奮闘努力に依り遂に近世的文明强國としての國家的畫時代的對等條約を締結するの機會を獲齎するに至り然かも支那海關に最初の壓迫を加へられたる英國に依て亦先登第一に左の如き自主權確立の英支關税條約を締結して支那の國際的地位を世界列强平等の

奉天省長翟文選は廿八日夜東三省全土に對し廿九日より青天白日旗掲揚方を下命すると共に各機關の組織變更に關しては國民政府の命令に接する迄で各自々由に黨務を組織するを得ずとの布告を發し同時に奉天督辦公署門頭には早くも東三省黨務籌備處の標札を掲揚さる。

國民政府は中央政府會議の決議に依り東三省の政治組織を改め完全なる國民政府治下に收める事に決定し左の正式命令を發せり。

東北邊防總司令張學良　副司令萬福麟　張作相　奉天省政府首席翟文選　委員王樹常　邢士廉外九名。

吉林省政府首席張作相　委員章啓槐　榮厚王辛林　馬德恩外七名。

條約中支那が其適當と思考する率を以て屯税を課するの權利を制限する凡ての條項を廢棄する事を約す。

屯税並に之に關連する凡ての事項に關しては本條約を適用すべき英國皇帝陛下の版圖に於ける支那船舶並に英國船舶は如何なる外國の船舶に許容さるゝよりも不利ならざる待遇を受く可き者とす。

第四條　本條約は可及的迅速に批准し批准書はロンドンに於て交換す可き者とす本條約は兩締約國が批准完了の旨互に通告したる日より效力を發生す。

本條約の華文及英文の正文は愼重に對比し其誤りなきを認められたるも若し其解釋に相違を生

廿九日附左記通電を發せり。

中山先生の三民主義は前大元帥の夙に贊助する所孫張の提携は之が爲めなり其後共産黨專横を極め海内に害毒を流し中外を惱し國民黨及孫總理の主義現れず是に於て前大元帥は討赤の師を起し專ら共産黨剿滅に致力せり元より徒に武を汚す者に非ず死に瀕み和平を主張し統一の促成を職とせるは世人の知る所なり現在國民政府諸公は反共産主義に致力さるゝは全く前大元帥の主旨と同一なり其間の眞相は最近兩派代表の往復に依り益明なり此に吾等前大元帥の遺志を繼ぎ統一を計り和平貫徹を決し即ち此に即日三民主義を奉じ國民政府に服從し旗幟を改易する事を宣布す伏して諸卿の明教を仰ぐ。

第一條　兩締約國間に現存する條約中支那が共適當と思考する方法に依り國定税率を定むる事を何等かの方法に依て制限し居れる總ての條項は之を廢棄し且完全なる國家的關税自主の原則を適用すべき事を協定す。

第二條　兩締約國々民は本條約を適用すべき英國皇帝陛下の版圖内及支那に於て如何なる口實の下に於ても兩國民に依て輸入若くは輸する物品に對し同一出所の物品に對して各出英國民並に支那國民若くは他の如何なる外國人に依て支拂はるゝよりも高率若くは夫れ以外の如何なる關税、內國税若くは其他の租税をも强制的に賦課さるゝ事なきものとす。

第三條　英國皇帝陛下は兩締約國間に現存する

は予の衷心より感謝する所なり今後內外共に多數の建設事業あり甚だ困難す可き事を豫期せざる可らず願くば諸氏と共に之を果さん。

又國民政府も左の通電を發せり。

黨團の爲に忠誠を表する所の宣言を發せられたるは同慶の至なり然れ共中國の完全なる統一を計るには邊境の防備を充實する必要あり共に力を致し國際的不平等待遇を脫し獨立自主の中國を持來らす可く切に其協力を望む。

東支鐵道理事會議をハルピンに於て開き先に東三省交通會議に於て東支鐵道局經營電話局回收事件に付き討議せしに露支兩國理事の間に於て全然反對の見解を有し交涉決裂す依て本件を露奉協定第十條に基き露支兩國政府間の外交交涉の介在を見る。米國々務長官ケロッグは一九一四年（大正及民國三年）期限滿了の米支仲裁條約に代る可き新條約訂結の爲め國民政府駐米公使施肇基と商議開始の旨公表さる。**三十日**天津に於ては反日會の暴行を怕れ日貨を販賣する綿糸布　金物　染料　洋酒　電氣材料　雜貨　自轉車其他同業會連合會は日貨騰貴に因る救國基金徵收に反對して閉店し遂に商人團は全國の主要機關に向け長交の聲明通電を發送せり。

黒龍江省政府首席常蔭槐　委員馬景頭　萬景武外九名

熱河省政府首席湯玉麟　委員梁國陳　金鼎臣外四名

而して政治分會は非設置に決定さる。

露國外務省は支那官憲の東支鐵道沿線電話局回收事件に關し駐露支那代理大使を通じて國民政府に對し抗議を提出さる**三十日**林奉天駐在總領事は本國政府の訓令に依り張學良を訪ひ改旗問題の實質を重大視し前言を無視せる同人の態度を難詰して警告的通告を手交さる。國民政府主席蔣介石は張學良等五名に宛て左の通電を發せり。

諸君が黨及國を救はんが爲め誠意を示されし

じたる時は英文の正文に表明せられたる意味を以て有効と爲す。

右證據として下名各全權委員は本協定に署名したり。

一九二八年十二月廿日南京に於て

王　正　廷　印

サー、マイルス、ランプソン印

廿八日北平に於ける國民黨左右兩派の抗爭猛烈と爲り右派は張繼　李石曾　白崇禧等舊西山派フランス派、廣西派にして政治分會に據りて活躍し之に對して左派は丁維汾を首領とせる大同盟派にて青年學生多く省以下の黨部を本據とし馮玉祥の後援を有す而して此等の中間に右傾的色彩多く政爭の渦中に投ずるを回避せる山西派

2589	
1929	
己巳	昭和四年

十八年一月　一日南京の國民政府は大禮堂に於て軍權の統一裁兵其他軍政改革等の重要諸問題討議の爲め全國軍隊編遣會議を開催し蔣介石、胡漢民、馮玉祥、閻錫山、李宗仁、譚延闓、戴天仇、蔡元培、王寵惠、孫科、吳稚暉、何應欽、王正廷、陳調元、其他政府部内並に國民黨諸領袖の殆ど全部出席し蔣介石は主席として開會の辭を陳べ次で中央執行委員等起て祝辭を朗讀して閉會され共に飛行場に於て擧行せられたる支那統一革命完成第一歲頭の閱兵式に臨場し南京滿城に歡呼の聲湧く。國民政府主席蔣介石は南京、上海の各新聞紙を通じて軍隊編遣會議に對する希望と題して長文の宣言書を發表し中に吾人の學ふ可き日本明治維新の大改革を引證し日本軍人と我國軍人の現狀を比較して寔に慚愧に堪へずと訓諭さる。軍事編遣會議開催さる。中國海關民國十七年度總收入額八千二百三十三萬二千兩にして前年度に比し一千三百五十九萬兩の增收を發表さる。二日中央黨部は河北省政府主席商震に命じて北平市黨部を閉鎖せしむ。三日中佛關稅條約は南京、巴里兩都に於て正式に同編時發表さる。江蘇省蘇州城に於て共產黨員十三名逮捕さる。國民政府は左の重要六案を軍事遣會議に提出さる。

一　常備軍制度を設け全國を五十乃至六十師と爲す。

に移すに決し時恰も南北統一され國民政府に移れる者と爲し勞農露國外務次官カラハンの署名を以て本件に關する抗議及一切の東支鐵道問題を含む露奉協定改訂通告文を國民政府に提出さる。**三十一**日中國海關總税務司代理エドワードは辭職せり。

斯の如くにして民國十五年十二月三十日張作霖が安國軍總司令就任を宣布してより滿二ヶ年にして其雄圖空しく崩滅に歸し一時雄を唱へし北方軍閥の勢力倒れ孫文の勞農露國の共產主義を混入し其後援に依りて起てる所謂三民主義を標榜せる蔣介石を中心とせる國民政府の手に依りて支那大陸統一の覇業成る。

遣す。ハルピン長官張景惠は露國政府の機關新聞モルワー紙の發行禁止を命ず。四川省重慶城駐防の劉湘軍は東方進出を開始して萬縣に入城す。蒙藏委員長閻錫山、軍事參謀委員長李宗仁內政部長趙戴父等就職す。南京反日會の日貨封鎖計畫進捗さる。南京に於て軍隊編遣會議を開催し蔣介石、馮玉祥、閻錫山、李宗仁、何應欽、孫科、王寵惠、朱培德、陳紹寬、張學良代理王樹常、戴天仇、吳稚暉、王伯群、趙戴文、宋子文、王正廷等出席し編遣會議規則十四ヶ條を可決公布し又宣言四項を發表さる。**六日**東三省交通委員會に於て赤化討伐を標榜して列國の同情を購ひ國際對等的地位獲得の爲め華府會議の決議に基き東支鐵道を回收して單獨管理聲明方針を決定さる。張學良は東三省政治機關には一人も南京派を加へず、現狀維持方針を決定す。張學良は山海關內駐防部下軍隊に撤退引上げを下令す。**七日**東支鐵道回收問題に關し英國の支那援助頗る露骨と爲り英露兩國間の反目極度に緊張す。南京城神策驛附近に於て夜九時頃四十餘名の武裝暴徒團現はれ列車を襲ひ乘客千餘名を掠奪す。軍事編遣會議の決議に依り左記任命を發表さる。

編成部長馮玉祥、遣置部長閻錫山、總務部長李濟琛、經理部長宋子文。

漢口に於て對日罷業大示威運動擧行さる。**八日**山東省交渉員崔士傑は外交部に向け山東省治安維持準備完成を報告して濟南事變解決交涉開始を促す所あり。總稅務司代理エドワードの辭

二　陸海空軍の建設、空軍は日本を假想敵として設置し會議は秘密と爲す。

三　軍事費は年額國庫歳入の六割を限度とし今年間は一億二千萬圓（約一億八千萬圓）內外とし各種軍費は總て中央より配分支給す。

四　各軍編成は四個師を以て單位とし北平會議の決定を更に討議す。

四　裁兵に依る冗兵卒處分は兵工政策を採り鐵道其他の建設荒蕪地開墾等國家事業に使ふ。

六　各地土賊肅淸の爲め全國を五衛戍區域に分割す卽ち其區域及衛戍司令は左の如く爲す事。

イ　天津閻錫山、ロ洛鄭（河南省洛陽及鄭縣）馮玉祥、ハ武漢李宗仁、ニ兩廣李濟琛、ホ蕪滬（安徽省蕪湖及上海）何應欽。

右設置任命と同時に現行の第何集團總司令の資格を撤廢す。

四日露國政府は東支鐵道權益を米國又は佛國に讓渡せんとし先づ佛國政府に向け舊債務と新規借款を條件とし內交涉開始の風說傳はる。綏遠城を中心とする薩拉齊、包頭鎭一帶に亘りて大飢饉の爲め凍死者續出し慘狀を極む。江蘇省特派交涉公署は無條約國人民並に領事管轄なき國民に對する註册及護照規則を公布さる。熱河黨務指導委員等は湯玉麟の省政府主席に反對す。

五日上海市黨部は日貨全部沒收を決議せり。張學良は軍事編遣會議參加代表王樹常を南京に派

對支新締關稅條約批准發表さる。**十日**哈爾賓市に於て南北妥協の實現及支那關稅自主の第一步として郵便小包徵稅局設置さる。張學良は中央の訓令に依り呼倫貝爾其他內蒙古各王族に對し青天白日旗揭揚を訓電す。奉天政府は新關稅率令實施準備命令を發す。廣東の對日經濟絕交會は遂に窮して日本石炭購買を許認す。財政部は民國十七年度支那對外貿易額を左の通り發表さる。

輸入總額十二億四千九百萬兩（海關兩）（海關兩位は普通市場兩位相場より少し高し）。

約十九億三千萬圓內外。

輸出總額九億一千六百萬兩（約十四億一千萬圓內外）。

貿易總計二十一億六千五百萬兩（約三十三億四千萬圓內外）。

右は前年度に比して二億三千四百七十萬兩（約三億六千餘萬圓內外）の增加を示せり。

張學良は臧式毅（ツァン、シイ、イ）を以て奉天兵工廠督辦に任命せり。熱河特別政治區域を改めて省を組織し北平政治分會の指導下に置くに決定さる。**十一日**國民黨中央黨部宣傳品審査條例十五ヶ條を公布さる。張學良は東三省保安會委員會委員全部の連名を以て國民政府、中央黨部、各省軍民長官に宛て楊宇霆、常蔭槐南人處刑問題に關する左記聲明を通電さる。

余は楊宇霆、常蔭槐南人と事を共にする事久しく最も信賴せる所なり然るに楊常兩人一派は

職を許し上海々關長メーズを以て後任に決定し任命は財政部をして之を行はしむる旨可決發表さる。參謀本部は同部第一司長劉光を以て駐日公使館附武官に任命さる。編遣會議第二日に於て編遣委員會支部組織及編成系統案を上程討議さる。外交部は民國十八年中に於て領事裁判權を撤廢し同時に全國各地交涉員廢止内定を發表さる。外交部は南北妥協統一に因りて露奉協定は自然消滅の理由にて英國の援助に依り東支鐵道回收の對露方針決定報傳はる。岸本税務司上海々關長に就任さる。全支識字運動會は文字を解する者の世界的北較則ち獨國の九五割、英國の九〇割、佛國の八五割、日本の七五割に北較して支那の一割五分は頗る遜色を示せるを恥ぢ全支識字運動會を組織し（小學普及運動）勃興せり。北平政治分會主席張繼は第一回紀念週會に於て東三省全民と協力一致以て日本の侵略に當らざる可らずと聲明せり。滿鐵は支那側官公署に石炭を販賣する事を拒絶して奉天政府の不當石炭課税問題に對抗さる。奉天省長翟文選は新關税率を骨子とせる對日强硬策を決議さる。**九日**張學良は蔣介石に宛て滿蒙鐵道布設交涉問題に關して其指令を仰ぐ旨通電せり。漢口の排日罷業運動益惡化し反日會は檢察隊を以て日本租界を包圍し經濟絶行を行ひ一切の交通を杜絶し食料品購入絶對不可能と爲り日本海軍陸戰隊は危險を認め直に應急警備に就き嚴重警戒さる。中央政治會議の決議を以て佛英獨蘭瑞諸六國

支那側官公署の石炭販賣中止を復舊す。財政特派員公署暫行章程十ヶ條を公布さる。立法院各委員會組織法十八ヶ條を公布さる。張學良は十一日未明楊宇霆、常蔭槐兩人の私邸を嚴重捜索の結果常邸より楊派の陰謀計畫の證據書類多數を發見し又兵工廠内に小銃二萬挺の密造計畫並にクウデターに關する秘密電報等を押收さる。奉天城に於てクウデター起るとの報一び大連市に傳はるや同地亡命中の張宗昌邸に深夜梁鴻志、潘復、褚玉璞其他數名の巨頭等集合凝議を遂ぐ。張宗昌は山東省東部一帶に散駐する舊部下雜軍を集結して再起運動愈濃厚と爲り山東省東部一帶に亘りて風雲將に急ならんとす。**十二日**蔣介石は楊宇霆、常蔭槐兩人銃殺事件に關し奉天派代表王樹常を招き協議する所あり。國民黨上海市黨部は國民に對して何れの國家が我國最大の仇敵なるかとの問題を課し答案を募集せるに對して民衆の多數は日本との答案を發表さる。外交部は張學良の請訓に對して日本との外交交涉を斷然拒絕せよと訓電す。張學良の爲に陶尙銘安倘兩名は先に共產黨關係懸疑に困り拘禁されたるも無關係なる事判明し釋放さる。常蔭槐銃殺の爲め東支鐵道回收運動は自然立消への姿と爲る。佛國新聞紙は異紙同筆に張學良の楊宇霆常蔭槐銃殺事件を以て日本への敵對行爲と爲し殊に巴理のリベルテ紙の如きは支那到所に排日熱起り革命支那の元氣が日本に對する敵對行動と爲りて勃發せば太平洋の平和亂れんと憂慮す

私心を挾んで自己の勢力を扶植し政府一切の事務は彼等の牽制を受くる事多し又彼等は甚だ不可解的態度を持し常に和平統一を妨害し最近に於ては灤河以東に國民政府の勢力の及ぶに反對せり余は幾度も禮を厚うして商議を盡せるにも拘らず彼等は依然態度を改めず東三省に害毒を流すのみならず實に中華民國を害せる者なり余は東三省を磐石の安きに置き再び軍事を起さざるに努め外國居留民の幸福と省民の安全に留意せり然るに彼等は常に陰謀を策し各所に專横を極め兵工廠交通事業を以て私利を計れるは今や其證據歴然たり先に王永江を退け郭松齡の亂を起せるも又近く金融界を攪亂せるも皆な彼等の罪にして余は楊宇霆に對し絕へず重大任務を與へ待遇を篤ふせり這は彼の惡心を正直に復せしめんが爲めなり然るに彼等の陰險なる惡心は日一日と甚だしく募り徒黨を結で國家を危險に陷らしめん事を計れり余は今同志等と協議の結果此兩人を除くに非ざれば東三省の大局は到底維持されざるを認め遂に私情を捨て十日會議を招集し彼等も共席に列席せしめ其罪狀を詰問せし所何れも首を垂れて服罪せり依て直に法に照らして刑を執行せり內外の士願くば此點を洞察して此眞相を明にせん事を望む。

國民黨中央黨部は現在全黨員四十八萬四千餘名を有する旨發表さる。奉天滿鐵石炭販賣課の對

未明汕頭より南航の際强風に惱され香港東南十浬のワグロン燈臺下三百ヤードの暗礁に乘上げ午前五時遂に沈沒し船員百三名乘客三百名中三十名は救助され他は船長以下三百七十三名溺死す斯く多數の死者を出せる原因として無線電信裝置を缺くを非難さる。中央政治會議に於て國家統一完成の爲め各省に於ける對外交涉事件は中央に於て統轄辦理す可き旨外交部より中外各國に對し凡そ各省長官と締結せる協定は中央に於て不承認の旨通告する事を議決さる。張學良は人道問題及婦人開放見地より東三省に於ける娼妓解放を斷行し被解放婦人救濟所を設け軍法所長顏文海を以て所長に任命せり。**十七日**左記國軍編遣大綱十七ヶ條を發布さる。「

第一條　編遣委員會成立と共に國民政府は條令第八條の規定に依り革命軍總司令部、各集團軍總司令部、各總指揮及海軍總司令に命じて各軍の軍事編成を取消し編遣區を設けしむ編遣終了迄で各軍々事は各軍舊長官責を負て之を辦理し編遣終了後は國民政府に於て各軍の任免を行ひ均しく編遣委員會の許可を受くる者とす。

第二條　各編遣區所屬部隊の軍費は各區より直接財政部及編遣委員會に之を請求する事とし各編遣區辨事處組織大綱は編遣委員會に於て之を定む。

第三條　各總司令部　各總指揮部の將校は編遣委員會に登記の上別に試驗を行ひ採否を決定す

十三日張學良は楊宇霆の遺族に吊慰料一萬元を贈與せり。**漢口**市に於ける排日運動益熾烈と爲り同地日本租界遂に孤立狀態と爲る。甘肅省の東北部寧夏城を首府として新設されたる寧夏省政府成立祝賀會擧行され省政府主席に『門致中（メン、チイツオン）以下各委員就任宣誓式を行ふ。上海の新聞報紙は國民政府が愈南滿洲鐵道回收の議を決し龔學遂、張遠東兩人を以て同鐵道回收正副局長任命內定を報ず。**十四日**政府所管の上海國際無線電信局は米領非立賓及歐米諸國局間の通信を開始せり。張學良の爲に逮捕されたる翁之麟、石之璜は楊宇霆一派と陰謀の懸疑霽れて釋放さる。張學良は日本との滿蒙鐵道布設交涉懸案解決に努力する旨を宣言し政府も張學良の對日交涉問題に關し機宜の處置を取るに同意の旨通電すと報ぜらる。奉天に於て東北政務委員就任式を擧行され左記十三名就任發表さる。

委員長 張學良

委 員 張作相、萬福麟、沈鴻烈、湯玉麟、莫德惠、劉哲、翟文選、劉尙淸、袁金鎧、張景惠、王樹常、方本仁。

十五日漢口日本總領事館警察署松原巡査及杉山某の兩人は日本租界外に於て糾察隊の爲に拉致拘禁され桑島總領事は嚴重抗議され解決す。**十六日**支那招商局汽船新華號は（二千屯）十五日

之を解散す。

第八條　全國陸軍は步兵六十五師　騎兵八旅、砲兵十六團、工兵八團とす總兵數は八十五萬人

軍費は國庫歲入の四割とす定額は當分一億九千二百萬元とす。

第九條　各省區は地方の財力に應じて該委員會規定の辦法に依り二千乃至六千の保安隊を設くる事を得。

第十條　裁撤兵卒は編遣委員規定辦法に依り各正業に就かしむ。

第十一條　裁撤士官は左記方法に依て之を處理す。

イ高級士官中老病共他任に堪へざる者は年俸又は月俸を與て休職と爲す。

ロ年少士官にして留學又は國內に於て學術研究を欲する者は特に優待の途を與へ官費を以て就學せしむ。

ハ共餘の士官は軍官學校に入れ他日之を登用す。

第十二條　裁撤各部隊中下級士官は之を中央軍事學校に入れ補充教育を施し他日之を登用す。

第十三條　各軍現在收入は悉く之を財政部接收し各省軍費は遣編委員會經理部より之を支給し共手續は別に之を定む。

第四條　各總司令部、各總指揮部取消後は現在の豫備軍及軍事一切の檢察は左の規定に依て之を處理す。

イ現存軍費及軍需品は編遣委員會の決議を待て適宜に之を保管す。

ロ各兵工廠の武器製造は一律之を停止し編遣委員會より派員して之が接收を爲す。

ハ現に購入契約中の武器及一切の軍需品は之を編遣委員會に報告の上承認を求む。

第五條　編遣委員會は各省に員を派して各隊の點檢を行ふ檢閱官は中央軍事機關及各總司令部各指揮部に於て之を決定す。

第六條　全國現存軍隊は中央直管部隊及海軍を除き委員會より員を派して編遣を行ふ者とし其區域を左記六區に別つ。

第一區　第一集團軍に屬する各部隊　第二區　第二集團軍に屬する各部隊

第三區　第三集團軍に屬する各部隊　第四區　第四集團軍に屬する各部隊

第五區　東三省の各部隊　第六區　四川西康貴州雲南各省區部隊

第七條　各編遣區辦事處は委員制を採り現存總司令、各總指揮部の高級武官より各二名乃至五名、中央黨部より一名、國民政府より一名宛を派して組織せしめ編遣事宜完了と共に

公使堀義貴宛ての三通より成れる公文書を南京に於て受領し上海に歸り矢田總領事に手交せり

一　國民政府は民國十八年二月一日以後に於ては別表の如き關税を支那各地の海關に於て輸入貨物に賦課致度く日本政府の承諾を求む但し一定期間内に仕向地に到着す可き貨物に對しては此限に非らず。

二　債務整理に關する通牒にして其内容は國民政府が負擔す可き外國債務償還の爲め新税率實施初年度に於て五百萬元を關税收入中より充當するか各國の有する債權總額及次年度以降の償還額並に償還方法は速に債權者會議を招集して決定す可き事を協定す。

三　債權整理條件と同樣新税率實施に伴ふ或種の條件を規定せる者に係り其内容は日支兩國共に絶對秘密とせる事を協定さる。

上海市黨部は漢口日本租界を回收す可しとの宣言を發表せり。**十九日**梁啓超は北平のロックフエラー病院に於て病歿す時に享年五十六也。外交部長王正廷は日本政府が山東省派遣軍撤兵時期を明示せば同省在留日本人の生命財産の徹底的保護を期す可しとの聲明書を發表せり。芳澤公使は日支懸案解決交渉の重大使命を帶び東京より上海に到着さる。在南京岡本一策領事は外交部に王正廷部長を訪ひ在漢口の武漢政府主席李宗仁の無誠意なる答辯の旨を開陳して國民政

第十四條　所屬不明各軍は編遣委員會に於て之を處理す。

第十五條　各省政府が土賊及共產黨討伐の爲め兵力を必用とする場合は編遣委員會に出兵を求むる事とし緊急事件の際は各區辦事處に請願して出兵せしむ。

第十六條　編遣委員會は各省治安條令に照し省政府をして地方の秩序維持指導に當らしめ六ケ月以內に共省區內の土賊を剿討せしむ。

第十七條　本大綱は國民政府をして公布せしめ本委員會は本大綱所定の原則に依て細目草案を決定す。

北平特別市長何其鞏は外交部及北平政治分會に宛て公文を以て北平東城交民巷（公使館區域）の行政權を回收して市管轄下に移さしむ可く外交團に交涉方を要求せり。日本の對支債權團體は支那の關稅率實施に依る增收額は國民政府の算定に依れば三千萬元にして共使途の一借款返濟充當額は第一年度に於て僅に五百萬元に過ぎざるを以て統一途上の支那の立場に顧み債權取立方を延期するに決す。

十八日在上海日本總領事館書記生草野松雄は矢田總領事の命を受け國民政府の七種差等關稅率實施に關する日支關稅協定公文を國民政府外交部長王正廷より北平駐在日本公使館參事官代理

工場より發火し燒失せり糾察隊の放火との疑ひ起る。南京に於て軍事編遣會議第五日本會議を開き左記三項を決議發表さる。

一　國民軍編遣會議常務委員、吳稚暉、譚延闓、蔣介石、馮玉祥、閻錫山、李宗仁、李濟琛、楊樹莊、何應欽、宋子文、張學良。

二　編遣會議總務部主任宋濟琛、編組部主任李宗仁、遣地部主任馮玉祥、經理部主任閻錫山。

三　海軍は現在組織を取消し現有艦隊を第一、第二兩艦隊に編成し渤海艦隊を第三艦隊と爲し廣東の各艦を以て第四艦隊を編成す。

廿三日國民政府鐵道部は義和團匪事變賠償金を擔保として在上海各銀行團と三百萬弗の借款契約を成立し此公債は隴海鐵道其他の改修費並に教育費に充當し償還期限は廿五ヶ年と定む。天津特別市長張廷献は天津特別市民衆團體連合會辦公處組織大綱十二ヶ條を公布さる。**廿五日**山東省龍口港に於て兵變起る。在ヂュネーブ國際聯盟阿片委員會に於て支那代表王景岐は新興國民政府は目下尚ほ臺灣を以て民族統合主義上支那領土たらざる可らずとの見解を有する者なりと放言して物議を惹起せり。北平に於て市黨部及軍政各機關は聯合して共產黨絕滅委員會を設置し宣傳週間を設けて反對宣傳の實行に決し右宣傳週間は軍政各機關の援助を受け共產黨員の

府に於て誠意を示さずば日本政府は萬止むを得ず自衞手段を講ずるやも計り難く萬一の事有るとも日本政府は其責任を負ふ能はざる旨を通告して一警告を與へらる。岡本南京駐在領事は日本政府の訓令に依りて李宗仁を訪問し漢口に於ける排日運動事件に關しては嚴重なる抗議を提出し苦力の罷工及檢察隊の暴行取締り方を要求され之に對して李宗仁は直接行動又は常軌を逸せる不法行爲は之を取締るも罷工は愛國運動なれば防止し得ざる旨答辯せり依て同領事は罷業防止取締を爲さゞるは國民政府に誠意なき者と認め必要手段を講ずるの止むを得ざるに至るやも計り難きも敢へて差支へなきや否やを反問せるに對して李宗仁は致方なき旨答辯せり。**廿日**漢口日本租界警備の支那人巡捕は支那糾察隊の爲に拉致毆打さる。**廿一日**上海に於て反日會全國代表大會を開き四項の實行方法を決議し發表さる。漢口警備日本軍艦安宅號の一汽艇は支那糾察隊のランチを拏捕せり。漢口日本租界警備の警察官隊を廢して海軍陸戰隊を以て之に代へ嚴重警備せしむ。**廿二日**交通部は漢口、張家口、重慶、上海、南京、天津、北平の七ヶ所に短波長無線電信臺を建設するに決定し之を完成せば有線電信と同樣の料銀にて一般公衆電報取扱を開始す可き發表さる。國軍編遣委員會編成規定發布さる。國軍編遣委員會服務規定十二ヶ條を發布さる。編遣區辦事處組織大綱八ヶ條發布さる。漢口日本租界所在の日支合辦燮正燐寸公司

一　日本の山東出兵は國民軍前進阻止の爲め楊常兩人の斡旋に依り滿蒙利權及奉天派の勢力範圍內雜居權承認を交換條件と爲せり。

二　張作霖歿後楊常兩人は更に一歩を進めて芳澤公使及赤塚總領事等と密使を往來し奉天、吉林、黑龍江、熱河、內蒙古を大遼東共和國として獨立せしめ軍事期間中張學良を大元帥に楊宇霆を副元帥と爲し次で戰事終了せば楊常を以て正副元帥と爲す之が實現に關する協定調印迄で楊常は支那統一及改旗阻止の全責任を負ふとの密約を締結せり。

三　楊常兩人は日本より大砲其他多數の武器を購入せり。

四　日本は楊常を援助の爲め第十九師團及第九師團の一部を錦州。朝陽一帶に派遣するを約す

卅日中央政治會議の決議に依り國民會議委員を左の通り任命さる。

蔣介石　譚延闓　李濟琛　馮玉祥　何應欽　李宗仁　王正廷　宋子文。

卅一日駐支日本代理公使堀義貴は本國政府の訓令を奉じて日支關税協定に調印を了し南京駐在岡本領事を通じ國民政府外交部長王正廷に之を手交さる。關税自主大綱を發表さる。

二月　**一日**南京總税務司辦公處に於て新關税實施祝賀式を擧行さる。改訂新自主輸入關税率の實施に依り日本紡績業者の負擔益々加重の爲め在支日本人經營各紡績會社は鋭意擴張に腐心す

捕縛懲罰一切の權限を付與せられ度き旨當局に要求せり。**廿六日**國民政府は米國ラヂオコーポレーションと支那全國無線電信網完成資金二千萬弗米支無線電信借款契約を駐支米國公使館參事官『パーキンス』の中介に依りて締結せり契約條件は年利八分電政收入擔保にて償還期限廿ケ年と定む。芳澤公使は支那新聞記者團に對し日本政府は歷代東三省に對しては鐵道を中心として產業の開發的經濟問題として以外に領土的野心を抱きたる事なしと聲明さる。滿鐵經營の煙台炭坑は突如爆發し日支兩國人百餘名行衞不明と爲り多數の死傷者を出せり。**廿七日**山東省青島市の對岸大港に諸城縣方面に根據を有せる顧震の率ゆる舊山東軍の殘徒一隊襲來し同地海關分局を佔領し公金を沒收して去る。駐支英國公使ラムプソンと外交部長王正廷との間に於て一月廿日調印締結されたる中英關稅條約正文を公表さる。**廿八日**駐支日本公使館は北平警備司令部の發表に係る張作霖座乘列車爆破事件の眞相と楊宇霆、常蔭槐銃殺事件に關する調査報告書に對し全然斯かる事實なしと否認せる聲明書を發表さる。奉天に於て張學良の爲に銃殺されたる楊宇霆、常蔭槐處刑事件の調査報告書を發表さる。北平警備司令部 諸議張廼良は楊宇霆、常蔭槐兩名銃殺事件の調査を命ぜられ左記の報告書を提出し同司令部は卽時之を發表さる楊常兩人銃殺に關する北平警備司令部の報告書

廳の意向を報告し善後所置に就き請訓せり。奉天政府は大禮堂に於て奉天、吉林、黑龍江、熱河の東北四省政府首腦者就任宣誓式を擧行され國民政府代表方本仁之を司會せり。**五日**總稅務司の命令に因る大連海關の輸入稅附加稅徵收問題に關する關東廳の請訓に對し日本政府は條約違反の不當課稅たるが故に應ぜざる可き旨の訓令を發せらる。國民政府は國籍法二十ヶ條を公布さる。國籍法施行條例十二ヶ條を公布さる。中央政治會議の決議に依り王正廷を以て濟南事變交涉に關する全權委員に任命するに決定し更に周龍光、崔士傑外二名を以て委員に任命さる。張宗昌の同志日本人小日向幸松及田原天牛等の日支兩國人十數名は滿洲海龍縣の馬賊德同豐と共謀し奉天城佔領の一大陰謀を企圖し三月一日夜半を期して事を擧げんとし先づ奉天電燈廠を破壞して全城を暗黑に陷れ次で便衣隊百餘名をして諸官署を襲擊せしめ又暴民を煽動蜂起せしめ一擧に總司令部を襲擊佔領せんとの一大陰謀を逞ふし遂に事露れて捕縛さる。上海共同租界工部局市參事會員改選の結果英國人五名米國人二名日本人二名(船津辰一郎、福島喜三治)當選せり。**六日**蔡元培は蔣介石に對して李宗仁等の武漢派問題に關して軍事行動開始の不可を力說され蔣介石も亦之に同意する所あり。**八日**芳澤公使、王正廷兩全權間に於て交涉解決され正に調印を了せんとせる濟南事變解決協定問題は山東省派遣軍撤兵期間問題の爲め日支兩國間

支那人多年の努力に依り新關稅自主權確立の第一步として本日より實施を見るに至り同時に從來各地稅捐局（釐金局）は悉く裁撤され又當日の上海市中は宛然祭禮的雜鬧を呈し支那國民の胸中寔に可察ものあり。**二日**天津及秦皇島兩海關は新關稅率實施後は子口半稅の徵收免除の旨を布告さる。山東省芝罘市內に戒嚴令布かる。國際聯盟事務次長アヴノールは國民政府主席蔣介石を訪問して對支宣言を手交さる。**三日**總稅務司メーズは大連海關に對し突如輸出稅附加稅二分五厘及沿海貿易稅附加稅一分二厘五毛並に洋式機械製品稅附加稅二分五厘の增徵方を通達さる依て豐富なる滿蒙物資の輸出港たる大連海關は直に總稅務司に對し一應の照會を發し又一面には關東廳の諒解を求め依て同廳は直に日本政府に對して請訓する所あり。大連貿易業者は大連商工會議所に於て會議を開き輸出稅附加稅徵收問題に就き六個月間徵收實施の延期取計方を日本政府に對して請願する所あり。**四日**蔣介石は第三次全國代表大會の直前を機として長文の對策宣言を發表して三民主義の眞髓は階級協調の實現を期する者にして斷じて階級鬪爭を主張する者に非らざる旨を高調せり。哈爾賓に於て滿鐵會社の小日山理事は露國ウスリー鐵道長官シュルサレン』と北滿洲貨物輸送新協定に正式調印を完了さる。大連海關は關東廳の强硬なる抗議に依り五日より實施す可き輸出稅附加稅徵收延期方を決定し直に總稅務司に對し關東

附近に第三防禦線を構築して張宗昌の率ゆる共和同盟軍の攻撃に對する防戰に努め形勢不利を報ぜらる。**十六日**米國貨の支那輸入激增し民國十六年度に比し五割の增加を示し民國十七年度の總額一億六千五百三十萬弗に上れり。國民政府の輸出稅附加稅實施に對し關東廳の實力防止に依り北滿主要貨物たる豆類は正稅九仙四厘の外附加稅四仙七厘の附加增徵を免がれ浦潮斯德向け輸出に比し大連輸出は一噸に付き七十仙餘の割安なるに依り北滿貨物の大連南下激增せり。立法院に於て華僑回國興辦實業奬勵條例九ケ條を可決さる。**十八日**北平天安門外建設の孫文銅像奠基式擧行さる。**十九日**馮玉祥は河南省城開封驛に於て狙撃されしも負傷せず兇漢は逃走せり。北平特別市公使館區域警備の支那人巡捕は共產派の使嗾に依り突如總罷業を企て爲に同區域は無警察狀態に陷り日英米佛伊各國守備隊長會議の結果哨兵を配置して警備に任ぜしむ。國民政府は張宗昌が部下二百餘名を率ゐ大連より山東省龍口港に向ふとの飛報に接し幹部緊急會議を開き對策を協議さる。張宗昌は吳光新と共に大連出帆山東省龍口港に上陸し國民政府反抗の軍を起し安福派及舊部下山東軍の殘徒と策應し又四川省の劉存厚　吳佩孚　北平の商震　閻錫山　方振武　奉天軍の千學忠等と一脈相通の風說傳はる。**廿日**上海特別財務局は交涉員金問泗を通じて領事團主席米國總領事カンニングハンに對し內外人を問はず租界外附屬住宅

意見一致せず正面衝突を起し交渉決裂せり。**十日**河南、陝西、甘肅三省地方饑饉救濟の爲め賑災公債條例十二ケ條を公布さる。財政部顧問として米國人ケンメラー及ヤング其他十三名を招聘し着任せり。**十一日**米國上院に於て米支新關稅協定批准され外交委員長ボラーは支那が國際外交の新紀元たりとの聲明書を發表さる。**十二日**史書翰は山東省東部黃山關駐屯の高鳳岐軍を左翼とし即墨縣駐屯の劉開泰及顧震軍を右翼とし萊縣駐屯の施中誠軍を中央とし自ら總司令と爲り三路逆進して龍口港に迫まり劉珍年軍剿討の師を起し芝罘に向ふて進擊を開始す爲に龍口海關監督及港灣局等長其他の要人は殆んど全部逃走せり。上海市黨部は今後十年間對日絕交を高調せる旨の宣傳を通電せり。**十三日**外交部長王正廷は外交團首席公使和國公使オウデイン、デツクに向け國民政府は支那全國に散在する列國租界の回收を準備せり依て各國公使に豫め交涉準備方通告を希望する旨正式照會を發す。**十四日**大連地方法院長安住時太郞は關東洲貔子窩地方に於ける馬賊の爲め被害實地檢證の爲め被害者家屋內に潛伏せる馬賊五名の爲め狙擊され即死せり。**十五日**芝罘領事團は會議の結果首席米國領事ラーシー、ウエーバーより張宗昌、劉珍年の攻防兩軍に對し芝罘附近の戰鬪を避け在留外人の生命財產保護方を要求さる。芝罘駐防の劉珍年軍は蓬萊縣の東方地點に第一防禦線を福山縣北方の白洋河に第二防禦線を更に牟平縣

三中央より指定派遣せしむる者哈爾賓 察哈爾 綏遠 熱河 黑龍江 吉林 奉天 北平 陝西 河南 山東 安徽 湖南 四川 福建 江西 雲南 貴州 河北。

四中央より査定して出席せしむる者西康 外蒙古 新疆 內蒙古 西藏 青海。

乙、鐵道及海員工會特別黨部

一倍の委員數を選出して中央より定むる者滬寧 滬抗甬 津浦の三鐵道。

二中央より指定派遣して出席せしむる者平漢鐵道、粤漢鐵道北段、海員工會。

三中央より指定派遣して列席せしむる者平綏 平奉兩鐵道 各軍隊の特別黨部は別に定む。

國民政府の機關新聞紙は張宗昌の山東省再起は日本政府の援助に出づとの憶說を逞ふし張敬堯張宗昌 吳光新等中堅と爲り褚玉璞之に附和し前北京政府の國務總理潘復の居中斡旋に依りて山東鐵道收入を擔保と爲し日本より一千萬元を借款し劉開泰 施中誠等之と策應して劉珍年を驅逐し山東省奪回を企圖すとの宣傳を發表せり。北平市黨部民衆訓練委員は同地交民巷公使館區域罷業巡捕團を煽動使嗾して大會を開催し同公使館區域回收運動を企圖せり。張宗昌は山東省龍口港の官民を招待して盛宴を張り席上國民政府の罪を擧げ全國に對して國逆打倒の通電を發送せり。張宗昌と內約ある山東省內雜軍の牟平縣の劉龍三 何益三 萊縣の劉開泰 萊陽の

に對し家賃の六分乃至一割二分又商店に對しては一割乃至一割四分の家屋税を課し家主と借家人に均分負擔せしむる旨通告を發せらる。上海駐在日本總領事館は上海租界外住宅課税事件に關し嚴重なる抗議を提出さる。外交委員會は左記任命の件を可決さる。

前上海交涉員郭泰祺を以て伊國駐在公使に任命す。前外交部次長傅秉常を以て白國公使に任命す。上海交涉員金問泗を以て和國公使に任命す。

米國々務長官ケロッグは駐米公使伍朝樞と會見して民國十七年七月北平駐在米國公使マクマレーと國民政府財政部長宋子文との間に締結調印せられたる米支新關税協定の准批交換を行ふ。白河改修工程借款四百萬元天津に於て成立す。**廿一日**日本政府は張宗昌及政府兩軍側の各將領に對して已定方針に因り山東鐵道兩側沿線二十五支里以內に於ける軍事行動を絕對に禁止する旨通告を發せらる。國民黨中央黨務會議の決議に依り民國十八年三月十五日より開會の第二次全國代表大會に出席す可き代表者選出方法を左記の通り可決發表さる。

甲、普通部

一選擧を行ふ者南京　上海　廣州　廣東省。

二倍の人數を選出し中央の定める者江蘇　浙江　湖北　漢口　天津　山西　廣西　甘肅。

交部長王正廷は白國代理公使デューマと天津白國租界回收問題を審議の結果民國十八年三月未日限り支那に還附する事に決定さる。**廿六日**米國紐育タイムス新聞は張宗昌の再起は日本の援助に出づとの國民政府の宣傳を評して『支那は何時も身替りを求む』と題する社說の下に二年前支那紛爭の源由は一切英國なりと誣ひ次では露國と爲し又次では日本なりと罵りたり更に張作霖が東三省に蟠居するは日本の陰謀的援助と爲し張學良の南北妥協遷延は日本の陰謀的勸告の結果と稱し國民黨施設の不成功は日本の間接の謀計に基因すと誣稱するが如く常に責任轉嫁に努むるは反省す可きなりと勸告する所あり。上海に於ける第二次全國反日大會準備委員會は大會組織法十一ケ條及議事細則十二ケ條を制定して大規模の準備を進捗せしめ大會出席者は各特別市及海外反日會より各三名宛を派遣し來り其他十五省に宛て代表派遣參加勸誘の通電を發送せり。山東省西部地方駐防の舊山東軍孫殿英（徐源泉部下）は褚玉璞と連絡し章邱縣（チャンキュー）に進軍して國民政府反對を通電して同地方を佔領す。米國政府は民國八年（一九一九）北京外交團協定に依り實施し來れる對支武器輸出禁止協定解除に就き關係列國に對し交涉を開始し尚ほ之に附言して禁輸は實際的に無功にして該協定實施以來支那に密輸入せられたる武器彈藥は約五億弗以上に上れる旨を證言さる。**廿七日**駐支米國公使マクマレーは北平より急遽南下南京に抵り

施中誠等の各軍並に其他西部一帶の各軍將領等は張宗昌の旗下に參加して芝罘駐防の劉珍年軍を包圍狀態に陷る。**廿二日**上海外交辦事處に於て外交部長王正廷と駐支佛國公使マルテルとの間に中佛關稅協定正式調印さる。駐日公使汪榮寶は國民政府の命に依り有田亞細亞局長を訪ひ張宗昌の山東省擧兵は國民革命の成果を蹂躪するの憂あり支那統一の爲め濟南事變解決交渉と區別し速に撤兵を求むる旨懇談さる。外交部は日英米佛白其他二國に對し新關稅率を實施し增收額より每年五百萬元を內外債務整理の爲め外債整理委員會開催に付き委員派遣を求め來れり。張宗昌軍は劉珍年軍との平和解決交涉不調に歸し芝罘南方福山縣城外に於て兩軍開戰せり。**廿三日**國民政府は日本の要求を容れ日支貿易品中の大宗綿布の稅率引下げを承認し改訂に決定さる。**廿四日**北平市黨部指揮の下に市民大會を開き交民巷の公使館區域回收大示威運動行はれ會衆は北平政治分會主席張繼打倒を高調し頗る左傾化の兆を示す。**廿五日**財政部長宋子文は安東海東海關監督李友蘭に對し滿鮮國境關稅三分の一減稅撤廢の內命を發し同時に總稅務司は安東海關長福本順三郎に對し海關監督と協議し陸境特惠關稅三分の一減稅即時廢止を電命され同海關は同日より實施せるに依り奉天駐在日本總領事館は海關監督李友蘭に對し條約違反の旨を以て抗議を提出され又一方公文を以て東北政務委員主席張學良に對し嚴重なる抗議を提出さる。外

地方及長江一帶に於ける國民政府內爭の動亂勃發の戰機迫まる。**三日**北平代理衞戍總司令商震は時局紛亂の爲め不法集會取締令を發布さる。李宗仁は湖北　湖南　廣東　廣西一帶を自己の勢力範圍に佔領の目的を以て湖南省政府主席魯滌平を驅逐し一方遠く山東省の一角に再起せる張宗昌と策應して蔣介石討伐を計り爲に蔣介石は之に對應して第三師毛炳文第六師長方策兩軍に對し蕪湖方面に出動を下令さる。**四日**農工部は漢冶萍公司を同公司整理委員會に接收方を下命さる依て日本政府は國民政府に對して同公司の財產は日本の借款擔保たるが故に之を不當と爲し嚴重なる抗議を提出さる。教育部は江蘇省蘇州城外の角直鎭なる保聖寺內安置の唐代彫塑大家楊惠の遺作十八羅漢塑像保存の爲め角直唐塑保存委員會を設く。蔣介石は胡宗鐸等の廣西派所謂武漢軍に備ふる爲め江西　安徽兩省一帶に向け約五萬の大兵を出動せしむ。廣西省政府は同省內の人口三千二百十二萬餘人を有すと發表さる。**五日**東支鐵道督辦呂榮寰は同鐵道回收問題に付き支那側の態度強硬なりとの脅威的聲明を爲す。**七日**宣統廢帝の皇弟溥傑は同皇后の實弟潤學と共に日本留學の爲め東京に來着さる。**九日**李宗仁は上海廣恩病院に入院して突如國民政府委員及軍事參議院長辭職の旨を通電さる。安福派の要人曲同豐は天津日本租界の自宅に於て數名の刺客に襲はれ暗殺さる時に享年五十五歲也。**十日**何健は魯滌平を驅逐して湖

列國に先機して治外法權撤去に關する密秘交涉開始の報傳はる。滿鐵會社は關東州內に於て大陸的農作法を採用する大農模範水田經營の爲め內地農業移民會社設立新計畫を發表さる。日貨海產物非買同盟支那料理同業組合の再決議に依り日本產海產物全然排斥され前途悲觀さる。**二十八日**總稅務司メーズは安東海關長福本順三郞副稅務司に對し先に撤廢命令を發せる陸境特別關稅は從前の如く實施せよと訓電さる。

三月　一日全國反日會は上海に於て第二次全國代表大會を開催し國貨提唱を高調して產業振興を計り日貨抵制を叫で大に煽動する所あり。奉天政府委員翟文選（チエイ、ウエン、スエン）は國民政府の命に依り奉天省を遼寧省と改稱する旨布告さる。張宗昌は山東省再起擧兵の計畫根據地を大連市に置き策動せる爲め關東長官木下謙次郞は同派の策動基地と爲す事を嚴禁さる。張宗昌は前直魯軍參謀長蔣鴻勳及前太沽海防司令官馬明居等の舊部下在天津の同志と通謀して天津一帶の擾亂を企て天津佔領計畫を策謀せしめたるも事露れて蔣、馬兩名以下逮捕銃殺され失敗に歸す。反日會の日貨排斥に因りて日貨の凋落極度に達し上海に於ける綿布の八割以上は英國貨に佔領さる。**二日**奉天票は新票の發行に因りて三千七百七十元に慘落せり。湖北省政府主席委員たる（廣西派武漢軍）胡宗鐸は國民政府に反抗して戰鬪準備を進め共產黨の漢陽兵工廠擾亂計畫發覺して武漢

錫閻山　李濟琛等の巨頭に宛て左の宣言を通電さる。

湖南政府改造問題は法規に從て執行され今や我等は靜に中央の正當なる解決を待てり然るに昨今上海　南京に於て軍隊を動員し船舶を徵發し謠言百出我等は總理の遺志を遵奉せる中央が輕忽にも天下の兵を動かす結果人心の動搖を見るは當然と信ず魯滌平を處分せるは湖南省民を救助し共產黨を鎭壓するに止むを得ざる手段にして魯滌平個人の爲に湖南省民を犧牲に供するに忍びず我等が全國の統一を希望し總理の遺志を服膺して當局の利益を計り然かも今や訓政期に當つて建設的努力を要するの時戰事の慘禍を見んか共產黨帝國主義者に乘ぜらるゝの恐れあり願くば中央は速に軍事行動を中止して兩湖の省民を救ひ黨國の前途に和平を齎らされん事を祈る。

十五日蔣介石は國民革命軍總司令部及第一集團軍總司令部の廢止を發表さる。上海特別市政府教育局長韋某は反動的刊行物取締令を發布さる。**國民黨第三次全國代表大會**を南京に於て開催され出席者二百名以上に達して法定數を超へ主席胡漢民司會にて開會され全市民祝賀の意を表せり。**十六日**奉天政府當局は關東州中立地帶たる普蘭店以北の線營口より大孤山港に横斷する線以南は明治三十二年の露支條約に基く遼東半島租借地境界議定書に依り中立地帶と定められ

南省政府主席に就任し新政府を組織す。**十二日**河北省代表大會正式成立す。馮玉祥は國民政府軍事部長辭職の旨を通電す。胡宗鐸は蔣介石の宣言に對して法理論的反駁論を李宗仁　李濟琛　白崇禧　黃紹雄等に通電して蔣介石反對の宣言を發表せり。**十三日**蔣介石は中央政治會議に於て三月十五日以前に全國各地の政治分會を取消す可き提案を爲し可決さる。國民政府は中央政治會議に於て國內の產業發展の爲め外債募集方針を確定さる。江蘇省政府鎭江城に移轉す。胡宗鐸　張治本　陳嘉裕等は湖南省政府主席魯滌平驅逐の責任者と爲し之を免職し南京　武漢兩軍の軍事行動を停止し現防地に歸還す可き旨下令さる。**十四日**天津中華航空協會及民用航空有限公司は天津市政府署內に於て成立大會を開き天津　上海航空路開設經費豫算を決定さる。蔣介石派の前湖南省政府主席魯滌平軍は江西省萬載縣方面に於て廣西派に屬せし何健軍と衝突し蔣介石派第十一師約九千名は師長曹萬順統率の下に江西省九江に入城し同地集中の蔣介石軍の總數約四萬五千に達し戰意驀る。汪兆銘　陳公博　何香凝女史　恩克巴圖　顧孟餘　王法勤　白雲梯　王樂平　朱霽青　陳樹人　陳璧君　郭春濤　潘雲超等の國民黨極左派領袖は全國下級黨部に對して第三次全國代表大會否認の通電を發送せり。北平政治分會廢止を宣言さる。武漢軍（廣西派）の要人胡宗鐸　何健　夏威　陶鈞　葉祺等連名にて南京中央黨部各委員長馮玉祥

にして總數の約八割は中央の指命に係る者なり。馮玉祥の勢力範圍たる甘肅　陝西　河南三省及廣西派の地盤たる湖北　湖南　廣西　廣東　四川五省の黨部は聯合運動を起して第三次全國代表大會否認運動を開始して蔣介石反對を表明せり。**十九日**第三次全國代表大會に於て共產黨除名及共既得領停止並に程潛の職權停止を可決し中央南京政府擁護の色彩益加はる。蔣介石は武漢軍の將領胡宗鐸　夏威　陶均等に對し是後通牒を發して討伐態度を決定す。白崇禧は蔣介石に對して第四編遣區主任及第三次全國代表大會代表辭任を通電す。**二十日**全國反日大會は武裝を決議す。蔣介石は魯滌平驅逐の湖南省問題に關する宣言書を發表せり。**廿一日**在哈爾賓外國領事團は行政長官張景惠の布告せる民國十八年三月廿日以降一ケ年內に於て宅地に建築せざる者は內外人を分たず一切の所有地沒收通告問題に關して强硬なる抗議を提出さる。國民政府は武漢軍討伐正式令を發す。蔣介石は湖南派の巨頭唐生智　魏益三等を起用して武漢派討伐戰略を策定せり。李品仙　廖磊等白崇禧部下第四集團軍各師旅長等二十二名は北平に於て通電を發して廣西派が中央に背き統一を破壞せるを攻擊し且つ白崇禧が利己的陰謀を逞うせるを述べて關係を斷ち南京政府に服從し統一を擁護する旨を聲明す又李品仙は唐生智と共に部隊收集の爲め北平より平奉鐵道沿線唐山に赴き又李品仙は唐生智の復職に對して擁護の通電を發せり。

たるにも拘らず莊河、大孤山、岫巖各地に軍隊を駐屯して條約無視の行爲あるが爲め奉天駐在日本總領事は嚴重なる抗議を提出さる。奉天政府佔領治下に在りし河北省灤縣以東五縣の接收問題解決さる。天津日本總領事加藤外松は國民政府外交部に對して輸出税及沿岸貿易税に關して不法なる課税と爲し嚴重抗議を提出さる。國民黨全國代表第三次大會豫備會議に於て同大會の主席團として左記九名を選定さる。

譚延闓　胡漢民　于右任　古應芬　蔣介石　陳果夫　孫科（以上中央委員）潘公展（上海代表）陳耀垣（米國桑港華僑代表）

十七日武漢衞戍總司令部に於て共產黨員五十餘名を逮捕す。**十八日**第三次國民黨代表大會に於て濟南事變の元兇たる第四十軍長中央政治會議委員賀耀祖は**日本を以て對敵とする國防案**を提出し秘密會を開きて討議さる。工商部は全國度量衡統一の爲め度量衡局を新設し同局組織條例十八ケ條を公布さる。白崇禧は北平より漢口に歸來し第四集團軍司令部に於て緊急軍事會議を開きて對南京軍事（蔣介石）軍事行動を決定す又同人は北平より歸漢の途次河南省百川に於て馮玉祥と會見し其結果馮玉祥は國民政府軍事部長辭職の通電を發送せり。第三次全國代表大會出席總數二百八十名に達し內譯胡漢民派八十名、蔣介石派七十名、汪兆銘派卅五名、其他九十名

牛輸入の計畫を立て其の飼養經營を開始せり。**廿六日**張學良は閻錫山と代表を交派して對武漢問題の協議を遂げ北方政局和平に關する諒解成る。中央監察委員を左の通り選擧せり。

呉稚暉　鄧澤如　李石曾　古應芬　王寵惠　蕭佛成　蔡元培　林森　恩克巴圖　張繼。

武漢軍討伐督戰の爲め蔣介石は南京の總司令部を江西省九江城に進む。孫殿英は張宗昌に內應し章邱縣城に於て國民政府に反對の通電を發表す。國民政府は左の武漢軍討伐宣戰を布告す。

武漢政治分會は法に違ひ權を濫用して官吏を任命し戰備を整へ湖南政府を襲擊せり政府は濫りに彼等軍隊の行動を許さず出動部隊の撤退と共に地方軍政府の責任者を免職查辦し以て武漢派の覺醒を促がさんと計りしも夏斗寅の電告に依れば彼等は本日我部隊に攻擊を加へ謀反の意志已に明なり更に先に李品仙の來電に依れば白崇禧等は中央の威信を破り首都に進擊を企て李宗仁は上海より廣東に至り醒南參謀總長と稱し李濟琛又其一味なり彼等は豫め共同計畫の反亂行爲なり三民主義に違反し統一を破壞する者にて反革命の罪狀歷然たり政府は今日迄で極めて寬容の態度を取り彼等の反省を求めしが彼等は中央の和平尊重の意を思はず兵を擧げ政府の命に反抗し革命を消滅せんとす故に政府は白崇禧　李濟琛　李宗仁の職を免じ查辦に付し中央に反抗する者に對しては斷然討伐を加へ以て亂を防ぎ法規を明にす此に令す。

李濟琛は第三次全國代表大會に出席し蔣介石の爲に招れ總司令部に抵り突如監禁抑留さる。蔣介石は李濟琛監禁事件に關する長文の宣言書を發表せり。中央黨務會議は第三次全國代表大會出席の代表選出規定を發布さる。廿三日青島駐在日本總領事藤田榮介は張宗昌の山東省內擧兵事變に就き日本政府の態度を聲明さる。廣東政府委員黃紹雄　鄧世增は軍事會議を開き武漢派援助の爲め各軍に對して出動命令を發せり。廿四日北平各團體代表大會に於て公使館區域の武力回收を決議せり。武漢軍は江西省銅鼓　萬載兩縣方面に於て南京軍と前哨部隊の衝突を動機として開戰せり。芳澤公使は外交部長王正廷自邸に於て會見し濟南事變解決協定に假調印を了せらる。張學良は馮玉祥　閻錫山連名の武漢事變に對する東北の意見徵求通電に對し永久中央支持蔣介石援助の方針を返電せり。廿五日山東省卽墨縣方面より策動來襲の舊張宗昌部下顧震軍は芝罘南方約五里の地點に來攻し劉珍年軍と開戰せり。武漢軍討伐の爲め南京軍の右路部隊夏斗寅軍は安徽省宿松　英山兩縣方面より又左路部隊朱培德軍は江西省銅鼓　萬載兩縣方面より進出攻擊を開始せり。馮玉祥は百川を出で鄭縣に來り部將韓復榘　石友三兩軍約三萬は信陽城に集結して武漢進軍の機を窺へり。東亞勸業會社は滿鐵會社の援助に依りて牧畜業計營の爲め內蒙古達兒罕及圖什業特各王より六ケ所に亘り約三百平方哩の大牧場を租借し本國に對し食

は具體的三民主義の建設を以ての一途あるのみ故に人民は本黨に對し精神的物質的の贊助を與ふ可し。

三　人民の要求は痛苦を輕減するに在り社會秩序の確立、黨費の削減、衣食住の適當なる解決に對し黨は切に之が實行を期す。

國民黨第三次全國代表大會に於て左の中央執行監察委員を推選し發表さる。

中央執行委員　蔣介石　譚延闓　宋子文　何應欽　張群　劉峙　陳銘樞　劉紀文　王柏齡　朱培德　何成濬　伍朝樞　楊樹莊　方覺惠（以上蔣介石派）胡漢民　戴天仇　葉楚傖　朱家驊　陳果夫　李文範　邵元冲　劉盧隱　曾養甫　陳始英　周啓剛　孫科　吳鐵城（以上右派）汪兆銘　宋慶齡（以上極左派）于右任　丁惟汾（以上左派）閻錫山　趙戴文（以上閻派）馮玉祥　方振武（以上馮玉祥派）

監察委員　吳稚暉　鄧澤如　李石曾　張靜江　古應芬　林森　蔡元培　王寵惠　邵力子　蕭佛成　張繼　恩克巴圖

右の内蔣介石派は古應芬　邵力子二人にして左派は恩克巴圖一人とし餘は全部右派之を占む。

張學良は國民政府の命に依り山東省に於ける張宗昌軍討伐の爲め約二千名の一部隊を營口より

駐米公使伍朝樞は新就任大統領フウヴアーに謁見して信任狀を捧呈す。廣東軍主力は江西省に向つて進軍し李宗仁は蔣介石討伐軍總司令に就任し陳濟棠を廣東軍中路前敵總司令に、范石生を左翼前敵總司令に、徐景唐を右翼前敵總司令に決定せり。**廿七日**參謀總長鈴木莊六大將は參內の上山東省の狀況を奏上し山東省派遣軍撤退の御裁可を仰げり。第三次全國代表大會閉會式を擧行し左の宣言を發表さる。

人類の歷史は生存競爭を中心として進み來りしが最近三百年間には生存方法より社會組織の改造を要求し重大變化の起るに至れり故總理（孫文）は此の潮流を看取し中國の改造を志し三民主義を唱へ一切の問題を解決する根本と爲し黨の同志も之を尊重し第一第二代表大會の後北伐完成に由り昨年七月五院制度の國民政府を組織し訓政時期に入り編遣會議を召集し國軍整理の順序を決定せり是れ皆故總理の定むる革命の順序として和平建設の基礎に依れる者なり尙ほ三民主義に基き直に實行す可き者は左の三項とす。

一　軍閥の掃蕩　赤化黨員の取締りには絕大の犧牲を拂ひ時に黨內の議論不統一に陷りしも本黨は之に對し具體的建設を以て人民に三民主義の眞諦を示さんとす。

二　軍閥已に掃蕩されしも更に軍閥を發生せしむるが如き環境尙ほ存在せり之を打破するに

に昇任す。軍事部長馮玉祥の辭職を許す。參謀總長鈴木莊六大將は山東省派遣軍司令官第三師團長安滿欽一中將に對し派遣軍全部山東省撤退歸還を電命さる。湖南省政府主席何健は蔣介石に宛て中央政府の命に服し討逆軍第四師團長に就任の旨を通電せり。蔣介石は武漢軍討伐三路總指揮を左の通り任命發表せり。

第一路總指揮朱培德　第二路總指揮劉峙　第三路總指揮韓復榘(馮玉祥系)

北方支那の風雲愈急を告ぐるに至り天津郵政局は河南省行郵便物受付方を一切停止さる。奉天政府は山海關一帶駐防の同軍に向け廿四貨車積載の彈藥を輸送し軍備を充實して風雲の急に備ふる所あり。芳澤公使は濟南事變解決し正式調印の爲め上海駐在總領事重光葵、外務書記官堀內謙介、上村領事、通譯官有野學を從へて南京に入る。濟南事變解決協定成立し調印完了に因り上海實業界各方面に更生の福音として歡迎され排日貨の暗影晴れて日支商取引激增の兆あり

濟南事變解決公文發表

廿八日午後六時日本東京及支那南京の兩國首都に於て第二の尼港事變と併稱せられ日本の國民的敵愾精神の發露と爲り將に對支宣戰の布告に瀕せんの危機を藏し外は列國をして東洋平和爆裂の危機なりとし世界列國を衝動せしめ一方支那國民も之に對抗して憤慨の血を沸かし日本排斥の思潮極度に昂奮し遂に對日宣戰の布告を絕

東北艦隊に搭乘せしめ芝罘に出動せしむ。米支關稅條約は南京に於て批准交換さる。濟南駐防の山東省派遣軍司令官第三師團長安滿欽一中將は張宗昌　吳光新兩人の代表に對して日本軍の嚴正中立の態度を聲明さる。閻錫山は國民政府の武漢軍討伐令を發せられ形勢險惡の爲め北平代理衛戍總司令の督促に依り太原城より北平に出馬せり。第三次全國代表大會に於て財政金融に關し左の決議を發表さる。

目下の財政は民國十八年度の全國歲入四億五千七百萬元にして歲出五億七百萬元と爲り差引不足五千萬元なりしが本年度以後は新關稅率實施に依り每年數千萬元の增收ある可きに付き之の中より外債を償還し國庫及地方の分配の不統一は軍費の多額及貨幣制度の紊亂等に原因し之を整理し財政の基礎を確立する爲めには先づ裁兵して軍費を減ずるの必要あり此の難關を突破せずんば實際的建設は不可能なり之が爲め本大會は編遣會議の決議案實行を促がすと同時に政府は本大會に於て決定せる根本方針に基き財政の整理及建設を期す可き事を促がす

右決議す

二十八日南京に於て第三次全國代表大會閉會式擧行さる。上海特別市長張定璠の辭職を許し上海兵工廠長兼軍事部次長張群を以て上海特別市長に任命さる。軍事部次長鹿鍾麟を以て同部長

支那共和國外交部長　王正廷殿

來簡　（譯文）

以書簡啓上致候陳者本日附貴簡を以て貴公使は國民政府に於て日本軍の山東省撤去後全責任を以て在支日本國臣民の生命及財産の安全を保證するに於ては日本國政府は現に山東省に在る日本軍を本件解決に關する文書の交換調印の日より向ふ二ケ月間に全部撤去す可き旨本部長に對し通告せらるゝと共に日本軍撤去の際に於ける處置に關しては日支兩國各委員を任命し現地に於て商議辦理せしめん事を提議せらるゝ旨御照會の趣閱了致候査するに支那に於ける外國人に對し國民政府に於て國際公法に照し責任を以て保護す可き旨は先に聲明しある所にして今後國民政府が日本在留民に對し保護を爲す可きは當然の次第に之有候御申越に係る撤兵期日及期間は既に了承致候就ては日本軍撤去の際に於ける引繼の處置に關しては兩國政府より各委員を任命し現地に於て商議辦理せしむ可き旨貴公使の御提議に對しては本部長に於て同意を表し候此段回答得貴意候　敬具

中華民國十八年三月二十八日

支那共和國外交部長　王正廷

叫する者あるに至れる近時に於ける最大の日支兩國民間反感の不祥動機たりし山東省城濟南事變解決協定に關する祝す可き日支兩國代表全權委員の交換せる公文書を左の通り發表さる。

共同聲明

日支兩國政府は客年五月三日濟南に於て發生せる事件が兩國々民傳來の友誼に鑑み極めて不幸悲痛の事たるを認るも今や兩國政府及國民は切に友誼の增進を望むが故に此際該事件に伴ふ不快の感情を記憶より一掃し將た又將來兩國々交の益敦厚ならん事を期する旨此に聲明す

保證及撤兵に關する交換公文

以書簡啓上致候本使は國民政府に於て日本軍の山東省撤去後全責任を以て在支日本國臣民の生命及財產の安全を保證せらるゝに於ては帝國政府は現に山東省に在る日本軍を本件解決に關する文書の交換調印の日より向ふ二ケ月間に全部撤去す可き旨此に貴部長に對し通告すると共に日本軍撤去の際に於ける引繼の處置に關しては日支兩國各委員を任命し現地に於て商議辦理せしめん事を提議致候此段得貴意候　敬具。

昭和四年三月廿八日

日本帝國特命全權公使　芳　澤　謙　吉

尙ほ陸續出動せり。閻錫山は武漢軍（廣西派）の行動を以て全國の統一完成を破壞する者と爲し蔣介石援護の旨通電を發せり。**三十日**方振武　陳調元　阮克武　范其石　徐源泉　魏益三　劉峙等の諸將領等は李宗仁　胡宗鐸等廣西派の行動は黨國に背反し全國の統一を破壞する者として一致討伐參加の通電を發せり。蔣介石は南京より江西省湖口縣に來り部下全軍に對して武漢軍總攻擊開始を下令さる。天津警備司令部は時局險惡化し來り共產黨員等の妄暴の恐れあり臨時戒嚴令布かる。劉文島を以て武漢戰地政治部主任に任命さる。**三十一日**濟南引繼日支委員左の通り任命發表さる。

日本側　日本山東省派遣軍第三師團參謀長步兵大佐谷壽夫　同參謀中尾忠彥　青島駐在總領事館副領事川南省一　和知參謀大尉。

支那側　山東交涉員崔士傑　李慶施　呂秀文　郭同。

昭和三年（民國十七年）春北京に於て滿鐵社長山本條太郎と張作霖との間に於て取極められたる滿蒙鐵道布設協約は東三省各當局の爲に全然無視せられ爲に日本の實力を背景と爲せる對滿蒙積極政策遂行論日本及在滿蒙日本人間に高調され日支兩國間の反感益々昂まる。在廣東省政府當局たる陳銘樞第四軍長陳濟棠第十一軍長蔣光鼐海軍總司令陳策等四名の海陸將領は連署を

日本帝國特命全權公使　芳　澤　謙　吉　殿

損害問題に關する議定書

客年五月三日の濟南事件の發生に依り日支兩國の受けたる損害に關しては双方に於て各同數の委員を任命し日支共同委員會を設置し實地調査し之を決定す

昭和四年三月二十八日

中華民國十八年三月廿八日

日本帝國特命全權公使　芳　澤　謙　吉

中華民國外交部長　王　正　廷

廿九日國民政府は左の通り任命發表さる。

武漢討伐軍總參議賀耀祖　同兵站總監兪飛鵬　同參謀總長何應欽。

第三次全國代表大會に於て左の新興支那の國民的對外方針を決議し發表さる。

不平等條約の取消　全國統一　中華民族の弱小民族保護　世界永久平和の保持。

武漢軍討伐令の下るや廣東市に於ては謠言頻りに起りて人心極度に動搖し夜に入りて遂に戒嚴令布かれ湖南　江西兩省に向ひ北上進軍部隊は呂煥炎　王應楡等の部隊已に一萬五千餘に達し

數の武器彈藥を補給して山海關方面の防備を嚴命し又灤州城に大兵を增援して灤河の線を嚴戒せしむ。廣東の陳濟棠は部下第二旅を韶關に駐屯せしめて王應楡の舊地盤を佔領せる爲め徐景唐との間に抗爭起る。浙江省政府は實業獎勵國產振興の目的を以て抗州西湖畔一帶を會場と爲し博覽會開催の準備に着手せらる。工商部の設立に係る上海商品檢驗局は事務取扱を開始し同時に檢驗細則十八ヶ條を公布施行さる。湖北省黃州城附近に於て南京　武漢兩軍は激烈なる交戰を開始し武漢軍は一敗地に塗みれて武漢に敗退し最前線の二個旅は南京軍の先鋒部隊夏斗寅軍に投降し又湖南軍第二十九旅は形勢不利を察し武裝の儘南京軍に投降せり依て南京軍は此勢を以て全線に亘り總攻擊を開始し武漢の民心極度に動搖し武漢軍は全く勝算なき狀態に陷れり。**二日**張學良　閻錫山は馮玉祥軍の北進に備ふる爲め北支那政局の安定を保全する目的を以て北支攻守同盟を締結し調印成る。武漢派の李明瑞軍は南京軍に投降し又夏威は戰況不利に陷り逃走せり。海軍總司令楊樹莊は武漢軍の行爲を非難して國民政府の處置を贊し中央擁護を以て極力武漢軍討伐援助の態度を表明せり。行政委員會に於て民國十八年四月十日より現行關稅に對し從價百分の二十五の附加稅を徵收し其收入を以て飢饉救濟費に充つる旨を決議發表さる。武漢軍の主將第四集團軍總司令李宗仁は左記蔣介石討伐宣言を發表せり。

以て蔣介石擁護を旨とし對武漢派獨立宣言的(中立的)通電を發せり。廣東に於ける省政府主席黃紹雄部下第三師長呂煥炎及第十五旅長王應楡部隊は武漢軍應援の爲め江西省境に出動せしも鋒を回へして廣西省境に向け撤退し來り爲に廣東政治分會及總指揮部の撤去に因り廣東の政權は自然に陳銘樞に又兵權は陳濟棠に歸屬する所と爲れり。

四月　一日山東省引繼支那側委員長崔士傑は突如接收準備未完成の爲め日本軍の即時撤退延期方を交涉提出し來る右は張宗昌の共和同盟軍の再起並に武漢軍蜂起に伴ひ馮玉祥軍對蔣介石派關係の惡化等國民政府部內に於ける內訌外憂的時局の推移に左右せられ再び濟南事件の如き事變を惹起して長江の戰局（武漢事變）に重大の影響を及ぼすを怕れたるに因る。吉林省政府主席張作相は張學良に對し長江方面に於ける時局に鑑み民國の統一は前途遼遠と爲し以て東三省は須らく保境安民の見地より獨立斷行を力說する所あり。武漢軍は戰況不利に陷り武漢を拋棄し主力を湖南省岳州に集中し江西省銅鼓、修水兩縣の線より九江に進出し南京軍の側背を擊破せんとするの作戰に出づ。馮玉祥軍は約七萬の大兵を以て右翼は河南省信陽縣一帶に集中して武漢軍と相呼應の勢を爲し又左翼は河南省歸德城附近に集結して南京軍牽制の戰勢を持せり。國民政府駐平辦事處及海陸軍總司令部行營を北平市に設置さる。張學良は于學忠軍に對して多

湖南省政府主席に就任せる何健は蔣介石に內應して中立を宣言せり。**四日**武漢軍は四圍の狀勢不利なると共に馮玉祥と暗默の密約に依り武漢を拋棄して總退却を斷行し南京軍夏斗寅軍漢口に入り同市代表と協議し治安維持の任に當れり。馮玉祥軍の韓復榘　石友三　張維爾等の各軍は河南省の南部信陽城一帶に駐防せしが突如湖北省界の武勝關方面に出動せる爲め武漢軍第十七師陶鈞軍は衝突を避け自發的に撤退して南下せる爲め馮軍の一部は湖北省南陽　襄陽　樊城方面に進出して遂に武漢軍に應援の態度に出づ。何健は湖南省編遣區特派員に就任し中央に對して服從の旨を通電す。**五日**蔣介石は劉文島を以て漢口市長に任命せり。鑛務整理委員會に於て漢冶萍公司接管を決議し直に之を實施さる。胡漢民は從來廣西派の支援に依りて中央政局に活躍し在りしも南京　武漢兩派の戰局逼まるに際り遂に舊親の廣西派を裏切り之を遠ざけて蔣介石と握手し孫科　王寵惠と連名にて廣西軍討代の長文通電を發して同派との絕緣を表明せり馮玉祥の指導下に在る河南省黨部及開封　鄭縣の兩市黨部は全體會議の結果第三次全國代表大會の決議事項を否認する旨を決議す是れ明に馮玉祥對蔣介石兩雄間の正面衝突の表徵と爲す。蔣介石は軍艦楚有號に座乘して武漢に入り直に治安維持會に命じて漢口特別市黨部の事務停止方を嚴命せり。**六日**東三省當局北滿穀物對露領輸出禁止令を發布さる。蔣介石は夏斗寅軍に下

李宗仁の宣戰布告

蔣介石は中國々民黨章に反し全國大會を壟斷し更に三月廿六日午後六時中央黨部執行委員兼國民政府委員にして大會代表たる李濟琛を恣に殺し中央警察員たる吳敬恒を殉難せしめ又私情を以て兵を動かす反黨反國の罪は正義人道の許さざる所なるを以て本軍は中央政府を擁護し國內の和平世界の幸福の爲め蔣介石を驅除せん事を期す。

張學良　張作相　萬福麟の東三省各政府主席は連名を以て左の中央擁護の聲明を通電せり。

全國統一し正に憲政期に入らんとする際端なくも湖南事件起り紛糾を釀成せる事は痛嘆の限りなり之に對する國民政府の命令は寬威並び備はり欽佩に堪ず政權の中央に存するは武漢政治分會の知悉する所なり中央政府も愼重に處理して和平解決を望めり又各方面の通電を見るも和平を勸告して事件の發生を心痛せざるなし故に今頃次中央の命令發表を若し黨を組みて極端の行動に出づる者あらば我が同胞は必ず中央を擁護し大義名分を明にするなる可し學良等は自己の地盤を擁護して黨派を造り利を爭はんとするの念寸毫も有せず唯だ愛國の至情を以て終始一貫正義に服する者なる事を宣言す。

三日　國民政府は山西派の李生達を以て平奉鐵道警備司令に任命し天津市に於て李生達就任す

て納言櫃を設けて直言を求め又武漢の民衆に告ぐと題する宣言を公布せり。上海特別市執行監察委員會は左の排日運動繼續に關する宣言を發表して全國民を激勵せり。

濟南問題既に解決せるも尚ほ南京、漢口兩事件及條約改訂の重大問題あり之等は何れも濟南問題に比し難問題にして我等の努力を必要とする所大なり最近反日會の國民救國會改稱に對しては一般の誤解あるも反日會は消極的工作にして救國會は積極的なり故に此の兩政策は逆進の要あり日本は不戰條約批准に對し滿蒙を除外し任意の軍事行動を取り得る事を要求せりと報ぜらる若し事實ならば日本の滿蒙侵略の野心存在を立證するものにして我等が反日運動を緩和する能はざる所以なり。

九日馮玉祥派の韓復榘軍は主力を湖北省廣水驛に集中す爲に蔣介石軍は之に對抗して平漢鐵道に沿ひ北進出動を開始し蔣馮關係の危機を傳ふ。蔣介石は漢口に於て大局安定後下野を聲明して左の宣言を發表せり。

討伐は僅に李宗仁　白崇禧に止らず次で中央に反抗して起つ者をも掃蕩し盡さんとす中央擁護は則ち合議制たる國民政府擁護にして政府は獨裁制度と爲す可らず余は大局安定せば直に首都に歸り自らを彈劾して職を去り外遊の意思を有する者なり。

令して平漢鐵道沿線に駐防せしめて馮玉祥軍韓復榘部隊の入漢を防止せしむ。漢口駐在總領事桑島主計、遣外艦隊司令官米內光政少將は蔣介石を漢口總商會內の本營に訪問し蔣介石は日本租界に對して保證を與ふ依て租界當局及陸戰隊は租界外防備の鐵條網等を撤去して嚴戒を解く。反日外交家として有名なる甘介侯は逃亡して行方不明と爲り李芳を以て代理後任と爲す。

蔣介石は左の如く任命發表せしむ。

湖北省政府主席朱培德　武漢衛戍總司令魯滌平　江西省政府主席熊式輝。

蔣介石は武漢軍崩壞後の馮玉祥軍の態度不審と爲し特使を派遣して馮軍の南下及平漢鐵道不通の理由を詰問せしめしに馮玉祥は南京軍援助以外何等の意圖なき旨を聲明し即時に部下各軍を河南省境に引上げ平漢鐵道は即日運轉を開始せり。八日蔣介石は賀國光を以て湖北省政府主席に任命せり。國民黨中央政治會議組織法を可決す。國民黨中央黨部正副部長を左の如く撰任す

組織部長蔣介石　同副長陳果夫　訓練部長戴天仇　同副長何應欽　宣傳部長葉楚傖　同副長龍盧隱　秘書處長陳立夫。

蔣介石は河南省境の武勝關より南下して湖北省境の蕭家港　廣水驛一帶に侵入せる馮玉祥旗下の韓復榘軍に對し河南省武勝關以北に撤退す可き旨を嚴命せり。蔣介石は漢口の總司令部に於

十一日東三省軍事會議の決議に依り從來の十一ケ旅制を改めて全軍を十六ケ師制に改編し各師長を任命して五月一日より改編實施を公布さる。山東省駐防獨立第二旅長孫殿英は何成濬の指揮下に立ち第一集團軍の任應岐軍と共に二萬の大兵を以て桓臺より芝罘に進出し張宗昌軍に對して十五日迄でに芝罘明け渡し要求の最後的通牒を送付せり。在北平蔣介石派の何成濬、唐生智　方振武　商震　張蔭梧等の諸要人は秘密軍事會議を開き馮玉祥軍討伐計畫を協議し其結果唐生智は津浦鐵道線に南下し又張學良に向け連名にて武器彈藥の供給を要求し更に熱河省政府主席湯玉麟に對して出兵要求を通電せり。外交部長王正廷は重ねて山東省撤兵延期を懇請さる。魯滌平は湖北省孝感縣城より漢口に入り衛戍司令に就任す。**十二日**武漢派陶鈞軍は湖北省宜昌に入城し四川省の劉和鼎軍と開戰し市中混亂に陷る。**十三日**國民政府は民國十七年五院制度を設けて海軍部を廢し軍事部の下に海軍署と改制す爲に海軍側の反對起り遂に軍事部より獨立して海軍部を復舊し左の通り任命發表さる。

海軍部長楊樹莊　第二艦隊總司令轉任　同政務次長陳紹寬。

鐵道部長孫科は飛行事業發開の爲め國營航空會社創立案を決定し資本金八百萬元にて左の五航空路を開設し漸次擴張の計畫を立て民國十八年內に於て確定實施の方針を聲明さる。

露國政府は北滿穀物の露領輸出禁止事件に關し總領事メリニコフを奉天に特派し露支通商協定問題と共に折衝を開始せしむ。上海に於て日本人經營の江南晩報に對し國民政府停刊を命ず。國民政府は山東省德縣駐防の方振武の第六路軍及第一第四集團軍に屬する唐生智統率の第五路の津浦鐵道北段警備を閻錫山の節制下に歸屬せしむ。日本政府は在哈爾賓總領事八木元八に訓令して東北政府當局の對露領穀物輸出禁止事件に關して抗議を提出せしむ。**十日**蔣介石派の武漢軍討伐勝利に因り四川省劉湘軍（南京系）の跳梁と成り楊森　鄧錫侯等の反蔣介石軍に對して挑戰的態度を以て軍隊を移駐せる爲め四川省に戰雲起る。上海臨時法院回收問題に關し同地駐在日米英三國總領事主催者と爲り調査研究委員會組織さる。漢冶萍公司重役會は國民政府に對して同公司接收管理令取消し方を請願せるも政府は之を拒絕さる。北平駐在蔣介石代表何成濬の斡旋に依り蔣介石　張學良　閻錫山三派の反馮玉祥連盟成る。資本金二千五百萬フラグを有する佛亞銀行は佛國財界の滿洲進出第一先登者として奉天、哈爾賓兩地へ支店設置を發表されh日本財界に甚大の注意を喚起さる。蔣介石は馮玉祥討伐軍を起すに決意し密に閻錫山に通電して山西軍と反馮作戰同盟を成立せしめ左の通り任命さる。

北支討逆軍總司令閻錫山　同右翼平漢鐵道線總指揮張蔭梧　同左翼津浦鐵道線總指揮傅作儀

九卿を置き往昔の明朝の制度に倣ひ黄紗會、紅旗會等を設置し開國の先鋒として天下平定鎮撫を宣示す則ち所謂山東の僞帝なる者是れなり。**十五日**山東省各地殘駐の舊張宗昌部下劉珍年顧震　孫殿英　任應岐等の各軍は皆な蔣介石派統制の第一集團軍に招撫され張宗昌に對して反抗の態度に出づ。中央政治會議條例十四ヶ條を公布施行さる。反日會は救國會と改稱し組織條例十七ヶ條を制定發表す。中國航空公司條例十二ヶ條を公布施行さる。閻錫山は北支馮玉祥討伐軍總司令に何成濬を推薦して自ら受任を辭退す。ヂウネーヴに於て開催の國際聯盟第六回軍備縮少準備委員會開會初頭に於て支那國民政府代表駐獨公使蔣作賓中將は總ての國家は强制兵役制度廢止協定案を決議案として提出せり。**十六日**蔣介石は山東省接收主任として同省政府主席馮派の孫良誠を解任して自派の陳調元(チエンテイヤオユワン)を任命し方振武、任應岐、李品仙各軍に命じて日本との接收に當らしめ若し孫良誠軍反抗の時は處罰の意圖を決定せりと傳ふ。上海に於て芳澤公使と外交部長王正廷との間に交渉中の南京及漢口兩事件解決協定は兩國全權間に於て假調印を了せらる。行政委員會の決議を以て**南京を首都**と改稱の旨發表さる。**十七日**國民體育法十三ヶ條を公布施行さる。日本政府は外交部長王正廷の山東撤兵延期請求を容れ其經過聲明を發表さる。大連地方法院に於て昭和三年三月關東州大連市に於て捕縛されたる中國共產黨一味五十名

上海―南京。 上海―漢口。 上海―天津。 北平―漢口。 上海―廣州。

國民政府は航空會社を創立し國內に通商及郵便航空路を開設し米國カーチス、ロバートソン航空機製造會社と飛行機四十臺技師二人の供給並に資本金五百萬弗中二百萬弗の出資契約成る。

十四日馮玉祥は對蔣介石戰備の爲め山東省政府主席孫良誠に命じて濟南城內に設置せる兵站部を撤去し泰安　濟寧兩城一帶に亘り塹壕を構築せしむ。河北省政府は鐵道材料の輸入無稅たる旨發表さる。蔣介石は長文の聲明書を發して北平及河南省內駐防第四集團軍に對し懷柔策を講じ李宗仁　白崇禧等の叛逆陰謀に因り一時中央に對し反抗せるも革命起義以來戰功最も多き該團の戰士は速に中央に忠誠を盡し黨國の爲め革命完成に努力せよと訓諭する所あり。蔣介石部下の各將領は武漢戰勝の餘威を以て一擧馮玉祥掃蕩を獻策せるも蔣介石は時期尙早論を以て之を鎭撫すと報ず。山東省長山縣北鄉大丁王莊に馬士偉（マア、スウ、ウエイ）なる者在り年五十六、字を寇英と稱す廿年來或る秘術を修得すと稱し士民等の信仰を受け現在全國に亘りて信徒四十萬を有すと稱せられ丁王莊に於て二萬の信徒を有し陸軍將校在りて一統を操練し信者は馬士偉を尊で皇帝又は老父と呼び天帝の第二子と崇拜し丁王莊を天京と唱へ士偉の生時陰曆三月三日を聖壽節と稱し即位式を擧げ年號を建て熙順と定め國號を新明帝國と號し長山縣城を京畿と呼び四大宰相、六

蔣介石は馮玉祥の詰問的抗議及馮派諸軍の反抗態度を無視し開戰を決意して積極的防守行動を進捗し方振武を以て山東鐵道衛戍司令に任し滿熙績軍を天津より青島市に派駐せしむ。從來奉天城搬入の日貨消場税從價四分は買主及支那商より徵收し來れるが本日より荷主及日本商店より徵收の旨日本側商店に通告さる依て同地駐在總領事館に於ては直に抗議を提出さる。英國政府は國民政府の要望に從ひ江蘇省鎭江英國租界還附を決定し交涉開始さる。北平駐在和蘭國公使館に於て 對支武器禁輸申合加入國全部の 代表者會議の 結果右申合せ撤廢に 決定さる。山東省城濟南駐防日本軍第六十八聯隊附二等主計伊藤右教は同城內昇平街に於て便衣隊員の爲に暗殺され撤兵間際の慘殺事件にて在留日本人は極度の不安に襲はる。**二十**日日本政府は伊藤主計暗殺事件に關し在上海の芳澤公使に嚴命して國民政府の怠慢を責めて其責任を問ひ即時山東省の接收完了を要求せしむ。國民政府は東北政務委員會の諸問を經て京奉鐵路を北寧鐵路と改稱の旨通電さる。奉天駐在總領事館附淸野領事は同城內搬入日貨鎭場税不當課税問題に就き王奉天交涉員に對し抗議したるが王交涉署長は之に對して奉天城內は非開放地にして條約上承認されたる鎭場税徵收の適法なるを力說して卽時に之を拒絕さる。北平外交團會議の決議に由りて民國十一年（大正十一年）北京外交團の協定に依りて成立せる支那海軍擴張不援助秘密條約は

に對し判決宣告され首謀者は禁錮八年に曲文秀は同七年に以下夫々處刑さる。東三省當局は各地方官に對し日本が吉會鐵道完成を期し中國歸化鮮人に土地買占め政策を實行せしめ同鐵道沿線各地を第二の間島と爲すの陰謀と爲し之が對抗策として在留鮮人驅逐の密命を發せらる。漢冶萍公司顧問日本製鐵所技師西澤公雄は國民政府の同公司沒收問題に付き對策變更の爲め同鐵山との關係を斷ち日本の債權四千二百萬圓を以て靈鄉鐵山の採掘獲得案を力說さる。**十八日**浙江省政府主席張靜江は杜鎭遠を以て工程主任（技師長）と爲し抗州、江山間輕便鐵道布設案を省政府會議に於て可決し着手を命ず。**十九日**日清公司所有陪陵丸（六三〇噸）は宜昌、重慶間の（所謂巴蜀の三峽）航路就航の爲め處女航として漢口より溯航の際湖北省沙市港の下游約一浬の江中に於て南岸に砲列を布ける武漢軍の敗殘部隊陶鈞軍より狂暴にも八密野砲を以て一齊射擊を受け二彈船橋に命中し海軍警戒隊として乘組める一等兵曹豐田新一以下四名及機關長小野澤力治外支那人水夫長以下四名の死傷者を出すに至り漢口駐在桑島總領事は直に漢口交涉員に對して嚴重なる抗議を提出さる。馮玉祥は蔣介石に對し山東省接收問題に關し先に自派の孫良誠を主席とする山東省政府に一任せるに拘らず接收交涉成立の今日に至り突如我軍に對し山東省退去を命じ中央軍を派駐して誤解誘發の恐れある行動を取りしかとの詰問的抗議を提出す

二、義和團事變賠償金の使途に付ては關係國の意見を徵するも決定は國民政府に於て行ふ事

三、領事裁判權撤廢問題に付ては各國多く已に同意を表せり故に積極的進行を計る事。

四、上海臨時法院回收後は審判權、司法警察權を國民政府直管と爲す事。

上海總商會は同地救國會の狂暴なる行爲に憤慨して衝突を起し宣言を發表して事務所を閉鎖し事務を休止せり。北平發行支那新聞新晨報紙は外交團會議の決議に由りて列國の對支武器輸入禁止協定廢止に關し論じて曰く、全國統一の初期に際して本協定の廢止は支那の內亂を助長せしめんとする列國の陰謀と共に政府當局が或る利益を見越せる全く無關心の沙汰は寔に遺憾と爲すと論斷せるは近時稀に支那新聞紙上に於て眼にするの快文字にして眞に吾曹の意を得たる痛論と爲す。關東廳は州內に於ける支那亡命客の策動を絕對に許さゞるの政策を立て張宗昌が山東省內に於て敗戰の結果大連に亡命上陸を拒否し之を中外に聲明さる。濟南城內に於て支那官憲に依りて新設されたる無電臺と上海無電局との正式通信を開始さる。四川省萬縣城に於て楊森軍は劉湘軍と開戰し蜀東一帶再び戰亂の巷と化す。露國政府は領內在留支那人虐待政策を斷行して國民政府の對露壓迫政策に酬ゐる爲め浦潮斯德駐在支那領事館副領事及書記生等を人身賣買罪に由りて捕縛し商民に對しては極度の壓迫政策を强行され之に對抗する國民政府の對

廢止さる。國民政府は日本政府數次の抗議に由りて行政、司法兩院の名に於て一種の排日取締令たる人權保證令を公布施行さる。**廿一日**外交部は先の同部の聲明に基き全國各地所在の各國租界回收準備委員を任命し同時に各地交涉處に對して各租界の歷史及各國在留民の現狀調査を命令せり。財政部長宋子文は漢口支那銀行團との間に於て湖北省の鹽稅を擔保として二百八十萬元の武漢討伐事件善後借款契約を成立す。上海市政府は全市各團體に對し排日取締令を發布さる。**廿二日**上海救國會は吉會鐵道布設着手、滿鐵本線の營口連絡交涉、土地商租條約解決問題、滿蒙行政警備侵略方法に就き在滿日本官憲は極秘密裡に重大會議を開催せる旨を誇大に宣傳して這は則ち日本が武力を以て鐵道を布設し親善の假面を被つて併呑の野心を藏すとの例の排日中傷の通電を發せり然れど一般國民には是を以て彼等一派の職業的運動の繼續的藉口に過ぎずと冷評さる。**廿三日**張學良は洮南、索倫(スウロン)鐵道布設費一千萬元借款を奉天駐在米國總領事を通じて米國資本團に對し申込み交涉進捗さるとの報傳はる。共和同盟軍總司令張宗昌は山東省牟平縣の戰に敗れ又部下の背叛あり頹勢挽回の望みなく遂に龍口港より共同丸に搭乘し大連に向ふて逃亡せり。**廿四日**外交委員會に於て左記重要四項を決議さる。

一、日支兩國間の懸案を根本的に解決を計る事。

馮玉祥は蔣介石に宛て突如寧夏地方に於ける土匪討伐の爲め軍隊を西方に出動せしむるの要あるを以て山東鐵道沿線は中央政府全權を以て接收され度しとの電報を發し同時に在山東省泰安城の山東省政府主席孫良誠に向け全軍を率ゐて山東省を引上ぐ可しと命令せる爲め孫良誠は即日之を實行せり。**廿九日**我皇の天長の佳晨に當り南京碇泊軍艦常磐及漢口碇泊軍艦利根兩艦に對し支那軍艦は祝砲を發射せられ右兩艦も支那國旗に對し答禮砲を發射せらる國民政府成立以來日支兩國間の禮砲交換の第一聲と爲す。馮玉祥派を代表する國民政府臨時軍事部長鹿鍾麟は熊斌(ミユン、ミン)と協議の結果變裝して南京より上海に去り又馮玉祥妻女の實姉を妻とせる外交次長唐悦良も時を同ふして上海に去る是に依て蔣馮關係愈逼迫の兆あり。蔣介石は冗兵處理の爲め農鑛部に命じて內蒙古地方の開墾及鑛山工夫に紹介の途を講ず可きを以てし同部は兵工調査委員會を組織して實行方法を審議さる。在ヂウネーヴ國際聯盟支那代表蔣作賓中將の提出に係る强制徴兵制度廢止案はカナダ代表キッデル、獨國代表ベルンストルフ伯は條件付贊成せしも結局討議に附せず單に委員會報告書に添附するに止めらる。外交部長王正廷は廿七日附公文を以て領事裁判權撤廢に關する照會文を英米佛和諸伯の關係六國北平駐在公使に宛て發送さる。閻錫山は唐生智指揮下第五路軍第五十一師李品仙軍を河北省保定、望都、大名の平漢鐵道沿線に、第五

露政策も頗る强硬を極め對露交斷を全國に對して實行計畫を樹立し在北滿露國各領事館退去方針を決定さる。ヂウネーヴに於て支那國民政府代表駐獨公使蔣作賓は國際聯盟會議の支那に於ける國際通貨僞造防止協定文に調印を了せり。日本海軍省政務次官内田信也は支那視察を了へて歸朝し國民政府内務部人員必携中に於て三民主義貫徹の爲め朝鮮、臺灣、琉球の各日本領土を回收せざる可らずとの主旨を明記高調せるを發表して日本全國民を驚愕せしむ。**廿五日**湖北省沙市交涉員は同地駐在日本領事館に副領事大崎文雄を來訪して陪陵丸砲擊犯人は夏威軍第十六師管下砲兵營長金昌福なる旨を言明して陳謝する所あり。國民政府とエヂプト兩國間に領事交換を決定さる。**廿六日**張宗昌の統率する共和同盟軍は劉珍年軍の爲に龍口に追擊され張宗昌褚玉璞　吳光新等の同軍巨頭は僅に身を以て逃れ吳光新は部下數十名と共に大連に亡命せるも上陸を禁止され日本に向ふて出發せり。北平外交團は對支武器禁輸協定廢止の旨を正式に國民政府に通告され直に効力發生し又同時に解禁申合せ及通告の内容を發表さる。**廿八日**馮玉祥は劉之龍を北平に特派して唐生智と會見せしめ聯合を希望し蔣介石打倒を提議せしむ。國民政府は成立以來滿二ケ年間に以て發行せる公債總額三億四百萬元と發表さる。在上海日本總領事官邸に於て先に國民政府の通告に係る日支條約廢棄問題に關する日支兩國の覺書公文交換さる。

一國民政府は專ら日支通商航海條約第廿六條支那文本文を引用して該條項の意味は十年の期間滿了後六ヶ月內に若し孰れか一方の提議に依り改訂を聲明し且已に改訂商議を實行せる場合は該條約は再び其効力を延長せざるの趣旨なりと爲し倘北京政府時代に於て大正十五年十月廿日附公文を以て日支通商航海條約の改訂を申出で同時に條約に規定する六ヶ月間に新條約完成せざる場合には其當然有し得可き權利を留保する旨を聲明したるを以て條約の効力延長に同意し得ざる旨を主張する處第廿六條の解釋に就ては客年七月三十一日附日本公使館の覺書に於て陳述したるが如く該條項の日本文本文及英文本文に照し十年の終より起算し六ヶ月以內に改正商議を完成せざる時は條約並に稅目は當然十ヶ年間効力を存續す可き事明白なりとす帝國府方は斯の如き明瞭なる規定に對して解釋の相違を見るを遺憾とする次第なるが萬一日本文本文と支那本文との間に解釋を異にする事ありとするも同條約第廿八條に於て右の如き場合には英文本文に依りて決裁す可き旨規定せられ居るが故に帝國政府としては飽迄其主張の正當なる事を確信する者なり。

將又右北京政府の提議に對しては帝國政府は大正十五年十一月十日附覺書を以て條約改訂の申出を應諾すると共に前記權利留保に對しては現行條約第廿六條の規定に依り何等之を

十三師劉興軍を正定、石家莊方面に向け出動を下令さる蔣介石は馮玉祥、唐生智兩人間に同盟密約成立を探知し閻錫山の唐生智軍に出動下令せるに對し突如中止を電命す。**三十日**蔣介石は軍艦にて漢口より南京に歸る。國民政府が英國ロンドンに於て購入の一飛行機を操縱して英京出發の支那飛行士陳文麟はラングンより緬甸のモルメンに無事安着せり。

五月　一日日本外務省は昭和三年七月十九日附公文を以て國民政府が日本に對し同年七月七日の日支條約滿期廢棄通告を送達以來本件に關し日支兩國間の紛爭約一年に及び爾來兩國の外交當局は其善後處置に關し幾多交涉の結果濟南事件圓滿解決され次で南京、漢口兩事件も圓滿解決の曙光を認め更に條約改訂交涉開始の諒解を遂げ日支兩國國交改善の劃時代的時期に進みたるを以て客月廿八日兩國政府は左の覺書を交換され又兩國政府は其覺書を本日午後七時同時に之を中外に發表せらる。

條約改訂に關する日支兩國交換覺書

覺書全文

日本帝國公使は日支通商航海條約に關する昭和三年八月十四日附國民政府外交部覺書に對し帝國政府の訓令に基き左記の通り國民政府に回答するの光榮を有す。

事前述の通りなるも他方速に日支間現行通商航條約の改訂を爲し以て兩國間の親善を圖るの本旨に副はんとする國民政府の要望に對しては飽迄同情的考慮を吝む者に非ず殊に其穩健なる建設的大業を一日も速に完成し内に和平外に日支敦厚の實を擧げん事を希ふ最も切なる者あり故に若し國民政府に於て日支兩國友好善隣の關係を顧慮し新條約の完全に成立する迄では現行條約の條項に依り兩國の關係を律せんとする誠意を披瀝し現行條約改訂の提議を爲すに於ては帝國政府は右國民政府の提議に應じ其適富と認むる改訂の交渉を開始する事に付き充分なる誠意と同情とを有する事を特に聲明す。

昭和四年四月二十六日

在支那日本帝國公使館

覺書譯文

國民政府外交部は四月廿六日付日本帝國公使館覺書を接受し御來示の各節篤と了承せり。

中日通商航海條約文の解釋に關する國民政府の見解及一切の主張は既に十七年八月十四日付貴公使宛て本部長覺書に於て詳晰に申述せるを以て該條約の効力問題は尙前述の如く極めて明瞭にして贅述の要なし本問題に關する法理上の爭執は既に貴我の諒解あるを以て措て之を

容認するを得ざる旨回答し其後數回の商議期間の延長に際しても常に斯の見解を明にし來りたる次第は客年七月卅一日附覺書に於て指摘し置きたる通りなり依て支那側の所謂權利留保の聲明は何等條約の規定を變更し若くは條約の效力に影響を及ぼしたる者と認むる能はず。

二國民政府は情勢變遷の原則に依り條約を廢止又は中止せしむる事は法理上國際慣例上絕對に可能なりとし日支通商航海條約に關しては一方に於て其根本的改訂を提議すると共に他方前記原則に基き客年七月十九日附外交部照會中記述の同條約失效に關する主旨を支持する者の如くなるが抑々情勢變遷の原則たる國際間に於て法規上の原則として確定せる者に非らざるのみならず若し右の如き原則を認むるとせば殆ど總ての條約は何時にても締約國の一方意志に依り廢棄し得る事と爲り延て國際法の根底に動搖を來すに至る可く之を先例に徵するも未だ嘗て本原則の適用を認めたる者なし且日支條約に於て特に條約の效力に關する條項を設けたるは情勢の變遷を豫想すると同時に情勢の變遷は當然條約を無効とする者に非らざる事を明にしたる者なり。

三此を要するに帝國政府は日支通商航海條約廢棄問題に對する從來の主張を枉ぐる能はざる

歩を進めたる重大の意義を藏するものと認め支那國民之を歡呼せり。外交部長王正廷は山東省引繼き具體案を芳澤公使に送達し來る。外交部長王正廷は北平駐在英米佛和諸伯の六國公使に宛て治外法權撤廢に關する左の同文通牒を送達し之を中外に發表さる。

支那政府はヴェルサイユ平和會議に於て治外法權撤廢に關する支那政府の强烈なる希望を表明し更に華府會議の際にも同樣の希望を繰返し發表せり然して今や支那は統一されて鞏固なる政府設立され殊に最近關稅條約の締結に依て對外關係も面目を一新するに至れり然るに領事裁判權制度は支那の司法行政機關の運用を圓滑ならしむる上に非常なる妨害を爲すのみならず延て親密なる國際間に於ける一員たる支那の進歩を不必要に阻害せり支那は今や諸外國と密接なる關係を結ぶと共に法令上に顯著なる革新の實を擧げたるのみならず既に實施の諸法令に加ふるに來る一月一日迄には民法商法實施の準備を完了せり既に治外法權を放棄せる諸國は支那法令に依て在留國民の生命財產保護を受くるに遺憾なきを認め且つ何等苦情の起れる事なし支那國民政府は此に支那が能ふ限り速に主權上の制限を撤去せんとする希望を表明し得るを欣快とし且貴國政府が支那の此の希望に對し直に考慮を拂ひ且之に對し速に回答を寄せらるゝ事を確信する者なり。

論ぜず故に國民政府は至誠を以て直に協議を開始する事とす可く玆に最短期間に平等及主權互尊を原則とし新條約を締結せん事を切望し併せて日を期して促進せしめられん事を望む。

中華民國十八年四月二十七日

國民政府外交部

南京市薩家灣の外交部長官邸に於て南京、漢口兩事件解決協定に芳澤公使と外交部長王正廷兩國全權代表は調印し交換され兩全權はシャンペ杯を擧げて日支兩國親善の增進を祝福さる次で直に山東省引繼ぎ及日支通商航海條約正式改訂交涉の第一步に入り散會さる。**二日**派遣軍附陸軍一等主計伊藤右敎暗殺犯人第五十二軍長呂秀文部下陸軍少佐劉廣明は濟南に於て日本憲兵の爲に捕縛さる。張宗昌は兩夫人及秘書等を從へ香港丸に搭乘して大連より日本に亡命し來り門司上陸直に吳光新と共に別府に赴く。鐵道部と米國飛行會社間に成立せる米支航空契約は支那各方に於て反對の聲起り陸軍飛行隊は四項の理由を擧げて國防上の見地より其契約取消主張の通電を漢口より各方面に發送さる。**三日**濟南驛前に於て日本兵三名支那兵の爲に狙擊され內一名重傷を負ふ。日本海軍省は軍務局長左近司三政中將の名を以て國民政府外交部に對し國民政府との海軍儀禮は以後制規に依り實施の旨通達さる右は帝國政府が國民政府正式承認への第一

る權益は何等影響を受く可き者に非らざるを確證するに足るを信ず貴國政府は過去に於て支那に對し常に友好的態度を持し支那主權上の制限を除去するに吝ならざる者ありしに鑑み余は支那政府に代り最短期間中に支那司法主權上の制限を除かれん事を要望す貴國政府も其要望に對し同情的考慮を加へられ速に回答を望む。

四日張宗昌は下關に於て述べて曰く南京政府は砂上の樓閣にして蔣介石は共產黨の傀儡たり馮玉祥は蔣介石を打倒し張學良、閻錫山は中立し蔣介石は必ず年餘を出でずして沒落し支那は四分五裂再び混沌紛亂に陷る可しと聲言せり。參謀總長鈴木莊六大將は山東省派遣軍司令官第三師團長安滿欽一中將に對し派遣軍全部を率ゐて引上げ歸還す可き旨下命さる。**五日**國民政府は左の通り任免し發表さる。

免軍事部長代理本兼職鹿鍾麟。任軍事部常任次長軍事部長代理陳儀。免外交部次長本兼職唐悅良、朱兆莘、免廣西省政府主席兼廣西各部隊編遣主任本兼職黃紹雄。任廣西省政府主席伍廷颺任廣西省各部隊編遣主任呂煥炎。

六日中央常務會議の決議に依り左の通り任命發表さる。

中央政治會議委員　胡漢民　蔣介石　汪兆銘　譚延闓　葉楚傖　于右任　丁維汾　陳果夫

從來巴里及華府兩會議に於て支那代表は治外法權撤廢の要望を聲明し來り華府會議に於ては列國は此支那要望に對し同情的態度を有する旨を記錄に止められたり以後支那統一と共に關稅條約の締結を見支那の國際關係に新時代招來されしが貴國政府に於て治外法權撤廢に對する支那政府の願望に副はるゝに於ては通商其他の點に於て支那と十分且隔意なき協調を遂ぐる上更に一の障害を除去する事たる可し思に支那に於ける治外法權制度は舊時代の遺物にして現狀に適せざるのみならず支那司法行政機關の圓滿なる活動を妨害し延てファミリー、オブ、ネーションスの一員たる支那の進步發達を不必要に遷延せしめたり治外法權制度の缺陷並に不便は支那政府の最も明白に之を指摘し各國の學者著述家も又之を認めたり正義公平が國際關係の基調たる可き現時代に於て國際間の友好關係を妨害する時代錯誤的制度の存續は甚だ遺憾に感ずる所なり支那は西歐諸國との接觸に因り其法律的思想及法律上の諸原則を修得採用するに至れる事極めて速かなる者あり現行諸法令の外民法商法は近く準備を終り來年一月一日迄に發布せらる可く又近世的法庭監獄は支那各地に於て建設され又せられつゝあり尙或は列國中治外法權撤廢後其國民の地位に關し疑惑を抱く者あるが如きも既に治外法權撤廢の諸國は支那法律に依る其國民の保護に滿足せり之の實證に照すも撤廢後貴國民の正當な

何等の意義を爲さず却て人民の信仰を失ひ九仞の功を一簣に缺くに至る可きは最も明なり。

七日 山東省政府主席代理に新任せられたる陳調元は第四十六師長范熙績と共に衛隊二連（二中隊）を從へ泰安城より省城濟南に入城し日本軍より津浦鐵道車站（驛）並に彈藥庫等の警備を接收せり。廣西軍第二旅黃旭初の部下四ケ團は四日夜突如軍事行動を開始し廣東省内に侵入し來つて封川縣城を佔領し六日德慶城を陷れ又密に廣西省懷集城に集結せる第一旅呂煥炎等は西北兩路の廣東軍の中央突破を企て溪江を下りて廣東省廣寧城に進擊し廣東第一師余漢謀軍の前衞部隊と衝突し廣東軍の機先を制して廣東省城佔領の策戰に出づ。北平市に於ける濟南事變一週年紀念市民大會に於て商民協會 總工會 反日會 婦女協會 農民協會等の各團體は一致して北平總商會と日貨排斥問題に關して反目の結果總商會の解散を決議し、委員を選出して實行方法を決定し中央政府に對して總商會解散を請願するに至り總商會側は强硬宣言を發して對抗策を講ぜり是れ反日會及共產分子が暗中躍動の結果なりとす。廣西軍は先に武漢の一戰に敗れて雌伏せしも愈馮玉祥對蔣介石關係の決裂を見越し又先の黃紹雄の和議條件は蔣介石の爲に一蹴され南京政府が政治的解決方針を抛ち武力解決に一決し湖南軍何健に依りて率ゐられ已に省境に迫り殊に兩廣の和平解決に奔走せる廣東の陳濟棠は蔣介石 陳銘樞 陳策等に制せられ廣

馮玉祥　閻錫山　何應欽　戴天仇　楊樹莊　宋子文　趙戴文　張靜江　吳稚暉　李石曾　蔡元培　古應芬　林森　王寵惠　劭力子。

同候補委員　李文範　朱家驊　孔祥熙　王正廷　王伯群　薛篤弼　陳立夫　鄧元沖。

日本政府は南京、漢口兩事件解決協定を發表さる。賀耀祖は蔣介石の命を帶び陝西省潼關縣城に抵りて馮玉祥と會見し馮派の薛篤弼、劉驥之に參加して馮蔣兩派關係の調停協議を遂げ薛劉兩人を伴ひ南京に歸來す馮玉祥は賀耀祖に托して蔣介石に對し黨務　軍事　政事の三問題に關して左の三項の改革意見を提出せり。

馮玉祥が蔣介石に與へて諷したる三項の改革意見。

一黨務問題　現在各黨部の意見一致せず人に乘す可き機會を與へ黨の爲め大なる危險發生の恐れ有り速に方法を講じて之を指導整理し意見を統一して黨紀を强固にする事。

二軍事問題　編遣會議決議案を速に實行し各部隊の編遣は革命の歷史及規律の良否を標準とし軍費を節減し國防の充實を期する事。

三政事問題　連年天災兵禍の爲め人民困窮の極に在るに高官は大祿を食み贅澤を盡せり斯の如きは速に矯正し政府に於て眞面目に人民救濟の方法を講ず可き事然らざれば今日迄の革命は

部は民國十九年一月一日を期し上海共同租界臨時法院回收照會文を英米佛諾和伯の關係六ヶ國の北平駐在公使に宛て正式通牒を送達さる。蔣介石は江東駐防の蔣鼎文、李明瑞等が統率する一軍を廣東戰線に急派應援せしむ。上海に於て五月九日の所謂五九紀念日に際し共產黨が暴動惹起の陰謀を探知し國民政府當局は九日の深夜極左共產黨の陳公博が校長にて經營の大陸大學を襲ひ多數の共產主義宣傳の傳單パンフレット書籍及陰謀の往復文書等を押收し共產黨員多數を捕縛し九日朝に至りて遂に同大學を封鎖さる。**十日**山東省城及同商埠地は日本軍より支那軍隊に接收され市內は極めて平靜にて日本軍は明十一日より歸還輸送を開始に一決さる。廣西派の李宗仁　白崇禧　黃紹雄等の將領は廣西軍を改めて中國々民黨討賊軍と改稱し李宗仁は自ら南路總司令に就任す。蔣介石は津浦鐵道沿線駐防の曹萬順軍に命じて徐州城に集中駐防し以て馮玉祥軍の南下に備へしむ。英國皇帝陛下は議會解散の勅語中に於て支那の狀體が改善され漸次强固と成らん事を希望すると共に國民政府が完全なる承認を受け又完全なる關稅自主を承認する條約締結の可能性を存する事を欣ふ旨を宣し賜ふ。馮玉祥は陝西省の咽喉關門たる潼關城に總司令部を置き左の通り任命して部署を定め全軍の配置を了せり。

平漢鐵道南段前敵總指揮韓復榘。同北段前敵總指揮石友三。隴海鐵道東段前敵總指揮孫良誠

東軍の機先を制して此擧に出で廣西軍の方略は第三旅伍廷颺軍を以て湖南軍の侵入に備へ西江方面は肇慶城に集中して北江方面主力軍の淸遠城に到達を待て一擧に廣東城を居らんとの作戰に對し廣東軍は北江方面は守勢に出で肇慶城に集中せる陳銘樞の手兵第三師を主力軍とし海軍との協同作戰に依りて廣西省梧州城に進擊し又一面には西部欽廉駐防の第八旅を以て廣西軍の背後より省城南寧城を衝かんとし陳濟棠は六日中央の命に依り討逆軍第八路總指揮に就任し第三師蔣光鼎を以て前敵總指揮に任命し本日海軍總司令陳策は全艦隊を率ゐて肇慶方面に出動し廣東城よりは軍隊の三水縣城方面に出動する頗る多く盛に戰備を整ふ。上海交涉員金門泗を免じ外交部歐米司長徐謨を以て其後任と爲すも八日湖南省政府主席何健は漢口の臨時軍司令部に向け廣西軍討伐部隊の集結と出動準備の完成を告げて出動命令を下さん事を請ふ依て軍司令部は直に出動總攻擊令を發せり。山東派遣軍司令官安滿第三師團長は撤兵順序を決定し各隊に對して撤兵開始の旨を下令さる。廣西派の廣東第五軍長徐景唐部下廣東第二師鄧彥華の指揮下に在りし第十三師雲瀛橋軍及第十八師李務滋軍は八日拂曉廣東城外石龍附近に於て突然兵變を起し鄧彥華の直屬部隊第十六師に對して砲擊を開始し**九日**朝來廣東全市に戒嚴令布かれ廣西派は汪兆銘　馮玉祥等と提携して左派を支持し以て國民黨分裂を策し蔣介石打倒を高調せり。外交

傳はり民心極度の恐怖狀態に襲はる。廣東軍は海軍の復歸に力を得て態度俄に强硬と爲り廣西軍との休戰條件として廣西軍の廣東省境撤退を迫り和議遂に不調に歸す。財政部は湖南省の何健軍に對し鹽稅七十萬元を支出し廣西軍討伐軍費に充つる事を承認せり。英京ロンドンより福建省厦門間飛行の陳文麟無事着厦す。**十三日**廣東省南路高電駐防の第一獨立旅長何熒（ホウ、イン）は廣西軍に內應歸屬す。馮玉祥　李宗仁　楊森　唐生智等は反蔣閻聯盟を成立せしめ各東西南北總司令に任じ蔣閻打倒の共同作戰決定を報ぜらる。先に上海に於て共產黨暴動陰謀を企てたる汎太平洋勞働組合會議秘書長たりし米國人クローデルは廣西軍が廣東城侵入の擾亂に乘じ廣東を佔領し共產黨政府樹立の陰謀策動を開始すとの風說傳はる。先に北平東城交民巷の公使館區域回收の急先鋒たりし北平市長の前馮玉祥祕書長何其鞏は蔣馮關係の險惡化に因り公使館區域の獨國病院內に入院避難せるは支那の現下國情を如實に物語れる最も意義深き皮肉の感あり。**十四日**國民黨西山派の領袖許崇智　居正　謝持　覃競舍　高承元　李勉成等は香港市に於て廣西派代表と會合し護黨革命大同盟成立に奔走せり。上海萬國商工會議所は先に外交部長王正廷の名を以て發せられたる領事裁判權撤廢希望に基く上海臨時法院回收問題に關し各國政府に宛て其意見書を參考に具陳の件を決定し在上海日本人商工會議所は王正廷の照會文を反駁して卽時撤廢反

廣東城内外に亘りて戒嚴令布かれ城民百萬は極度の不安に襲はれ流言蜚語盛に起り中央銀行は閉鎖され廣東軍の飛行機は城内及河南一帶の上空より爆彈を投下し城民陸續として香港方面及沙面の外國租界に避難し共産黨暴動の謠言頻りに傳はり廣東全城遂に一大混亂に陷る。十一日駐米公使伍朝樞は米國々務長官に對し治外法權撤廢問題に付き非公式に照會する所ありしに對し同長官は密に英佛諸國と同問題に關して協議せるも皆な尙早論なる旨を回答せらる。米國紐育タイムスの北平特派記者は支那國民黨運動は支那統一の權威なく内訌分裂の醜狀を演出し革命戰爭とは唯だ名のみにして何等武力的實戰を交へたる事なく殆んど宣傳と陰謀とに依て合縱連衡的の勝敗を決せられ裁兵は空言に過ぎず國際信用なき爲め外債の借款に應ずる者なく蔣介石打倒運動各地に起り又軍隊は貪官汚吏の結合體に過ぎずして唯だ私利を計るの惡集團たり革命支那の前途に對しては一縷の光明をも認むる能はず要するに斯の不幸なる國家の現狀は悲慘の極にして我等米國人の常識を以ては到底不可解なりと論斷せり。吳稚暉 蔡元培 張靜江李石曾の四元老は各々別に廣西派の首領李宗仁に對し中央反對の軍を止め下野し外遊して革命統一破壞の罪責を負ふ勿れと理義を盡して忠告の通電を發送さる。行政委員會は漢冶萍公司沒收案を却下し現在維持不干涉の方針を決定さる。十二日廣東城に於て共産黨の暗中躍動の風說

一、違法的に第三次全體代表大會を招集す
二、黨制を混亂せしむ。
三、人民を壓迫し專制を行ふ。
四、外國に媚びて賣國的行爲を爲す。
五、匪賊を援助す。
六、災害地に賑救すべき食糧を差押ふ。
七、軍隊を恣に移動す。

斯の如く蔣介石は表面革命の中に隱れて反革命の行動を爲せり何を以てか故孫總理の靈に見ゆるか何を以て民國の人民に見ゆるを得可きや良心あらば直に引責下野す可き也。

蔣介石は南京の總司令部に於て賀耀祖　朱培德　楊虎臣等共軍部要人を召集して緊急軍事會議を開き馮玉祥討伐の作戰を協議決定し左の如く任命發表さる。

北路總指揮唐生智　　南路總指揮何應欽　　東路總指揮朱培德。

奉天軍于學忠部隊は唐生智軍と通謀し態度不審を極め第二の郭松齢たらざるやの形勢あり故に之が監視の爲め大連に隱捿中の孫傳芳の許に羅文幹を密派して再起出馬を勸告すとの風說あ

對意見を決定し本國外務省へ申請する所あり。財政部は日本政府に對し五月末日日支借款整理會議を開催す可きに付き委員派遣され度き旨を通告し來る。**十五日**馮玉祥は蔣介石の入京召電に對し蔣介石が李濟琛、白崇禧等舊友に對する不信義を責め又革命裏切りの事實を擧げて入京拒絕の返電を發せり。立法院外交委員會は外交部の批准せる米支無線電信契約文を審査の結果無電權擁護の爲め凡ての支那領土（租借地をも含む）内に於て國民政府の承認を得ずして無電臺設置及使用權を承認せず又讓與せずとの條件付き聲明を爲し承認せり。廣東省北江戰線の廣東軍第一師第一旅長余漢謀は廣西軍と內通の嫌疑に因り廣東に於て陳濟棠の爲に監禁さる。湖北、河南省界武勝關附近に於て馮玉祥軍の韓復榘部隊は南京軍第四師と前哨部隊の衝突を開始す。馮玉祥軍は湖北省界武勝關トンネル及信陽城附近の橋梁數個所を爆破して蔣介石軍の攻擊に備ふ。**十六日**張學良は蔣介石の懇請に依り馮玉祥軍討伐の爲め關外駐防の于學忠部下の六個旅を六個師に改編し關內灤縣城以西に出動せしめ最前衛を唐山驛に駐防せしむ。**十七日**馮玉祥は河南省鄭縣城に於て部下將領十八名を召集して軍事會議を開き左の蔣介石討伐宣戰を布告す

吾等は五十萬の武裝同志を代表して護黨救國軍を組織し馮玉祥を西北軍總司令に推戴し蔣介石の罪を公表し之を討伐す蔣介石は本黨の反賊にして全國の公敵なり其罪は左の如く重くて

四、許崇智を蔣介石討伐軍總司令に推戴す。

福建省政府當局は蔣介石援助の爲め廣東軍增援を決定し張貞軍を出動せしめ潮州城佔據の徐景唐軍攻擊に當らしむ。**十九日**外蒙古國民政府部內の親支排露派の純國民黨系と親露排支主義の青年革命黨系兩派は武力衝突の結果青年革命黨は露國軍憲の援助に依りて勝利を得中央執行委員長たる國民黨首領を排斥し青年革命黨首領之に代り外蒙在留支那人二千餘名を驅逐す。上海郵務工會は米支航空郵便契約反對を宣言す。國民政府は方振武の態度を不審なりとし南下せしめて安徽省政府主席と爲す。立法院に於て彈劾法十一ケ條を審議可決さる。立法院に於て大赦案を審議し議論百出贊否決する能はず留保さる。陝西 甘肅兩省地方は連年の兵亂の後を承けて悲慘の極に達し殊に本年は一回の降雨を見ず干害の爲め飢饉と爲り餓死に瀕する者實に三十萬に上り國民政府及馮玉祥軍に依りて集捐されたる救濟資金は殆ど軍費に流用され加之馮蔣兩派關係の惡化に因りて糧食等の鐵道輸送杜絕と爲り兩省民一千餘萬は座して死を待つの窮狀に瀕し全國に亘りて救濟運動起る。馮玉祥軍は河南省陝縣城に於て蔣介石の討伐宣言に對抗して蔣介石の罪を擧げ數千語を列ねたる猛烈なる左の彈劾宣言を發表さる。

一、蔣介石は人民の膏血を絞り之に塗炭の苦しみを嘗めさせ以て彼の正妻宋美齡の浪費に委す

り。先に外交部長王正廷より關係六國に通牒を發せる上海臨時法院組織改正の提議に對し關係國公使は協議の結果右穩健なる提議に對し改訂贊同に方針一決さる。張學良は吉林、黑龍江兩省派の猛烈なる反對を無視して蔣介石の懇請を容れ部下各軍に命じて關內に出動せしむ爲に東三省の保境安民の實を破壞され民心極度に動搖し前途不安に襲はれ奉天票は忽然五千元臺に暴落し財政的に東三省の危機切迫し憂慮さる。**十八日**馮玉祥は北支反馮同盟の切崩しに焦心努力し方振武　劉鎭華等と極力聯衡を策し又丁春膏を奉天に密派して張學良を說かしめ更に山西省太原城に閻錫山を說て中立保持を約せしむ。張學良は北平行營主任何成濬に對し戢翼翹統率の下に五萬の兵力を關內に出動せしめ以て中央の命を奉じ黨國保衞の責を盡し誠意を示す可しとの旨を通電す。馮玉祥軍は黃河の大鐵橋を破毀して閻錫山軍の南下に備へしむ。香港に於て護黨革命大同盟團結に奔走せる西山派國民黨老黨員等は極力左派を排し又汪兆銘に反對して専ら右翼の結合を策し左の如く決定せり。

一、蔣介石の國民政府主席たるに絕對反對す。

二、國民會議を召集して政權を國民に還附す可し。

三、第三次全國代表大會を否認す。

四、北平、天津一帶の防備は諸軍と協力して治安維持の方針を固守する事。

閻錫山は蔣介石　馮玉祥兩軍に對し同胞交戰の非を擧げて和平を勸告し從來の方針に基き保境安民を主旨として中立保持に一決さる。蔣介石派は南京に於て中央常務會議を開き蔣介石及譚延闓、胡漢民、戴天仇、王寵惠、蔡元培代理陳果夫等の五院長は連名を以て蔣介石を擁護し馮玉祥討伐宣言を發表さる這は蔣介石の策謀に出で全國民の輿論に依るの口實に過ぎざるなり

五院々長の馮玉祥討伐宣言

國民政府總ての施政方針は中央執行委員會の決議を經て執行せられ何人も獨斷專行を許さず主席蔣介石も亦此意を體して凡て革命的民治精神に則り凡て執行委員會の決議を經たる件のみを執行し來れる事は周知の事實にして將に全國衆の模範たり然るに鮑羅庭（ボロディン）劉郁芬等に至る馮玉祥系の將領は蔣主席を誣ふるに其獨斷專行を以てし蔣介石の下野を迫るが如きは綱紀を紊り民を欺き黨國の安寧を故意に亂さんとする者にして明に叛逆行爲たり彼等の謂ふ所に依り蔣主席が下野するは蔣介石一人の事に非ず實に黨國の存亡の懸る所なり依て我等は此際飽迄蔣介石を擁護し今日迄の寛大なる所置を一擲して凡ゆる禍根を除去す可く蔣主席に從つて武器を執り以て黨國の逆賊を除き孫總理の遺志を完成す可き事を誓ふ玆に全國

實に蔣介石は其妻の虛榮心を滿さしめんが爲に人民の生活を犧牲と爲す國民一般の公敵とす

二、蔣介石は先の第三次國民黨全國代表大會に於て議員を買收し民意は一切之を省みず不正手段に依て政權の壟斷を謀れる其狀態は先年北京國會に於ける賄選議員事件よりも甚だしく彼の暴狀は宛かも往昔の暴君が諸侯を絡籠して民を虐げたるに等しく其罪最も重し。

三、蔣介石は全く自己及び其一派の意志に依りて國民政府を動かし事に當りて獨斷專行し國家を以て自己の私有物なるかの如くに權意を恣にし實に黨國の精神を蹂躙する人民の公敵たり

二十日蔣介石は胡漢民　戴天仇　陳果夫　葉楚傖等を招集して緊急軍事會議を開き馮玉祥軍討伐の爲め先づ馮軍の鐵道破壞交通妨害の罪を難詰し黨國に違背するの罪を鳴らす主旨の宣言を發表し次で軍事行動開始の方略を決定さる。國民政府は陳調元を以て山東省政府主席に任命さる。**廿一日**閻錫山派は北平衞戍司令部に於て南京より歸平の朱綬光を中心に商震　張蔭梧　溫壽泉等の最高幹部會議を開きて對時局策を協議の結果左の方略を決定さる。

一、時局に對しては主義として消極的態度の保持を旨とす。

二、對蔣介石策としては不離不即的關係を維持する事。

三、若し馮玉祥軍侵入せば省境の天險を扼して防戰準備を整ふる事。

蔣介石討伐の軍事行動は今哉全國に起り余は護黨救國軍總司令に推されたり蔣介石の沒落は將に近きに在り此時に際り各國は嚴正中立を守り南京政府に對し武器彈藥飛行機等の供給並に借款契約等を控られ度く我革命軍は斯かる南京政府と列國間の契約協定を認めず外人の生命財產は誓つて保護す可し。

蔣介石は南京總司令部に於て最高軍事會議を開き馮玉祥討伐の爲め東南北三路迸進總攻擊の部署を策定し左の如く任命發表さる。

東路總司令蔣介石	北路總司令閻錫山	南路總司令何應欽
第一路前敵總指揮商震	第二路同劉峙	第三路同張發奎
第四路同朱培德	第五路同唐生智	第六路同方振武

閻錫山　張學良兩人は協議の上蔣介石の懇請に依り馮玉祥の行動を不當と爲し蔣介石聲援の宣言を全國の各要路に宛て通電せり。日本海軍省は昭和二年四月三日漢口日本租界が國民軍中の共產分子に依り襲擊せられてより以來滿二ケ年に亘り引續き警備の重任に當り居留民の安全保證と成り來れる海軍陸戰隊を撤退歸還せしむ可き旨發表さる。中央政治會議の決議に依り左の任免を發表さる。

の同志に檄し馮玉祥討伐の意志を明にす。

馮玉祥軍第三集團軍に屬し河北省内駐防の劉鎭華軍は何成濬の爲に買收せられ蔣介石より討逆軍第十一路總指揮に任命さる。蔣介石は蔣方震の獻策に依り山西全軍の兵力を馮玉祥討伐に參加せしめんが爲に孫傳芳を起用し京津警備總司令に任命の旨通電を發せり。廣東軍は南路より第九旅戴戟軍の增援を得陳濟棠自ら前線に出馬し督戰大に努る所あり又巨額の懸賞を以て士氣を鼓舞し廣西軍の集中に先じ廣三鐵道戰線は守勢を取り北部戰線の主力軍と呼應して逆襲に轉じたる爲め廣西軍は遂に守る能はず軍田に退却し廣東軍は進で新街に集中し兩軍對陣せり。英米兩國の重なる各新聞は日本政府が支那國民政府承認の事實として近く芳澤公使が國民政府主席蔣介石に對し國書捧呈の報に對し共に東洋平和の爲に喜ぶ可き事と爲し若し日本政府の國民政府承認後尙ほ日貨排斥の如き運動繼續さるゝ事あらば獨り日本のみならず列國も對支態度を變更せざる可らずと國民政府に諷誨を與ふ。

廿二日馮玉祥は河南省鄭縣城に於て北平駐在各國公使並に支那全國各地駐在の各國領事館に宛て左の中立要望の通電を發送さる。

馮玉祥が各國公使及領事に宛てたる中立要望の通電

の根據地を陝西省の咽喉關門たる潼關に於て防ぎ潼關の上游なる大慶關を破りて主力を山西省に侵入せしめ一擧に山西省を佔領して閻錫山驅逐の方略を決定せしも韓復榘、石友三等麾下各軍の內訌分裂に妨げられ遂に空しく雄圖を放棄す。**廿三日**蔣介石は馮玉祥と暗密に連絡ありと傳はれる方振武、唐生智兩軍に巨額の買收銀を與へて其の懷柔に努めたりと傳はる。國民黨中央黨部常務會議の決議に依り馮玉祥　韓復榘　劉郁芬等馮玉祥派領袖の國民黨籍を除名し又馮玉祥の國民政府委員行政院副院長免職を決定し南京派全軍に對して總攻擊開始を下令さる。南京に於て擧行さる可き新興支那の大典たる故孫文移柩祭に參列の爲め日本政府の特使として派遣されたる犬養毅並に國民政府の招待を受けて渡支せる頭山滿、宮崎寅藏未亡人等一行廿餘名は張群等國民政府要人の出迎を受け盛んなる日支兩國人歡呼の聲に迎へられて一路平安上海に上陸さる。馮玉祥は隴海鐵道及平漢鐵道兩戰線駐防の各軍を鄭縣城附近に集中す。蔣介石より張學良を通じて京津警備總司令に起用せんとの勸誘を受けたる孫傳芳は大連の穩宅を出で奉天に抵り張學良を長官公署に訪ふて懇談する所あり。先に上海に引上げ形勢觀望中の馮派要人張靜江、鹿鍾麟、唐悅良、熊斌、薛篤弼等は馮玉祥の電命に接し密に上海を去り行方不明と爲る。南京市政會議に於て南京特別市市民房屋租賃暫行章程廿六ケ條を公布施行さる。上海に於て午

免軍事參議會委員長李宗仁　　任軍事參議會委員長唐生智

白崇禧は廣西軍の主力を以て廣東省白泥に於て廣東軍と決戰を試みたるも糧食彈藥等の缺乏と連戰の疲弊とに因り士氣振はず攻擊四回に及ぶも敵軍を破る能はず廣東軍の猛烈なる逆襲を受け遂に全軍總崩れと爲り淸遠城及石角鎭方面に總退却し斯く主力軍の敗退に因りて右翼軍も三水縣の戰線を放棄して同盧包に退却し廣東軍の主將陳濟棠は前線總攻擊令を下し廣西軍を北江以西に擊退せんと奮戰大に努力する所あり。安福派交通系の策士等は又々自派勢力の挽回を策し大連亡命の孫傳芳を起用して于學忠及唐生智軍等に改編せられたる舊直魯軍部隊を糾合して平津地方を奪回せんとの策謀を起せり。外交部長王正廷は日本政府が近く芳澤公使をして國民政府主席蔣介石に對し國書捧呈說傳はるや關稅問題及濟南事變以下諸懸案も解決され將に條約改訂交涉開始されんとするに際り日本が國際法上明確に國民政府に對し國書捧呈の儀あるは兩國の關係進展上實に重大意義を藏し余は衷心より之を欣快とし同時に此事實は間接に我國民政府の世界的地位を昂上せしむる者にして余は此點よりも日本政府の同情ある友誼的措置に滿腔の好意と謝意を表せざるを得ずとの主旨を發表さる。馮玉祥は河南省東部駐防麾下各軍の狀況不利を察し平漢、隴海兩鐵路の大破壞を決行して東南北三方の敵軍の進攻防止戰略を決定し軍

蔣介石は馮玉祥軍の中堅軍たる韓復榘に對し陝西、河南兩省駐防の全軍指揮權を與ふる旨並に石友三を討馮軍第十三路總指揮に任命の旨傳達を望むとの旨を以て韓石兩軍誘惑の權謀的通電を發送さる。**廿五日**蔣介石は馮玉祥 閻錫山 張學良三派間に不戰中立密約の成立に狼狽し馮玉祥討伐部隊に對し猛烈の買收運動を試み蔣介石特有の宣傳詐謀を以て馮軍内部の攪亂を逞ふす馮玉祥軍の中堅韓復榘軍十萬は國民政府に服從を誓ふ故に國民政府は韓復榘に對し馮玉祥討伐逮捕を命じ同時に馮玉祥部下石友三を以て討馮軍第十三路總指揮に任命の旨を發表さる

韓復榘の蔣介石に致せる返電

蔣介石討伐通電に余の連名あるも余は何等關係なく又鐵道破壞も無關係なり余は一意專心中央服從を誓ひ洛陽に部下十萬の大兵を集中して中央の命を待つのみ。

天津駐防の唐生智軍李生達の第三十六師は突如山西省平陽縣方面に出動開始す。北寧鐵路(舊平奉線)沿線唐山駐防の唐生智軍の已に山東省移駐約二萬に達し又開平駐防第五十三師は山東省濟寧、兗縣方面に移動を開始す。何應欽 劉峙 魯滌平 夏斗寅 曹萬順 朱紹良等在武漢の南京派將領廿餘名は連名にて國民政府に對し馮玉祥討伐下令を電請し又馮玉祥の罪を擧げて天下に檄し更に漢口市黨部、總商會、平漢鐵道黨部其他諸團體連合の馮玉祥攻擊宣言を發表し

後九時月蝕現はる。**廿四日**馮玉祥は陝西省の咽喉たる潼關城に於て**西北政府**を組織し委員に汪兆銘　陳公博　甘乃光　顧孟餘　徐謙等の左傾共產分子の多數を任命し本日河南省洛陽城より無線電信を以て全國に聲明を發せり。蔣介石は馮玉祥軍(第二集團軍)の將士に告ぐと題せる左の切崩し的勸誘狀を同軍の將士に寄せたり。

這回の大局を誤れる責任者は馮玉祥なり故に國民政府は斷然之を討伐す可し然れど第二集團軍の將士は必ず黨國の爲め大義名分を明にし馮玉祥を援助する事なきを信ず。

蔣介石は中央執行委員會をして馮玉祥を免職査辦に付し通緝令(捕縛命令)を發せしむ、湖北新編第五師長兼湖北省北部警備司令李紀才は馮玉祥と策應內通の叛逆的陰謀露顯の結果漢口に招來され直に蔣介石の命に依り捕縛の上南京に護送さる。英米佛伊和白六國北平駐在公使は外交部長王正廷の提議に係る治外法權撤廢交涉開始申入に付き會議の結果國民政府の提議は好意と同情を以て迎ふるも往年の北京に於ける法權會議の決議に記載されたる勸告の今尙實現を見ざる今日之が討議は尙早なりとの旨を回答さる。湖南省邊に蟠居せる朱德、毛澤等の共產軍は突如湖南、江西兩省の交界に介在せる廣東省仁化縣城を佔領し勞農政府を設立し南下し韶關に進擊を開始す爲に廣東軍主將陳濟棠は東江方面駐防第五十八師長吳道南の第九團を急派し防戰せしむ

復榘は河南省洛陽城より各新聞社及一般國民に對し左の聲明を通電せり。

余は卽日部下全軍を率ゐ進で鄭縣城に駐屯し軍事を收束せんとす余の爲め可然指導を請ふ。蔣介石は全力を擧げて馮玉祥討伐宣傳を敢行し馮玉祥の罪を高調し以て馮玉祥軍內部離反に努むる所あり。衛生局は肉類營業取締規則九ケ條を公布施行さる。國民黨中央宣傳部は馮玉祥の罪を列擧して國民に告ぐるの宣傳文を發表せり。韓復榘、石友三、席液池、馬鴻逵、龐炳勛、田金凱、張萬慶、李漪章、喬立志、孫桐萱等は連署して各新聞社に宛て中央擁護の通電を發表せり。廣東軍首領陳銘樞は長數千言を盡せる粤の父老に告ぐるの書を發表して廣西軍（李宗仁等）の敗滅を力說し中央統一の完成を高調さる。國民政府は民法總則を制定し十月十日の双十節の國慶日を卜して施行する旨を公布さる。國民黨中央宣傳部は馮玉祥と露國共産黨携提の罪を擧げて西北の將士に告ぐと題する長文の宣言書を發表さる。**廿六日**閻錫山は馮玉祥に對し共に下野し相携へて外遊す可し速に山西省の運城に來らん事を望む旨の通電を發送さる。**廿七日**午後六時哈爾賓の支那當局は同地駐在露國總領事館を捜索の結果左の理由を發表さる。

廿七日午後二時露國總領事館に於て同國の要人五十八名（女四名）は許可なくして集合し共産黨陰謀策動の情報に接し警察官を急派し同館を捜索の結果同國共産黨員五十餘名密秘會合

國民政府に對して直に馮玉祥討伐下令を電請及國民政府擁護會を組織せしめ武漢三市に於て討馮宣傳大會開催を決議せしむ。馮玉祥部下第二集團軍所屬劉鎭華は蔣介石の誘惑に乘り馮玉祥に對し和平を破り民を苦むるの不利を力說し馮玉祥に外遊勸告の通電を發して蔣介石に內應す。馮玉祥麾下の韓復榘と石友三の兩将は戈を倒にして主將馮玉祥に叛き敵將蔣介石の爲に買收され總司令蔣介石は韓復榘を以て豫陝甘（河南、陝西、甘肅）三省總指揮に石友三を以て討馮軍第十三路總指揮に任命し以て馮派各將領買收切崩しの苦肉策を逞ふす。韓復榘軍は隴海鐵道沿線の河南省洛陽城の西方なる新安縣城附近に於て僚軍孫良誠軍と開戰して蔣介石に對する忠誠を表示す次で馮派の門致中軍も又韓軍に饗應して蔣介石に內應し馮派は殆ど瓦解の兆あり。**廿六日**故孫文の靈柩南京移安の爲め國民政府特派の迎櫬委員林森、吳鐵城、鄭洪年等に迎へられ孫文靈柩は北平西山の碧雲寺を發引し津浦鐵路にて南京に發送さる。國民政府は故孫文移柩祭に際し廿六日より七日間敬弔の意を表し半旗の禮を行ひ歌舞音曲を停止さる。孫傳芳は蔣介石が張學良を通じて平津衛戍總司令起用勸誘を拒絕して奉天より大連に歸る。漢口、南京、上海間飛行郵便は六月初旬開始に決定され右各地の當局は同事務を開始さる從前同地間四日を要せるも半日程に短縮さる。蔣介石は馮玉祥に對し最後的降服勸告を通電せり。馮玉祥派の韓

對して服從の通電を發送し部下軍隊を率ゐて河南省新鄭縣城に抵り、韓復榘、石友三等と會合協議して中央擁護を宣言し王文魁を特派して南京に抵り蔣介石に謁して忠誠を誓はしむ。上海特別市政府は醫院註册（登記）規則八ヶ條を公布施行さる。**三十日**哈爾賓の支那當局は同地駐在露國總領事館搜索の結果同館が露國共產黨の對北滿洲赤化の中樞機關たる事實を暴露し其押收せる文書の內容を左の如く發表さる。

一　燒殘せる押收文書整理の結果ソヴエート領事館內に第三インターナショナル北滿支部を設置し其組織活動明白と成り北滿支部中央執行委員はダリ、ゴストルグ支配人チンパレウヰツチ。東支鐵道商業部代表スタンケウヰチツ。タローノフの三名とす。

二　押收文書に現はれたる共產黨活動方面に關しては。

イ　北滿に於ける赤化宣傳の一部たる映畫宣傳部。ロ共產婦人團體の赤化事業參加。ハ密偵組織に依る白系ロシア人の行動探察。ニ天津に於ける共產黨の活動及其往復文書。ホ南京政府に反抗せる馮玉祥援助に關する各種計畫及之に關するモスクワ政府の訓令と報告書。

ヘ　奉天軍の蔣介石援助阻止方法其一部として露支國境赤軍の示威的軍事行動。

哈爾賓支那當局は右を以て明白なる露奉協定違反と爲し奉天政府の甚深なる考慮を煩す所あ

し中に前奉天總領事クヅネツオフ、哈爾賓總領事メリニコフ等あり彼等は第三インタナショナルの緊急問題と題し將來の對支方針として馮玉祥と提携し北滿攪亂の陰謀を凝議し居れり多數の陰謀煽動の秘密文書及武器阿片等を押收し七十名を完全に禁足處分せり。雲南省政府主席龍雲は宿年の野心たる貴州省併呑の危牙を顯はし部下師長朱旭軍を遣はし貴州省政府主席周西成が廣西軍と連盟反逆の兆ありとの寃罪的藉口の下に不法攻撃を開始せしめ周西成軍は戰ひ遂に敗れ落水して歿す爲に雲南軍難なく貴州省を佔領す。

廿九日張學良は蔣介石對馮玉祥の抗爭事件に對する奉天派の態度を一決し張作相、萬福麟以下東北四省の將領七十四名の連名を以て蔣介石擁護の通電を發送さる。上海江南造船所建造の軍艦永綏號の艤裝完成式を擧行され嚴壽華を以て艦長に任命さる。廣西軍は軍政兩方面に於て不利に陷り遂に攻擊を斷念して梧州城に向け總退却を開始せり之に反して廣東軍首將陳濟棠、陳銘樞は廣西軍討伐斷行を決し中央の增援せる李明瑞、楊騰輝兩軍は直に出動し廣東省德惠、封川方面より廣西省梧州城に向け進擊を開始せり。馮玉祥は丁春膏を山西省五臺縣城の家鄉に歸臥せる閻錫山の許に遣して閻錫山の忠告を容れ一切を犧牲にして卽刻下野外遊の決意を齎らしむ。馮玉祥派の馬鴻逵（所謂甘肅省舊凉州城附近に於ける回教徒五馬の一たる）は中央政府に

川陸軍少將以下隨員十餘名を從へ接見式を了せらる次で英佛以下十七ケ國の代表接見式行はる。漢口日本租界駐防警備の海軍陸戰隊三百餘名は日本政府の曩の聲明に基き軍艦三隻に分乘し漢口を引上げ本國歸還の途に就く。蔣介石は自已に累及びて遂に下野の止む可らざるに至らん事を憂慮し閻錫山に對し馮玉祥と共に下野して外遊するは時機に非らずとの旨を以て中止勸告の通電を發送せり。閻錫山は其鄕里山西省五臺山下を出で省南の運城(ユンチョン)(安邑縣所在地)に抵り使を陝西省潼關縣城なる馮玉祥の許に遣し運城に迎へて會見を勸告せしむ。哈爾賓支那當局の同地駐在露國領事館捜索押收事件の勃發に因り**露支兩國々交決裂**と爲り露國外交部代表は駐露支那大使鄭延禧の接見を拒絕さる。モスクア駐在支那大使鄭延禧は國民政府の訓令に依り近く同地引上げ歸國決定の報傳はる。馮玉祥は閻錫山の下野外遊勸告に對し中央政府の余に對する捕縛令を取消されずんば身邊の危險を感じ外遊の途に就く事能はずとの旨を返電して閻錫山の時局解決調停を拒絕して運城の會見不調に歸す。馮玉祥麾下の叛將韓復榘は河南省鞏縣の黑石關を根據地とする友軍龐炳勛及第廿一師長梁冠英の二個師軍の爲に其退路を斷たれ內訌戰に敗れて平漢鐵道沿線新鄭縣に逃がれ舊友軍たる回敎軍の首領馬鴻逵軍に助けられて鄭縣城に歸來す。馮玉祥麾下馬鴻逵は韓復榘石友三等に說かれ主將馮玉祥に叛旗を飜へし第二集團軍を脫

り。馮玉祥は河南省河陰縣城より左の下野聲明の通電を發表せり。

余は第一革命以來十八年間革命工作に從事し常に先輩同志の末尾に付し努力し來れり、是れ國家の自由平等を求め三民主義を實現し多數の貧困同胞の幸福を計り成敗は敢て顧る所に非ず昨年北伐完成し大局略ぼ定り國を擧げて統一を希望するに至れり、斯の如んば之よりして全國永く和を保ち內亂を斷ち更に孫總理の遺訓實現を信ぜり、然るに計らずも今年春以來戰端再び開かれ武漢の事變終るを俟たず兩廣の擾亂之に次ぐ、余は河南に隱居して病を養ひ專ら內亂勃發して中國自ら危きに立ちて人民の困迫を恐れたりしが謠言盛に起りて止まず、余は革命に忠實にして國利民福の他餘念なし故に今日迄で極度の隱忍退讓を爲せり、今大局の分裂を見るに忍びず此際隱退して國人に謝するに如かずと思考す、故に廿七日以來各方面より離脫し靜に讀書に餘念なし余は國內の和平を望み國民泰平なれば滿足之に過ぎず。

外交部長王正廷は南京城內薩家灣の官邸に於て國民政府成立以來最初の外交的儀式として最も興趣ある公使團接見式を擧行され芳澤公使は建川陸軍少將以下隨員八名を從へて接見式を了せらる。**卅一日** 故孫文移柩奉安祭參列の爲め南京に來着せる各國政府代表者全部已着し卅一日午前八時より國民政府に於て主席蔣介石の接見式行はれ芳澤公使は列國公使に先んじ先登第一建

電請す之に對して蔣介石は十日開催の第二次中央全體執監會議に諮問して適宜解決す可き旨を返電せり。**三日**國民政府行政院は全國各省各特別市機關等に訓令して清の道光十九年（我天保十年西紀一八三九年）兩廣總督林則徐が一大英斷を下して在廣東の英商所有の阿片を燒棄し延て所謂阿片戰争なる清英戰争の動機を作りてより正に九十年に相當せり故に覺醒せる新興支那國民政府は林總督の偉業を壯なりとし自彊國民の國際思想啓發の一施設として其九十週年紀念大祭を擧行せしめ全國各地に於て盛んなる紀念公祭を行ふ。任參謀部長朱培德。任軍事參議院長唐生智、任海軍部長楊樹莊、任同部次長陳紹寬。蔣介石は馮玉祥、閻錫山兩將間に不戰同盟成立せるを認め大に狼狽し極力該同盟を破壞し閻錫山を誘引して討馮軍參加を切勸す。韓復榘は閻錫山に對して極力下野中止勸告の通電を發送せり。馮派の叛將韓復榘は舊友軍たる孫良誠軍を討伐し其の一部の武裝を解除せる旨を中央政府に宛て通電を發せり。哈爾賓の支那當局は東北總司令張學良の命に依りて露國共產黨員卅九名を同地に於て捕縛し奉天に護送し來り又同地の露國總領事館にて押收せる共產主義赤化宣傳の陰謀煽動に關する過激文書並に露國政府の馮玉祥に對する積極的援助、軍費武器供給、共產黨本部より已に對馮玉祥の對中央政府叛逆運動費三十五萬ルーブル支出援助の眞想暴露し之を發表さる。蔣介石は豫定河南省攻略方針に基

して中央政府に對して忠誠を誓ひ服從する旨の通電を蔣介石に發送す。國民黨中央宣傳部は全國に對して馮玉祥討伐宣傳大綱四項を續頒さる。

六月 **一日**故國民黨總理臨時大總統孫文字逸仙の靈柩移安奉祀祭は愈本日を以て擧行され早晨午前四時南京城内なる國民黨中央黨部の大禮堂を發引し城南なる紫金山（一名鍾山）頂頭の中山陵に奉安納柩され此日會送する者日英米佛伊等各國の特使等十有七個國に及び民國成立以來未曾有の盛典にして流石に新興中華民國の英氣と其國際的地步の前途を想望せしむるに足るものあり又支那全國に於て盛大なる奉安公祭を擧行さる。劉鎭華は馮玉祥、閻錫山に對して下野し共に外遊せん事を通電せり。**二日**江蘇省碭山縣城駐防の安徽省政府主席方振武麾下第六路軍は蔣介石の命に依り隴海鐵路に沿ふて西征し河南省歸德城に據る馮玉祥派の孫良誠軍討伐の爲め阮元武、鮑剛（パオ、カン）の二個師を主力として出動を開始さる。露國官憲はブラゴエシチエンスク市駐在支那領事館を復讐的嚴重搜索を實行さる。蔣介石麾下中央援派の李明瑞（舊武漢軍廣西派の部將）軍は廣東艦隊の援護に依り廣西軍主力の佔據する廣西省梧州城を攻めて之を陷れ廣西軍の首領李宗仁、白崇禧等は一敗地に塗れて梧州城の西方七十支里なる西江南岸の要地藤縣城に敗走軍容挽回を策す。閻錫山は蔣介石に對し馮玉祥に對する通緝令取消方を

グラニイツチナーヤ各地駐在露國領事館に對して即時閉鎖を嚴命さる。雲南省政府主席龍雲は省城雲南城を出發して貴州省城貴陽城に入城して雲南の諸軍を督制し胡英（フウ、イン）を以て雲南省政府暫行主席代理の職を行はしむ。貴州省政府主席周西成麾下の一師長黃道彬（ホワン、タオ、ピン）は蔣介石に呈電して雲南省政府主席龍雲の軍を率ゐて入省佔領事件に對し省民の異常反對恐怖混亂の爲め即時師を修めて退省撤兵を命ぜられ度き旨を請願し一面には廣西軍討伐參加を聲明し以て中央服從の意を表し忠誠を誓ふ所あり。**四日**山東省城濟南城、靑州城一帶に亙りて大雹雪降り積むこと約二尺に達し田間の種麥悉く枯死し將に災を成さんと民大に恐慌す。貴州省政府委員李燊は同省城貴陽城より同省政府主席周西成は雲南軍との交戰に因りて敗走の際落水溺歿せる旨の報告を蔣介石に通電せり。河北省政府主席商震は淸朝の東陵（西太后等の陵墓）發掘事件の審判長として該事件の主犯たる舊張宗昌部下孫殿英等七人を死刑に其他二人を無期徒刑に他は皆な有期徒刑に處斷す可き旨の判決を南京の軍政部に報告して請訓せり。閻錫山は馮玉祥と和平折衝の爲め省境南部の運城（安邑縣所在地）に抵り使を遣はして馮玉祥を迎へしめしも遂に到運會見を拒絕され直に省城太原城に歸來して先に動員中止下令の天津駐防傅作儀軍に對し至急全軍の平漢鐵道沿線出動、自働車隊の河北省保定城移動、討馮督

き總司令部を徐州城に進め平漢鐵道南段湖北省より劉峙が統率する第一師を、隴海鐵道よりは方振武軍を、平漢鐵道北段河北省方面よりは劉鎭華軍を南下せしめ三面迸進河南省進攻方略を策定し以て唐生智が統制する第五路軍四個師團の兵力を以て討馮軍河南省攻略軍の主力部隊と爲し先鋒軍たる李品仙軍第五十一師は山東、河南兩省交界介在の河南省考城縣に進出し後續部隊は河南省城開封城に向つて前進し第五路軍總司令部は本日深夜北平を發して山東省兗州城に向ふ。露國政府は哈爾賓駐在同國總領事館を支那官憲の捜索押收事件に付き嚴重强硬なる抗議文を哈爾賓駐在同國總領事メリニコフを通じて哈爾賓長官張景惠に手交せしむ其内容は押收文書の返還、被監禁露國人の卽時釋放、若し支那政府が之を拒否せば在露領支那領事館全部の退去閉鎖及在露領支那人及露國人の經營する諸官署並に商館勤務の支那人の生命財産に對する安全保證撤廢を高調せる脅威的の抗議にして之に對抗して國民政府は元奉天駐在露國總領事クヅネツオーフ副領事ヅマーメンスキー東支鐵道監事スロウエツキーの三名を露國へ歸途上の滿洲里驛に於て抑留し哈爾賓に護送せり又一方カザン區より派遣の鐵道官吏チユウコフ等一行は東支鐵道東部線の終點驛たる烏斯利區露支國境ポグラニイツチナーヤ（綏芬河）に於て逮捕し之又哈爾賓に押送し更に張學良は蔣介石の命に依りて哈爾賓、齊々哈爾、海拉爾、滿洲里、ポ

す。蔣介石、馮玉祥關係は馮玉祥對閻錫山關係益々密接と爲り爲に馮玉祥の對蔣介石態度漸次硬化し來り爲に中央政府は積極的軍事行動進捗の方針を一決し各路軍に對して一齊に部署地點に進出を命じ何應欽の第三路軍は馮軍主力に當るの作戰を定めらる。在南京の河南省要人等は馮派韓復榘、石友三軍等の內應通電は全く馮玉祥の欺略と爲し蔣介石に對して信用すべからざる諫言を進め又馮玉祥の下野通電は均しく僞謀なりとて長文の宣言書を發表して馮玉祥の罪を擧げて國民に訴ふる所あり。滿洲間島駐在日本總領事館代理市川信也領事は支那官憲が在同地方朝鮮人私立學校に對する壓迫並に日本官憲が逮捕せる犯人を暴力を以て奪還せる等の事件屢發せる爲め嚴重抗議し將來如何なる不祥事件勃發すとも貴國政府の責任なる旨を通告さる。六日編遣會議の決議に依り李明瑞を以て廣西省駐防各部隊編遣特派員に任命さる。浙江省城抗州城西湖中の孤山一帶を以て會場とせる西湖博覧會を開催し開會式を擧行され工商部長孔祥熙は主席蔣介石代表として參列し頗る盛會を極む。國民政府は馮玉祥派の要人北平特別市長何其鞏、劉驥兩人の官職を免じ後任として北平駐防の閻錫山部下第四十二師長張蔭梧を以て暫行北平特別市長に任命さる。支那に於ける日貨排斥の隙に乘じて印度政府は同地石炭の支那南部地方輸出を企圖し鐵道運賃、荷役諸掛り割引商策を確立し奬勵の結果南支方面に於ける同石炭輸入量

戰隊組織等の對馮軍防備整頓を電命さる。廣西省梧洲城附近に於て廣東軍との戰に敗れ藤縣城附近に敗走せる廣西軍の領袖たる李宗仁、白崇禧、黃紹雄等は遂に逃走の結果廣西軍は統率者を失ひ節制紊れ掠奪を恣にし且つ貴州軍との連繫離反狀態と爲り爲に殆んど自滅の窮狀に陷る。國民黨中央宣傳部は南京に於て全國宣傳大會を開催し葉楚傖を推して主席と爲し會議規定十一ヶ條を制定施行さる。財政部は國稅整理及釐金稅撤廢問題討議の爲め江蘇、安徽、江西、浙江、福建五省（福建省代表は不參加）聯合財政會議を召集して同問題に關する重要研究を遂ぐ。南京特別市政府公債條例廿四ヶ條を公布施行され其總額は三百萬元、年利七厘、十ヶ年賦償還と定む。**五日**國民政府は這次の廣西戰事に際し廣東省境駐防の廣西派の將領にして廣西軍と策應叛逆の徐景唐、鄧世增兩師長に對し通緝令を發し同時に國民黨籍を除名さる。中華國貨維持會は財政及交通兩部に對して爾後郵政局並に海關に提出の文件は一律に中國文を以て記載す可き樣改制請願書を提出さる。蔣介石は河南省境に於ける馮派各軍の態度不審を極め同時に閻錫山、馮玉祥兩軍間に不戰攻守同盟密約の成立を探知し愈々馮軍討伐を（眞意は脅威）決意し南路總司令何應欽に對し平漢鐵道南段湖北省方面より積極的に河南省攻略を命じ又隴海鐵道の徐州城の毛炳文、徐源泉、方振武各軍に對しては隴海鐵道に沿ふて河南省攻略總攻擊を下令

に命じて河南省新政府を組織せしむ。國民政府は前上海特別市長張定潘に對して露國の第三インターナショナルの援助の下に廣西派（李宗仁、白崇禧等）及馮玉祥兩派と通謀策動の罪を擧げて通緝令を發せり。河南省鄭縣城に於て蔣介石代表錢大均、賀耀祖、方振武並に馮玉祥派の叛將韓復榘、石友三、馬鴻逵、席液池及孫良誠部下西北軍第廿九師長程希賢等の將領會合し蔣馮關係和平善後會議を開催さる。廣西軍首將李宗仁、白崇禧兩將は廣西省の咽喉たる梧州城の決戰に大敗北の結果同省西南部の要地潯州城を經て太平城に逃れ龍州諒山鐵道にて佛領安南に遁入し黄紹雄は潯州城に殘留して蔣派の修作柏、李明瑞等の代表と會商協議の上政治的方法に依り廣西省問題解決方針を決定され是に因りて廣西派の策動に依りて捲き起せる武漢の軍事を發端として揚子江以南兩廣の天地を震感せしめだる**兩廣の軍事全く鎭定さる**。**八日**蔡元培は監察院長並に國民政府主席委員辭職を申請す。前直隷省督辦褚玉璞は山東省境に於て劉珍年の爲に擒獲せられ爲に舊部下の各將領等は救命運動を起せり。立法院は省政府警務處組織條例を審議可決さる。全國反日會は全國取消不平等條約促進會と改名さる。露國政府の哈爾賓駐在同國總領事館搜索押收及共產黨員三十九名逮捕事件に關する嚴重なる抗議文はモスクワ駐在代理大使たる總領事夏維松（シヤア、ウエイ、ション）を通じて外交部へ送達されたり。青島市

は民國十七年（昭和三年）五六月の交より同年末に渉りて香港に約十萬屯、廣東城に約四萬屯に達し尙ほ本年は三月に於て一萬屯、四月に一萬二千屯に上り漸次發展の趨勢に在り從來南支方面の需要石炭總量は約百五十萬屯中日本炭は五割五分以上を占め卽ち八十餘萬屯に上り居れるも漸次侵蝕され苦境に陷り最近は更にボルネオ炭も南支方面の根强き日貨排斥に乘じて著るしく進出し來り日本輸出炭は益々苦境に陷るの狀勢を兆す。南京に於て全國對日臨時代表大會を開催し北平、天津、山東、河南、安徽、陝西、黑龍江、江西、青島、漢口、江蘇、福建及大阪、神戶、橫濱在留華僑代表數十名出席し將に改訂交涉開始に入らんとする日支通商條約締結に對する準備の爲め對日不平等條約廢除期成に關する重要案件を協議され爾來繼續的に對日問題を硏究し民衆指導の方針を確定さる。勞農露國政府の對滿洲赤化宣傳陰謀發覺事件に基因して支那當局を主任とする東支鐵道特別檢察委員會は俄に活動を開始し同檢察隊は同鐵道商工部代表並に各倉庫等を檢索して不正事件を檢擧せり又同鐵道附屬の在穆稜（モウリン）及橫道河子の鐵道學校舍搜索を行ひ學校當局及敎員二名を檢束さる馮玉祥の叛將韓復榘は蔣派軍隊が馮玉祥軍攻略の爲め河南省侵入を開始するや同將は突如態度を一變し如何なる軍隊を問はず河南省進入を斷然拒否する旨を各方面に向けて通電を發して河南省の地盤擁護を宣言せり。**七日**蔣介石は韓復榘

會議を開催して廣西省の軍事終了方針を一決して軍事行動を開始さる。廣西派の敗滅に因りて廣東省境の軍事全く終息す爲に中央の命を奉じて廣東省汕頭、潮州城方面に出動し徐景唐軍討伐に從事せる福建省漳州城駐防師長張貞軍は師を修めて漳州城に凱旋す。閻錫山は蔣介石に對して左の二難件を提出せり。

一、馮玉祥麾下第二集團軍全部を閻錫山の統制下に歸せしむ可し。二、國民政府を北平市に遷移する事。

十日蔣介石は馮玉祥が軍を率ゐて四川省侵入の意圖ありと傳はり爲に四川軍の田頌堯、鄧錫侯兩軍に對して馮軍の入川防止方を電命さる。湖南省政府は同省内の全戸數六百十一萬六千〇廿三戸、人口總數三千百五十九萬一千二百十一名と發表せり。國民黨第二次中央全體執行監察會議の決議に基きて馮玉祥を正式に除名し又中央執行委員を免じ王伯群を以て後任と爲す。蔣介石、胡漢民、戴天仇、譚延闓、孫科五名を推して全體會議主席團委員（總務）と爲す。山東省政府は青島市に於て日本商人の經營する日本向け輸出屠殺食牛一頭に付き十五元五十仙の課税を實行せる爲め日本内地產牛と同價と爲れる爲め日本内地向き食牛輸出停止の姿と爲る一ヶ月の對日輸出約五千頭に上り日本内地一ヶ年の需要食牛四十萬頭の七分の一を占む。**十一日**財政

駐在日本總領事藤田榮介は山東省政府の不當貨物税課賦問題に對して嚴重なる抗議を提出され支那當局の讓歩に依りて課税方延期に決定さる。閻錫山は山西省城太原城より蔣介石に對し通電を發して馮玉祥通緝令の取消、馮軍改編妥當方法を講ず可き事、馮軍部下の生命及家族の絕對安全保證要求等の調停案を提出し蔣介石は之に對して認容の旨を答電せり。西比利プラゴエシチエンスク及ハバロフスク兩市駐在支那領事館は復讐的に憤激せる露國赤衛軍兵士及暴民の爲に包圍され暴行襲擊を受け建物器物を破壞され危險に陷る。哈爾賓支那官憲は同地駐在露國總領事館押收物整理の結果中に同地駐在米國總領事館用印二個の僞造品並に同地駐在日本總領事館公用封筒用紙等を發見の結果を發表され斯の露國の國際信義蹂躪事件に因り日米支三國對露國々交重大化の兆あり而して露國の目的は通信竊讀破毀封緘用に供せしものと認めらる。張學良は先に蔣介石の懇請に依りて中原出兵を承諾せるも蔣馮關係の雲行を觀望し居りしが蔣派の形勢漸次有利展開を認め平漢鐵道沿線河北省石家莊驛一帶に部下軍隊の出動を一決し山海關及錦縣城一帶に駐防の砲兵一個旅團（大砲約五十門を有す）の輸送を開始さる。**九日**湖南省政府主席たる何健の統制下に在る廣西軍討伐第四路軍は其主力を以て廣西省柳州、桂平兩城を攻略佔領して南路より進攻せる廣東軍（陳銘樞、陳濟棠所率）と會師し玆に於て廣西省攻略善後

總指揮唐生智、左翼總指揮方振武、右翼總指揮陳調元、行營參謀長賀耀祖。

二、南路軍總司令何應欽、中央總指揮劉峙、左翼總指揮朱紹良、右翼總指揮張發奎、參謀長賀國光、

三、北路軍總司令閻錫山（這は蔣介石の閻派牽制策に出でしものにして閻錫山は就任を肯んぜず）第一總指揮馮派の叛將韓復榘、行營參謀長朱綬光。

十四日日本糖業聯合會は日本の砂糖對支輸出に關し左の重要發表を爲せり。

我國の對支砂糖輸出は過去二十年間に於て殆んど十倍に增加し昭和三年度に於ける對支輸出總額は百四十萬四千〇六十四擔（百磅）總價額三千三百〇一萬九千百七十五圓にして昭和三年度（民國十七年度）の支那に於ける砂糖消費總額一千〇〇二萬三千五百九十八擔にして日本糖は其三割を占め支那の總人口四億四千萬人に對し一人當り消費量は約三斤內外とす。

閻錫山は馮玉祥討伐問題に關して蔣介石に對し武力策を否定して政治的解決策を主張し以て蔣馮抗爭の渦中參加同避立策せる爲め蔣介石は之に牽制され積極的攻擊策に出づる能はざるに至り蔣閻關係感情疎隔を來す。東支鐵道露國側顧問辯護士ロットは哈爾賓露國領事館搜索事件に因りて捕縛されたる露國共產黨員三十九名の釋放運動の爲め奉天に入り活動し屢ば盛宴を張り

部は民國十八年關稅庫劵條例を公布し借款額面百元に付き九十八元實收にて月利七厘と定め四千萬元を發行さる。蔣派の蔣鼎文部下第九師は陝西、河南、湖北三省交界に介在する河南省南西隅の險阨たる荊紫關（チン、ツウ、コワン）を扼して遂に馮玉祥の據れる潼關の南方に迫り漸次馮軍壓迫の戰勢を張れる。馮玉祥は前陝西省長王瑚（ワン、フウ）を鄭縣の韓復榘の許に派し復歸連繫を說かしむる所ありしも韓復榘は反つて之を峻拒し同時に王瑚を捕へて監禁せり山東省派遣軍司令官第三師團長陸軍中將安滿欽一は凱旋奏上の爲め宮中に參內して同派遣軍の軍狀を奏上し勅語を賜ふ。**十二日**國民政府は靳雲鶚（チン、ユン、オウ）に對する通緝令を撤銷さる。**十三日**馮玉祥代表丁春膏、曹浩森、鄧哲熙三名は閻錫山代表朱綬光と共に山西省城太原城に抵りて閻錫山と協議の結果中央政府の特派代表何成濬、唐生智等の右三派代表會合して和戰を決する重要會議を開催せり。南滿鐵道會社は物資輸送上の關係に依り大連港の補助港として遂に安東縣築港計畫を決定し土地買收に着手起工を決定さる。北平駐在英國大使ランプソンは北平より外交部長王正廷に對し十九日南京に抵り威海衞還附交涉開始の旨を通電さる。南京の蔣介石官邸に於て軍事會議を開き馮玉祥討伐戰略を決定して左の通り部署を定む。

一、東路軍總司令は蔣介石と定め實權司令としては參謀長朱培德を以て此に任ぜしめ中央前敵

孫文奉安祭に參列の爲め渡支せる犬養毅は支那內地漫遊の途次山東省曲阜縣城の孔廟に參拜し同地師範學校の懇請に依りて一席の講演を爲し三民主義の精神は孔子教より發由せる者にて其の三民主義遵奉の支那青年政治家及學徒等が孔子教の打倒を叫ぶは眞に誤れる舊物破壞輕浮なる新思想に耽溺せる可笑の行爲と論斷し支那青年學徒を訓ゆる所あり。哈爾賓支那當局は東支鐵道露國側幹部の不正事件を摘發して商業部長パユンマタイを捕縛さる。呼倫貝爾の蒙古青年黨員軍は又々起つて活動を開始し東支鐵道の一部を破壞せる爲め支那側當局は嚴重警戒さる上海縣城閔行の救國會は救國基金と稱する日貨沒收に依りて得たる資金を以て反日道路なる一路を造築し以て反日感情煽動を敢てし國民政府の無誠意を暴露さる。蔣介石は閻錫山を通じて平津警備司令傅作義に對し馮玉祥討伐軍第十路總司令に任命し傅司令は唯だ形式的に之に就任せり。馮玉祥麾下の馮治安、席液池、兩將は蔣介石に宛て中央政府に服從して討馮軍に參加す可く部下軍隊は中央の命を奉じて改編を希望する旨の通電を發して蔣介石に內應し主將馮玉祥に對して叛旗を飜へせり是れ晰かに支那人固有の民族心理を如實に物語れるものにして宛然春秋戰國の古へに立ち歸り轉た三千年前の七國の合縱連衡と蘇秦、張儀等を偲ばしむる者あり之に對して蔣介石は右服從忠誠を許容し直に韓復榘軍に代りて討馮軍の先鋒たる可しとの旨を

て支那側要路大官買收に腐心し宴後忽然危篤狀態に陷れり是れ奉天當局の爲に毒害さるとの異聞起る。南京に於て開催せられたる第二次國民黨中央執行監察全體會議に於て左の重要諸案を決議さる。

一、最短期間內に於て不平等條約の廢棄仍ち領事裁判權撤廢、各租界地回收を積極的に促進し極力其實現を期す可く新興支那國民政府の外交方針を確定さる。

二、幣政統一金融整理に關する計畫は本年中に財政部は責任を以て立案し即時實行する事。

三、鹽專賣法整理、鹽稅輕減、鹽價調節案は今年中に財政部に立案即時實行を命ずる事。

四、財政及行政の中央集權制度確立の爲め財政、行政兩政整理專門委員會を組織し鞏固なる財政制度確立實施上の全責任を負はしむる事。

五、國庫歲出入會計審査制度を確立し民國十九年度より豫算の嚴重勵行を命ずる事。

六、參謀本部の陸地測量機關を整備して飛行測量の準備と爲し他國々境地方の測量に注意して民國二十八年迄でに全國五萬分一の地圖を作成せしむる事。

七、五院制度を設けられたれども未だ組織せられざる考試、監察兩院を三ケ月以內に於て完全に組織し成立せしむ可き事。

館に於ける共產黨秘密會議開催は明かに奉露及露支兩協定違反行爲にして同領事館搜索押收及逮捕事件は國民政府として自衞上萬止むを得ざるの處置に出でたる者なれば素より貴國の責任を負ふ可き者なる旨の抗議的回答文を手交さる同時に夏領事は外交部に對し露國政府の同代表に對する態度は大に緩和され又モスクワ駐在各國代表の同情ある態度は支那に對し頗る有利に展開せる旨報告さる。第二次中央全體執監會議に於て訓政期を滿六個年間と定め民國十八年九月迄でに工作年度表を作成し同廿四年末に終る可きを規定し六年の終りに於て政權を國民に返還する事を決議公布さる。第二次執監全體會議（第三日目）會議に於て孫科を主席と爲し重要國策に就き討議を盡し左の如く決議さる。

一、全國の討匪事宜は政府責めを負ひ編遣委員會と協議の上區域を分ち陸海軍を以て最短期間內に肅淸を期す其の辦法を定むること左の如し。

イ　討匪條例は編遣委員會と內政部と協議決定す。

ロ　討匪軍費は編遣委員會議に於て規定し地方政府に負擔せしむ。

ハ　地方經營軍隊は地方政府に於て切實に整理し國軍と共同して淸鄉事宜に任ず。

右に關する施行條例は內政部に於て規定公布す可し。

電命さる。**十五日**張學良は張作相、萬福麟、湯玉麟、張景惠、呂榮寰、于學忠等東北四省の領袖以下將領五十七名を召集して東北邊防總司令部に於て最高時局會議を開催し對露强硬政策を協議決定する處あり其結果新興支那全國の力を以て東支鐵道回收計畫を策定し又對馮玉祥問題に關しては露國々境警備の必要上中央政府の命あるも不應出兵方針を決定して對露强硬政策遂行に重心を措く。國民政府は攸作柏（ユウ、ツオウ、パイ）を以て正式廣西省政府主席に就任せしめ廣東の陳濟棠に對し廣西省梧州城に抵りて之が監督を訓電さる。第二次中央全體執監會議の決議に基く對外政策方針に依り國民政府最高幹部は行政院長譚延闓の名を以て外交部長王正廷に對し日支通商航海條約改訂交涉の根本方針として左記諸項を訓令せり。

一、內水航行問題は相互主義に依る可し。

二、領事裁到權問題及關稅自主權は必ず回收す可き事。

三、義和團匪事變賠償金の完全處分權の回收。

右外交部長へ訓令と同時に外交部は東京駐在公使汪榮寶に對して日本の開港場港則、船舶法の調査提出方を命じ着々日支通商條約改訂交涉に關する準備に鋭意努力せり。モスクワ駐在支那代表夏維松は外交部の訓令に基き露國外務人民委員會次長カラハンに對し哈爾賓駐在貴國領事

自治を完成す、依て之が實行案は行政院に於て編成す。

五、國民義務教育及び政治補充教育を勵行す其計畫實施の準備は民國十八年九月迄でに教育部に於て編成し以て中央執行委員會の決議を經て積極的に辦理し其全部の計畫は民國廿二年末迄でに實現せしむ可し。

六、民國十八年末迄でに各省に於ける田租の數額と農民生活の概況及生活狀態の調査を完了して二割五分減租實施の基礎と爲し其の調査實行は內政部責を負ひ各省黨部之が督促實行に當る可し。

十六日閻錫山は蔣介石に對して左の詰問的警告通電を發送せり。

貴下は全國の武力統一を期するも开は時代的錯誤にして斷じて成効の望みなし曩に吳佩孚及張作霖等の實例に徵して最も明かなり余は敢て馮玉祥を庇護せんとする者に非ず又如何なる方面にも加擔せず貴下が速に武力統一の夢より醒め德を以て人を愛し難局の和平解決に努力せん事を敢て忠告す又北伐完成後國民黨員は驕慢にして政府を無視し地方統治者を侮辱するの暴擧は中外に笑を殘し爲に民をして背かしめ國民を恐怖せしむること甚だ遺憾なり國民政府主席たる貴下の一考を煩す所以なり最後に貴下は速に國民大會を招集す可しとの孫文の遺

二、民國十九年六月を以て編遣事宜を完了す其辦法を左の如く定む。

イ　編遣會議第一次會議に於て決定せる全國軍隊の總兵力は能ふ限りの範圍内に於て更に縮少し同時に國防の建設に努力す。

ロ　編遣會議の決議を繼續實行する爲め編遣委員會の缺員を迅速に補充す。

ハ　編遣委員會と關係ある各區部は速に裁兵し同時に裁撤されたる兵士の處分辦法を講ずる事即ち兵工政策、屯田、開墾、築路、造林、河川浚渫、築堤、築港、鑛山採掘等の事業を積極的に準備す。

三、農産を整理し森業を發展し水利を起して農村の合作を提唱し農民生活を改良し以て農業政策を以て商工業發達の基礎たらしむ其の一切の計畫は民國十九年一月迄でに行政院に於て編成發布す可し。

四、訓政期間は六ケ年間と定め民國廿四年迄でに完成す可く其工作と年表は政治會議の報告に依りて決議し十八年八月迄でに制定發布す縣政自治は民國十九年度内に縣組織法に依て縣の組織を完成し同時に訓政人員の初期の訓練を終る可し民國廿一年末に於て初期の戸口調査と土地測量を終了す、民國廿二年末に各地の自治機關を完成せしめ民國廿三年末には縣

駐露代理大使たるモスクワ駐在總領事夏維松に命じて抗議文を提出せしめらる。十八日第二次中央全體執行監察會議の決議に依り左の如き不平等條約撤廢に關する外交方針宣言を發表さる
訓政時期の重要工作は三民主義の具體的建設を爲し民國の基礎を强硬にするに存す、國家統一及故總理の奉安を終り玆に中央執行委員會は全國代表大會の附託を得て全體會議を招集し黨政建設の根本問題を討議し具體的實行方法を確立す、本會議の任務は建設に關する諸問題の實行方法及時期の決定を討議確定するに在り、蓋し中央の現狀を見るに人民の希望は本黨の指導に依て速に全民政治を實現するに在る者の如し玆に全體會議は全國民に左記數項を宣言す。

一、本黨の主義を實現するは全國の統一を保持し統一の根本は國民精神の物質的關係を改善するに在り、軍閥割據思想を打破するに在り、第三次全國代表大會の明示せる原理は全國が中央政府を擁護して和平統一の根本政策を確立するに在り、從て今後形式の如何を問はず和平を破り統一を紊す者は悉く全國の國敵と認む。

二、國家の獨立と國際的主義の平等獲得は革命實現の先決問題なり、不平等條約の存する限りは如何なる建設方法も施す可き術なく本黨は全體會議の決議に基き積極的方法と正當

囑を何故に實行せられざるや斯の國情を矯正す可きは唯だ國民大會に待つある可きのみ也。張學良は哈爾賓駐在露國總領事館搜索事件に關し國民政府の命に依り中央に於て開催さる可き外交委員會に參加す可く代表として張景惠、張國忱の兩名を南京に特派し以て外交委員會に於て對露態度を決定し一方には露支國境防備の爲め吉林、黑龍江兩省軍四個師約四萬の兵力を黑龍江沿岸のブラゴシチエンスク及滿洲里驛方面に出動下令さる。**馮玉祥**は陝西、甘肅兩省駐防の部下劉郁芬、吉鴻昌等も均しく中央服從の叛意を表示せるに因り環境の形勢日に非なるを認め遂に近く外遊の途に就き露國經由獨逸遊歷の意圖を決定せる旨各方面に通電を發送さる。英國ロンドン市に於て開催の萬國地質學會に出席の爲め農鑛部の特派に係る李毓堯（リイ、ユイ、ヤウ）は上海出帆英國に向ふ。南京特別市黨部に於て蔣介石の主催に依り民國十一年六月十六日廣東城に於て廣東督軍陳烱明驅逐の爲め兵を擧げて之を攻撃し反撃され時の西南政府大總統孫文は僅に身を以て難を軍艦に避け六月十六日より八月十日に至る迄で相對持すること實に五十有六日間に及び遂に上海に逃がれたり依て本日孫文蒙難七週年紀念祭を擧行さる。**十七日**外交部は哈爾賓駐在露國總領事館押收文書審査の結果這は支那國內の治安に重大關係を有する事判明せる爲め露國政府に對し嚴重抗議提出に決定せるも已に露支國交斷絕す故に文書を以て

捜索の結果直に閉鎖を命ぜしむ之に對して同社は奉天政府並に哈爾賓長官張景惠に對して抗議を提出せり。陝西省潼關駐防の馮玉祥麾下田金凱は部下二萬の兵力を率ゐて中央に對し服從する旨通電を發送せり。張發奎軍は蔣介石の命に依り湖南省政府主席何健が全軍を率ゐて廣西軍討伐の爲め廣西省出征の虚に乘じ土匪討伐に藉口して湖南省城長沙に入城す是れ中央政府の正式湖南省政府主席任命の內諾に因る旨報ぜられ蔣介石が專制橫暴の憤懣全國に漲る所以なり。馮玉祥は愈々意を決して夫人李德全を先發せしめ尋で陝西省華陰縣城を出で山西省運城に抵り李夫人は先づ出迎への閻錫山夫人と會見して下野外遊問題を協議せり馮夫妻は閻夫人の東道に依て山西省城太原に抵り閻錫山と會見し善後策を商議決定す馮玉祥は華陰城出發に臨み全軍の統制を鹿鍾麟及石敬亭兩將に委ね又陝西、甘肅兩省の統治行政は劉郁芬、宋哲元兩將に一任せり。馮玉祥は善後會議に對する一面の權謀策として河南省陝縣城に於て孫良誠を以て主席とする新政府を組織せしめ財政部以下の各機關を設け又龐炳勛を河南省新安縣方面に、梁冠英を隴海鐵道の終點驛たる觀音堂驛に、孫良誠、程心明兩軍を政府所在地たる陝縣城一帶に分駐せしめて防備を嚴重にして積極的對抗軍容を張りて時局の推移を待てり。天津市政府は白河改修工事の起工を決定し共經費として天津海關に命じ輸出入貨物に對し海關稅特別附加稅を正稅に對

の手段に依り不平等條約廢除の工作を積極的に實行す可し夫れが爲めには全國一致して如來なる犧牲を拂ふも辭せざる可し。

三、自治の實現は建國大綱中の重要項目にして本黨の同志は宜しく積極的に自治完成に努力せざる可らず。

四、訓政時期は六ケ年にして民國廿四年迄でに完成を期す、我國は土地廣く人民多く反動勢力の誘惑多し此短期間に訓政を實現するには全國人民が明確に本黨の趣旨を服膺し積極的に中央政府を擁護する事必要なりとす。

右四項は本黨が最短期間内に實現す可き重要政策にして軍閥の反動分子の如きは何等恐るゝに足らず、唯だ恐る可きは本黨の同志が革命精神の弛緩に在り、帝國主義の侵略を排除する事も國際平等の革命目的を達成する事も敢て困難に非ず、唯だ我國民黨の實力を築く事及國民をして刻苦奮勵せしむる事困難なり、國民の苦痛を除き實際的建設を爲す可きは本黨の使命と信ず、然して之を實現す可き原動力は全國人民が本黨の趣旨を認めて中央政府を擁護するか否やに依て決す可きなり、訓政開始の際に當り特に宣言す。

張學良は哈爾賓當局に命じて在同地の北滿唯一の赤衛軍機關新聞たるノヴオスチーズニー社を

る鶴蘭鐵路布設案を決定し總工費豫算二千萬元を要し三年後竣工の豫定とす。北平警備司令第四十二師長張蔭梧（チャン、イン、ウー）（閻錫山系）は北平特別市長の職に就任せり。外交部は在廣東の交渉員に命じて香港政府に交渉して先に中央政府に叛旗を飜へし廣西軍と策應して廣東省東江一帶に蜂起し廣東軍を攻擊して敗れ遂に香港に亡命せる鄧世增、徐景唐兩將の引渡方を要求せしむ。雲南省政府委員にして同省派の領袖たる前國民革命軍第一集團軍第十六軍長たりし國民黨系の范石生（フアン、シイ、ション）は廣西軍の首領李宗仁、白崇禧、黃紹雄等の諸將に宛て通電して高蹈下野して以て民生の爲に兵戎を用ふるを息めんことを切勸する所あり。黃紹雄は攸作柏、李明瑞に對し部下軍隊の改編を一任し外遊を決意せるを以て切に兵を進むる勿れと通電せり。

中央派遣の廣西討伐軍李明瑞部隊は廣西省桂平城を攻略し尋で潯州城を佔領せり。山東省青島市黨部は清理逆產委員會を組織成立し所謂逆產清理に着手さる。**十九日**馮玉祥派の叛將韓復榘所屬第廿師長李興中は韓復榘等の叛馮蔣介石派內應に反對し韓復榘の爲めに銃殺さる白崇禧は廣西省柳川に兵を集中す。北平大學校長李石曾は其の主張發案に成れる全國大學區制案試行を第二次中央執監全體會議に於て停止を決議され憤然辭職の通電を發せり。國民政府は李石曾の

する八割の割合を以て向ふ十ケ年間徵收する旨を決定し公布し施行さる。國民政府の南京都市計畫技術顧問として去る四月南京に渡來せる米國紐育市技師イ、ビー、グッド、リッチは鐵道部長孫科及南京特別市長劉紀文等を助けて南京城の新都市建設案に參畫して約四百浬に上る市街道路、中央車站（驛）津浦鐵道終點驛たる浦口驛と南京城の關門たる下關埠頭間の江上連絡水道、飛行場、政府諸官署及公園、土地法改正諸案等幾多の重要建設事業計畫問題に參畫して其貢献する所最も多かりしが任を辭して米國に歸れり。國民政府交通部と建設委員會間に於て永く其所管爭ひを生ぜる無線電信管理問題は第二次中央執監全體會議に於て遂に交通部の管理に決定されし結果國民政府は交通部と米國フエデラル無線電信會社間に諒解ある無線電信借款締結の爲め國民政府は駐米公使伍朝樞に宛て右借款成立督促訓電を發送さる。第二次中央執行監察全體會議は各方面に涉りて諸種の重要提案あり其大部分は國民政府の政綱を基礎とし立案されたるものに係り去る三月開催の第三次全國代表大會に於て可決されたる事案及政府提出案にして出席者は政府側の者多數を占めたる結果所期の如く無事平靜裡に新興國支那建設の重要案件を可決して閉會式を擧行さる。黑龍江省政府は同省境の鶴崗（ホウ、カン）炭坑より同省東邊松花江の北岸に瀕在せる木蘭（モウ、ラン）縣城に至る延長約二二〇浬（六五〇支里）を有す

の爲め下野外遊問題を商議決定する所あり爲に支那全國に渉りて和平歡呼の聲四方に起る。駐支英國公使ランプソンは南京に於て外交部長王正廷と會見し威海衞還附問題に就き交渉を開始せるも折衝不調にて散會さる。**廿二日**閻錫山、馮玉祥、唐生智、方振武、徐源泉其他北方諸勢力を團結せる北洋政府を北平に樹立の畫策露顯し蔣介石派の狼狽甚だし。蔣介石は近時國民黨内の大勢左派の有利に展開の兆あるに鑑み第二次中央執監全體會議に對し在ロンドンの左派の巨頭汪兆銘に向け至急歸國して蔣汪聯立政權維持案を提議の結果可決され汪兆銘召還の通電を發せり之に對して汪兆銘は直に左の返電を發して蔣介石との提携を斷然拒絶せり。

貴下を始め國民黨員の多數が予の歸國を促がせるも予は革命完成の爲め武力に訴へんとする武人との提携は倒底之を希望せず。

鐵道部は滬寧鐵道改良費百八十萬元の無擔保短期年利八步借款を英支借款團と締結成立さる。**廿三日**露國政府は露領在留支那商人廿五人の財產全部を設收し國境滿洲里に放逐さる。張學良は故張作霖陵墓建造案を東北四省首腦會議に提出し其決議に依り奉海鐵道沿線の撫順、興京兩城中間に位する撫順縣下營盤附近なる鐵背山麓の景勝の區を相し築造に決定され工費一千四百萬元を以て三年繼續事業とし民國十八年三月起工され此工費は張學良五百萬元、遼寧省四百萬

立案に係る全國大學區制案の試行停止の旨を公布さる。哈爾賓駐在露國總領事館搜索事件に基因して露支兩國々交危殆に瀕し爲に我が關東軍司令部は旅順駐防部隊若干を奉天に出動せしめ以て露支兩國の危急に備ふる所あり。國民政府は全國各機關に下令して鹽稅整頓の訓令を發布さる。露國政府はハバロフスク市駐在支那領事館を復讐的に突如兵を派して封鎖し副領事張文煥以下同館員三名を拘禁せり之に對し蔣介石は張學良に命じて露國當局に嚴重抗議せしめ又更にモスクワ駐在代理大使に命じて露國政府に對し抗議を提出せしむ。**二十日**外交部は領事裁判權撤廢前提として全國各地の外交部交涉員を民國十八年八月より同年末迄でに一律撤廢する旨を內訓し同時に各國領事館に對して通告さる。**廿一日**國務會議に於て第二次中央全體執監會議の決議に基き閻錫山を以て西北宣慰使兼西北善後事宜に特任して對馮玉祥事件の處置を一任さる。滿鐵會社の經營に係る前北京軍政府國務總理潘復及張本政等を理事者とする一大漢字新聞社を創立して日支兩國親善機關たらしむるの企圖を發表さる。英國新首相勞働黨總理『マクドナルド』は駐支公使ランプソンを通じて國民政府主席蔣介石に對し英支兩國々交親善增進を希望する旨の親書を贈呈せしむ。馮玉祥は陝西省華陰縣城を出で李書城等を從へ山西省運城に抵り閻錫山夫人に迎へられ夫人李德全と共に山西省城太原城に抵りて閻錫山と會見し時局和平解決

一、中央政府は馮玉祥の外遊旅費二十萬元及馮玉祥軍未拂軍費三百萬元を支出する事。

二、馮玉祥軍は當分閻錫山の麾下に附し期を俟つて中央直轄と爲す事。

三、鹿鍾麟を西北編遣區特派委員と爲す事。

四、馮玉祥の通緝令を取消し出發前の安全を閻錫山が保證する事。

五、馮玉祥外遊の使命は各國軍事及政治狀態視察を主とし日本經由米佛獨の各國を巡遊し期間は三年以内の事。

六、河南省政府主席に孫良誠、陝西省政府主席に門致中、甘肅省政府主席に劉郁芬を任命の事

反蔣介石派に依り勃發されたる武漢の戰事を先登に廣西省の戰事に及び馮玉祥對蔣介石關係の紛糾に依りて全國再び大亂の慘事を惹起し往年の南北戰爭を想起せしめたる支那の時局も閻錫山の活躍斡旋に因り太原會議の結果に依りて政治的解決を告げ其最後を飾れる蔣介石、馮玉祥閻錫山三首領は左の宣言を發表し西北の軍事遂に和平裡の解決を見るに至れり又馮玉祥と聯盟し蔣介石の横暴を憤り蔣介石討伐を宣言して起てる廣西派の首領李宗仁、白崇禧、黄紹雄等に依りて勃發されたる西南の軍事も將に終息を告げ結局將介石派の勝利に歸して支那大亂の時局一先づ治まる。

元、吉黑兩省各二百萬元、熱河省百萬元の負擔とし各省民に對し徵税を開始せるに依り各省民は清朝の東、福兩陵をも淩駕する大陵墓の築造に憤慨し怨嗟の聲盛に起る。馮玉祥は下野外遊に際し石敬亭を以て代理總司令に任ず。**廿四日**蔣介石は南京出發徐州に至り唐生智、方振武、劉鎭華、陳儀、何成濬、韓復榘、石友三、陳調元等の將領を招集して對馮玉祥善後事宜會議を開催し決定直に北平に向ひ出發せり。閻錫山は蔣介石に對し本兼職一切の辭職を申請し同時に馮玉祥と共に下野し日本經由歐米外遊の意圖を決定せり故に引止め拒絕の通電を發送せり。閻錫山は山西省城太原城に於て同派の綏遠省政府主席徐永昌、察哈爾省政府主席楊愛源、河北省政府主席商震等以下山西系將領を召集し閻錫山の下野外遊及馮玉祥問題に就き所謂太原會議を開催せり。馮玉祥の**十三日**附吳稚暉に致せる長文の露國共產黨と通謀否認の通電を發表さる。蔣介石は陸海空軍總司令の名を以て馮玉祥の外遊下野の交涉決定と同時に河南省攻略の軍事行動一切中止す可き旨を命令し又兵站總監黃振興に對し兵站部を直に解散せよと命令せり。蔣介石は馮玉祥の下野を機會に全國の兵工廠を中央軍政部直管に決定し張學良、閻錫山に對して民國十八年限り其所管兵工廠の中央接收の旨を命令さる。閻錫山の居中調停に依りて滿圓解決されたる蔣介石、馮玉祥、閻錫山三首領間に成立せる諒解に關する條件は大體左の如く發表さる。

恐れたるに因る、今や閻錫山の情理を盡したる勸告に依り余は黨國の和平の爲め斷然外遊を決意せり、余の最も憂ふる所は余の數十萬の軍隊の處置なり然れど余は閻錫山の言を信じ一切を閻錫山に一任せり、閻錫山の外遊は余の外遊條件に非ず故に閻錫山は永く留つて善後處置に當られん事を希望す、余の眼中蔣介石なく唯だ黨國の和平存するのみ。

閻錫山の和平宣言

余の微力を以てして干戈の爭ひを文書の力に依る解決に迄で歸納するを得たるは余の最も滿足する所なり、是れ馮玉祥が黨國を思ふの念と蔣介石が寛大の措置とに依れる者にして、兩者が德薄き余を信賴せられたる賜物に外ならず、余は今や思ひ殘す可き何事をも有せず、故に一切の公職を辭し馮玉祥と共に外遊す可し、河北、山西、察哈爾、綏遠各省の主席委員及平津衛戍司令等は凡て中央の裁量に依りて適宜更改し、西北の軍權及政權を一切中央に歸屬せしめ名實共に統一の實を擧げられん事を中央に希望す。

財政部は捲煙稅國庫券五百萬元內國債借款を上海江蘇銀行と締結發行さる。山東省政府は泰安城に保存せられたる歷代帝王封禪祭獄の其價數百萬元の古寶物竝に淸朝乾隆時代の靑磁器五百餘件及孫良誠の携去せるもの五件は保管委員于思波、陳名豫、孔繁霨等を特派して査封保管せ

蔣介石の和平宣言

閻錫山の報告に依れば馮玉祥は既に運城に抵りて時局は和平解決の望み確立せりと、中央今次の措置は黨規を明にし叛逆者嚴罰の方針を決定すと共に他面國內の和平を主眼と爲し實行上には寛大の措置に出でたり時局和平解決の爲め閻錫山を西北宣慰使に任命す、余は廿三日南京を出發して北平に抵り同地に於て閻錫山と會見し一切の善後措置を商議す可し閻錫山は凡て中央の命に基き黨國の和平の爲に努力し其行爲は正に革命軍人の模範にして國民革命に對する功勞絶大なり、從來外間に閻錫山、馮玉祥密約存在を傳へられしも皆な是れ反動派の宣傳に係るものなり、今閻錫山は馮玉祥と共に外遊する時は國防を急務とする西北の安寧維持至難なり依て中央は正式の決議に依り閻錫山を以て西北宣慰使に任じて西北區の軍事一切を委任せり全國の同志は余と共に功勞絶大なる閻錫山に感謝し極力其外遊の意志を飜さしめよ。

馮玉祥の和平宣言

余が蔣介石の獨斷專行の際兵を山東省より退き更に河南省より引きたるは一に正義を愛する我が軍隊が余の命を俣たずして彼等の横暴を罰せんとし其爲め全國を禍亂の巷に陷れん事を

國民革命軍戰績表

國民革命軍の戰績を精査するに民國十五年五月一日湖南省內務司長兼省長代理革命軍第八軍長唐生智が同省長趙恒惕部下第三師長葉開鑫軍と戰ひ敗れて湖南省城長沙城を退き同省衡陽縣城に避け革命軍が唐生智軍援助の爲め廣東省城より北伐の師を湖南省に出してより殆んど一ヶ年を經過せる翌十六年四月十八日南京國民政府の成立に至る迄での軍事成績表を作成して三民主義革命事績の一班を窺ふ讀者の參考に資するも敢て意義ある事と信ず。

民國十五年

五月一日　唐生智軍湖南省城長沙を退く

同二日　葉開鑫軍勝て長沙城に進入す

同十一日　國民政府軍事委員會に於て廣東廣西兩路より出兵湖南に入り唐生智を援けて北伐を決す

同十六日　廣東省北伐軍輸送を開始され省境界の要地韶關に進軍す。

六月十日　唐生智軍兩廣軍の援兵を得て湖南省衡山、慶賓を回復す。

同十五日　廣東省政府張發奎軍を湖南省境に向け出動を開始せしむ。

七月八日　唐生智軍兩廣軍の援助を得て湖南省南部一帶を佔領す。

しむ。張宗昌部下顧震は山東省卽墨縣城內に於て孫殿英軍の爲に生擒せらる。駐支獨逸國公使の子息は支那語文學研修の爲に北平市の淸華大學に入學さる是れを以て歐米人の支那留學の嚆矢と爲す。雲南省政府主席龍雲は貴州省に派駐せる部隊を同省境より廣西省の獨山縣に侵入せしめ更に進擊を開始して湖南の何健軍と呼應し挾擊して廣西の殘留軍を同省柳州城に攻めて之を陷る。**二十五日**蔣介石は馮玉祥事件商議解決の爲め夫人同件吳稚暉、劉鎭華、陳調元、邵力子、陳紹寬等の陸海兩軍將領を從へて北平に入る。閻錫山は馮玉祥の山西省城太原入城を機として河北省政府主席並に平津衞戍司令商震以下山西派の要人全部を省城太原城に招集し對時局策（對蔣介石策）を講ずる爲め重要會議を開き開戰回避を主眼として自己の辭職を始め河北省政府主席商震、綏遠省政府主席徐永昌、察哈爾省政府主席楊愛源、山西省政府主席閻錫山代理楊兆泰等を始めとし以下河北、綏遠、察哈爾、山西四省の山西派地盤內の要人全部の辭職を電請し之に困りて南京政府の態度變更を迫まり聽かれずんば事實上南京政府との關係を離脫す可しとの態度を一決せり之に因て馮玉祥との關係愈々具體化し馮玉祥は麾下殘留軍代表として甘肅省政府主席劉郁芬を太原城に招致して馮閻聯盟確立の凝議を遂ぐ之の形勢に直面せる蔣介石は閻派代表內政部長趙戴文、商工部長孔祥熙を太原城に急派して馮閻兩首領と懇談商議せしむ。

領す。萍郷炭を以て有名の江西省萍郷縣城を佔領す。

九月 六日 漢口及漢陽城を佔省す。

同 十日 江西省萍郷縣城より進で袁州城を佔領す。一路同省修水縣城を佔領す。

同 十二日 江西省分宜縣城を佔領す。

同 十三日 同省西北部の銅鼓縣を佔領す

同 十六日 湖北省北部省界の險阨武勝關を佔領す。

同 十九日 江西省清江縣城を佔領す。進で江西省城南昌城を陷れ一路は南昌西方瑞州城を佔領す。

同 二十四日 五省聯軍を率ゐて孫傳芳江西省城南昌城を奪回す。一路は江西省南部の吉安、吉水兩城を佔領す。

同 二十九日 江西省中部の永豐縣を佔領す

同 三十日 同省廣昌縣城を佔領す。

十月 一日 孫傳芳軍を江西省武寧縣城に破る。。

同 三日 江西省北部南潯鐵路沿線德安縣城を佔領す。

同 五日 江西省清江縣樟樹鎭を佔領す

同 六日 湖北省城武昌城を開城せしむ江西省城南昌城の南方豐城縣城を佔領す。

同 七日 革命軍福建省に對する進攻令

七　日　九日　湖南省湘潭縣城を佔領し國民政府廣東に於て國民革命軍司令部を組織し蔣介石總司令の職に就任す。

七　月二十一日　唐生智軍兩廣軍と共に湖南省城長沙に入城す。

同　二十七日　總司令蔣介石湖南省に抵り督師の爲め廣州城を出發す。

八　月　十二日　總司令蔣介石湖南省城長沙に入城して師を督す。

同　十八日　革命軍湖南省汨羅江を渡る。

同　十九日　同省平江縣城を佔領す。

同　二十二日　同省岳州城を佔領す。

同　二十三日　湖北省蒲圻縣羊樓鎭を佔領す進で同省通城(トンチエン)縣城を佔領す。

同　二十四日　同省崇陽縣城を佔領す。

八　月二十六日　同省新堤、汀泗橋、蒲圻、咸寧の各地を佔領す。

同　二十九日　同省咸寧縣賀勝橋市を佔領す

同　三十一日　紙坊を陷れ進で湖北省城武昌城の總攻擊を開始す。

九　月　三日　武昌城外に於て激戰を交へ突山を攻め別に一部隊は江を渡て漢江沿岸の蔡甸鎭を佔領す

同　二日　革命軍江西省に侵入す。

同　四日　江西省南部の信豐縣城を陷れ贛州(ヘンチヨウ)城に向つて進擊を開始す

同　六日　江西省南部の首府贛州城を佔

		江東橋鎭を佔領す
同	十二日	福建省厦門を佔領す。
十一月	十三日	福建省同安縣城を佔領す。
同	十四日	同省西北部の光澤縣城を陷る 江西省馬當要塞を陷る。
同	二十一日	湖北省宜昌（イヒ、チヤン）城に青天白日旗を揭揚せらる。
同	二十二日	革命軍第二十六軍長（前第三師長）周鳳岐軍を率ゐて再び浙江省城抗州城に歸る。福建省安海を佔領す。
同	二十三日	浙江省城抗州城の孫傳芳軍嘉興城へ退却す。福建省泉州城を佔領す。
同	二十四日	福建省西南部の淸流縣城を佔領す。
十一月	二十五日	福建省泉州城の東北惠安縣城を佔領す。
同	二十七日	同省仙游縣城を佔領す。
同	二十七日	同省莆田縣城を佔領す。
同	二十八日	福建省陸海軍は連合して張毅軍の省城侵入を拒絕す。江西省東路の上饒（シヤン、シヤオ）縣城を佔領す。
同	二十九日	北部革命軍江西省境より進擊を開始して福建省境に侵入す 江西省玉山縣を佔領し同省完全に革命軍の掌中に歸す。福建省陸海軍張毅軍と峽兜於て

を下す。

同　十日　福建省南部交界の永定縣城を佔領す。

同　十四日　福建省南部の饒平（シャオ、ピン）鎮を佔領す

同　十六日　浙江省長代理夏超軍隊を率ゐて省城抗州城より出動す。

同　二十一日　孫傳芳軍浙江省嘉興（チャア、シン）城東郊外に於て夏超軍と交戰して勝つ江西省東路の撫州城を佔領す

同　二十二日　孫傳芳軍退て浙江省北部の王店、硤石間に至り又戰ひ夏超軍敗走す。福建省長汀縣古城鎮を佔領す。

同　二十四日　福建省平和、龍巖兩縣を陥る

又一路は江西省より福建省境に進撃を開始す。

同　月二十九日　福建省西南部の要地汀州城を佔領す。

十一月　二日　再び江西省德安縣城に入る。

同　四日　福建省南部の山城鎮及漳浦縣城を佔領す。江西省九江城を佔領す。

同　六日　湖北省蘄春（チン、チュン）縣城を佔領す。

同　七日　同省武穴縣城及長江第一の險要田家鎮要塞を佔領す。福建省漳州城及南靖縣城を佔領す

同　八日　江西省城南昌城を再び佔領す

同　十日　福建省厦門の東北長泰縣城及

に入城す。湖北省巴東縣城を佔領し同省の軍事全く終る。

十二月二十二日 江西省進賢縣城を佔領す。

同 二十四日 安徽省南西部交界の秋浦（江西省彭澤縣の東方）鎭を佔領

同 二十六日 浙江省城抗州城西關閘口に於て錢塘江を挾で浙江軍と開戰

同 二十八日 浙江省寧波城に青天白日旗揭揚せられ革命軍一部入城す。

民國十六年

一月 三日 浙江省錢塘江の西方富陽縣城と樊村中間に於て孫傳芳軍と開戰す。

同 七日 革命軍前敵總指揮白崇禧部下を率ゐて江西省城南昌城を出動し浙江省境に侵入す。

同 十七日 福建省の革命軍出動を開始し浙江省境に進入す。

二月十二日 浙江省諸曁縣城を佔領す。

同 十五日 同省新登縣城を佔領す。

同 十六日 同省富陽縣を佔領す。

同 十八日 同省城抗州城を佔領す。

同 十九日 同省寧波及紹興兩城を佔領す 安徽省徽州城を佔領す。

同 二十一日 浙江省嘉興城に於て孫傳芳軍を破り同城を佔領す。

同 二十三日 同省楓涇鎭を佔領す。

同 二十六日 同省湖州城を佔領し浙江省の

戰ひ盧興邦、周蔭人の部隊樟湖に於て開戰す。

十二月 一日 福建省北部の革命軍邵武縣城を佔領す。

同 三日 福建省城福州全城に靑天白日旗飜へり革命軍入城し又盧興邦軍延平城を佔領す。革命軍路を分つて湖北省西南部攻略の爲め出動を開始さる。

同 四日 福建省北西部の建陽縣城を佔領す。

同 七日 同省延平城の西南方將樂縣城を佔領し一路進攻建甌、浦城縣城の各地を佔領す周蔭人軍北退して浙江省境に入り福建省內の軍事全く終る。

十二月 八日 湖北省西南部部の石首、藕池灣江の各地を佔領す。

同 十日 同省公安、荊門兩縣城を佔領

同 十一日 同省松滋縣城を佔領す。

同 十三日 同省荊州城及當陽縣城等各地を佔領す。

同 十四日 同省枝江、宜都兩縣城を佔領

同 十五日 孫傳芳軍浙江省嘉興城より省城抗州城へ向け進軍を開始す

同 十七日 湖北省宜昌縣城を佔領す。

同 二十一日 同省歸州城を佔領す。

同 二十二日 孫傳芳軍再び浙江省城抗州城

支那現代要人略傳（字畫順列）

二畫の部

丁春膏（テイン、チュン、カオ）國民革命軍第二集團軍北平辦公處長、馮玉祥系。

丁兆冠（テイン、チヤオ。コワン）字又秋年四十九歲雲南省石屏縣人早稻田大學卒業雲南省政府委員民政廳長、國民黨。

丁惟汾（テイン、ウエイ、フエン）字鼎丞年五十五歲山東省日照縣人日本明治大學卒業國民政府委員山東省政府委員、國民黨。

丁超五（テイン、チヤオ、ウー）字立夫年四十六歲福建省邵武縣人福建省福州格致書院卒業福建省政府委員建設廳長、國民黨。

四畫の部

孔祥熙（コン、シヤン、シイ）字庸之年四十八歲山西省太谷縣人米國オパリン大學々士エール大學博士國民政府委員國民政府實業部長、國民黨。

方鼎英（フワン、テイン、イン）日本陸軍士官學校卒業湖南省寶慶縣人第一集團軍第三軍團總

軍事全く終る。

同　二十八日　江蘇省平望縣城を佔領す。

三月　五日　陳調元、王普等革命軍長に就任し安徽省城安慶城及蕪湖城一帶皆な革命軍範圍と爲る。

向　七日　安徽省蕪湖城を佔領す。

同　十四日　江蘇省宜興縣城を佔領す。

同　十七日　江蘇省城南京城の外關たる穆陵關を佔領して南京城に迫る安徽省太平城を佔領す。

同　十八日　安徽省當塗縣釆石鎭を佔領す同省北部革命軍は既に合肥、壽州城各地を佔領し東進して臨淮關及蚌埠鎭に進攻を開始す江蘇省吳江縣城を佔領し浦南一帶に於て開戰し周蔭人軍敗れて遺走す。

同　二十日　江蘇省常州城を佔領す。

同　二十一日　同省松江、上海、蘇州、無錫の各地革命軍の爲に佔領さる

同　二十四日　南京城を佔領す。

四月　十八日　南京國民政府成立す。

廳檢察長。

王蔭泰（ワン、イン、タイ）字孟郡年四十二歲山西省汾陽縣人日本第一高等學校及ベルリン大學卒業潘復內閣外交、司法總長。

王莘林（ワン、シン、リン）吉林省楡樹縣人舉人吉林省政府委員內務局長。

王人文（ワン、レン、ウエン）字采臣年六十七歲雲南省大理縣人光緒十二年進士及第。

王瑚（ワン、フウ）字鐵珊年六十二歲河北省定縣人前清進士及第。

王正廷（ワン、チエン、テイン）字儒堂年四十八歲浙江省奉北縣人米國エール大學バチエラーオブアーツ國民政府外交部長、國民黨馮玉祥派。

王用賓（ワン、ヨン、ピン）字太甤年五十一歲山西省猗氏縣人日本大學卒業、政友會。

王葆眞（ワン、パオ、チエン）字卓山年四十七歲河北省保定人日本早稻田大學卒業。

王世杰（ワン、シイ、チエン）法官懲戒委員、國民黨。

王寵惠（ワン、チエン、ホイ）字亮儔年四十八歲廣州人米國エール大學卒業國民政府司法部長。國民黨。

王均（ワン、チン）號治平年四十歲雲南省人雲南省講武學堂卒業國民黨。

指揮、國民黨廣西系。

方本仁（フワン、ポエン、レン）字耀廷年五十六歲湖北省黃岡縣人前淸時代舊軍官學堂卒業、國民黨系

方振武（フワン、チエン、ウー）安徽省政府主席、國民黨。

方聲濤（フワン、シヨン、タオ）字韻松年四十五歲福建省閩侯縣人日本陸軍大學卒業福建省政府主席、國民黨。

王法勤（ワン、フワー、チン）字勵齋年五十三歲河北省高陽縣人北平政治分會委員、國民黨。

王樹常（ワン、シユウ、チヤン）號庭五年四十四歲遼寧省遼中縣人日本陸軍大學卒業奉天第十軍長、奉天派。

王伯群（ワン、ペイ、チユン）日本中央大學卒業年四十九歲貴州省興義縣人國民政府委員國民

王伯齡（ワン、ペイ、リン）字茂如年四十歲江蘇省吳江縣人日本陸軍士官學校第十期砲兵科卒業、國民黨蔣介石派。

王樹翰（ワン、シユウ、ハン）字維宙年五十五歲遼寧省奉天人前淸治學館出身、奉天派。

王淮深（ワン、ホワイ、シエン）字厚濟年四十四歲安徽省人日本中央大學卒業湖南省高等檢察

古應芬（クウ、イン、フエン）字湘芹年四十六歳廣東省番禺縣人日本法政大學卒業國民黨中央監察委員會委員、國民政府委員、國民黨蔣介石派。

田桐（テイエン。トン）字梓琴年五十歳湖北省蘄春縣人日本留學出身、國民黨。

田頌堯（テイエン、スン、ヤウ）四川省簡陽縣人第二十師長國民政府軍事委員。

石友三（シイ、ユウ、サン）第二集團軍第五師長馮玉祥系。

石瑛（シイ、イン）字蘅青年四十六歳湖北省陽新縣人英國バーミング大學卒業湖北省政府委員建設廳長、國民黨西山派。

石敬亭（シイ、チン、テイン）字小珊年四十二歳山東省利津縣人新民府混成協隨營學堂出身前山東省政府主席鹿鍾麟等と同學の士。

白崇禧（パイ、スウ、シイ）字健生年三十八歳廣西省桂林縣人保定軍官學堂卒業廣西省黨務指導委員、國民黨廣西派領袖。

白雲梯（パイ、ユン、テイエ）蒙古人國民政府委員、國民黨。

六畫の部

任鴻雋（レン、ホン、チユン）字叔永年四十四歳四川省人米國コロンビヤ大學卒業國民政府教

王天木（ワン、テイン、ムウ）字天木年四十七歲河北省涿縣人日本明治大學卒業智利國公使。

王錄勳（ワン、ルウ、チュン）山西省人山西省政府委員建設廳長。

王麟閣（ワン、リン、コウ）年五十歲河北省北平人米國カロリナ大學政治經濟科卒業。

王鏡寰（ワン、チン、コワン）字明宇遼寧省北鎭縣人奉海鐵路局總辦兼官地清丈局督辦

王　恒（ワン、ヘン）字吉占年五十一歲江西省瑞昌縣人日本早稻田大學卒業、國民黨。

王玉堂（ワン、ユイ、タン）年四十三歲河北省人長春地方有力の實業家。

王士珍（ワン、スウ、チエン）字聘卿年六十六歲河北省正定縣人前淸參謀總長段祺瑞同學の人

王廷璋（ワン、テイン、チヤン）字子琦年四十六歲浙江省人白國リエヂユ大學卒業進士ホルトガル公使。

王徵（ワン、チエン）年四十二歲吉林省寧安縣人米國コロンビヤ大學卒業財政部錢幣司長兼中國銀行長、國民黨。

五畫の部

甘介侯（カン、チエー、ホウ）江蘇省寶山縣人北平淸華大學卒業米國留學湖北省政府委員兼交通廳長、國民黨。

第五路總指揮、國民黨。

朱綬光（チウー、スウ、コワン）字蘭生年五十七歲湖北省襄陽縣人日本陸軍士官學校卒業河北省政府委員、國民黨閻錫山系。

朱兆莘（チユウ、チヤオ、シン）字鼎卿年五十歲廣東省花縣人米國コロンビヤ大學卒業前國民政府外交次長。

朱熙（チユウ、シイ）字琛甫年五十歲湖南省漢壽縣人日本陸軍士官學校卒業前第二師長。

朱慶瀾（チユウ、チン、ラン）字子樵年五十六歲浙江省紹興縣人前清附生前哈爾賓長官。

朱紹良（チユウ、シヤオ、リヤン）字一民年三十八歲福建省閩侯縣人日本陸軍士官學校卒業國民革命軍總參議前第第八師長、國民黨。

七畫の部

冷遹（リエン、ユイ）字禦秋年四十七歲江蘇省丹徒縣人山東省政府委員民政廳長、國民黨。

邢士廉（シン、スウ、レン）字隅三年四十五歲奉天人日本陸軍士官學校卒業前北京衛戍司令。

沈鴻烈（チエン、ホン、リエイ）字成章湖北省天門縣人日本海軍兵學校出身航警處長奉天派。

沈伊默（チエン、イ、モオ）新進詩人河北省政府委員孔德學校長。

育部秘書長。東南大學副校長。

向傳義（シヤン、フウ、イー）字育仁年四十六歲日本留學出身四川省第三師長國民政府軍事委員會委員、國民黨。

江庸（チヤン、ヨン）字翊雲年四十九歲福建省汀州人日本早稻田大學卒業北京政府司法總長。

吉鴻昌（チイ、ホン、チヤン）字世五年三十五歲河南省扶溝縣人第三師長。

伍毓瑞（ウー、ユイ、ルイ）字倘嚴年四十歲江西省南昌縣人日本陸軍士官學校卒業南昌市長江西省政府委員、國民黨。

伍連德（ウー、レン、トエー）字星聯年四十九歲廣東省臺山縣人東京帝國大學博士中華醫學會長北平中央醫院長。

伍朝樞（ウー、チヤオ、スウ）字梯雲年四十五歲廣東省新會縣人ロンドン大學卒業法學博士故伍廷芳の子米國公使、國民黨右派。

朱家驊（チユウ、チヤア、ホワー）字騮先浙江省湖州縣人ベルリン大學地質學科理學博士浙江省政府委員民政廳長、國民黨。

朱培德（チユウ、ペイ、トエー）字益之年四十九歲雲南省人日本陸軍士官學校卒業第一集團軍

黨右派。

汪鎬基（ワン、ハオ、チイ）字京伯浙江省嘉興縣人日本士官學校第五期步兵科卒業。

汪榮寶（ワン、ヨン、パオ）字袞甫年五十一江蘇省蘇州人拔貢出身早稻田大學卒業在駐日本公使。

呂志伊（ロー、ツウ、イー）字天民年五十歲雲南省思茅人日本法政大學卒業國民黨舊同盟會員。

呂超（ロー、チヤオ）字漢群年四十二歲四川省宜賓縣人保定軍官學校卒業、政學會派。

宋子文（スン、ツウ、ウエン）年卅九歲江蘇省上海縣人米國ハー、パート大學卒業、國民政府財政部長、純國民黨。

宋哲元（スン、チエー、ユワン）年四十一歲山東省樂陵縣人陝西省政府委員、馮玉祥系。

宋文郁（スン、ウエン、ユイ）號墨林年四十七歲遼寧省臺安縣人營口警察廳長、奉天派。

佟兆元（トン、チヤオ、ユワン）字德一年四十七歲遼寧省撫順縣人遼寧省議會議長、舊楊宇霆系。

佟麟閣（トン、リン、コウ）第三集團軍第十一師長。

李鴻文（リー、ホン、ウエン）河北省財政廳長。

李調生（リー、テイヤオ、シヨン）國民政府財政部常務次長。

李煜瀛（リー、ユイ、イン）字石曾年四十一歲河北省人佛國留學出身、國民政府委員。

何成濬（ホウ、チエン、チュン）字雪竹年四十七歲湖北省人日本士官學校第五期步兵科國民黨

何應欽（ホウ、イン、チン）年卅七歲貴州省貴陽人日本士官學校卒業國民革命軍總參謀國民黨

何其鞏（ホウ、チイ、コン）字正權前北平特別市長國民黨馮玉祥系。

何健（ホウ、チエン）字雲樵年四十六歲湖南省醴陵縣人保定軍官學校卒業湖南省政府主席、國民黨唐生智系。

吳和宣（ウー、ホウ、シエン）字霽之年四十四歲安徽省懷寧縣人日本陸軍士官學校第五期工兵科卒業講武學校副校長。

吳敬恒（ウー、チン、ヘン）字稚暉六十五歲浙江省人日本宏文學院卒業博物院理事、國民黨浙江派。

吳忠信（ウー、ツオン、シン）字禮卿年四十二歲安徽省合肥縣人日本明治大學卒業安徽省政府委員、國民黨。

吳震春（ウー、チエン、チュン）字雷川年六十歲浙江省杭州人進士出身燕京大學副校長。

吳新田（ウー、シン、ティエン）字芭蓀安徽省合肥縣人保定軍官學校卒業前第七師長、國民黨。

吳鐵城（ウー、ティエ、チョン）年四十四歲廣東省中山縣人米國留學廣東省政府建設廳長國民

李濟琛（リー、チイ、チェン）字蔭朝年卅八歳廣西省梧縣人保定軍官學校卒業前廣東省政府主席、純國民黨廣西系領袖。

李鳴鐘（リー、メイ、ツオン）字曉東年四十二歳河南省沈邱縣人河南省鄭縣市長、馮玉祥系。

李宗黃（リー、ツオン、ホワン）字伯英年四十歳雲南省人保定軍官學校卒業雲南省黨務指導委員、國民黨。

李垢身（リー、コウ、シエン）國民政府建設委員、國民黨。

李文範（リー、ウエン、フアン）字尹佩年四十六歳廣東省番禺縣人日本法政大學卒業廣東省民政廳長、國民黨胡漢民系。

八畫の部

邵元冲（シヤオ、ユワン、ツオン）字翼如浙江省紹興縣人米國留學出身、國民黨。

門致中（メン、チイ、ツオン）年四十二歳吉林省人保定軍官學校卒業第十六師長、馮玉祥系。

易培基（イー、ペイ、チイ）號曉村字寅村年四十二歳湖南省湘鄉縣人國民政府農鑛部長國民黨

周恭壽（チヨオ、コン、スオー）貴州省人貴州省務指導委員、國民黨。

周龍光（チヨオ、ロエン、コワン）字二爲安徽省定遠縣人東京帝大法科卒業外交部亞細亞司長。

李品仙（リー、ピン、セン）字鶴齡年四十二歲湖南省道縣人保定軍官學校卒業國民政府委員。
李服膺（リー、フウ、ユイン）字慕顏山西省崞縣人第七師長。
李培基（リー、ペイ、チイ）字涵礎年四十二歲河北省獻縣人講武學堂卒業第三師長、閻錫山系
李生達（リー、ション、タア）年四十一歲山西省人第十五師長、閻錫山系。
李祿超（リー、ルウ、チヤオ）廣東省人廣東政府實業廳長、國民黨李濟琛系。
李世光（リー、シイ、コワン）湖北省政府委員、國民黨。
李範一（リー、ハン、イー）第一集團軍整理統計委員、國民黨。
李欽（リー、チン）字介如年四十五歲湖北省武昌縣人稟生出身前文官高等懲戒委員。
李鐸（リー、タウ）字振聲年四十七歲河北省清豐縣人講武學堂卒業吉林混成砲兵旅長。
李興中（リー、シン、ツオン）河南省前開封政治分會委員、國民黨。
李宗仁（リー、ツオン、レン）廣西省人保定軍官學校卒業前第四集團軍總司令、國民黨廣西派首領。李仲公（リー、ツオン、コン）湖北省民政廳長、國民黨。
李隆健（リー、リユウ、チエン）湖南省人湖南省財政廳長、國民黨。
李慶施（リー、チン、スウ）前第二集團軍交際司長。

范石生（フアン、シイ、ション）雲南省人日本士官學校卒業雲南省政府委員、國民黨。
奎印（クエイ、イン）滿洲旗人前淸知縣。
南桂馨（ナヌ、クエイ、シン）字佩蘭年四十六歲山西省寧武縣人天津特別市長國民黨閻錫山系。
章以黻（ウエイ、イ、フウ）字作民浙江省吳興縣人國民政府交通部技監、國民黨。
柯劭忞（コウ、シヤオ、ウエン）字鳳孫年七十七歲山東省膠縣人進士日本文學博士東方文化事業委員長。
施肇基（スウ、チヤオ、チイ）字植之年五十二歲浙江省抗州人米國コロネル大學卒業駐英公使
胡漢民（フウ、ヘン、ミン）字展堂年五十歲廣東省番禺縣人日本法政大學卒業國民政府委員、國民黨右派。
胡宗鐸（フウ、ツオン、トウ）年四十三歲廣西省人廣西講武學堂卒業前漢口政治分會委員。

十畫の部

秦德純（チン、トエー、チユン）前山東省政府委員馮玉祥系。
殷汝耕（イン、ルウ、チエン）字亦農年五十歲浙江省平陽縣人日本早稻田大學卒業國民政府參議、國民黨。

周啓剛（チヨオ、チン、カン）中央執行委員、國民黨。

周斓（チヨオ、ラン）字叔祁年四十二歲湖南省祁陽縣人保定軍官學校卒業、國民黨唐生智系。

周西成（チヨオ、シイ、チエン）字雄斌年卅七歲貴州省桐梓縣人貴州軍官學校卒業、國民黨。

周覽（チヨオ、ラン）國民政府中央法制委員、國民黨。

周震鱗（チヨオ、チエン、リン）字道腴湖南省寧鄉縣人日本法政大學卒業、國民黨西山派。

林森（リン、スエン）福建省閩侯縣人國民政府委員、國民黨西山派。

林知淵（リン、ツイ、イエン）年四十一歲福建省閩侯縣人福建代理軍事廳長、國民黨。

林雲核（リン、ユン、ハエー）廣東市政府委員長、國民黨李濟琛系。

孟元文（モン、ユアン、ウエン）山西省人山西省財政廳長、閻錫山系。

金問泗（チン、ウエン、スウ）字純孺年卅八歲浙江省嘉興縣人米國コロンビヤ大學卒業前上海交涉員、國民黨。

金漢鼎（チン、ハヌ、テイン）字鑄九年五十歲貴州省人雲南講武學堂出身第十二師長、國民黨。

金鼎臣（チン、テイン、チエン）年四十一歲遼寧省人東三省講武學堂出身熱河省政府委員。

金樹人（チン、シユウ、レン）新疆省人同省政府首席。

馬敘倫（マアー、シュイ、ロエン）字夷初年四十五歲浙江省嘉興縣人上海勞働大學校長國民黨

馬福祥（マアー、フウ、シヤン）字雲亭甘肅省導河縣人鄉試合格前開封政治分會委員馮玉祥系。

馬駿（マアー、チュン）英國留學出身山西省政府委員。

馬寅初（マアー、イン、ツウ）年四十一歲浙江省嵊縣人米國コロンビヤ大學經濟學博士國民黨

唐紹儀（タン、シヤオ、イー）字少川年七十歲廣東省番禺縣人米國コロンビヤ大學卒業前北京政府國務總理。

唐悅良（タン、ユエー、リヤン）年四十二歲廣東省人米國ニュヘブン大學卒業前國民政府外交次長、國民黨馮玉祥系。

孫楚（スン、スウ）字萃崖山西省人第三十三師長。

孫科（スン、コウ）字哲生年四十二歲廣東省香山縣人孫文の長子米國コロンビヤ大學卒業國民政府鐵道部長、純國民黨。

孫連仲（スン、レン、ツオン）第三十一師長馮玉祥系。

孫繩（スン、シエン）漢口特別市黨務指導委員、國民黨。

孫棨（スン、チイ）安徽省政府委員、國民黨。

袁金鎧（イエン、チン、カイ）字潔珊遼寧省遼陽縣人前清貢生東三省政務委員。

高維嶽（カオ、ウェイ、ヨウ）字子欽年五十三歲遼寧省錦縣人東三省講武學堂出身遼寧省政府委員、奉天派。

高家驥（カオ、チャア、イー）字季喆年五十二歲黑龍江省巴彥縣人日本法政大學卒業黑龍江省政府委員。

高魯（カオ、ルウ）字曙靑年四十九歲福建省長樂縣人白國ブラッセル大學卒業江蘇省政府委員國民黨。

夏斗寅（シャー、トウ、イン）字靈炳年四十五歲湖北省麻城縣人第十三師長。

夏威（シャー、ウエイ）年四十二歲廣西省人廣西講武學堂出身第十五師長。

恩克巴圖（エン、クウ、パト）蒙古人國民黨中央執行委員、國民黨。

馬鶴天（マア、ホウ、テイン）號和亭年四十二歲山西省芮縣人日本留學出身甘肅省教育廳長。

馬超俊（マアー、チヤオ、チュン）廣西省人廣東省商工廳長、國民黨。

馬鴻逵（マアー、ホン、クエイ）前第九軍長山東省政府委員、馮玉祥系。

馬德恩（マアー、トエー、エン）字綸閣年五十二歲吉林省双陽縣人吉林實業廳長。

陶鈞（タオ、チン）前第十七師長、國民黨廣西派。
曹萬順（ツアオ、ワン、シユン）福建省人第十一師長、國民黨。
符鼎升（フウ、テイン、シヤン）字九銘年五十歳江西省宜黄縣人日本東京高等師範學校卒業廣東省教育廳長。
莊智煥（ツオワン、チイ、ホワン）浙江省溫州交涉員、國民黨。
崔士傑（ツアイ、スウ、チエイ）山東省人日本留學出身山東省交涉員。
郭泰祺（クオウ、タイ、チイ）字復初年四十二歳湖北省廣濟縣人米國ペンシルベニヤ大學卒業外交部次長、國民黨。
郭春濤（クオウ、チユン、トウ）前開封政治分會委員、國民黨馮玉祥系。
張會詔（チヤン、ホイ、チヤオ）第四十一師長。
張乃燕（チヤン、ナイ、イエン）江蘇省人江蘇省政府教育廳長。
張維翰（チヤン、ウエイ、ハン）字次屏年五十一歳陝西省鳳翔縣人農商部參事。
張繼（チヤン、チイ）字溥泉年四十六歳河北省滄縣人、早稻田大學卒業前北平政治分會主席國民黨西山派領袖。

孫奐崙（スン、ホワン、ルン）河北省民政廳長、國民黨。

孫良誠（スン、リヤン、チエン）前山東省政府主席、馮玉祥系。

徐謨（シユイ、モウ）字德懋年三十八歲江蘇省蘇州人米國華府大學卒業外交部第三司長國民黨

徐永昌（シユイ、ヨン、チヤン）山西省人綏遠省政府主席、閻錫山系。

徐桴（シユイ、フウ）號聖禪年四十七歲浙江省鎭海縣人福建省財政廳長、國民黨。

徐景唐（シユイ、チン、タン）號賡陶年三十七歲廣東省東莞縣人日本士官學校卒業廣東省軍事廳長、國民黨廣西系。

徐謙（シユイ、チエン）字季龍章五十八歲江西省南昌人進士前國民政府司法部長、共產黨首領。

十一畫の部

商震（シヤン、チエン）字起予年四十三歲河北省保定人日本士官學校卒業河北省政府主席、國民黨閻錫山系。

章啓槐（チヤン、チン、クエイ）字蔭山年五十八歲江西省玉山縣人擧人哈爾賓實業公司總辦。

鹿鐘麟（ルウ、チヨン、リン）字瑞伯年四十四歲河北省保定人前國民政府軍政部長馮玉祥系。

連聲海（レン、シヨン、ハイ）日本早稻田大學卒業前國民政府秘書長、國民黨。

國民黨系。

張景惠（チャン、チン、ホイ）字叙五年五十七歳遼寧省台安縣人奉天講武學堂出身哈爾賓長官奉天舊派。

張作相（チャン、ツオウ、シャン）字輔忱年四十八歳遼寧省義縣人吉林省政府主席張作霖義弟

張華輔（チャン、ホワー、プウ）湖南省人第四集團軍參謀長、國民黨。

張知本（チャン、チイ、ペン）字人傑年四十四歳湖北省荆州人日本法政大學卒業前湖北省政府主席、國民黨西山會議派。

張學良（チャン、ショウ、リヤン）字漢卿年卅一歳遼寧省海城縣人張作霖長子東三省講武學堂出身東北總司令。

張壽鏞（チャン、スウ、ヨン）字泳霓年五十四歳浙江省寧波人擧人出身江蘇省財政廳長國民黨

陳紹寬（チエン、シヤオ、コワン）字厚甫年四十四歳福建省閩侯縣人福州海軍學堂卒業海軍部長、國民黨。

陳文學（チエン、ウエン、シヤオ）字紫𩬊年四十四歳江蘇省人遼寧省政府委員。

陳伯莊（チエン、パイ、ツオワン）財政部煤油稅處長、國民黨。

張維城（チャン、ウェイ、チョン）上海新申報社北平特派記者。

張邦翰（チャン、フワン、ハン）字西林年四十歲雲南省鎭雄縣人佛白留學出身雲南省政府委員國民黨。

張定（チャン、テイン）湖南省人湖南省敎育廳長、國民黨。

張鼎勳（チャン、テイン、チュン）字亞州年四十六歲安徽省合肥縣人日本士官學校卒業安徽省政府委員。

張之江（チャン、ツウ、チャン）字子岷年四十七歲河北省既山縣人卒伍出身浙江省政府主席、國民黨馮玉祥系。

張群（チャン、チュン）字岳軍年四十一歲四川省成都人日本士官學校卒業上海特別市長、國民黨蔣介石系。

張靜愚（チャン、チン、ユイ）浙江省人航空所長。

張維爾（チャン、ウェイ、ルウ）第廿七師長、國民黨馮玉祥系。

張蔭梧（チャン、イン、ウー）字桐軒日四十二師長、北平特別市長、國民黨閻錫山系。

張福運（チャン、フウ、ユン）字景文年四十歲山東省福山縣人米國ハーバート大學卒業關務署長

委員、國民黨。

陳培錕（チエン、ペイ、コン）字韻珊年五十八歲福建省閩侯縣人日本法政大學卒業福建省財政廳長。

陳乃元（チエン、ナイ、ユワン）年四十二歲福建省福州人福建省政府政務委員、國民黨。

陳其采（チエン、チイ、ツアイ）字藹士浙江省歸安縣人日本士官學校卒業浙江財政廳長國民黨

陳禮江（チエン、リイ、チヤン）號逸民年四十二歲江西省九江人米國ハーバート大學卒業江西省教育廳長、國民黨。

陳輝德（チエン、フイ、トエー）字光甫年五十歲江蘇省丹徒縣人米國ペンシルパニヤ大學卒業江蘇省財政廳長、國民黨。

陳和銑（チエン、ホウ、シエン）字孟釗年卅七歲江西省九江人巴里大學卒業法學博士。

陳耀先（チエン、ヨウ、セン）字紹蕃年四十八歲黑龍江省綏化人黑龍江省政府委員。

陳銘樞（チエン、ミン、スウ）字眞如年卅八歲廣東省廉州人保定軍官學校卒業廣東省政府主席國民黨。

陳鈞（チエン、チン）字鶴亭年五十六歲雲南省石屏人進士雲南省財政廳長、國民黨。

陳季良（チエン、チイ、リヤン）年四十七歳福建省閩侯縣人福州海軍學堂卒業海軍司令國民黨系。

陳果夫（チエン、クオウ、フウ）浙江省人國民政府委員、國民黨西山派。

陳繼善（チエン、チイ、シエン）甘肅省鹽河縣人新疆省政府委員。

陳可鈺（チエン、コウ、ユイ）年四十九歳廣東省清遠縣人保定軍官學堂卒業國民黨蔣介石系。

陳方之（チエン、フワン、ツウ）浙江省寧波人東京帝大醫科卒業博士內政部衞生司長國民黨。

陳焯（チエン、ツオー）字空如年卅三歳浙江省奉化縣人保定軍官學校卒業、國民黨系。

陳調元（チエン、テイヤオ、ユワン）字雪軒河北省安新縣人北洋武備學堂卒業山東省政府主席國民黨系。

陳肇英（チエン、チヤオ、イン）字雄夫年四十一歳浙江省浦江縣人辨目學校卒業陸軍中將虎門要塞司令、國民政府中央執行委員。

陳韜（チエン、タウ）國民政府軍政部軍機署長。

陳儀（チエン、イー）字公俠年五十一歳浙江省紹興縣人日本陸軍大學卒業、國民黨舊同盟會員

陳受中（チエン、シヨウ、ツオン）山西省人山西省教育廳長、國民黨山西系。

陳嘉祐（チエン、チヤア、ユウ）字護黃年五十歳湖南省湘陰縣人日本士官學校卒業湖南省政府

局長、國民黨。

黃慕松（ホワン、モウ、ション）年四十五歲廣東省梅縣人日本士官學校卒業、國民黨廣東系。

黃紹雄（ホワン、シヤオ、シユン）年四十七歲廣西省人保定軍官學校卒業廣西軍事廳長、國民黨廣西派。

黃實（ホワン、シイ）字衡秋年四十二歲雲南省楚雄人雲南講武學堂卒業江西省財政廳長國民黨

黃郛（ホワン、フウ）字膺白年四十九歲浙江省抗州人日本陸地測量部出身前北京政府國務總理、國民政府外交部長、國民黨浙江系。

黃節（ホワン、チエイ）年五十七歲廣東省番禺縣人廣東省教育廳長、國民黨。

賀國光（ホウ、クオウ、コワン）前第四軍長、國民黨唐生智系。

賀耀祖（ホウ、ヨウ、ツウ）年四十一歲湖南省寧鄉縣人日本士官學校輜重兵科卒業、國民黨。

傅秉常（フウ、ピン、チヤン）財政部關稅處長、國民黨。

傅作義（フウ、ツオウ、イー）字宜生第五軍長閻錫山系。

鈕永建（ニユー、ヨン、チエン）字陽生年五十六歲江蘇省上海人日本士官學校卒業革命軍總參議、純國民黨浙江系。

許世英（シュイ、シイ、イン）字雋人年五十五歲安徽省建德縣人英國留學前北京政府國務總理。
許崇（シュイ、ツオン）年四十歲廣東省番禺縣人東京帝大文科卒業廣東省財政部長、國民黨。
莫德惠（モウ、トエー、ホイ）字柳忱年四十七歲吉林省双城縣人北京大學卒業東北大學長、奉天派。
梁冠英（リヤン、コワン、イン）字子超河南省鄽城縣人第廿一師長、馮玉祥系。
梁鴻志（リヤン、ホン、ツウ）字衆異年四十八歲福建省長樂縣人東方文化事業委員。

十二畫の部

程潛（チエン、シエン）字頌雲年四十七歲湖南省醴陵縣人日本士官學校卒業前第六軍長、國民黨
程淑度（チエン、スウ、トウ）國民政府煙酒稅處長、國民黨。
彭俊（ペン、チュン）貴州省人貴州財政廳長、國民黨。
童玉振（トン、ユイ、チエン）第廿五師長、馮玉祥系。
傅啓鈞（フウ、チン、チイン）貴州省人北洋陸軍速成學堂卒業貴州省農工廳長、國民黨。
黃復生（ホワン、フウ、ション）年四十四歲東京物理學校卒業、國民黨西山派。
黃昌穀（ホワン、チヤン、クウ）字品數年四十五歲湖北省穀城縣人佛國留學漢口第三特別管理

鄒魯（ツオウ、ルウ）字海濱年四十歲廣東省法政學堂卒業廣東省大埔縣人、國民黨西山會議派。

焦易堂（チヤオ、イー、タン）字希孟五十歲陝西省武功縣人北京公學大學卒業前參議院議員。

誠允（チエン、イン）字執中年四十七歲遼寧省遼陽縣人奉天法政專門學校卒業吉林政務廳長。

葛敬恩（コウ、チン、エン）日本陸軍大學卒業革命軍參謀處長、國民黨。

溫壽泉（ウエン、スオウ、ツワン）字靜菴山西省洪洞縣人日本士官學校卒業河北省建設廳長、國民黨。

賈景德（チヤア、チン、トエー）山西省人前太原政治分會委員、國民黨山西系。

虞和德（ユイ、ハウ、トエー）年六十二歲浙江省鎭海縣人寧紹汽船會社々長。

熙洽（シイ、チヤア）字格民年四十五歲奉天人日本士官學校騎兵科卒業東北總司令部軍務處長奉天派。

葉楚傖（イエー、ツウ、ツアン）年四十六歲江蘇省蘇州人江蘇省建設廳長、國民黨。

葉琪（イエー、チイ）字翠微年四十八歲廣西省梧州人保定軍官學校卒業第五十二師長。

萬福麟（ワン、フウ、リン）號壽山吉林省農安縣人黑龍江省政府主席、奉天派。

楊効歐（ヤン、シヤオ、オウ）第三十五師長、閻錫山系。

曾宗鑑（ツエン、ツオン、チエン）字鎔甫年四十八歲福建省閩侯縣人英國ケンブリッヂ大學卒業前北京政府諸威公使、段祺瑞系。

曾繼梧（ツエン、チイ、ウー）字鳳岡年五十三歲湖南省新化縣人日本士官學校卒業國民政府參事、國民黨。

曾養甫（ツエン、ヤン、プウ）廣東省建設廳長、國民黨蔣介石系。

馮祝萬（フエン、ツウ、ワン）年四十四歲廣東省鶴山縣人保定軍官學校卒業、國民黨廣西派。

馮治安（フエン、チイ、ガン）第廿三師長、馮玉祥系。

馮曦（フエン、シイ）字子和年五十歲山西省代縣人山西省師範學校卒業、閻錫山系。

馮玉祥（フエン、ユイ、シヤン）字煥章年五十歲安徽省巢縣人保定武備學堂出身國民黨軍首領

湯玉麟（タン、ユイ、リン）字閣臣年五十八歲熱河省朝陽縣人熱河省政府主席、東三省講武堂出身。

湯中（タン、ツオン）字愛理年四十八歲江蘇省武進縣人日本日本大學卒業交通部參事。

十三畫の部

鄒琳（ツオウ、リン）國民政府財政部秘書長、國民黨。

熊斌（シュン、ミン）字哲明湖北省黃安縣人北京大學卒業航空處長馮玉祥系。

魯滌平（ロウ、テエイ、ピン）字詠安年四十八歳湖南省寧鄉縣人湖南省將辦學堂卒業前湖南省政府主席第十八師長、國民黨系南京派。

鄭洪年（チエン、ホン、ニエン）字韶覺廣東省番禺縣人財政部次長、國民黨。

鄭毓秀（チエン、ユイ、シュウ）女史年三十六歳廣東人佛國法學博士、國民黨。

蔣夢麟（チヤン、メン、リン）字兆賢年四十六歳浙江省餘姚縣人米國コロンビヤ大學卒業哲學博士教育部長、國民黨。

蔣作賓（チヤン、ツオウ、ピン）字雨岩年四十九歳日本士官學校卒業駐獨公使、國民黨。

蔣介石（チヤン、チエイ、シイ）名中正年四十七歳日本士官學校出身國民政府主席、國民黨浙江派首領。

蔣鼎文（チヤン、テイン、ウエン）字銘三浙江省諸暨縣人浙江講武學堂卒業第九師長、國民黨。

蔣伯誠（チヤン、ペイ、チエン）浙江省諸暨縣人浙江省政府委員、國民黨。

鄧澤如（トエン、ツエイ、ルウ）廣東省人國民黨全體會議委員、國民黨。

楊樹莊（ヤン、シユウ、ツオワン）字幼京年四十八歳福建省福州人江南水師學堂卒業革命軍海軍總司令、國民黨。
楊在春（ヤン、ツアイ、チユン）湖北省政府委員、國民黨。
楊兆泰（ヤン、チヤオ、タイ）山西省人山西省政府主席代理、閻錫山系。
楊愛源（ヤン、アイ、ユワン）字星如察哈爾省政府主席、閻錫山系。

十四畫の部

廖思燾（リヤオ、スウ、タオ）字鳳舒廣東省歸善縣人米國留學駐在玖波國公使。
趙戴文（チヤオ、タイ、ウエン）字次隴年六十二歳山西省五臺縣人國民政府內政部長閻錫山系
榮厚（ルン、ハオ）字淑璋年五十七歳北京正黄旗人吉林省財政廳長。
翟文選（テエイ、ウエン、セン）字熙人年五十二歳吉林省伊通縣人擧人遼寧省政府主席奉天派
熊希齡（シユン、シイ、リン）字秉三年六十五歳湖南省鳳凰縣人前北京政府國務總理。
熊育錫（シユン、ユイ、シイ）號純如年七十歳江西省新建縣人日本法律學校卒業、國民黨。
熊式輝（シユン、シイ、フイ）字天翼年三十七歳江西省安義縣人日本陸軍大學卒業第五師長、國民黨。

劉之龍（リュウ、ツウ、ロエン）字子雲年四十二歲附生東三省講武學堂卒業湖南省警務處長、馮玉祥系。

劉郁芬（リュウ、ユイ、フエン）字蘭江年四十八歲河北省保定人漢學者甘肅省政府主席、馮玉祥系。

劉裁甫（リュウ、ツアイ、プウ）廣東省人廣東省民政廳長、國民黨李濟琛系。

劉召圃（リュウ、チャオ、プウ）湖南省人湖南省建設廳長、國民黨。

劉興（リュウ、シン）字鐵夫年四十一歲湖南省祁陽縣人保定軍官學校卒業湖南省政府委員、國民黨元唐生智系。

劉書藩（リュウ、シユウ、フアン）字劍侯年四十九歲福建省福州人福州格致書院卒業國民政府交通部郵務局長、國民黨系。

劉文輝（リュウ、ウエン、フイ）字自乾四川省大邑縣人第十四師長四川軍、國民黨。

劉尙淸（リュウ、シャン、チン）字海泉年五十七歲遼寧省海城縣人奉天法政學堂卒業前遼寧省財政廳長、奉天派。

劉哲（リュウ、チエー）宗敬與年四十九歲吉林省吉林人北京法政大學卒業前教育總長、奉天派。

鄧萃英（トエン、ツイ、イン）字芷園年四十四歲福建省人米國コロンビヤ大學卒業教育部參事

鄧錫侯（トエン、シイ、ハウ）字晉康年四十一歲四川省營山縣人保定軍官學校卒業四川省政府委員、國民黨。

蔡元培（ツアイ、ユワン、ペイ）字孑民號卿鶴年六十一歲浙江省紹興縣人獨國留學國民政府委員、國民黨。

蔡增基（ツアイ、ツエン、チイ）年四十歲廣東省人米國コロンビヤ大學卒業鐵道部管理司長、國民黨。

劉樹杞（リユウ、シユウ、チイ）湖北省人湖北省教育廳長、國民黨。

劉鈞（リユウ、チン）字錫九年四十六歲遼寧省黑山縣人吉林省政府委員。

劉治洲（リユウ、チイ、チヨオ）字定五年四十八歲陝西省鳳翔縣人。

劉汝明（リユウ、ルウ、ミン）第二十九師長、馮玉祥系。

劉峙（リユウ、チイ）字經扶年三十八歲江西省吉安人保定軍官學校卒業第一師長、國民黨何應欽系。

對守中（リユウ、スオウ、ツオン）山西省前人北平政治分會委員、國民黨。

國民黨

錢大鈞（チェン、タア、チン）浙江省人日本士官學校卒業第三師長、國民黨。

十七畫の部

謝持（シエー、チイ）字慧生年五十三歲四川省富順縣人前清附生川南師範學校卒業國民黨中央黨部宣傳部主任、國民黨西山派。

穆湘瑚（モウ、シャン、フウ）字藕初年五十三歲江蘇省上海縣人米國イリノイス大學卒業上海共同租界市參事會顧問。

韓復榘（ハン、フウ、チエン）第二十師長、國民黨元馮玉祥系。

繆斌（ミン、ピン）江蘇省無錫縣人江蘇省政府委員、國民黨。

繆培南（ミン、ペイ、ナン）廣東省人第四師長、國民黨廣東派。

薜篤弼（シエイ、トウ、ピイ）字子良年三十九歲山西省介林縣人山西法政專門學校卒業禁煙委員、國民黨馮玉祥系。

十八畫の部

戴傅賢（タイ、フウ、シエン）字季陶號天仇年四十八歲浙江省湖州人日本中央大學卒業國民政

劉岳峙（リユウ、ヨウ、チイ）湖南省人湖南省政府委員、國民黨。

劉紀文（リユウ、チイ、ウエン）浙江省人國民政府建設委員、國民黨浙江派蔣介石の從兄弟。

劉大鈞（リユウ、タア、チン）字季陶年三十九歲江蘇省鎭江人米國ミシガム大學卒業。

劉積學（リユウ、チイ、シヤオ）前中央特別委員、國民黨。

劉盥訓（リユウ、クワン、シン）字孚若年五十三歲山西省猗氏縣人京師大學卒業前衆議院議員

劉湘（リユウ、シヤン）字甫澄年四十歲四川省大邑縣人成都陸軍學校卒業四川省政府委員。

十六畫の部

龍雲（ロエン、ユン）字志丹年四十二歲雲南省講武學堂卒業雲南省政府主席、國民黨雲南軍。

蕭佛成（シヤオ、フウ、チエン）國民黨中央黨部委員、國民黨。

閻錫山（エン、シイ、シヤン）字白川年四十六歲山西省五臺縣人日本士官學校第六期步兵科卒業國民政府委員舊同盟會山西支部長、國民政府委員。

閻容德（エン、ヨン、トエー）山東省人山東省政府委員、國民黨。

閻毓善（エン、ユイ、シエン）新疆省人新疆省政府建設廳長。

錢永銘（チエン、ヨン、ミン）字新之年四十五歲江蘇省上海縣人神戶高等商業學校卒業建設委員

病研究所長。

嚴重（イエン、ツオン）湖北省人湖北省民政廳長、國民黨。

嚴修（イエン、シュウ）字範孫年六十九歲河北省天津人進士翰林前北京政府教育總長。

鍾毓（ツオン、ユイ）字輯五年五十五歲遼寧省奉天人東京警察學校卒業吉林省政府委員。

二十一畫の部

顧祝同（クウ、ツウ、トン）字墨三年五十九歲江蘇省漣水縣人保定軍官學校卒業第二師長、國民黨蔣介石派。

府委員純國民黨。

戴恩塞（タイ、エン、ツアイ）廣東省人米國留學出身孫文の女婿、國民黨李濟琛系。

魏道明（ウェイ、タオ、ミン）國民政府司法部長、國民黨。

譚延闓（タン、イエン、カイ）字祖庵年五十四歲前淸進士湖南省茶陵縣人國民政府行政院長、國民黨右派。

羅忠詒（ロウ、ツオン、イー）字怡元年四十三歲福建省福州人英國ケンブリッヂ大學卒業丁國公使。

闞福安（コワン、フウ、ガン）第四十師長。

二十畫の部

蘭均（ラン、チン）字伯衡年六十歲山西省崞縣人山西省法政專門學校卒業察哈爾省政府委員。

蘇體仁（スウ、トイ、レン）山西省人天津交涉員、閻錫山系。

嚴智怡（イエン、チイ、イー）字慈約年四十七歲河北省天津人東京高等工業學校卒業河北省敎育廳長、國民黨。

嚴智鐘（イエン、チイ、チョン）字季約年四十歲河北省天津人東京帝大醫科卒業國民政府傳染

昭和四年七月二十八日印刷
昭和四年八月一日發行
昭和四年九月十日再版發行
昭和五年一月二十日三版發行

版權所有

（正價金貳圓八拾錢也）

東京府荏原郡世田谷町世田谷一千三百九十八番地
著作者　山根倬三

東京市本鄉區森川町一番地
發行人　藤原政

東京市本鄉區森川町一番地
發行所　亞東研究資料刊行會

東京市牛込區下宮比町十二番地
印刷人　石原敬通

東京市牛込區下宮比町十二番地
印刷所　文陽社

大賣捌所
東京　富山房　東京堂　東海屋　北隆館　三省堂　文求堂　文川堂　田村書店　大阪屋號書店。
京都　彙文堂。中華民國北平　東亞公司。臺灣臺北　新高堂
其他全國各書店

中華民國全權公使　汪榮寶閣下
陸軍大將　町田經宇閣下題字
文學博士中山久四郎
山根倬三共著

改訂増補 支那歷代年表

四六版千二百頁
上等布用裝幀
（普及版）正價金五圓也

文部省西山宗教、武部普通兩局長推薦圖書

春秋、三國、南北朝、明代歷史地圖四葉及支那年號並人名索引附錄

本書は亙冊亞東指要の著者山根倬三氏が三年の星霜を費し支那考證學泰斗清朝齊召南原著歷代帝王年表なる稀覯書を譯補し更に清並民國年表を中村博士と共に精確なる資料に依りて詳細に編著增訂せる中外無比の歷史科必須參考書たるは勿論、支那研究上絕好の資料たり爲に文部省當局は大中小各學校圖書館並に中檢受驗者諸士の參考書として敢て推薦されたる良書たり。

東京市本鄉區森川町一番地
發行所　亞東研究資料刊行會
振替口座東京七四四二四番

O.G - 4920

NON-CIRC.

Oriental
Collection
Reference